



Walk in home 2020

- 操作マニュアル -

CAD 操作（ツール・設定・出力）編



改 版 履 歴

Rel.	日付	種別	改版内容
1.00	2019年 03月29日	変更	3. プレゼンボード 2) メニュー 3) オブジェクトの表示順 2) 背景レイヤー 2) 要素の入力 2) 電子カタログ 2) 画像情報の設定

目次

1. ツールメニュー	9
1-1. ツールの概要	9
1) 自動生成	10
2) 要素削除	10
3) ボーダー追加	11
4) 小端立て追加	11
5) 屋根自動生成	12
6) 建具再配置	12
7) 不足マスターチェック	13
8) 各種チェック	14
9) 間仕切り移動 機能拡張	15
10) 間取り診断 (木造軸組み)	15
11) カラーコーディネート	15
12) 建物シンボル作成	15
13) 簡易シンボル作成	16
14) 積算数量確認	16
15) 製品情報一覧	17
16) メモ一覧	17
17) ビフォーウィンドウ	19
18) リフォーム指示	19
19) プラン検索	20
20) 目地合わせ	20
21) 計測	20
22) 面積確認	21
23) 文字移動	22
24) 文字検索	24
25) 目地基準変更	24
26) 構造の耐力壁を反映	24
27) 構造の耐力壁反映を解除	25
28) エコライフ	25
27-1) 太陽光パネル	25

27-2) 省エネ.....	25
27-3) ZEH計算	25
29) 簡易天空率チェッカー	25
30) スケルトンインフィル	26
1-2. 自動生成	32
1) 概要.....	32
2) 自動生成の基本的な使い方	33
3) 自動生成の便利な使い方	35
4) 自動生成詳細情報の設定	37
4-1) 屋根	37
4-2) パラペット.....	39
4-3) 屋根関連.....	40
4-4) 壁	43
4-5) 部分壁.....	43
4-6) 建具	45
4-7) 柱	46
4-8) ボーダー	47
4-9) 出隅コーナー	48
4-10) 寸法線.....	49
4-11) 窓庇.....	51
4-12) 照明器具.....	53
4-13) その他.....	53
4-14) 設定項目のない自動生成要素	55
1-2. 要素削除	55
1-3. 間仕切り移動.....	56
1-4. カラーコーディネート.....	58
1) 概要.....	58
2) 部位の一覧	59
1-5. 建物シンボル作成	63
1-6. 積算数量確認.....	64
1-7. 製品情報一覧.....	66
1-8. メモ一覧.....	67
1-9. ビフォーウィンドウ	67

1) 起動方法と保存	68
2) ビフォープランの編集	69
3) ビフォーウィンドウ使用例	69
1-10. リフォーム指示	69
1-11. プラン検索	70
1-12. 目地合わせ	72
1) クラシックモードの場合	72
2) CGモードの場合	72
3) 目地合わせの対象要素	72
4) 目地合わせの終了	72
1-13. 計測	73
1-14. 文字移動	74
2. 設定メニュー	76
2-1. 建物共通情報	76
(ヒント)	76
1) 物件情報	77
2) 矩計	79
3) 敷地概要	85
4) 平面関係	86
5) 立面/パース関係	90
6) 求積関係	95
7) その他	95
2-3. マスターリストの設定	97
2-4. 構造チェック情報	97
2-5. 性能表示 (構造の安定)	97
2-6. 換気金物設定	97
2-7. 省エネ(UA値)設定	97
2-8. 基礎伏情報	98
2-9. AI 建具	98
1) 旧方式	99

1-1) AI 建具高さ.....	99
1-2) AI 建具タイプ.....	100
1-3) AI 建具デフォルト建具シンボルの設定機能.....	101
2) 拡張方式.....	102
2-1) 設定.....	102
2-2) 詳細設定.....	103
1. タブ (外部建具・内部建具・窓内法高)	103
2. 追加.....	104
3. コピー.....	104
4. 削除.....	104
5. ▲▼.....	104
6. 設定を保存.....	104
2-10. 平面表示色.....	105
2-11. 画面表示範囲保存.....	106
2-12. 画面表示範囲解除.....	108
2-13. カスタムバーの編集.....	108
2-14. ショートカットの編集.....	109
2-15. 前景.....	110
1) 年間情報の設定.....	112
2) 現行日時の設定.....	114
3. 出力メニュー.....	118
3-1. プレゼンボード.....	118
1) メニューへの入り方.....	119
1-1) 共通の設定.....	123
1-2) 下書線を最上位で描画 (平面)	123
1-3) フォーマット・解像度・表示モード (平面図)	123
1-4) カラー (鳥瞰、俯瞰、立面、パース)	123
1-5) 南側の影をつける (立面)	123
1-6) 厚み領域を出力する (立面)	123
1-7) 影をつける、敷地要素を出力する (鳥瞰、俯瞰、立面、パース)	123
1-8) 立面図に地下を表示する (立面)	123

2) メニュー	124
2-1) ファイル.....	124
2-2) 編集	126
2-3) ツール.....	127
2-4) 設定	129
2-5) 表示	129
3) オブジェクトの表示順.....	131
4) 背景レイヤー	131
5) 要素の入力	132
5-1) 線	132
5-2) 矢印	132
5-3) 引き出線	132
5-4) 四角形.....	133
5-5) 角丸四角.....	133
5-6) 楕円	133
5-7) 多角形.....	133
5-8) 文字	134
5-9) 画像	135
5-10) 表	138
6) 電子カタログ	142
7) 画像情報の設定.....	144
3-2. 設計図書	148
1) 概要.....	148
2) 出力詳細	149
2-1) 出力方法.....	149
2-2) JWW出力	153
2-3) Excel⇒図面ファイル変換	156
2-4) 図面出力用マスター構成.....	159
3) レイアウト	163
3-1) 構成	163
3-2) レイアウトボード用マスター構成.....	167
3-3) ファイルメニュー	168
3-4) 編集メニュー	171
3-5) ツールメニュー	174
3-6) 設定メニュー	174

3-7) 表示メニュー	178
3-8) 入力モード.....	179
3-9) 入力要素.....	179
3-10) その他の機能	201
4) 図面編集	204
3-3. クイック図書	204
1) 概要.....	204
2) 出力詳細	205
3-4. ボードレイアウト.....	206
1) 起動方法と流れ	207
2) 画面説明	208
3) 野地板.....	209
4) サイディング	210
5) 構造用合板	212
6) 床合板.....	213
7) 物件変更	214
8) 割付け図作成.....	215
9) 積算数量確認	215
10) 部材登録	218
3-5. 申請書類	219
1) 申請書類の作成.....	219
2) 設定ファイル	220
3) 「マスター書込」「マスター読込」	221
4) 作成済み申請書類の表示.....	222
5) 申請書類テンプレートの登録	223
6) 置換キーワードの表示	223
3-6. B-MOS・耐震チエツカー、B-MOS・ハウストラ	224
1) 連携設定	225
2) 新規データ作成.....	226
3) 既存データを開く.....	227

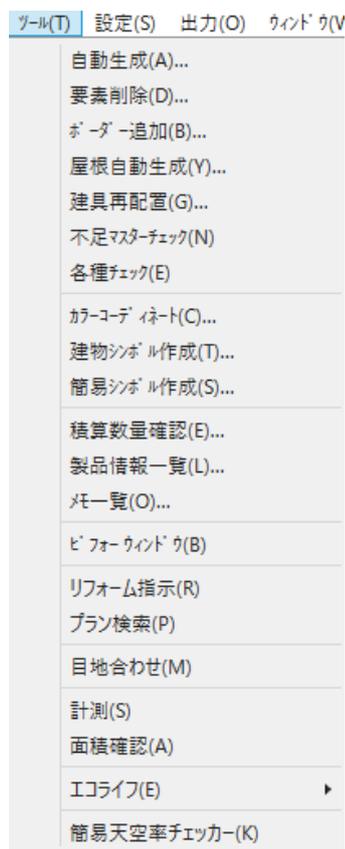
1. ツールメニュー

1-1. ツールの概要

「要素入力」と「要素編集」以外に、便利機能をパック化したメニューが用意されています。それが「ツール」メニューです。「ツール」メニューは以下の機能メニューから構成されています。



平面選択時の「ツール」メニュー

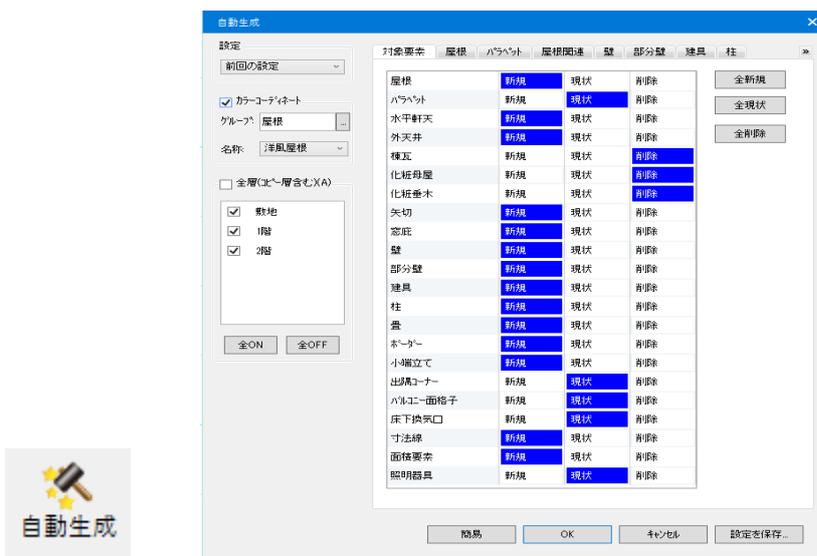


鳥瞰、立面、パース選択時の「ツール」メニュー

1) 自動生成

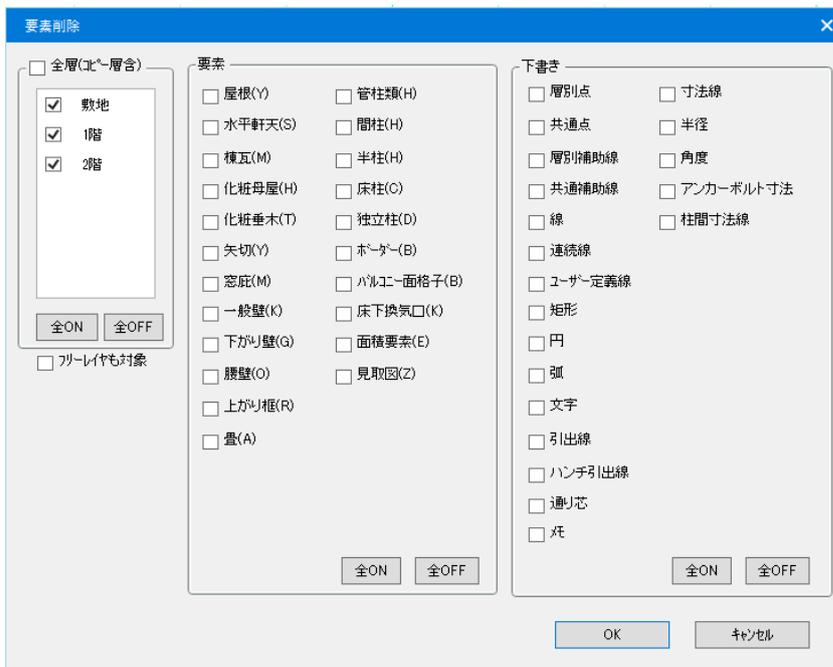
部屋や外部領域などの基本要素から派生する要素（屋根や壁など）を生成する機能で、頻繁に使用されることから大アイコン化されています。

洋風切妻から和風入母屋への変更やその逆なども、カラーコーディネートを含めて一度で行える仕掛けを有しています。



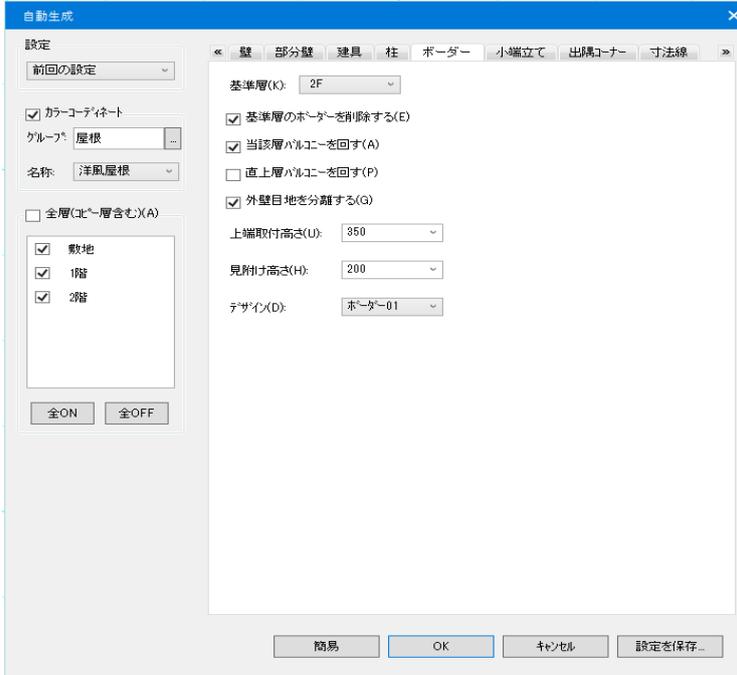
2) 要素削除

特定の要素グループをまとめて削除する機能です。



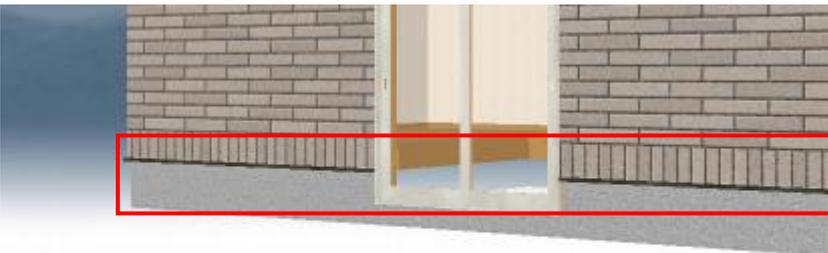
3) ボーダー追加

自動生成のうち、ボーダーに関する自動生成をし易くするためのエントリーメニューとなっています。自動生成での対象要素を「ボーダー」に設定した形で「ボーダー」情報の設定タブが現れます。使用方法は、後述の「自動生成」の項で詳しく説明を行います。



4) 小端立て追加

3D 表示要素として「小端立て」を追加できます



「小端立て追加」を選択すると自動生成画面の「小端立て」タブが表示されます。小端立ての高さを設定し、OK を押すと外壁面上に小端立てが自動生成されます。小端立ては積算数量確認から長さを拾う事が出来ます。
※外壁面積の数量に影響はありません

5) 屋根自動生成

自動生成のうち、屋根に関する自動生成をし易くするためのエントリーメニューとなっています。
自動生成での対象要素を「屋根」に設定した形で「屋根」情報の設定タブが現れます。



6) 建具再配置

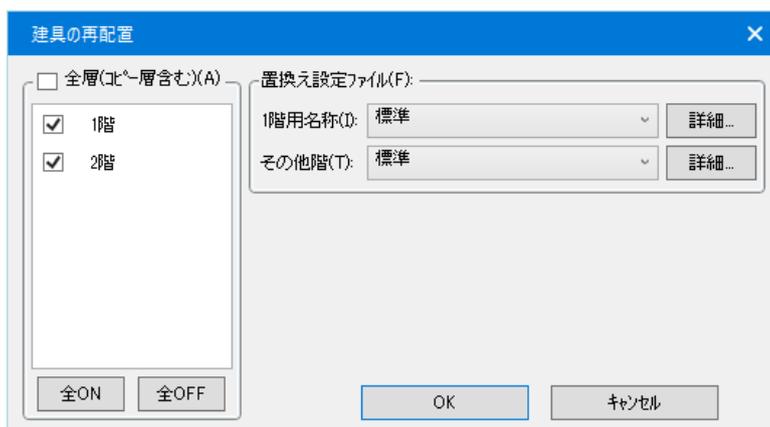
入力済みの建具を AI 建具拡張方式の設定より部材を引き当て置き換える機能です。

X2 以前の AI 建具は、形状と建具シンボルしか設定できませんでしたが、AI 建具拡張方式では、部材 (*.mst) ファイルを設定できるように機能拡張しています。

この機能拡張により、テクスチャを個別に登録した部材などを AI 建具で使用することができるようになります。

カラーバリエーション毎やシリーズ毎の設定を用意し、「建具再配置」機能を実行することで、簡単に建具のシミュレーションを行うことができます。

建具再配置メニューを選択すると次のダイアログが表示されます。再配置を行うレイヤーを指定し、置換え設定ファイルを選択してください。指定レイヤーに入力済みの建具を入力点より判断を行い、設定ファイルで指定された建具部材に置換えます。



7) 不足マスターチェック

Web パックで受け取った物件を開いて表示した際、送り元と表現が異なっている場合があります。

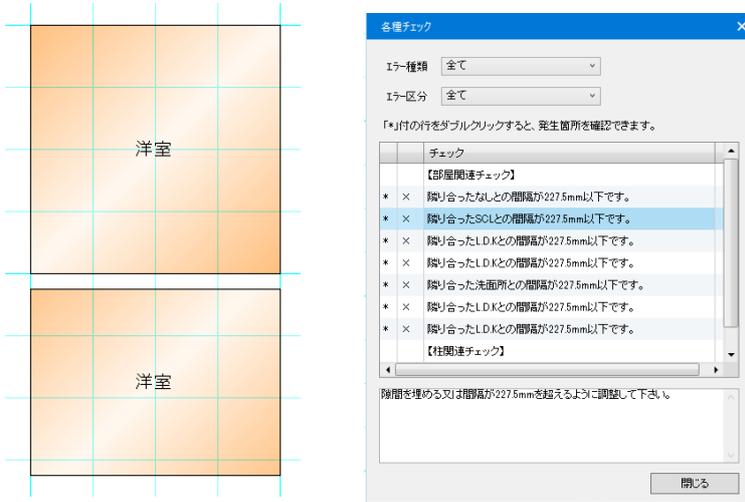
これは物件データの中で外部ファイルを参照するようにパスだけが登録されている場合に、そのパスが見当たらないことやその外部ファイルが Web パックに含まれていないことから起こる現象です。

その現象が起こった際に、どのファイルが不足しているのかをユーザー側に知らせる機能となります。



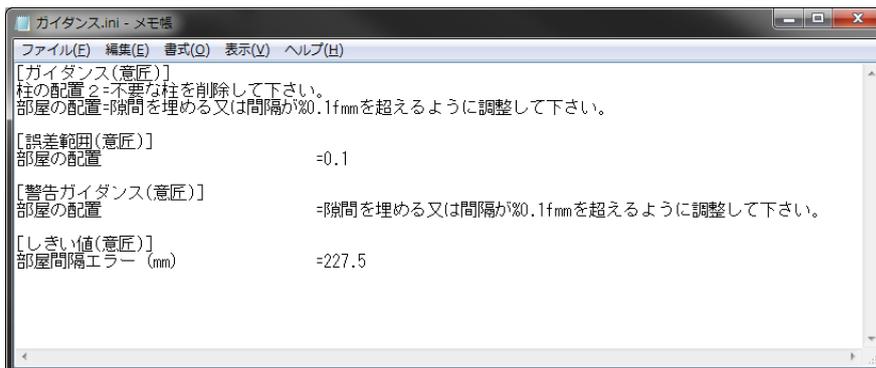
8) 各種チェック

部屋同士の間隔が一定量未満の場合に、エラーと判定します。



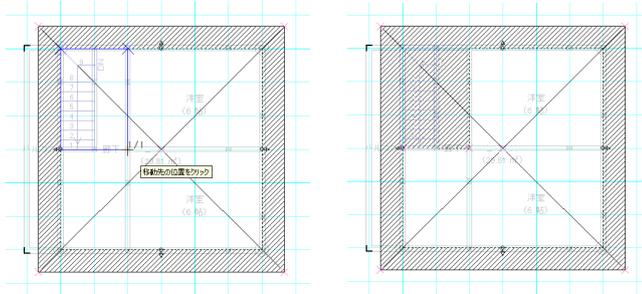
エラーと判定するしきい値は、以下のファイルで設定可能です。

・MASTER¥ルルチェック¥ガイドンス.ini



9) 間仕切り移動 機能拡張

右クリックで表示されるポップアップメニューから間仕切り移動ができます。
全レイヤーでの間仕切り移動が可能です。

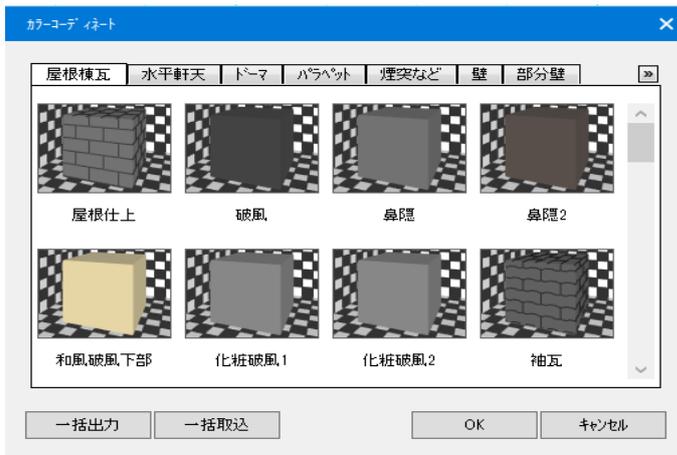


10) 間取り診断 (木造軸組み)

詳細については、法規チェック・性能表示編マニュアルを参照してください。

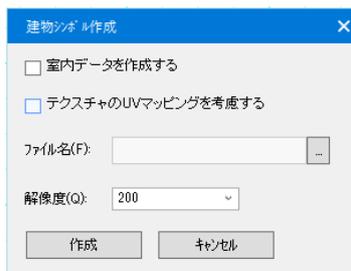
11) カラーコーディネート

建築要素の任意の部位に対してカラーコーディネートを行う機能です。



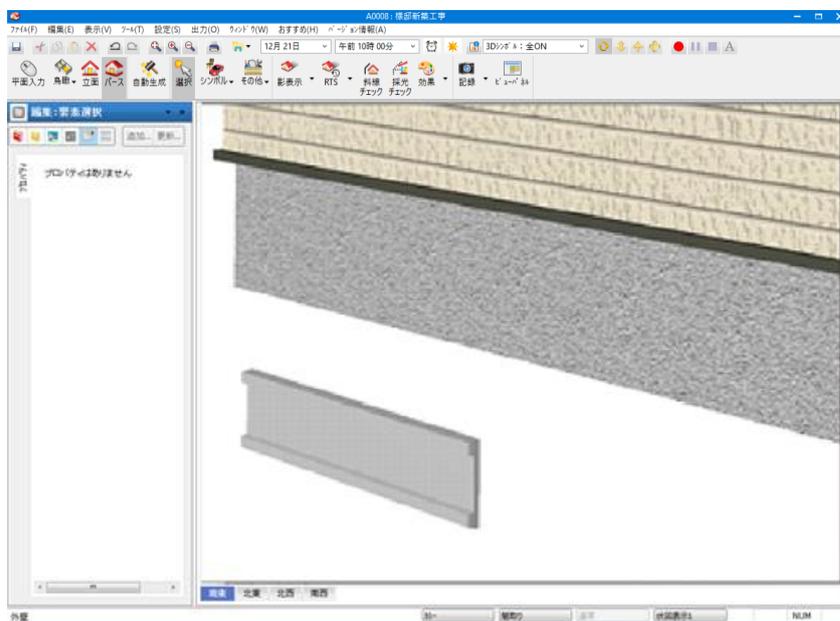
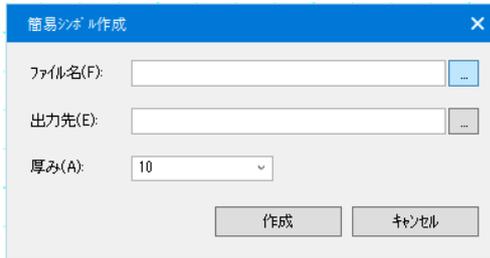
12) 建物シンボル作成

本システムで作成した物件を一つの建物シンボルとして登録する機能です。これを利用して街並みパースを作成するなどの応用ができます。



1 3) 簡易シンボル作成

断面形状となる DXF ファイルを選択し、厚み等のパラメータを設定することで簡易シンボルを作成することが出来ます。断面形状の DXF は、軒樋などの指定と同様です。



1 4) 積算数量確認

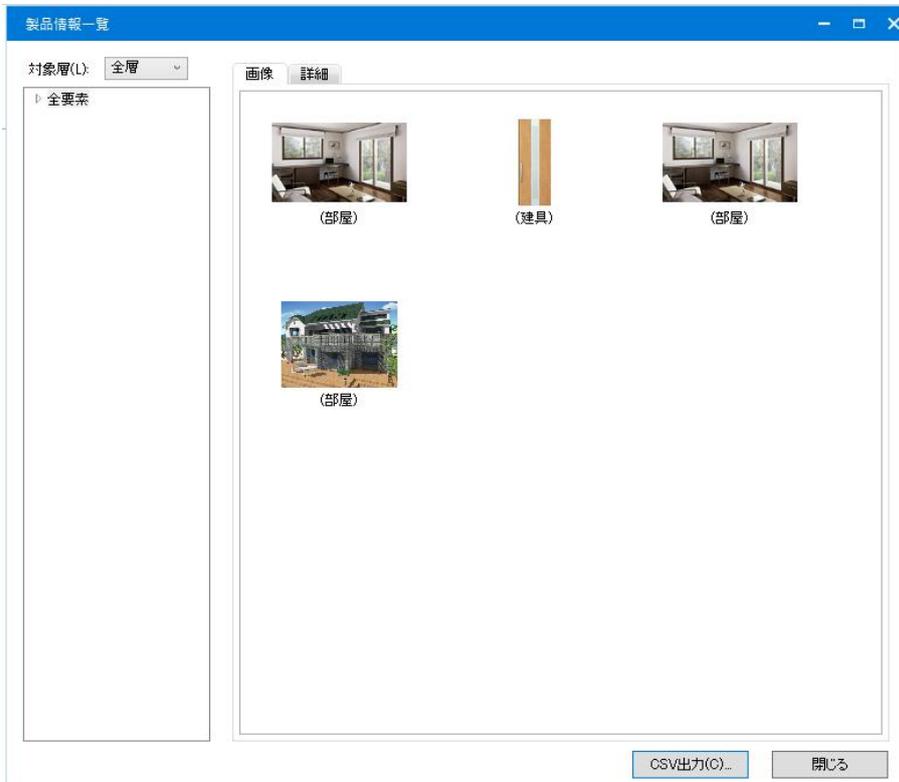
入力した建物モデルの積算数量を確認できるほか、この数量表を表計算ソフトで利用できるように、CSV 形式でファイル出力を行えます。



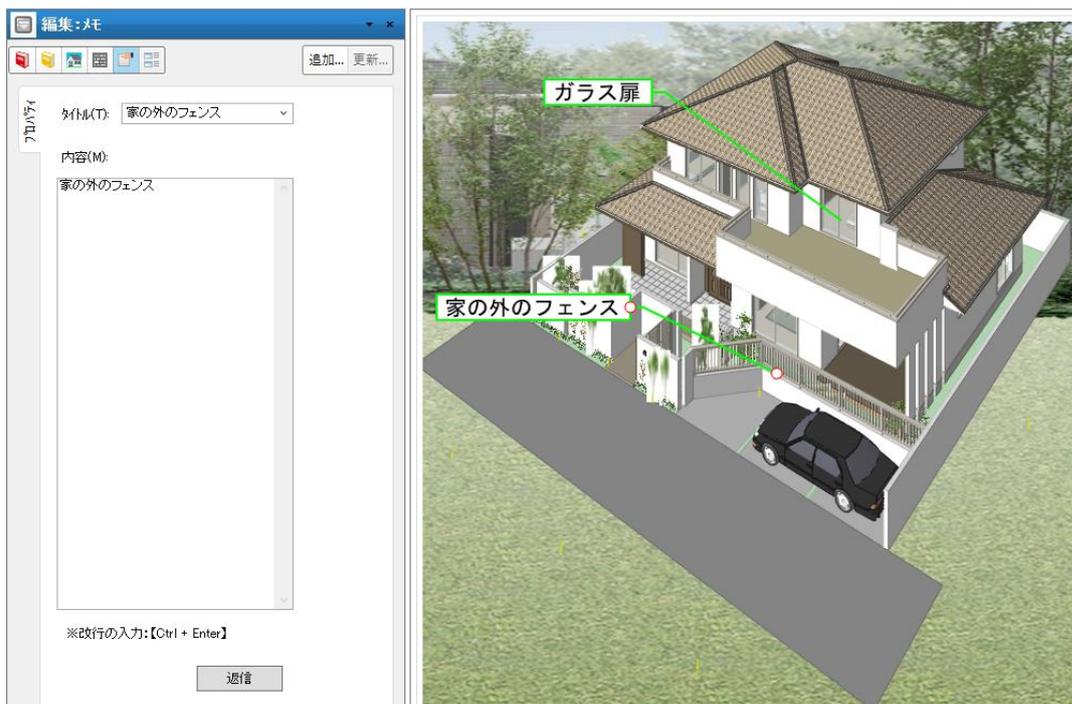
No	項目名	数量	単位
1	敷地 面積	264.57	m ²
2	建蔽 面積	133.32	m ²
3	延床 面積	193.35	m ²
4	1F 床面積	118.00	m ²
5	2F 床面積	75.35	m ²
6	3F 床面積	0.00	m ²
7	4F 床面積	0.00	m ²
8	5F 床面積	0.00	m ²
9	一総屋根面積	11.00	面
10	一総屋根全体仕上面積	186.81	m ²
11	1F 屋根仕上面積	64.60	m ²
12	2F 屋根仕上面積	122.20	m ²
13	3F 屋根仕上面積	0.00	m ²
14	4F 屋根仕上面積	0.00	m ²
15	5F 屋根仕上面積	0.00	m ²
16	ホーチ屋根面積	0.00	面
17	ホーチ屋根仕上面積	0.00	m ²

15) 製品情報一覧

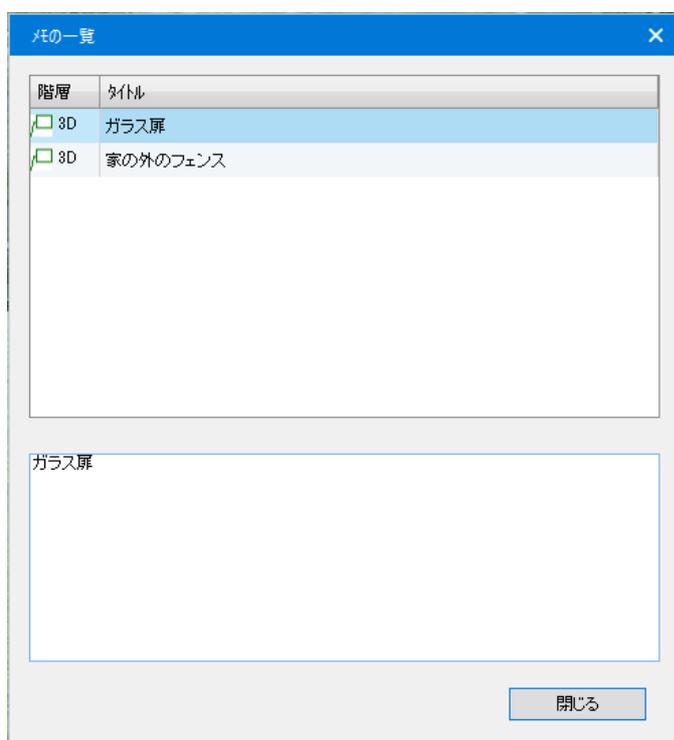
メディアプレス CD を用いて製品情報とのリンク付けを行った一覧表を確認できるほか、製品情報の CSV 出力も行えます。



16) メモ一覧



平面、外観、室内などで配置したメモの一覧を確認できます。



なおメモ機能はクラシックモード専用の機能となります。

17) ビフォーウィンドウ

ビフォーウィンドウは、改築前のプランデータをビフォープランとして保存することができます。

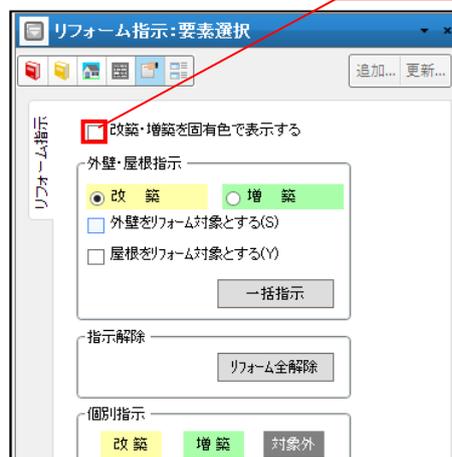


18) リフォーム指示

リフォーム対象部位を既存・改築・増築別にパースや図面で色分け表示ができます。

部屋単位だけでなく建具・設備・外壁・屋根等、独立した指示ができます。

空間リフォーム機能として、リフォーム範囲を明示することができます。



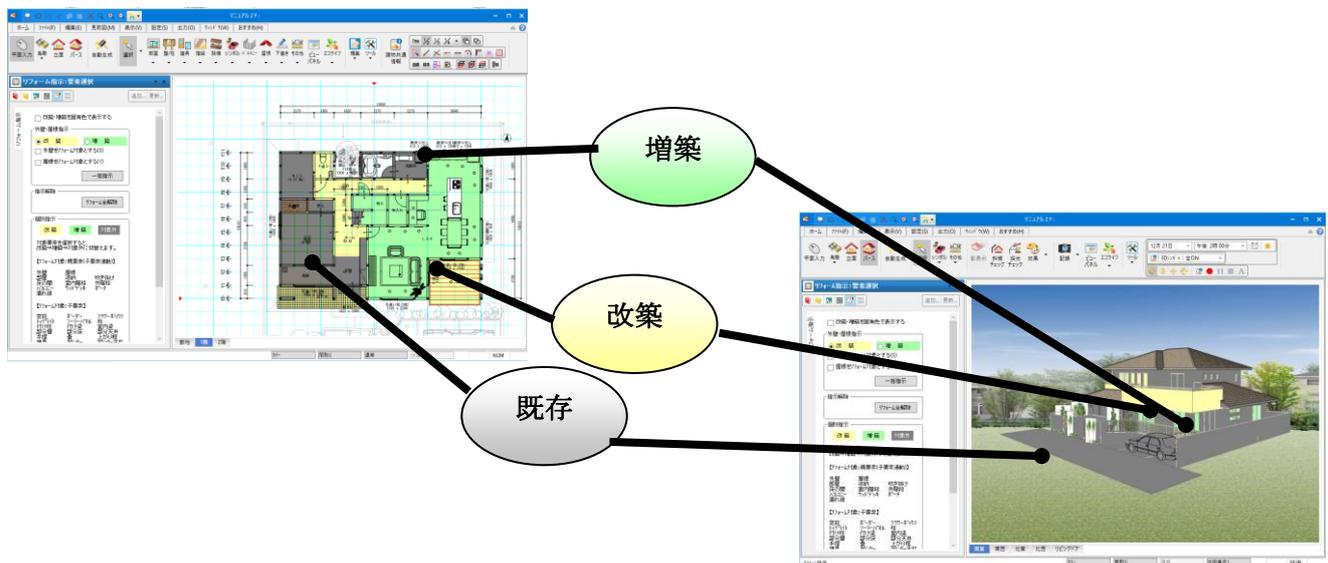
チェックが外れている状態で既存・改築・増築別で平面、パース上で色分け表示されます。

リフォーム指示の変更は、平面・3D表示での左クリックで変更できます。

平面表示時は、マウスドラッグによる範囲選択での変更も可能です。

リフォーム指示された要素がある場合、

指示した要素を既存・改築・増築別にパースや図面で色分け（固有色で表示にチェックがある場合：固有色[改築、増築]、既存を灰色）で表示します。



外壁・屋根のリフォーム指示は一括指示機能によって変更が可能です。リフォーム対象となる外壁・屋根についての設定を変更後、一括指示ボタンの押下で反映されます。

リフォーム指示されている要素を全て解除する場合、リフォーム全解除ボタンを押下すると全ての要素のリフォーム指示が解除されます。

(補足)

リフォーム指示によって色の区別がされますが、指示終了時は全ての要素について固有色に戻します。

19) プラン検索

予めプランを登録しておくことで利用頻度の高いプランを呼び出すことができます。

20) 目地合わせ

鳥瞰/俯瞰、立面、パースの同一面上で、「目地原点」と「表示基準点」の2点入力により目地のずれを合わせることができます。

21) 計測

平面または立面の線画モードの場合に、通常マウスで指定できない場所を計測できます。

2.2) 面積確認

各種の面積を確認できる機能を追加しました。

「ツール」の「面積確認」項目を押すと、「面積確認」ダイアログで敷地面積、建築面積、延床面積、各階床面積、ロフト床面積、建ぺい率、容積率を表示します。

The image shows a software menu with '面積確認(A)' highlighted in red. A blue arrow points from this menu item to a dialog box titled '面積確認'. The dialog box contains a table with the following data:

項目名	数量	単位
敷地 面積	264.57	m ²
建築 面積	133.32	m ²
延床 面積	193.35	m ²
1F 床面積	118.00	m ²
2F 床面積	75.35	m ²
建ぺい率	50.39120082	%
容積率	73.08084817	%

※ 床面積の階数は共通情報の階が表示されます。

The image shows two dialog boxes. The left one is '建物共通情報' (Building Common Information) with '地上(F):' set to '2' and 'ロフト(L)' checked. The right one is '面積確認' (Area Confirmation) with a table showing floor area details:

項目名	数量	単位
敷地 面積	264.57	m ²
建築 面積	133.32	m ²
延床 面積	193.35	m ²
1F 床面積	118.00	m ²
2F 床面積	75.35	m ²
ロフト床面積	0.00	m ²
建ぺい率	50.39120082	%

23) 文字移動

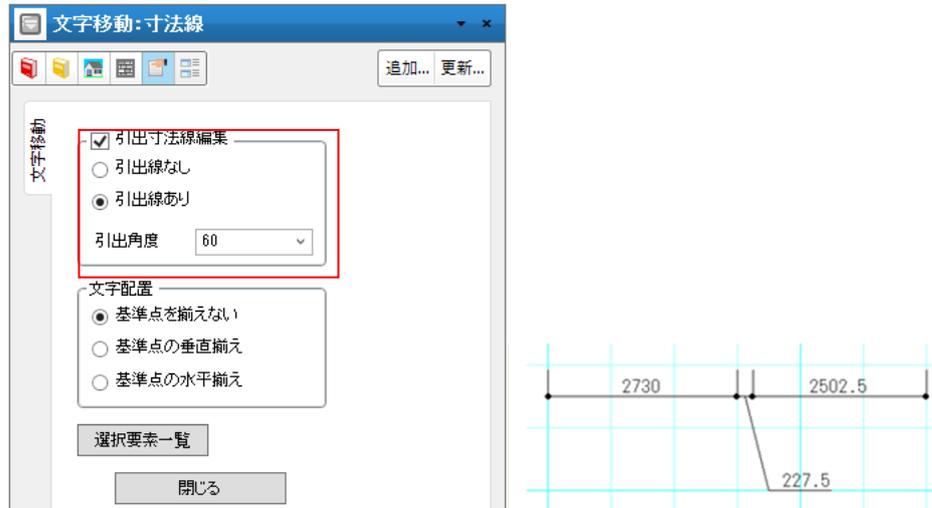
平面入力の場合に、各種要素に付随する文字を移動できます。

移動したい文字を左クリックすると文字を掴み、移動先となる点で左クリックすると配置します。

また、移動したい文字を左ダブルクリックすると文字が 90 度回転した状態で移動状態になります。

23-1) 引出寸法線編集

ツールメニューの「文字移動」で、数値移動や、引出寸法表記することができます。



引出寸法線編集チェックを ON にします。

引出線なしの場合は引出線を表示しません。

引出線ありの場合は引出線を表示します。

文字方向（上下左右の組み合わせ）も可能です。

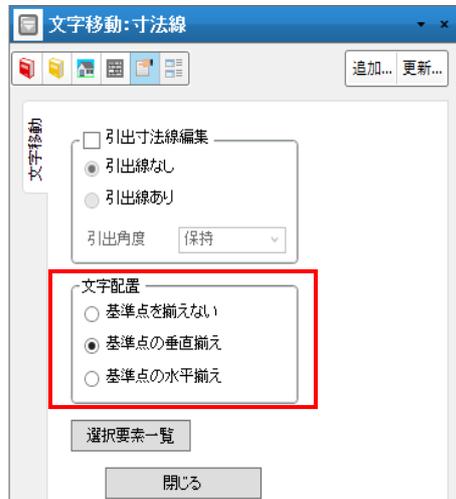
【引出角度】に角度を入力した場合は入力した角度で引出線を表示します。

【引出角度】が「任意」の場合は引出線が任意の角度で表示します。

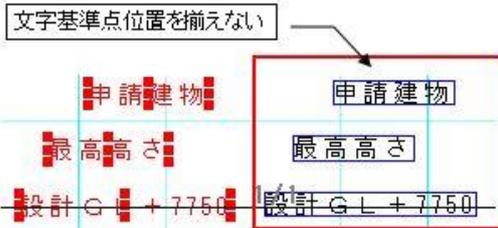
【引出角度】が「保持」の場合は引出線角度が設定されている場合はその角度で表示します。

23-2) 文字配置

複数選択した場合、文字列の文字基準点を以下の通り揃えることができます。



- ・基準点を揃えない
選択した複数の文字基準点を揃えないで移動する。



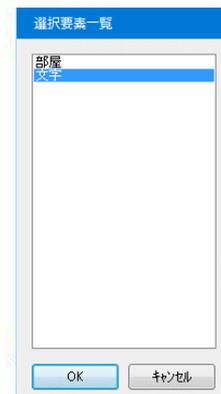
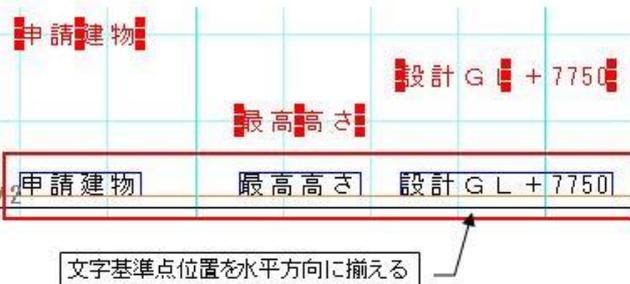
- <選択要素一覧>
領域選択で範囲内の要素で移動対象から外したい場合に対象から外したい要素を選択することができる。



- ・基準点の垂直揃え
文字の基準点を垂直方向に移動して揃えます。



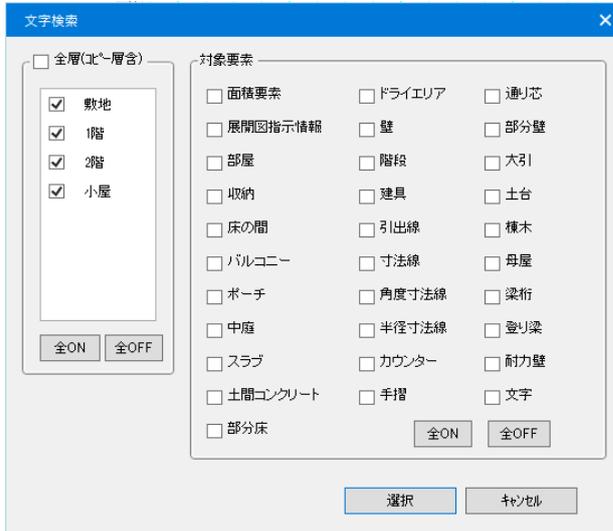
- ・基準点の水平揃え
文字の基準点を水平方向に移動して揃えます。



一覧から移動対象から外す要素を選択する。

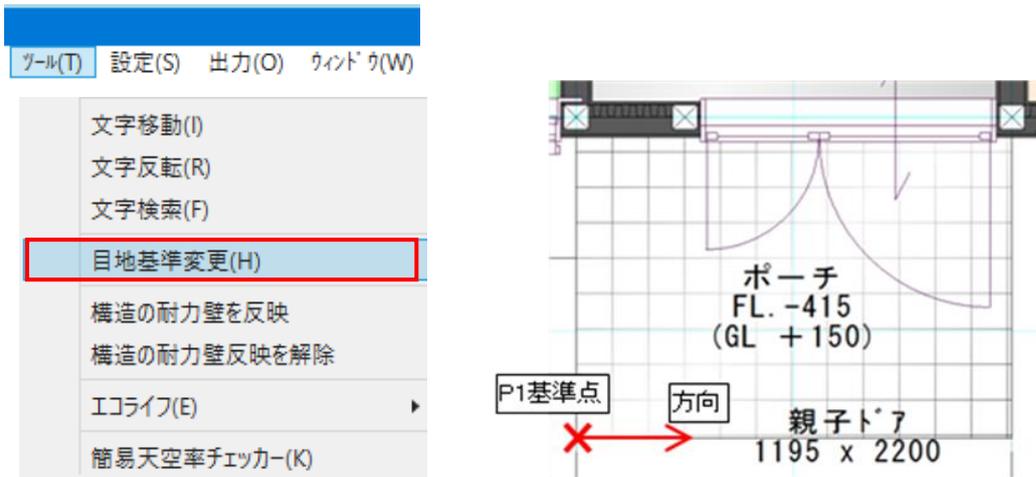
24) 文字検索

平面入力の場合に、各種要素に付随する文字を検索できます。



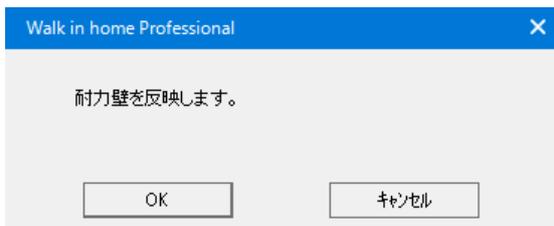
25) 目地基準変更

ポーチ、ハッチング要素を選択し、基準点位置と方向により基準点を変更できます。



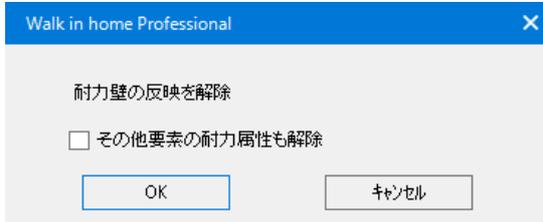
26) 構造の耐力壁を反映

構造の安定・構造チェックで耐力壁を元に、入力済みの間取りの壁・柱にスケルトン属性を付加する機能です。



27) 構造の耐力壁反映を解除

上記の「構造の耐力壁を反映」で反映したスケルトン属性を解除する機能です。



28) エコライフ

27-1) 太陽光パネル

鳥瞰/俯瞰、立面、パース時に太陽光パネルの設置シミュレーションを行えます。



※詳細は「操作マニュアル_太陽光パネル設置シミュレーション.doc」を参照して下さい。

27-2) 省エネ

UA 値計算を行えます。

詳細は操作マニュアル_省エネ(UA値)計算.docを参照して下さい。

27-3) ZEH 計算

ZEH 判定を行えます。

詳細は操作マニュアル_ZEH.docx を参照して下さい。

29) 簡易天空率チェッカー

生活産業研究所様の「簡易天空率チェッカー」と連携し、天空率のチェックを行うことが出来ます。

起動すると以下のようなウィンドウが表示されますので、条件を選択し「チェック開始」ボタンを押下して下さい。



結果画面



※チェックを行う場合、必ず「敷地」、「道路斜線」の入力を行って下さい。

30) スケルトンインフィル

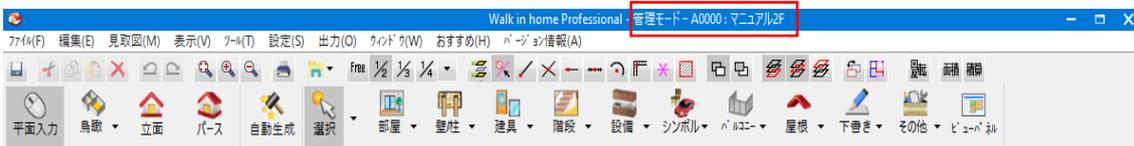
設計士が構造躯体で必須の壁などをスケルトンとして設定することで、営業マンがプレゼンを行う際に、スケルトン属性のものは削除できないため、連携を効率的に行うことができます。

管理モードでスケルトン属性を設定することで、通常モードで営業マンがプレゼンを行います。

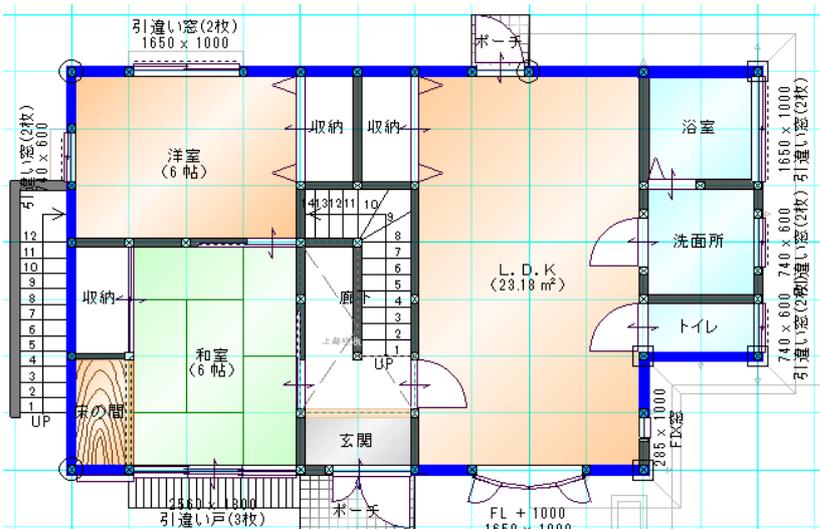
ア) 管理モード

CAD 画面上で、「Ctrl+Shift+F10」を同時に押下すると、管理モードに移行します。

タイトルに「管理モード」が表示されます。(スケルトン設定後は青文字で表示されます。)

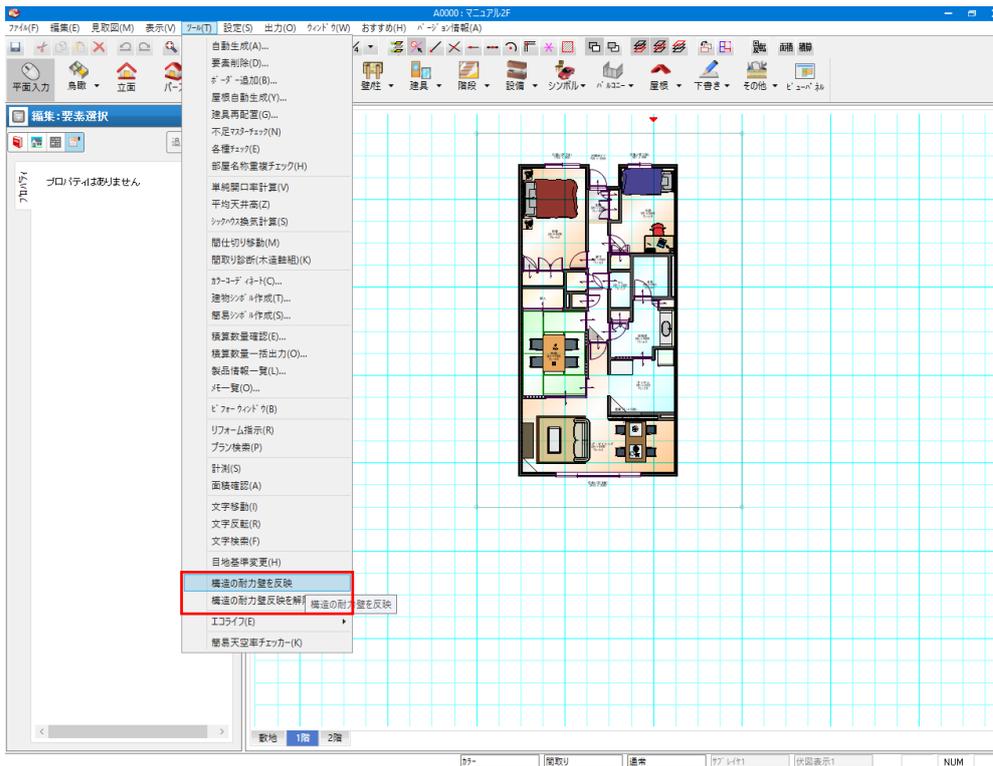


壁・吹き抜け・室内階段・外階段・バルコニー・柱に対して、スケルトン属性を付けることができます。以下の画像の青色部分がスケルトン属性の壁です。



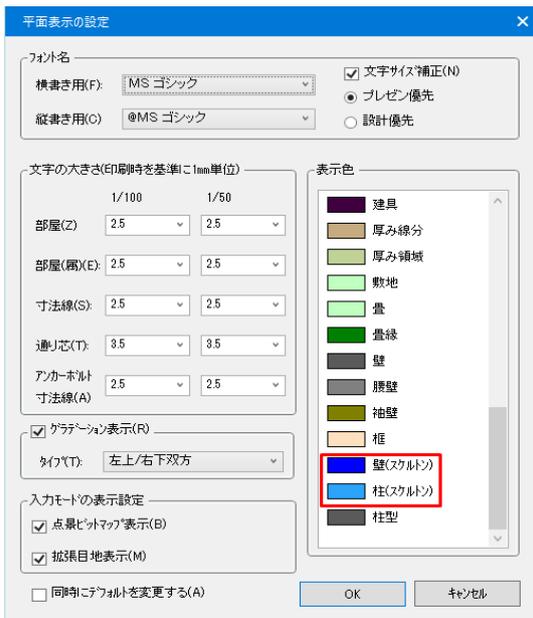
また、構造の安定・構造チェックで耐力壁を元に、入力済みの間取りの壁・柱にスケルトン属性を付加する機能もあります。(スケルトン属性を解除することもできます)

メニュー「ツール」-「構造の耐力壁を反映」 「構造の耐力壁反映を解除」



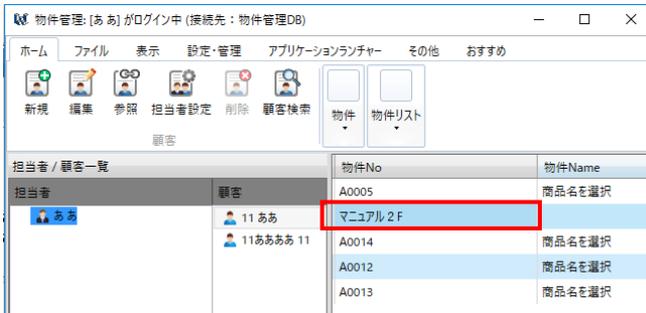
スケルトン属性の壁・柱の平面色を変更することができます。

メニュー「設定」-「平面表示色」



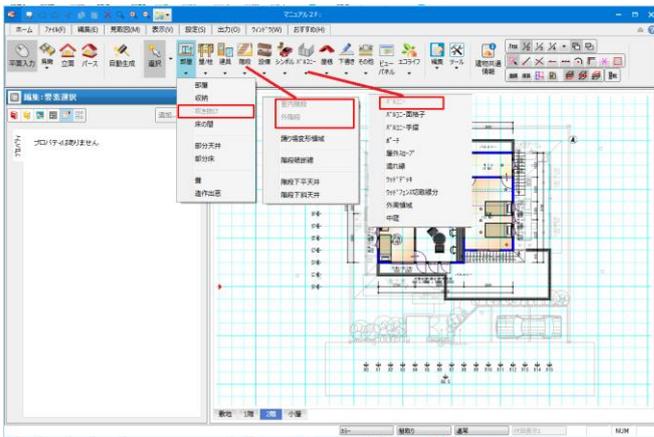
イ) 通常モード

物件管理画面で、管理モードでスケルトン設定をしたプランは青文字で表示されます。



スケルトン対応（青文字）のプランを起動した場合、スケルトン設定した壁・吹き抜け・室内階段・外階段・バルコニー・柱が編集・削除禁止になり、吹き抜け・室内階段・外階段・バルコニーについては、入力禁止になっています。

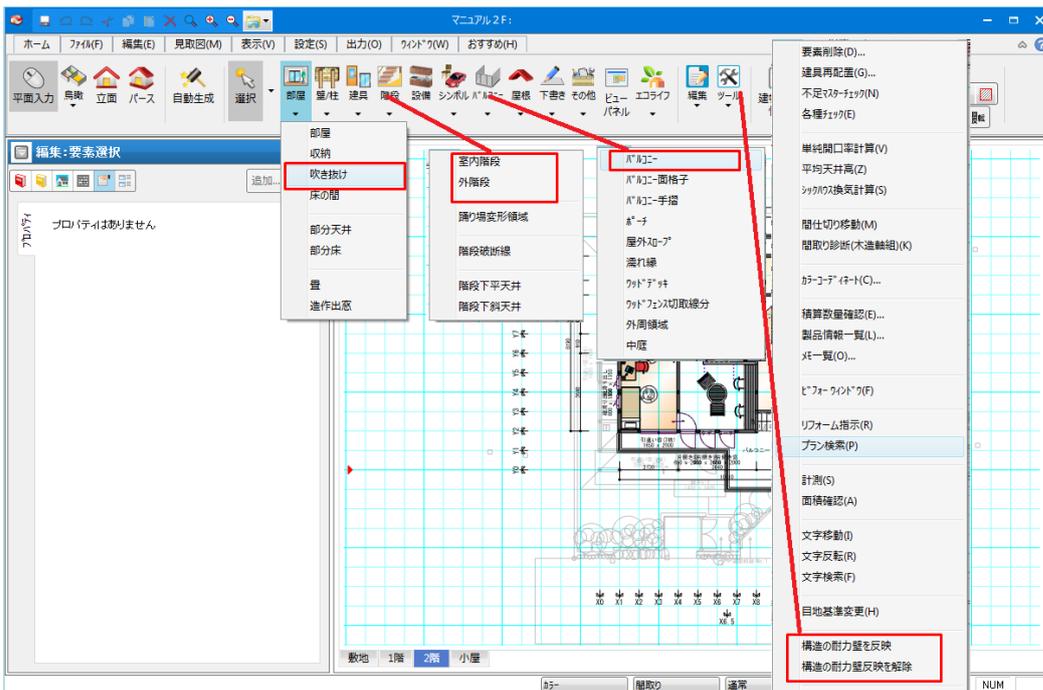
※スケルトン壁上に、壁の上書きや建具の入力はできません。



管理モードで設定した壁・吹き抜け・室内階段・外階段・バルコニー・柱のスケルトン属性を解除することもできます。(メニュー「ツール」-「構造の耐力壁反映を解除」)

解除を行うことで、入力禁止の吹き抜け・室内階段・外階段・バルコニーが選択できるようになります。

※解除すると、管理モードで設定したスケルトン属性を戻すことはできません。



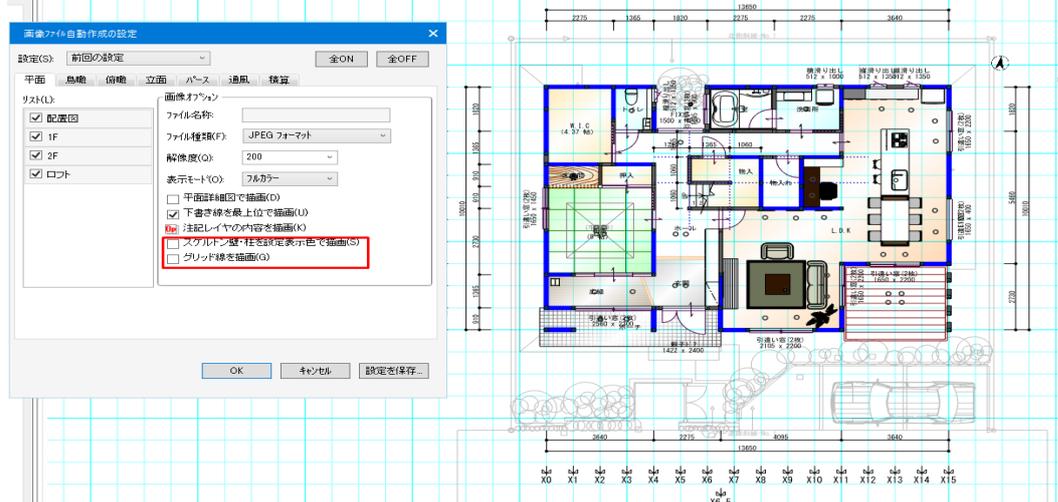
一度解除を行うと、通常モードでも、構造の安定・構造チェックで設定した耐力壁を、入力済みの間取りの壁・柱にスケルトン属性を付加する事ができます。

メニュー「ツール」-「構造の耐力壁を反映」「構造の耐力壁反映を解除」

ウ) プレゼンボード出力

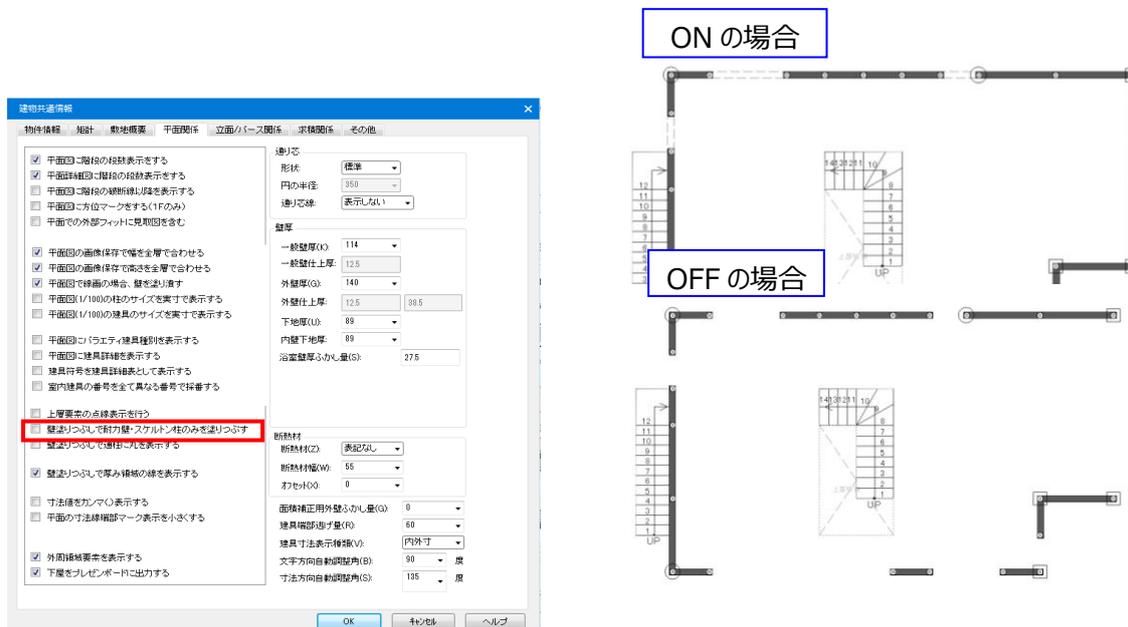
プレゼンボード出力の「スケルトン壁・柱を設定表示色で描画」のチェックを付けることで、耐力壁・柱を平面表示色の設定色で出力することができます。

「グリッド線を描画」にチェックを付けることで、グリッド線を出力することができます。



メニュー「設定」-「建物共通情報」の平面関係タブで、「外周領域要素を表示する」のチェックを ON にすると、壁が入っていない外周部分を点線(二重線)で表示されます。

※バルコニーアイコンの「外周領域」を入力することで、外周を点線で出力させることができます



尚、部屋や収納、廊下、ポーチなどの領域要素は各レイヤー（間取りや基礎など）別に文字を移動できます。

建物共通情報の平面関係タブで「壁塗りつぶしで耐力壁・スケルトン柱のみを塗りつぶす」にチェックをONにし、プレゼンボードの作成時に表示モードを「図面（壁塗りつぶし）」を選択した場合、「壁-耐力壁」の壁及び「スケルトン柱」のみ塗りつぶしで作成できます。

建物共通情報

物件情報 矩計 敷地概要 平面関係 立面/バース

- 平面図に階段の段数表示をする
- 平面詳細図に階段の段数表示をする
- 平面図に階段の破断線以降を表示する
- 平面図に方位マークをする(1Fのみ)
- 平面での外部フィットに見取図を含む
- 平面図の画像保存で幅を全層で合わせる
- 平面図の画像保存で高さを全層で合わせる
- 平面図で線画の場合、壁を塗り直す
- 平面図(1/100)の柱のサイズを実寸で表示する
- 平面図(1/100)の建具のサイズを実寸で表示する
- 平面図にバラエティ建具種別を表示する
- 平面図に建具詳細を表示する
- 建具符号を建具詳細表として表示する
- 室内建具の番号を全て異なる番号で採番する
- 上層要素の点線表示を行う
- 壁塗りつぶしで耐力壁・スケルトン柱のみを塗りつぶす**
- 壁塗りつぶしで通柱に丸を表示する
- 壁塗りつぶしで厚み領域の線を表示する
- 寸法値をカンマ(,)表示する
- 平面の寸法線端部マーク表示を小さくする
- 外周領域要素を表示する
- 下屋をプレゼンボードに出力する

画像ファイル自動作成の設定

設定(S): 前回の設定 [全ON] [全OFF]

平面 鳥瞰 俯瞰 立面 バース 通風 積算

リスト(L):

- 配産図
- 1F
- 2F
- ロフト

画像オプション

ファイル名称: ロフト

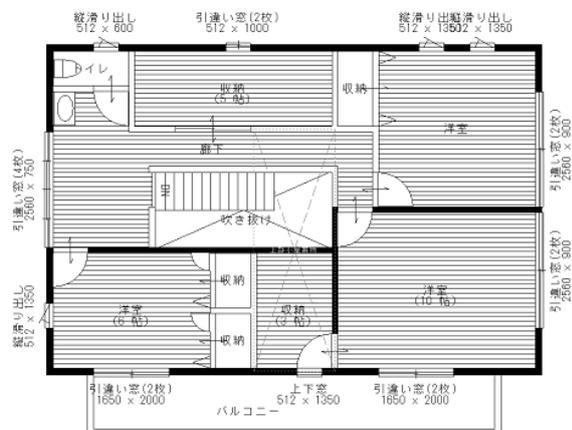
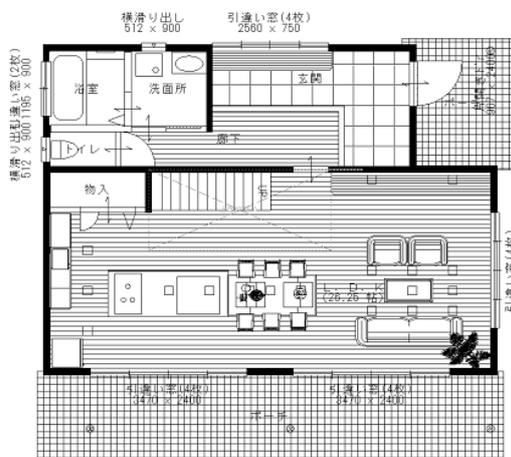
ファイル種類(F): JPEGフォーマット

解像度(Q): 200

表示モード(O): 図面(壁塗りつぶし)

- 平面詳細図で図面(線画)
- 下書き線を最上層で描画(M)
- 注記レイヤの内容を描画(K)
- スケルトン壁・柱を設定表示色で描画(S)
- グリッド線を描画(G)

[OK] [キャンセル] [設定を保存...]



1 - 2. 自動生成

本システムでは建物空間を強く意識した入力体系をとっているため、部屋や外部領域、建具などの基本要素を入力した後は、いつでも「自動生成」でこれに関連する建築要素を生成することができます。



1) 概要

外観だけほしい場合には、みなし部屋を各階で1つ入力し、バルコニーやポーチ、濡れ縁、外階段など外観に関連する要素を入力した後、AI 建具機能を用いて建具開口を2点入力の繰り返しで入力します。

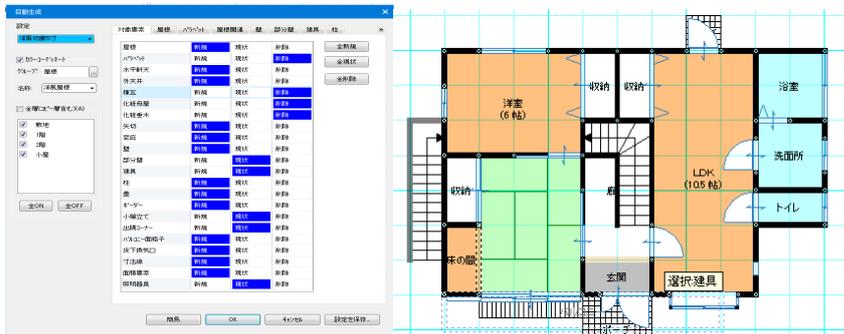
これで好みのタイプの「自動生成」を行えばあっという間に「外観」が完成します。

更にみなし部屋を上書きしていく感覚で部屋や収納、室内階段などをいれ、同じくAI 建具機能を用いて建具開口を入力して、再度自動生成を行い、更に設備やインテリアを入力追加していくことで物件の完成度を順次あげていくことができます。

母屋下がりなどの変形屋根の場合は、軒高領域や基準軒先領域などを付加した後に、自動生成を行うことで簡単に結果が得られます。自動生成を行うパターンは数多くあると思いますが、よく使用するパターンをあらかじめ設定し登録しておくことで便利です。

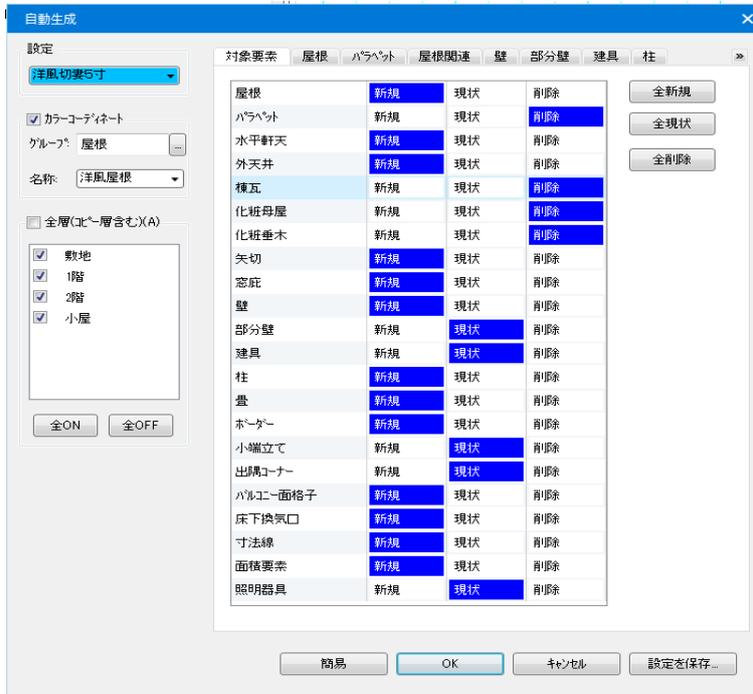
「自動生成」大アイコンは「平面入力」と「鳥瞰・立面・パース」いずれの表示モードでも使用することができます。

なお“屋根”と“ポーチ”に関しては、それだけを単独生成できるツールメニューが、別途用意されています。



2) 自動生成の基本的な使い方

ここでは登録した「パターン」を使う便利な方法ではなく、一番基本的な使い方について説明を行います。



2-1) 設定

自動生成アイコンを押すと、最初に「前回の設定」が表示されます。

すなわち前回行った自動生成の状況が表示されています。

従って一度自動生成をした内容でよければ OK ボタンを押すだけで、同様の自動生成を行うことができます。

2-2) 対象層

自動生成を行う対象層を選択します。

リストの中には、矩計でチェックした基準層が表示されます。

“全層(北°-層含む)”をチェックすると、基準層だけでなく北°-層を含む全層に対して自動生成を行います。

例として現在 1 階、2 階とも寄棟屋根が掛けられている状態で、今回 2 階だけに切妻の屋根を自動生成したい場合は、2 階だけを選択します。

2-3) 対象要素

自動生成を行う対象要素を選択します。

ここでフラグを「新規」とした要素が自動生成の対象になります。

「現状」は自動生成の対象から外すことを意味します。

「削除」は削除だけ行うことを意味します。

「新規」の場合は、対象層の当該要素が消された後に、自動生成が行われます。

「全新規」はすべて「新規」に、「全現状」はすべて「現状」に、「全削除」はすべて「削除」にする機能ボタンです。

(注) 手入力の屋根があった場合でも屋根を「新規」とすると、対象層の屋根は一旦すべて削除されてから自動生成が行われるため、結果的に手入力の屋根はなくなることに注意願います。

2-4) カラーコーディネート

チェックフラグをオンにすると、自動生成とカラーコーディネートを同時に行うことができます。

オンにした場合、参照ボタンからグループ名を選び、名称をリストから選択してください。なお登録パターンを「和風入母屋」のように選択した場合は、自動的に「設定の保存」時に選択したカラーコーディネートタブと名称が表示されますが、再度選択し直してもかまいません。

2-5) 自動生成詳細情報の設定

対象要素のタブの横に、屋根、屋根関連、壁、柱、ポーチ、窓庇、その他の情報設定用タブがあります。

これらのタブの情報を設定変更できます。次々とタブを設定し、最後に「OK」ボタンを押すと、自動生成が始まります。

2-6) 設定の保存

対象要素の組み合わせ、各詳細情報の設定の組み合わせ、及びカラーコーディネート情報をすべてまとめて、これに対し「名前」を付けて保存することができます。

自動生成設定の保存

設定名称(N): [和風入母屋]

カラーコーディネートを保存(C)

グループ(T): 屋根

名称(N): 洋風屋根

OK キャンセル



(例) 和風入母屋

全要素を「新規」とした後、水平軒天とボーターを「削除」と設定し、屋根情報で入母屋 5 寸を設定したものです。

カラーコーディネートは「和風屋根」と設定しています。

(注) 上記の例は、洋風から和風を想定して作成されています。

3) 自動生成の便利な使い方

ここでは設定の保存を用いて登録した「パターン」を使う便利な方法を説明します。

3-1) 設定

ここから「前回の設定」を除いた「パターン」名称を選択します。

選択すると、対象要素の作成区分、各詳細設定タブの内容、カラーコーディネート設定情報が変更されていることを確認することができます。

3-2) カラーコーディネート

必要ならば、チェックラゲもオノオや、カラーコーディネート情報を変更することができます。

3-3) 対象層

「パターン」そのものには、対象層の情報は含まれていません。

必要なら対象層を設定します。

3-4) 自動生成詳細情報の設定

必要ならば、詳細情報の設定を修正することができます。

3-5) 自動生成の実行

「OK」ボタンを押すと、自動生成が実行されます。

3-6) 簡易パターンの表示



自動生成ダイアログの下部の「簡易」のボタンを押すと、パターンだけのシンプルなダイアログに変更できます。

同様にシンプルなものから詳細に戻すことも可能です。次回起動時にもその設定が残るようになります。



4) 自動生成詳細情報の設定

4-1) 屋根

対象要素	屋根	ハラハット	屋根関連	壁	部分壁	建具	柱	▶▶
形状(T):	寄棟	<input type="checkbox"/> 最上階片流れ(U)	片流れ水下(上)					
勾配(K):	5.0	異勾配(急)(D):	10					
軒の出(桁)(N):	600	軒の出(妻)(S):	200					
軒の出(水上)(M):	200							
屋根厚(Y):	150							
破風見付(H):	240							
化粧破風(F):	なし							
化粧破風先端形状(B):	地盤に垂直	軒通端部伸び(L):	0					
軒先形状(A):	地盤に垂直							
入母屋壁後退量(M):	500							
下屋廻込み量(G):	300							
<input checked="" type="checkbox"/> 屋根端点に点を生成する(P)								
<input checked="" type="checkbox"/> 個別情報を破棄する(D)								

① 形状

寄棟、切妻(水平)、切妻(垂直)、異勾配(水平)、異勾配(垂直)、入母屋から選択します。切妻の場合、水平は棟が画面横方向、垂直が画面縦方向に生成されます。異勾配の場合、水平は画面横方向の端部が急勾配設定となります。垂直はその逆です。入母屋は、寄棟形状で方形を除く三角屋根の部分が入母屋屋根に変形されます。

② 勾配

基準勾配を 10 寸勾配で設定します。0 に設定すると、フラット屋根が生成されます。

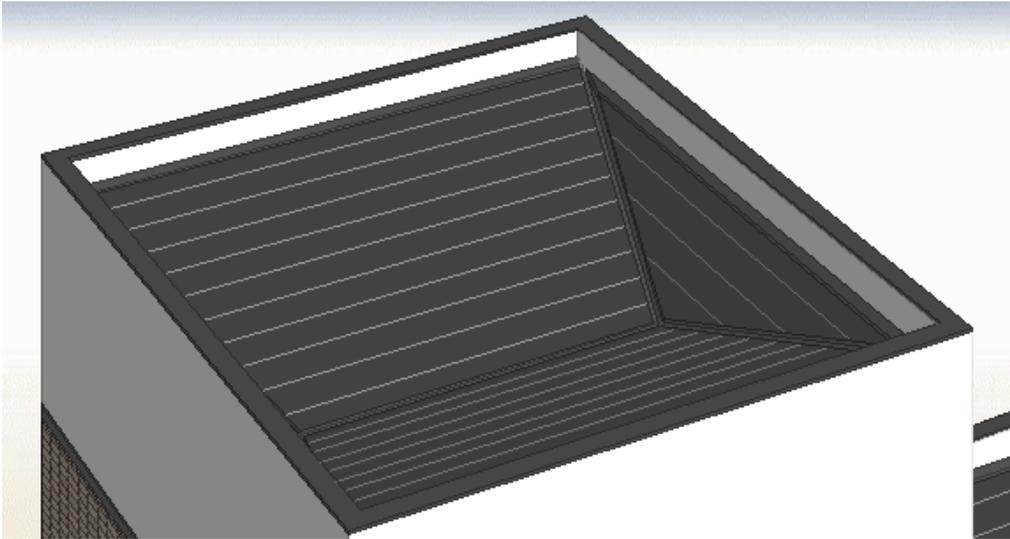
また、マイナス数値を入力すると、マイナス勾配での自動生成が可能です。異勾配マイナスの場合は、異勾配(急)もマイナス設定してください。

③ 軒の出(桁)

基準軒の出寸法を設定します。異勾配の場合は、基準勾配側の軒の出を設定します。

④ 軒の出(妻)

切妻の場合と、入母屋の場合に妻側の軒の出寸法を設定します。



マイナス勾配の屋根を生成

⑤ 屋根厚

屋根厚さを指定します。

自動生成を層毎に実施する場合は、層単位で屋根厚を変えることが可能です。

⑥ 化粧破風

化粧破風の量を設定します。

⑦ 破風見付

破風見付高さを設定します。

破風見付は最後に実行した屋根自動生成で指定した高さが選択した対象層の屋根に適用されます。

⑧ 軒先形状

地盤に垂直、勾配に垂直から選択します。

軒先形状は最後に実行した屋根自動生成での形状が選択した対象層の屋根に適用されます。

⑨ 異勾配（急）

形状として異勾配を選択したとき、急勾配側の10寸勾配を設定します。

異勾配の場合、水平は画面横方向の端部が急勾配設定となります。垂直はその逆です。

また、異勾配マイナスの場合は、異勾配（急）にもマイナスを設定してください。

⑩ 入母屋壁後退量

形状として入母屋を選択したとき、上部妻壁(芯)の軒高(芯)からの後退量を設定します。

⑪ 下屋廻込み量

下屋廻込み量を設定します。

⑫ 屋根端点に点を生成する

屋根の端点に点を生成します。

⑬ 個別情報の破棄

基本的には、このフラグは常にオンの状態で使用します。

このフラグをオフにすると、前回の屋根自動生成 + 個別切妻変更などの情報を記憶したまま、屋根自動生成が行われます。

したがってオフに設定した場合、形状などあらたに設定した項目はすべて無視されます。オフにして使用するのには、部分切妻線分や屋根切取領域などを入力変更した場合に、現在の情報を生かして、この部分切妻線分や屋根切取領域の効果を加味する場合に限られるため注意してください。

⑭ 最上階片流れ

最上階に片流れ屋根を設定できます。

最上層とは「建物共通情報」-「物件情報」-「地上」の値の階のみ「片流れ屋根」を生成します。屋根の基準点高さの位置は外周の矩形領域上とします。

4-2) パラペット

対象要素	屋根	パラペット	屋根
高さ(H):	400		
厚さ(A):	190		
笠木(K):	有り		
手摺(T):	無し		
手摺高さ(W):	800		

① 高さ

パラペットの高さを設定します。

② 厚さ

パラペットの厚さを設定します。

③ 笠木

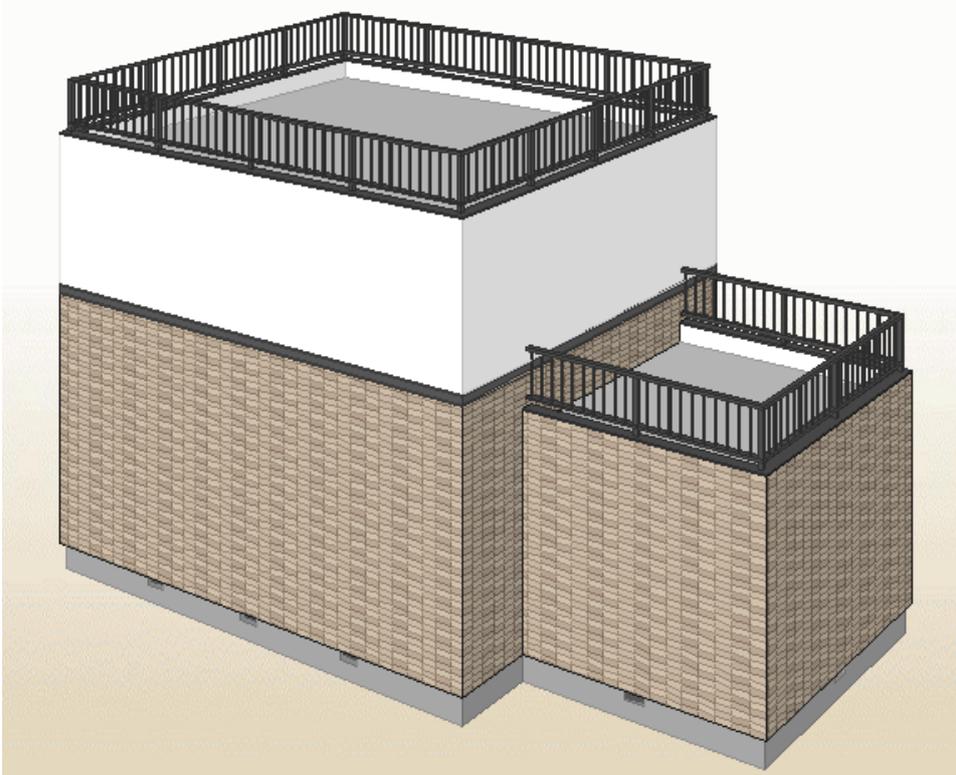
笠木の有無を設定します。

④ 手摺

パラペットの手摺の有無を設定します。

⑤ 手摺高さ

手摺有りの場合の手摺高さを設定します。無しの場合はこの設定は無視されます。



自動生成でフラット屋根を生成

4-3) 屋根関連

矢切 形状(Y): <input type="text" value="矩形"/> シンボル(S): <input type="text" value=""/> 棟からの下がり量(S): <input type="text" value="200"/> 見附高さ(H): <input type="text" value="350"/> 幅(W): <input type="text" value="200"/>	棟瓦 高さ(M): <input type="text" value="170"/> 化粧母屋 ピッチ作成基準(P): <input type="text" value="下端基準"/> 平面投影作成ピッチ(M): <input type="text" value="910"/> 最小発生間隔(K): <input type="text" value="455"/>
水平軒天 切妻端部廻込み(R): <input type="text" value="60"/> (注)マイナス値 = 外壁つら合せ	化粧垂木 平面投影作成ピッチ(T): <input type="text" value="455"/> 最小発生間隔(R): <input type="text" value="227.5"/>
外天井 方式(X): <input type="text" value="矩計天井高さを採"/> 指定高さ(V): <input type="text" value="2400"/>	

① 矢切

切妻棟と妻壁芯との交点の位置に生成されます。

したがって寄棟の場合などは生成されません。

ア) 形状

矩形、矩形 2 連、五角形、円形、半円、シボルの中から選択します。

五角形の場合は、屋根勾配に合わせた形状で表現されます。

シボルの場合は、sym データの形状を読み込んで表現されます。

イ) 棟からの下がり量

妻壁頂点と矢切上端までの距離を設定します。

ウ) 見附高さ

矢切の高さ（大きさ）を設定します。円形と半円の場合、この数値は不要です。

エ) 幅

矢切の全幅を設定します。円形と半円の場合はこの数値を用いて表現されます。

（補足）要素選択時は、すべての矢切の属性を後から一律に変更できます。

② 水平軒天

屋根の軒先と外壁芯とを結ぶ領域が生成されます。切妻の場合などは外壁側への廻し込みを考慮した領域が生成されます。

ア) 切妻端部廻し込み

切妻屋根の端部は外壁側に廻し込みが行われます。

その場合の外壁芯からの廻し込み量を設定します。

パースなどでの表現では、更に外壁の半厚分外側に逃げて表現されるため一般には、外壁の半厚分程度の値を設定します。

③ 外天井

外天井の高さの設定ができます。

ア) 方式

「矩計天井高さを採用」または、「高さ指定」の選択ができます。

「矩計天井高さを採用」の場合は、“建物情報”で設定されている「天井高さ」を利用して外天井を生成します。

「高さ指定」の場合は、任意の高さで外天井を生成することができます。

イ) 指定高さ

「方式」にて「高さ指定」を選択したときに所定の数値を入力して、その高さで外天井が生成されます。

④ 棟瓦

谷以外の屋根棟の位置に生成されます。

入母屋の場合は本棟と隅棟を結ぶ連結棟も同時に生成されます。

ア) 高さ

棟瓦（本棟）の高さを設定します。一般には 170 程度を設定します。

（補足）要素選択時は、すべての棟瓦の属性を後から一律に変更できます。

⑤ 化粧母屋

切妻部分の屋根端と妻壁芯を結ぶ位置に生成されます。

ア) ピッチ作成基準

下端基準、上端基準から選択します。

棟頂点と外壁端には無条件で化粧母屋が作成されますが、中間部の発生方式をここで指定します。下端基準の場合は下側からピッチ発生していきます。

上端基準の場合は上側からピッチ発生していきます。

イ) 平面投影作成ピッチ

上記中間部の発生で用いる作成ピッチを設定します。

作成ピッチは実長ではなく平面上のピッチを用います。

ウ) 最小発生間隔

ピッチ作成基準で化粧母屋を順次生成していきますが、最後の発生の終了条件を設定します。ここで設定した間隔未満の場合は生成を行いません。

⑥ 化粧垂木

屋根の流れ方向に沿って外壁芯と軒先を結ぶ位置に生成されます。

外壁に向かって右から左方向に向かって発生されます。

ア) 平面投影作成ピッチ

上記発生で用いる作成ピッチを設定します。作成ピッチは平面上のピッチを用います。

イ) 最小発生間隔

外壁に向かって右から左方向に順次化粧垂木を生成していきますが、最後の発生の終了条件を設定します。ここで設定した間隔未満の場合は生成を行いません。

4-4) 壁

対象要素	屋根	パラペット	屋根関連	壁	部分壁	建具	柱
<input checked="" type="checkbox"/> 上がり框を生成する(A)							
<input checked="" type="checkbox"/> 床の間落し掛けを生成する(Y)							
				腰壁			
				上端高さ(U) 1100			
				下がり壁			
				下端高さ(L) 2000			

外周領域の外部に入力された壁以外は一旦削除してから生成が行われます。

部屋、収納、床の間、吹き抜け、室内階段の領域境界から、階段の登り口、到達口を除いた部分に壁を生成するほか、上層室内階段廻りと外階段廻りに腰壁が生成されます。

上がり框を生成指示した場合には、玄関と廊下の境界に生成されます。

床の間落し掛けを生成指示した場合には、床の間と和室境界辺の一番長い部分に下がり壁が生成されます。

腰壁の上端高さ、及び下がり壁の下端高さは自動生成時に設定した高さで生成されます。

4-5) 部分壁

対象要素	屋根	パラペット	屋根関連	壁	部分壁	建具	柱
タイプ(T):	タイプ1						
生成対象(H):				上端高さ			
<input type="checkbox"/> 玄関				算出方法(J): 高さ指定			
<input checked="" type="checkbox"/> 廊下				高さ(S): 600			
<input type="checkbox"/> 和室				下端高さ			
<input checked="" type="checkbox"/> 洋室				算出方法(K): 自動算出			
<input type="checkbox"/> キッチン				高さ(S): 0			
<input type="checkbox"/> 浴室				ホーダー			
<input type="checkbox"/> 洗面所				上端(T): あり			
<input type="checkbox"/> トイレ				下端(U): なし			
<input checked="" type="checkbox"/> リビング				デザイン(D): 上下2本線			
<input type="checkbox"/> 子供室				見附高さ(M): 30			
<input type="checkbox"/> ヒロアキ・車庫							
<input type="checkbox"/> 広縁							

自動生成の部分壁の生成においては、始点高さ・終点高さの指定はなく、一定高さで生成を行います。

生成対象の部屋は部屋タイプの指定となります。指定された部屋タイプで入力済みの部屋に対して部分壁を生成します。

①タイプ

部分壁タイプ1～5までで指定します。

②生成対象

生成したい部屋タイプを指定します。指定された部屋タイプで入力済みの部屋に対して部分壁を生成します。

③上端高さ算出方法

高さ指定と自動算出から設定します。

自動算出の場合、部屋内部を想定しているので要素入力の際とは異なり部屋高を計算します。

④上端高さ

高さ指定の場合に始点・終点高さに設定します。基準 FL からの高さを設定します。

⑤下端高さ算出方法

高さ指定と自動算出から設定します。

自動算出の場合、部屋内部を想定しているので要素入力の際とは異なり部屋の床高を設定します。

⑥下端高さ

高さ指定の場合に始点・終点高さに設定します。基準 FL からの高さを設定します。

⑦ホーダー-上端・下端の有無

ホーダーの有無を設定します。ありと設定した場合、共に部分壁の内側に見切り材が作画されます。

⑧デザイン

「なし」と「上下 2 本線」から選択します。

上下 2 本線は見附高さがある程度大きい場合に選択してください。

⑨見附高さ

見切り材の幅ではなく、始終点からの高さの変位量を入力設定します。

4-6) 建具

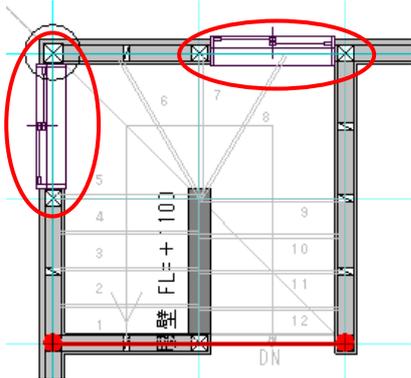
対象要素	屋根	パラペット	屋根関連	壁	部分壁	建具	柱
<input checked="" type="checkbox"/> 室内階段の上段部分に外部建具を作成する(K)							
<input checked="" type="checkbox"/> 吹き抜け部分に外部建具を作成する(F)							
<input checked="" type="checkbox"/> 部屋領域内にある入力済みの建具を削除する(D)							

※造作出窓上の建具は、建具自動作成の対象外となるため、新規作成/削除は行いません。

入力された部屋・バルコニー・ポーチなどの要素の配置から適切な位置・長さの建具を生成します。
生成される建具の種類は、建物共通情報の「その他」タブで「A I 建具拡張方式を使用する」のチェック状態により、AI 建具(自動判断)、又は AI 建具拡張方式で決定します。

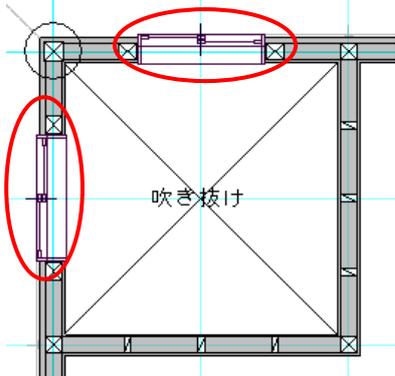
①室内階段の上段部分に建具作成

室内階段の上段部分に外部建具を作成します。



②吹き抜け部分に建具作成

吹き抜け部分に外部建具を作成します。



③入力済みの建具削除

部屋領域内にある入力済みの建具を削除し、作成します。

4-7) 柱

対象要素		屋根	パラペット	屋根関連	壁	部分壁	建具	柱
生成対象(S):	全室							
生成情報								
	寸法	生成ピッチ						
管柱(D):	105	1820	(外周のみ)					
半柱(H):	45							
<input checked="" type="checkbox"/> 通し柱(T):	120							
<input checked="" type="checkbox"/> 隅柱(S):	120							
<input checked="" type="checkbox"/> 床柱(T):	105							
<input checked="" type="checkbox"/> 間柱(M):	45	455						
<input type="checkbox"/> 幅指定	105							
<input checked="" type="checkbox"/> 下欄の幅に満たない建具の両端には管柱を生成しない(K):								
建具幅(W):	890							
建具の端に次の柱を生成する:								半柱

独立柱以外は一旦削除してから生成が行われます。

生成対象は和室のみと全室対象から選択できます。「パース」では和室に関連する柱のみ仮の真壁表現が行われます。

①生成対象

「和室のみ／全室対象」から選択します。

全室対象の場合、部屋、収納、床の間、吹き抜けの領域頂点とこれに関連する建具の端部に柱が生成されます。

②生成指示

通し柱、隅柱、床柱、間柱の生成（する／しない）を指示します。

通し柱：2階の90度出隅と1階の壁の関係から生成

隅柱：各階の外周領域コーナー点と通し柱の関係から生成

床柱：和室と床の間の位置関係から生成

(補足) 通し柱と隅柱の生成指示がない場合は、管柱が生成されます。

③寸法

管柱、半柱、通し柱、隅柱、床柱、間柱の材寸を数値設定します。

④生成ピッチ

管柱、間柱の自動生成時の生成ピッチを設定します。

なお管柱については、「内部：2 P（固定）／外周：指示されたピッチ」で生成します。

⑤最小建具幅の設定指示

最小建具幅の設定を行わない場合には、生成対象の部屋に関連する全ての建具の両端に管柱が生成されます。

⑥建具幅

上記で最小建具幅の設定を行った場合に、芯々の建具幅の設定を行うことができます。

これより短い建具の両端には、半柱の生成が行われます。

⑦建具端に生成する柱

半柱と間柱が選択できます。

4-8) ボーダー

化粧ボーダーを外壁に廻すことができます。

ボーダーは入力要素としては存在せず、このボーダー自動生成で作成します。

何本でも廻すことができますが、外壁目地を分離できるのは、その中の1本です。ボーダーを家の前部分だけに限定するなど部分的に廻したい場合は、「ボーダー禁止領域」との組み合わせを利用してください。

なお一度生成したボーダーは「パース」などで廻し方などの変更を行うことができます。外壁目地を分離した場合は、関連する下屋部分の目地も合わせて変更されますが、必ずしも意図通りの貼り方になるとは限りません。そういった場合は「部分壁」を活用してください。

「ボーダー」設定画面のスクリーンショット。タブメニューには「屋根」「パラペット」「屋根関連」「壁」「部分壁」「建具」「柱」「ボーダー」があり、「ボーダー」が選択されている。設定項目は以下の通り。

- 基準層(K): 2F
- 基準層のボーダーを削除する(E)
- 当該層バルコニーを回す(A)
- 直上層バルコニーを回す(P)
- 外壁目地を分離する(G)
- 上端取付高さ(U): 850
- 見付け高さ(H): 150
- デザイン(D): ボーダー-01

① 基準層

どの階の外周領域を基準として廻すかを選択します。

② 既存のボーダーを削除

このフラグを設定すると、既存のボーダーはすべて削除されます。

逆に設定しないと追加の意味になります。「ツール」の「ボーダー追加」を選んだ場合でも、このフラグの設定を行ってください。

③ バルコニーを回すかどうか

当該層（基準層）と直上層（基準層の上階）のバルコニー領域を基準層の外周領域と合成した領域に対してボーダーを廻す指示を行えます。

通常はどちらかを設定します。なおフェンスタイプの場合は、回す指示があっても無視されます。

④ 外壁目地を分離

このフラグを設定すると、外壁目地がボーダーの上部と下部で分離されます。

「パース」などでは、上部が「外壁」、下部が「特殊外壁」としてマウスチップ表示されます。このフラグを設定した場合、既存のボーダーでこの外壁目地分離を指定していた場合にはフラグが解除されます。

⑤ 上端取付高さ

ボーダー上端の取付高さを基準層の F L からの高さで設定します。

⑥ 見付け高さ

ボーダー自身の高さ（幅）を設定します。

⑦ デザイン

なしと上下 2 本線から選択します。

4 - 9) 出隅コーナー

外壁の出隅コーナーに役物を付けることができます。手入力で入力することも可能です。

建具 柱 ボーダー 小端立て 出隅コーナー 寸法線 窓庇

対象(C): 外壁+バルコニー

形状(T): L型交互 高さ(H): 自動

形状

厚み(A): 25

幅1(W): 290

高1(H): 220

幅2(W): 150

高2(H): 220

高さ指定時(from FL)

下端(L): 0

上端(U): 0

片面も有効にする(O)

4-10) 寸法線

建具 柱 ボーダー 小端立て 出隅コーナー 寸法線 窓庇

建物寸法線

寸法線表示(S): 合計+詳細

生成ピッチ(Q): 2

寸法線4方向表示(F)

敷地寸法線

基準層

1F 2F 3F

外階段を含む(O)

バルコニーを含む(B)

① 建物寸法線

建物寸法線の出力詳細設定を行います。建物寸法線は間取りの左側と上側に生成されます。

ア) 寸法線表示

「合計+詳細」、「合計のみ」、「詳細」のみのいずれかを選択します。

「合計」は、外周領域の最大矩形長さの寸法線が作成されます。

「詳細」は、それに対して基本領域（部屋、収納など）頂点の投影点を埋め込み細分化した寸法線が作成されます。

イ) 寸法線 4 方向表示

建物共通情報の詳細タブにある面積補正用外壁ふかし量を設定した場合は、このフラグもオンにしておいてください。



4 方向表示の寸法線を自動生成した例

ウ) 生成ピッチ

建物と寸法線とのピッチを指定します。

②敷地寸法線

敷地寸法線の出力詳細設定を行います。

「敷地」層に、建物の出隅から敷地境界線までの水平・垂直の寸法線を自動生成します。

※ 敷地寸法線の数値の表示位置は、現行バージョンと同様です。

(縦線に対して左方向、横線に対して上方向に表示します)

ア) 基準層

[1F] 1 F の建物外周を敷地層に表示し、1 F 建物の出隅から敷地寸法線を表示します。

※標準の状態ではチェックしてあります。

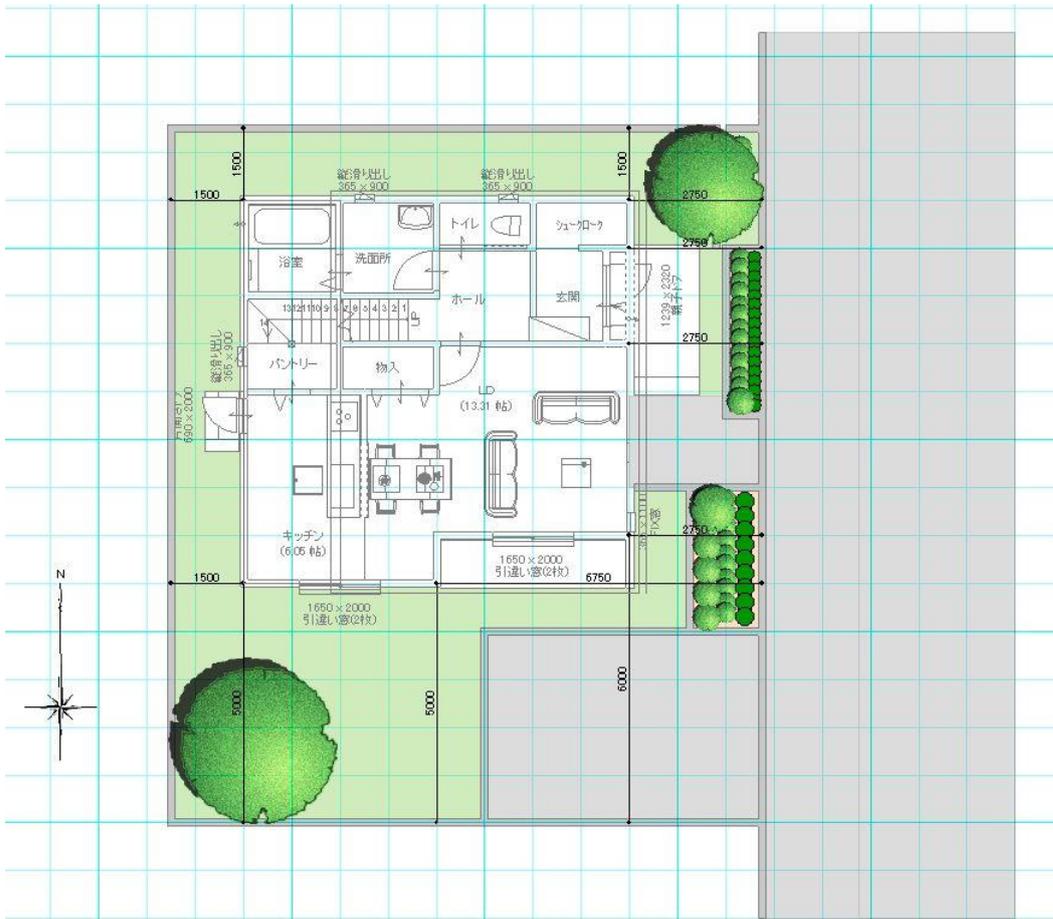
[2F] 2 F の建物外周を敷地層に表示し、建物の出隅から敷地寸法線を表示します。

[3F] 3 F の建物外周を敷地層に表示し、建物の出隅から敷地寸法線を表示します。

※建物情報にない階層は選択不可です。

[外階段を含む]、[バルコニーを含む]

それぞれ、外階段、バルコニーを考慮して、敷地寸法線を表示します。



4-11) 窓庇

外壁上の建具で窓庇自動生成属性が「あり」と「自動判定」のものに対して、窓庇の生成が行われます。

自動判定を選択した場合は、外部建具の場合、屋根形状や軒の出、バルコニーや外天井を見て生成するかどうかの判断を行います。

したがって室内建具の場合に自動判定を設定していても、そこには窓庇は生成されません。

建具	柱	ポーチ	小端立て	出隅コーナー	寸法線	窓庇
建具から庇までの高さ(H):	100					
庇の出(D):	250					
庇厚さ(T):	70					
庇勾配(K):	3					
屋根と庇のクリアランス(C):	2000					

① 建具から庇までの高さ

建具上端から窓庇下端までの距離を設定します。

② **庇の出**

外壁端からの出寸法を設定します。

③ **庇厚さ**

庇前面の鼻隠しの厚さを設定します。

④ **庇勾配**

庇勾配を10寸勾配で設定します。

⑤ **屋根と庇のクリアランス**

窓庇の外壁側天端高さや屋根下面との干渉クリアランスを設定します。

間隔がここで設定した距離より小さくなる場合、窓庇の生成は行われません。

(補足) 要素選択時は、すべての窓庇の属性を後から一律に変更できます。

4-12) 照明器具

部屋タイプ / 目	～8帖未満	...	8帖以上～8帖未満	...	8帖以上～	...
玄関	ダウンライト1	...	ダウンライト1	...	ダウンライト1	...
廊下	ダウンライト01	...	ダウンライト01	...	ダウンライト01	...
和室	和照明	...	和室ライト	...	和室ライト2	...
洋室	シーリング矩形3	...	シーリング矩形6	...	シーリング矩形	...
キッチン	キッチン3	...	キッチン6	...	キッチン8	...
浴室	ダウンライト02	...	ダウンライト02	...	ダウンライト02	...
洗面所	シーリング矩形3	...	シーリング矩形3	...	シーリング矩形3	...
トイレ	ダウンライト01	...	ダウンライト01	...	ダウンライト01	...
リビング	シーリングライト1	...	シーリングライト1	...	シーリング2	...
子供室	シーリング円形2	...	シーリング円形2	...	シーリング円形2	...
ピロティ・車庫	ダウンライト03	...	シーリング矩形2	...	シーリング矩形2	...
広縁	和室DL1	...	和室DL1	...	和室DL2	...
収納	ダウンライト01	...	ダウンライト02	...	ダウンライト03	...
その他	ダウンライト01	...	ダウンライト02	...	ダウンライト03	...
吹抜け	ダウンライト01	...	ペンダント	...	ペンダント	...
下層階段	ダウンライト01	...	ダウンライト01	...	ダウンライト01	...

すでに入力されている部屋の生成は行わない(C)

①照明シンボル

自動生成の時に、部屋タイプ・負担面積ごとに配置したい照明器具を設定します。

②すでに入力されている部屋の生成は行わない

自動生成の時に、照明器具がすでに入力されている部屋については、照明の自動配置を行いません。

4-13) その他

ボーダー	小端立て	出隅コーナー	寸法線	窓庇	照明器具	その他
バルコニー面格子						
最短バルコニー壁長さ(B):	1500					
発生ピッチ(H):	2000					
格子タイプ(T):	くり貫きのみ					
開口幅(W):	120					
開口高さ(E):	800					
手摺上端からの下り量(R):	150					
格子目地ピッチ(D):	100					
換気口						
換気口形状(T):	矩形					
開口幅/直径(W):	300					
開口高(H):	150					
基礎天端からの下がり量(S):	0					
最短外壁長さ(G):	1500					
最短建具長さ(A):	1500					
発生ピッチ(P):	2000					
面積要素						
<input type="checkbox"/> 施工面積を床面積同様に生成						

① バルコニー面格子

バルコニー壁上に面格子を生成できます。

ア) 最短バルコニー壁長さ

ここで設定した長さより短い壁には発生を行いません。

イ) 発生ピッチ

長い壁の場合の発生ピッチを設定します。

ウ) 格子タイプ

くり貫きのみ、横、縦、格子、クロスから選択します。

エ) 開口幅

面格子の開口幅を設定します。

オ) 手摺上端からの下がり量

手摺壁上端から面格子上端までの距離を設定します。0 も可能です。

カ) 格子目地ピッチ

面格子の目地ピッチを設定します。くり貫きの場合、設定値は無視されます。

(補足) 要素選択時は、すべてのバルコニー面格子の属性を後から一律に変更できます。

② 換気口

基本的には1階建具の中心点が優先されて作成されます。

ア) 換気口形状

換気口の形状で矩形と円形の選択が可能です。

イ) 開口幅／直径

換気口の幅長さ、または円形時の直径を数値設定します。

ウ) 開口高さ

換気口の開口の高さ寸法を数値設定します。

エ) 基礎天端からの下がり量

換気口の上端が基礎天端からいくつ離れているかを数値設定します。

オ) 最短外壁長さ

ここで設定した長さより短い外壁には発生を行いません。

カ) 最短建具長さ

ここで設定した長さより短い建具には発生を行いません。

キ) 発生ピッチ

長い壁の場合の発生ピッチを設定します。

③ 面積要素

ア) 施工面積を床面積同様に生成

施工面積を床面積同様に生成します。

4 - 1 4) 設定項目のない自動生成要素

① 屋根の端点

屋根領域の領域点上に「点」を生成できます。

自動生成で作成された屋根端点がすでにあった場合は、その屋根端点が消された後に、新規に新しい屋根形状に応じた屋根端点が生成されます。

手入力された「点」が消されることはありません。

② 畳

矩形の和室で、かつ畳のサイズと一致する場合に生成されます。

ただし畳に向きについては考慮せずに生成されるため、必要なら要素指示して反転操作ボタンを使用してください。

③ 面積要素

敷地面積と建築面積については、自動生成の対象層に1階が含まれる場合に生成されます。通常階では外周領域をプラス領域、吹き抜けをマイナス領域として生成されます。

必要なら階段廻りのマイナス面積などを要素入力で追加したり、建築面積領域を修正してください。

入力編集された領域がある場合、積算数量表の面積値として反映されます。

1 - 2. 要素削除

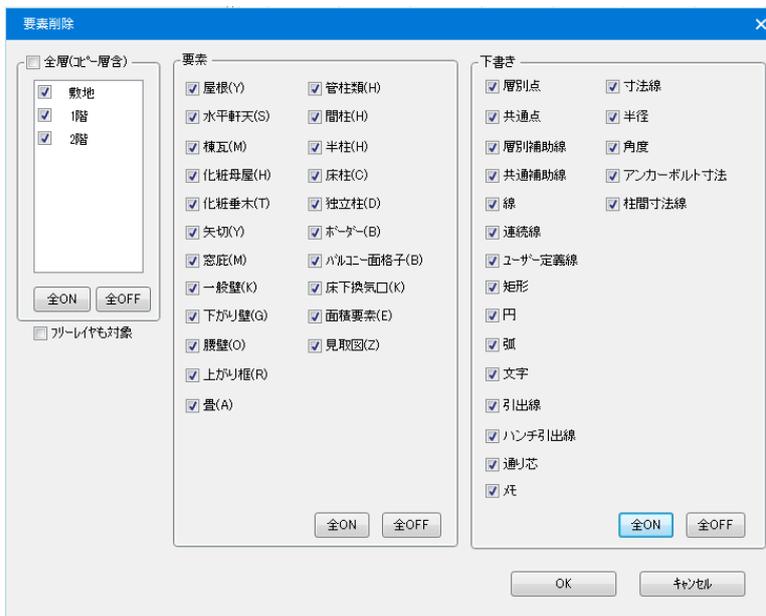
要素の削除は、要素選択状態（単一またはグループ）で削除アイコンか Delete キーを押せば削除されますが、この要素削除機能を用いると、特定の要素をまとめて削除することができます。

自動生成でも同様の一括削除機能がありますが、たとえば間違って化粧母屋や化粧垂木を自動生成してしまった場合などに用いると効果的です。

使い方は、対象層と対象要素を選択し、OK ボタンを押すだけです。

対象要素は主に自動生成によって作成される要素ですが、見取図（背景画像）については削除する手段を、この要素削除で行います。

また、下書き要素もこの機能で削除することができます。なおOK ボタンを押した後の取り消しは UNDO アイコンで行えますが、見取図の場合は一度削除すると復旧できないので注意してください。



(注) 管柱類とは、管柱、通し柱、隅柱、半柱、間柱の意味です。

(補足) 「平面入力」のときに、入力や選択モードで用いる F 4 キーは連続削除ができる便利な割り込み機構です。

なお、詳細については「要素編集」の項を参照願います。

1 - 3. 間仕切り移動

「平面入力」モードのときに、この機能を使用することができます。

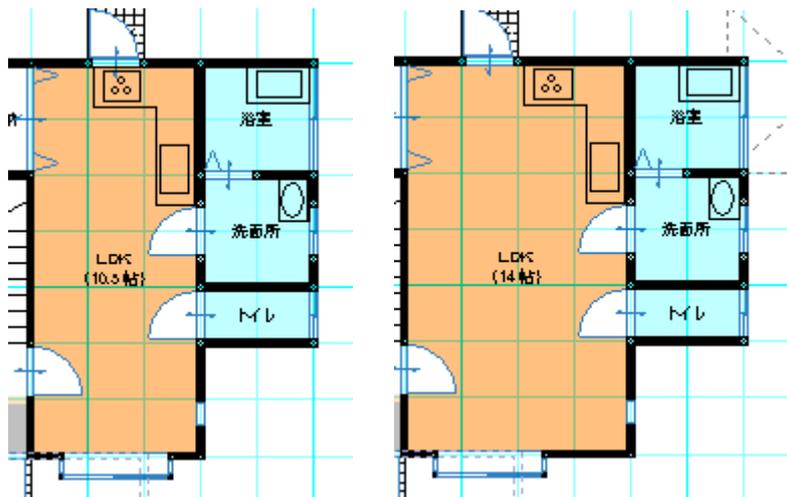
間取りを変更する場合に有効な機能です。使い方は最初の 2 点で間仕切り移動範囲を指定し、3 点目で移動の奥行きを指示します。間仕切り移動は最初の指示範囲に対して直交する形で行われます。

3 点目の指示方法は、グリッドで指定する奥行き指示と数値指定の 2 通りあります。

数値指定の場合、3 点目は方向の指示になります。

いずれの場合も移動後の端点に「点」が生成されます。





浴室側を先に延長した後、LDKを拡張した例

以下に間仕切り移動が行われる要素を示します。

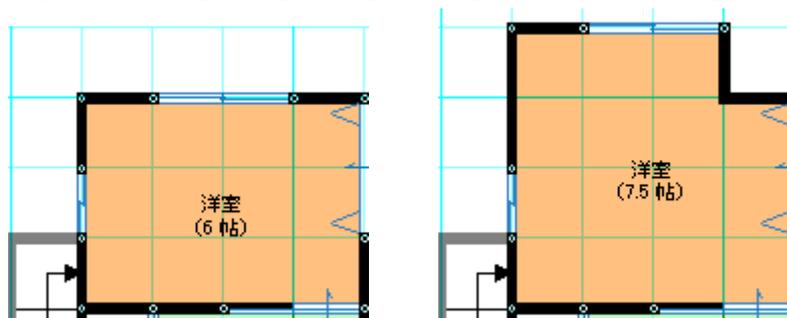
部屋	収納	床の間	吹き抜け
バルコニー	ポーチ	壁	上がり框
建具	壁付き設備	柱	

間仕切り移動は原則として部屋境界などに適用しますが、辺の途中からの間仕切り移動を行うこともできます。

間取りを全体に広げる場合などは、外側の部屋から順次間仕切り移動を行っていくことで、確実な変形操作を行うことができます。

この間仕切り移動では、階段要素や屋根要素の移動変形は行われません。

必要ならば階段を再入力するなどの処理を行った後、屋根自動生成などを行ってください。



辺の途中からの間仕切り移動の例

1 - 4. カラーコーディネート

1) 概要

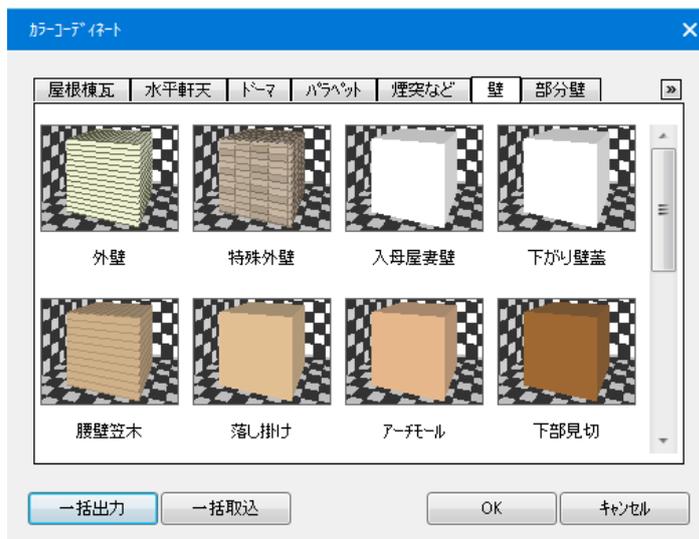
カラーコーディネートの方法は、大きく分けて3通りあります。

一つ目は素材アイコンのタブの中から必要な「絵」を選択し、そのままドラッグ&ドロップで表示されている建築部位の場所で手を離す方法です。

二つ目はカラーコーディネートアイコンのタブの中から必要な「絵」を選択する方法で、この場合は要素選択する必要はありません。

外壁とボーダーや、外壁+屋根+建具といった特定部位の組み合わせに対してカラーコーディネートが行われます。

三つ目が、本章で説明する「ツール」メニューの「カラーコーディネート」で、これは建築要素の任意の部位に対してカラーコーディネートを行うための機能メニューです。

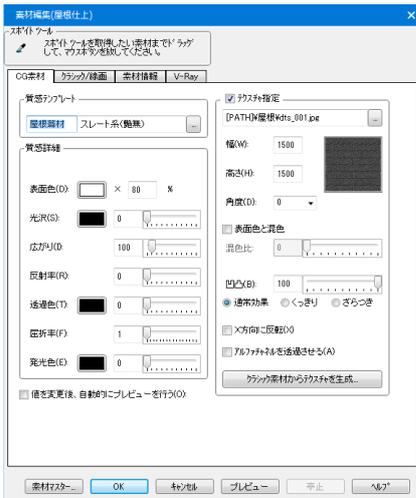


使い方は、「屋根棟瓦」や「ドーム」などのタブを選択し、その中に表示されている「部位」の絵をクリックしてから当該部位の「素材の設定」を行います。

これを次々に繰り返し、最後に「OK」ボタンを押すことで、物件のカラーコーディネートが行われます。

但しこの場合でも個別素材変更された要素の部位には適用されません。

なお「素材の設定」方法は、左欄素材アイコンと左欄カラーコーディネートアイコンにおけるマスター追加方法と類似しています。詳細は「**素材の設定**」章を参照してください。



2) 部位の一覧

素材設定できる部位の一覧を以下に示します。

1) 屋根棟瓦

屋根仕上、破風、鼻隠、和風破風下部、軒天井、棟押え、和風のし瓦側面、和風のし瓦上面、軒樋、棟瓦側面、棟瓦上面、棟瓦端部、鬼瓦切妻、鬼瓦寄棟、鬼瓦隅棟

(補足) 棟瓦の存在の有無により、洋風・和風を判定します。

洋風の場合、切妻の破風部分は上部仕上げの部分は鼻隠、下部は破風によって表現されます。

鼻隠の厚さの設定は詳細設定の屋根仕上げ厚を変えることにより変更できます。

2) 水平軒天

水平軒天底部、水平軒天側面

3) ドーム

ドーム屋根、破風、破風仕上、軒裏、ドーム壁、ドーム建具、建具ガラス

4) パラペット

内壁仕上、笠木、手摺フェンス、木口仕上

5) 煙突など

煙突外部、煙突内部、トップライト、ガラス部、矢切、化粧母屋、化粧垂木、出隅コーナー

6) 壁

外壁、特殊外壁、入母屋妻壁、下がり壁蓋、腰壁笠木、落し掛け、アーチモール

7) 部分壁

部分壁 1、部分壁 2、部分壁 3、部分壁 4、部分壁 5、部分壁ボーダー

8) ドーム壁

外部仕上げ、内部仕上げ、木口仕上げ

9) ドライエリア

ドライエリア床、ドライエリア内壁、ドライエリア外壁、ドライエリア上端

10) ソーラーパネル

ソーラーパネル、ソーラーパネル枠

11) バルコニー

バルコニー底、バルコニー床、バルコニー笠木、ハンドレール、部屋側壁、壁くり貫、
ウッドパネル、下部水切り

12) 外天井ボーダー

外天井、化粧ボーダー

13) 柱

独立柱束石、床柱、和室柱、上り框、付け梁、付け柱、室内梁

14) 建具枠壁

室内戸枠、シャッター枠、壁くり貫、引戸半壁、ニッチ壁彫込部、ニッチ下部カウンター

15) 建具本体

窓サッシ、外部ドア、室内ドア、玄関引戸、シャッター、襖正面、障子正面

16) 建具ガラス

窓ガラス、玄関ドアガラス、玄関袖ガラス、玄関欄間ガラス、玄引戸ガラス、
玄引戸欄間ガラス、室内ガラス

17) 建具シンボルガラス

玄ドアメインガラス、玄その他ガラス、玄引戸メインガラス、玄引き戸その他

18) 建具把手框

開き戸把手、引き戸把手、玄引戸鍵、襖框部、襖把手、障子框部

19) 建具付属品

雨戸、窓手摺、面格子、モール

20) 既製出窓

既製出窓、出窓カウンター、出窓天井、既製出窓ガラス

21) 造作出窓

出窓底部、出窓内部壁、出窓カウンター、出窓天井、出窓室内枠、出窓破風、出窓庇

22) 窓庇 FBox

窓庇仕上、窓庇破風、窓庇軒裏、フラワーボックス、フラワーボックス手摺

23) 部屋

部屋床、部屋壁、部屋天井、幅木、廻縁、和室造作

24) 部分床

段差框、蹴込み、床面

25) 部分天井

部分天井、天井立上部

26) 階段収納

室内階段、収納床、収納壁、収納天井、手摺、ジョイント

27) 床の間畳

床の間床框、床の間地板、畳仕上、畳縁

28) 設備

洗面台、浴槽、浴槽水面、便器、防水パン、下駄箱、任意形状、任意形状前面、
床下収納、床下点検口、天井点検口、掘ごたつ框、掘ごたつ側面壁、掘ごたつ床部、
掘ごたつテーブル、バスルーム鏡

29) 敷地基礎

敷地、布基礎、床下換気口、影用地盤面、家の裏側、土台水切

30) 伏図床

一般柱、通し柱、基礎、基礎 pack、土台、土台継手、大引、根太、火打、梁・桁、
梁桁継手

31) 伏図小屋

棟木、母屋、登り梁、垂木、小屋束、筋違

32) 構造計算

1階区画、区画ブロック、下部梁なし、下部柱なし、計算用柱、柱1階、筋違、筋違1階
片筋バランス

33) 門扉塀表札

門扉、門柱、塀、フェンス、表札、表札文字、厚み領域、厚み線分

34) ポーチ濡れ縁

ポーチ、土間コン、濡れ縁本体、束・受け木、濡れ縁束石

35) ウッドデッキ

ウッドデッキ床、ウッドデッキ床側面、ウッドパネル、ウッドデッキ束、
ウッドデッキ束石

36) 花壇アプローチ

花壇、土、生け垣、アプローチ

37) 外階段

踏み面、外壁側、階段側、笠木、布基礎、手摺子

38) 隣家傾斜面

隣家、道路、敷地法面、その他1、その他2、その他3、その他4、その他5

39) ステップ階段

踏み面、側面壁

40) ガレージ

駐車床スラブ、駐車側面壁、掘込床スラブ、掘込側面壁、掘込天井、
掘込シャッター

41) キッチン I B R (I型ベースシンク右)

KIB1500R、KIB1650R、KIB1800R、KIB1950R、KIB2100R、KIB2250R、
KIB2400R、KIB2550R、KIB2700R、KIB2850R

42) キッチン I U R (I型アッパーシンク右)

KIU0600R、KIU0750R、KIU0900R、KIU1050R、KIU1200R、KIU1350R、
KIU1500R、KIU1650R、KIU1800R、KIU1950R、KIU2100R、KIU2250R

4 3) キッチン I B L (I 型ベースシンク左)

KIBL(0)、KIBL(1)、KIBL(2)、KIBL(3)、KIBL(4)、KIBL(5)、KIBL(6)、
KIBL(7)、KIBL(8)、KIBL(9)

4 4) キッチン I U L (I 型アッパーシンク左)

KIUL(0)、KIUL(1)、KIUL(2)、KIUL(3)、KIUL(4)、KIUL(5)、KIUL(6)、
KIUL(7)、KIUL(8)、KIUL(9)、KIUL(10)、KIUL(11)

4 5) キッチン L B R (L 型ベースシンク右側)

KLBR(0)、KLBR(1)、KLBR(2)、KLBR(3)、KLBR(4)、KLBR(5)、KLBR(6)、
KLBR(7)、KLBR(8)、KLBR(9)

4 6) キッチン L U R (L 型アッパーシンク右側)

KLUR(0)、KLUR(1)、KLUR(2)、KLUR(3)、KLUR(4)、KLUR(5)、KLUR(6)、
KLUR(7)、KLUR(8)、KLUR(9)、KLUR(10)、KLUR(11)

4 7) キッチン L B L (L 型ベースシンク左側)

KLBL(0)、KLBL(1)、KLBL(2)、KLBL(3)、KLBL(4)、KLBL(5)、KLBL(6)、
KLBL(7)、KLBL(8)、KLBL(9)

4 8) キッチン L U L (L 型アッパーシンク左側)

KLUL(0)、KLUL(1)、KLUL(2)、KLUL(3)、KLUL(4)、KLUL(5)、KLUL(6)、
KLUL(7)、KLUL(8)、KLUL(9)、KLUL(10)、KLUL(11)

4 9) キッチン G B R (L 型ガスベース部シンク右)

KGBR(0)、KGBR(1)、KGBR(2)、KGBR(3)、KGBR(4)、KGBR(5)、KGBR(6)、
KGBR(7)、KGBR(8)、KGBR(9)

5 0) キッチン G U R (L 型ガスアッパー部シンク右)

KGUR(0)、KGUR(1)、KGUR(2)、KGUR(3)、KGUR(4)、KGUR(5)、KGUR(6)、
KGUR(7)、KGUR(8)、KGUR(9)

5 1) キッチン G B L (L 型ガスベース部シンク左)

KGBL(0)、KGBL(1)、KGBL(2)、KGBL(3)、KGBL(4)、KGBL(5)、KGBL(6)、
KGBL(7)、KGBL(8)、KGBL(9)

5 2) キッチン G U L (L 型ガスアッパー部シンク左)

KGUL(0)、KGUL(1)、KGUL(2)、KGUL(3)、KGUL(4)、KGUL(5)、KGUL(6)、
KGUL(7)、KGUL(8)、KGUL(9)

5 3) カウンター I 型 R (シンク右)

KIW1500R、KIW1650R、KIW1800R、KIW1950R、KIW2100R、KIW2250R、
KIW2400R、KIW2550R、KIW2700R、KIW2850R

5 4) カウンター I 型 L (シンク左)

KIW1500L、KIW1650L、KIW1800L、KIW1950L、KIW2100L、KIW2250L、

KIW2400L、KIW2550L、KIW2700L、KIW2850L

5 5) カウンター L シンク側 R (L 型シンク右)

省略

5 6) カウンター L シンク側 L (L 型シンク左)

省略

5 7) カウンター L ガス側 R (L 型シンク右)

省略

5 8) カウンター L ガス側 L (L 型シンク左)

省略

5 9) キッチンその他

キッチンベース上面、キッチンベースその他、キッチン吊その他、
キッチンレンジフード、キッチン台輪

6 0) カウンター

カウンター、カウンター支柱

6 1) 収納内部部品

枕棚、パイプハンガー、中段

6 2) 手摺

手摺、ジョイント

1 - 5. 建物シンボル作成

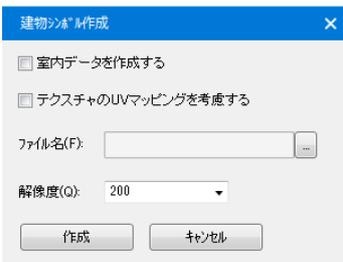
本システムで作成した物件を、この機能を用いて建物シンボルとして登録することができます。周囲の物件を、建物シンボルとして複数作成し、それらを並べて街並みパースを作成するなどの応用ができます。



建物シンボル登録の方法は、敷地層で「建物基準」要素を入力します。

通常は建物部分の左下などに入力しますが、敷地を含めた外構設計がされている場合は、

後で配置しやすいように敷地上に入力してもかまいません。



次に「ツール」メニューから、この建物シンボル作成を選びます。

「建物基準」要素が入力されている場合は、作成指示画面が出てきます。

室内データを作成するかどうかと作成する建物シンボル名称と解像度を設定して、OK ボタンを押すと作成が完了します。

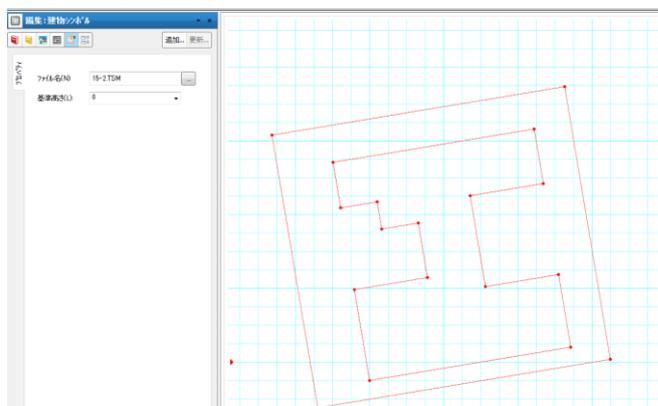
「解像度」は、平面表示の時に表示する画像の解像度を指定します。

(注) 室内データを作成するとポリゴン数が膨大になり、建物シンボルデータの読み込みや画面表示等に時間がかかりますので、ご注意願います。

なお建物シンボル作成時には、「点景」要素を除いた要素すべて（敷地関係も含めて）が、3Dポリゴン形式で表現されて登録されます。

登録した建物シンボルの配置は、「敷地層」の「その他」アイコンから「建物シンボル」を選択して2点入力で行います。

入力時には、登録した時点の1階外周領域と敷地境界が表示されます。

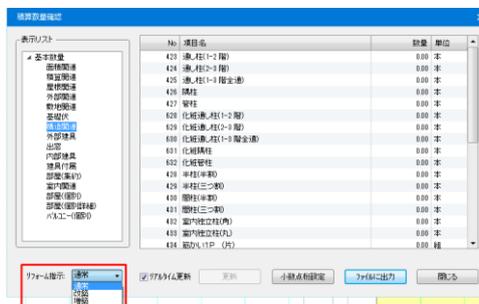


1 - 6. 積算数量確認

積算数量確認は入力した建物モデルの積算数量を確認できるほか、

この数量表を表計算ソフトで利用できるように、CSV形式で出力することもできます。

既存・改築・増築別ごとの積算数量を自動算出、CSV出力できることでより正確なリフォーム積算が行えます。



積算数量確認の方法は、「ツール」からメニュー選択を行うだけで完了します。

基本数量が+状態では、全項目の積算数量が表示されます。

この基本数量で示される番号を用いて、ユーザー側で見積計算システムを構築できます。

基本数量を「基本数量」（上図）にして、面積関連や屋根関連などのツリーを選択すると、それに関連する項目が狭められて表示されます。

なお上記のダイアログを表示した状態で建物モデルを変更すると、即座に数量表が変更されます。また建具・設備系については、積算数量とは別ファイルでの CSV 出力が可能です。

このほか本システムの物件一覧を CSV 形式で取得できるように機能が拡張されています。

数量は、小数点無し～小数点第 6 位までの表示が可能になっています。

小数点の桁数を変更するには「小数点桁設定」ボタンを押します。

小数点の桁数を変更したい項目群を「対象項目」から選択（「全体」または「その他面積」）、変更後の桁数を「有効桁数」から選択、または入力（0～6）して下さい。

それぞれの設定が終わったら OK ボタンを押すことで、積算数量の表示が変わります。

The image shows two overlapping windows from a software application. The top window is titled '設定' (Settings) and contains options for 'その他面積: <CSV出力>' (Other Area: <CSV Output>), '端数処理' (Rounding) set to '切り捨て' (Truncate), and '小数有効桁数' (Decimal Significant Figures) set to '2'. The bottom window is titled '積算数量確認' (Calculation Results Confirmation) and displays a table of calculation items.

No.	項目名	数量	単位
1	敷地面積	0.00000000	m ²
2	建設面積	28.93500000	m ²
3	延床面積	115.93400000	m ²
4	1F 床面積	28.93500000	m ²
5	2F 床面積	24.84300000	m ²
6	3F 床面積	24.84300000	m ²
7	4F 床面積	20.70250000	m ²
8	5F 床面積	16.56200000	m ²
550	最下層地下階床面積	0.00000000	m ²
551	ロフト床面積	0.00000000	m ²
417	建ぺい率	0.00	%
418	容積率	0.00	%
723	施工面積	0.00000000	m ²
558	その他面積 1	0.00	m ²
559	その他面積 2	0.00	m ²
560	その他面積 3	0.00	m ²
561	その他面積 4	0.00	m ²

（補足） 一部の整数で出力されている項目には影響がありません。

数量は、指定桁数より小さい桁を切り捨てて表示されます。

基本積算数量を CSV 形式で出力するには「ファイルに出力」ボタンを押します。

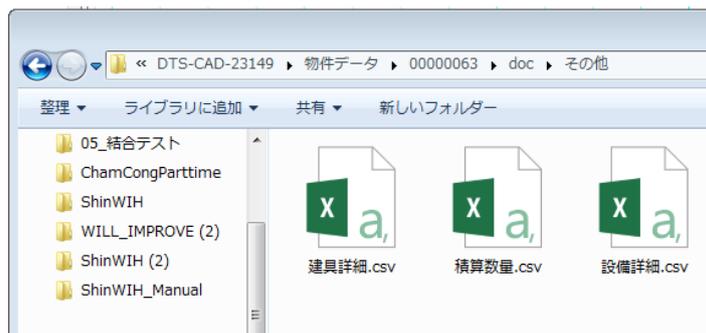
ここでファイル名を必要なら修正し、OK ボタンを押すことで、当該物件ディレクトリーに指定したファイル名.CSV が作成されます。

その他積算数量ファイルを同時に作成するオプションがオンの場合、建具シンボルや製品情報、部屋情報を加味した 2 つのファイル(建具詳細.csv、設備詳細.csv)がプラスして作成されます。

The image shows a dialog box titled '積算数量ファイルの保存' (Save Calculation Results File). It contains a text field for 'ファイル名(N):' (File Name) with the value '積算数量' (Calculation Results). Below the field is a checked checkbox labeled 'その他数量ファイルを同時に作成する(M)' (Also create other quantity files at the same time (M)). At the bottom are 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

F9 キーを押してその他フォルダーを開くと、CSV ファイルが確認できます。

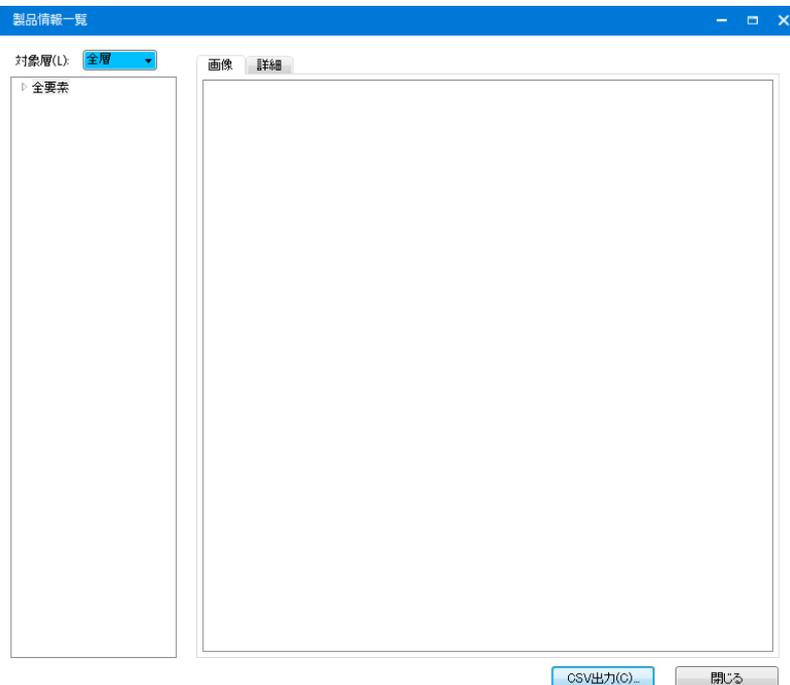
(補足) 建物共通情報の詳細設定で室内データを作成しないと設定した場合でも、積算数量に関しては、室内データを考慮して計算が行われます。外壁面積や屋根面積など数値項目は、実際の 3D モデルに基づいた実数値として算出されます。



積算数量関連については、本システムインストール先の「doc」のフォルダーにある「積算説明.txt」を参照願います。

1 - 7. 製品情報一覧

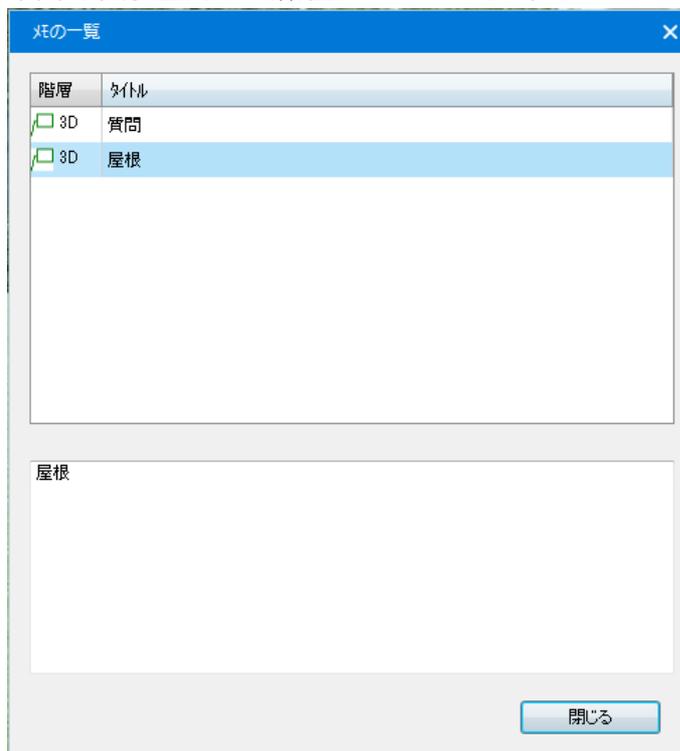
製品情報とのリンク付けを行った一覧表を確認できるほか、製品情報の CSV 出力も行えます。



1-8. メモ一覧



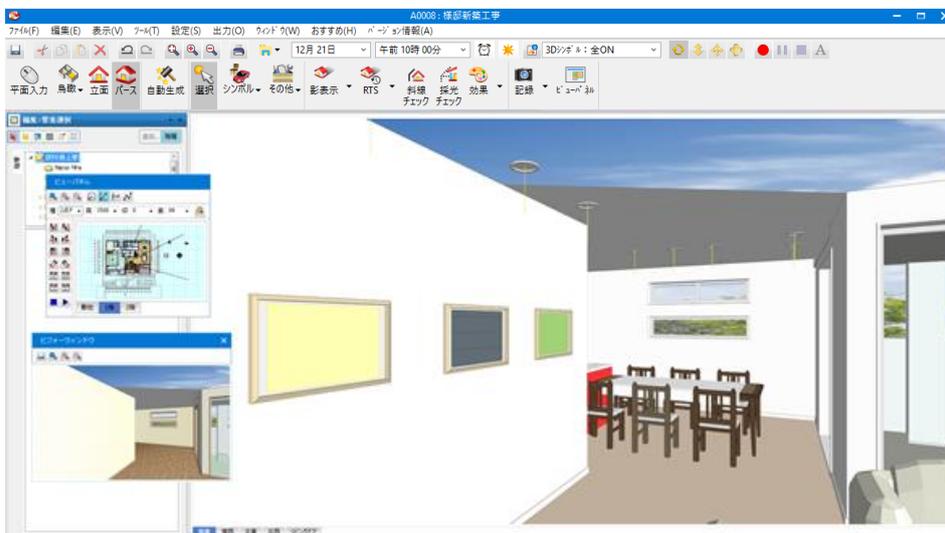
平面、外観、室内などで配置したメモの一覧を確認できます。



1-9. ビフォーウィンドウ

ビフォーウィンドウは、改築前のプランデータをビフォープランとして保存することで、その後のプラン変更に関係なく、改築前のプランを表示することが可能です。しかも、改築後のプランを表示しているメインビューと

は、平面やパースなどの表示モードに加え、視点・日影・日時・背景・前景・バックライトが同じ条件で表示されますので、改築前と改築後の空間や日当たり確認などのシミュレーションを、同時かつリアルタイムに行うことが可能です。また、ビフォープランを保存している場合、プレゼンボード用画像データ作成もサポートしていますので、プレゼンボード制作も容易に行えます。



1) 起動方法と保存

ツールメニューのビフォーウィンドウを選択します。ウィンドウが表示されたら、保存ボタンをクリックしてください。現状のプランが、ビフォープランとして保存され表示されます。

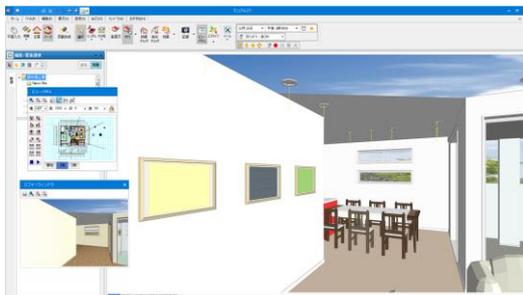
※物件管理画面にて物件を選択します。ビフォー/アフター切り替えボタンで、選択した物件のビフォープランに切り替わり編集が可能です。



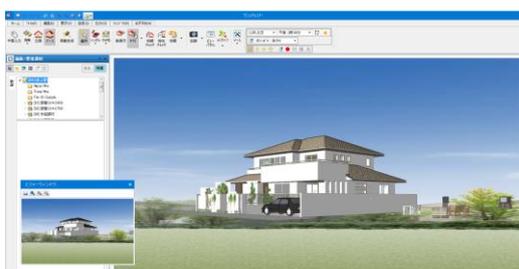
2) ビフォープランの編集

物件管理画面からビフォープランを選択することで編集が可能です。
ビフォープラン編集中はタイトルに「(ビフォー編集集中)」と表示されます。

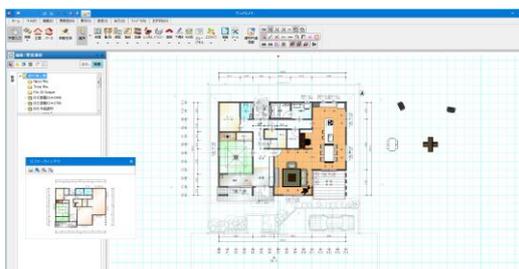
3) ビフォーウィンドウ使用例



リフォーム後の空間の変化や建具の変更による日陰の比較が可能



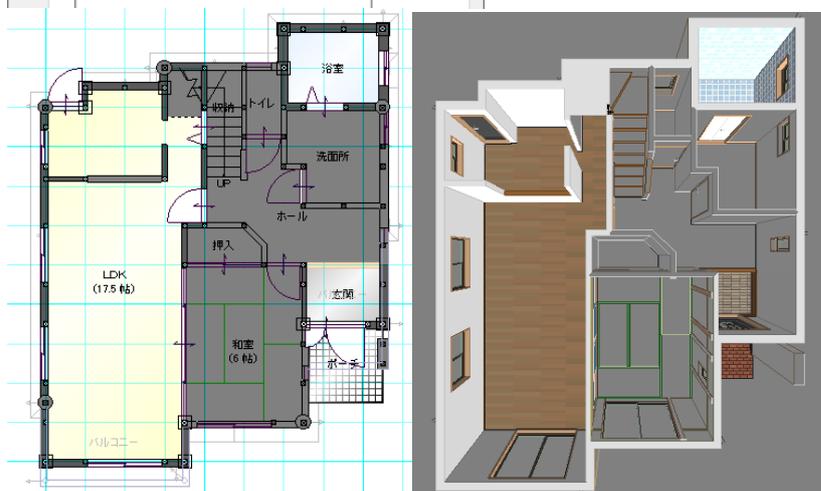
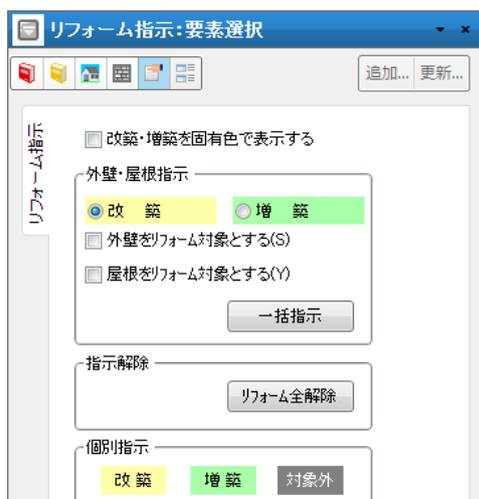
同じ環境（影・背景・時間）でのシミュレーションが可能



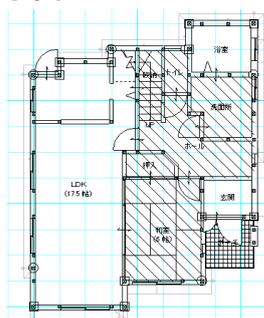
平面や立面にも対応。その他、さまざまなシチュエーションでの比較が可能。

1-10. リフォーム指示

リフォーム範囲を明示することができます。間取り平面やパースでリフォーム(改築・増築)する領域要素を指示するだけの簡単なオペレーションです。既存・改築・増築で色分け表示（既存は灰色（線画ではハッチング表示））されます。



リフォーム指示はダイアログで示された領域要素を黒マウスで1点指示を繰り返し行います。外壁や屋根をリフォーム指示する場合はチェックボックスでオンにします。全解除ボタンを押すと通常の新築モードに戻ります。



線画表示



外観オフ



外観オン+バルコニー指示

1-11. プラン検索

利用頻度が高いプランを予め登録しておくことで指定の条件に合った物件を簡単に呼び出すことができます。



検索条件設定ボタンをクリックするとプラン検索の詳細な条件設定が行えます。

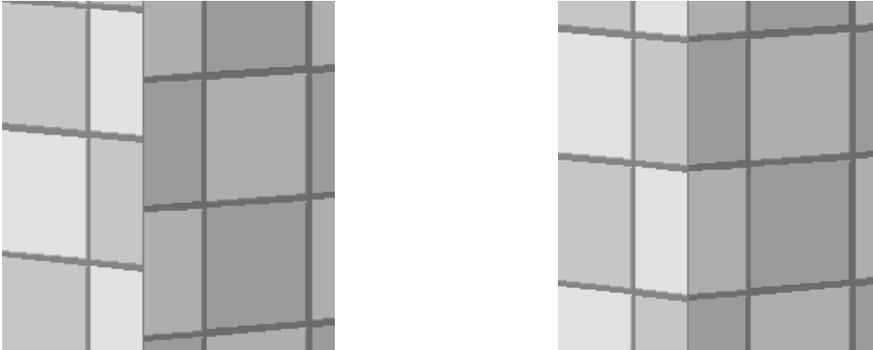
検索結果からプランを選択し、プラン確定ボタンをクリックするとプランが呼び出されます。



条件にしたい項目にチェックを付け、条件を設定後、OKボタンをクリックすることで検索が実行されます。

1-12. 目地合わせ

同一面上で、「目地原点」と「表示基準点」の 2 点入力により、以下のような目地のずれを合わせることができます。



1) クラシックモードの場合

クラシックモードの場合は、以下のように、マウスチップが表示されます。



目地原点の選択 ⇒ 表示基準点の選択 ⇒ 目地合わせ実行後

2) CG モードの場合

CG モードの場合は、表示基準点選択時、マウス移動により、ダイナミックに描画更新されます。ただし、マウスチップは表示されません。

3) 目地合わせの対象要素

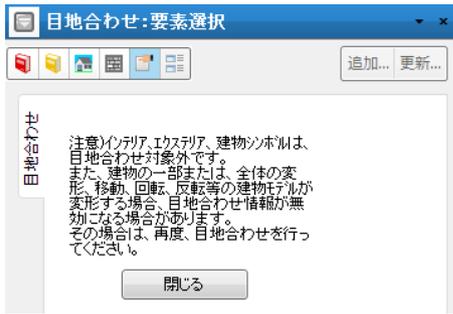
インテリア、エクステリア、建物シンボル以外の要素が対象となります。

ただし、目地合わせ実行後、建物一部または、全体の変形、移動、回転、反転等の建物モデルが変形する場合、目地合わせ情報が無効になる場合があります。

その場合は、再度、目地合わせを行ってください。

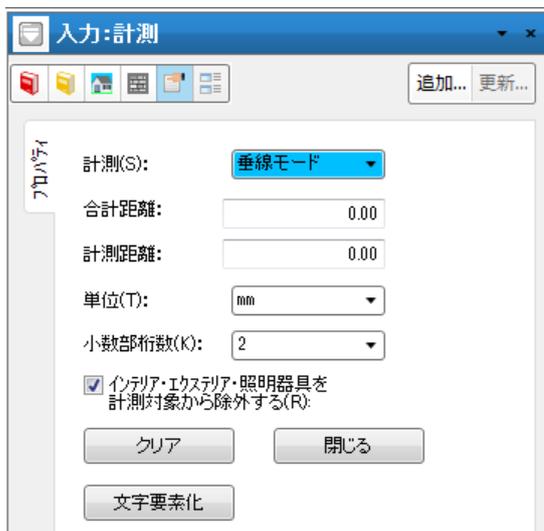
4) 目地合わせの終了

目地合わせを終了する場合は、以下のマスターバーにある「閉じる」ボタンを押下してください。



1-13. 計測

平面及び立面の線画モードの場合に、通常マウスで指定できない場所を計測できます。



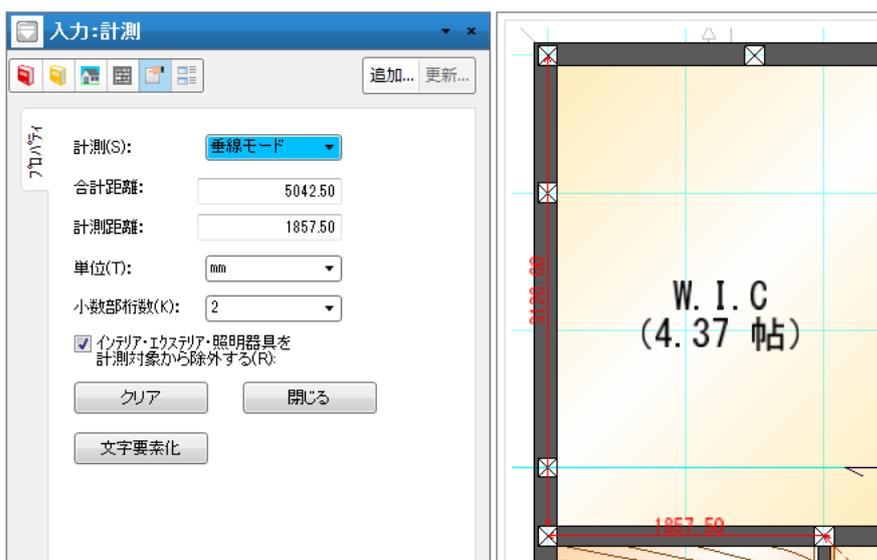
2点入力の繰り返しで計測距離・合計距離を測定します。

計測距離・合計距離の値については、クリアボタンを押すか、入力している画面と異なる画面へ移動した場合（例：平面→立面 や 立面 東側→南側）クリアされます。

【任意モード】主に線分の端点やグリッドを指定し計測を行うモードです。端点・交点・中点のスナップについては、平面の場合は

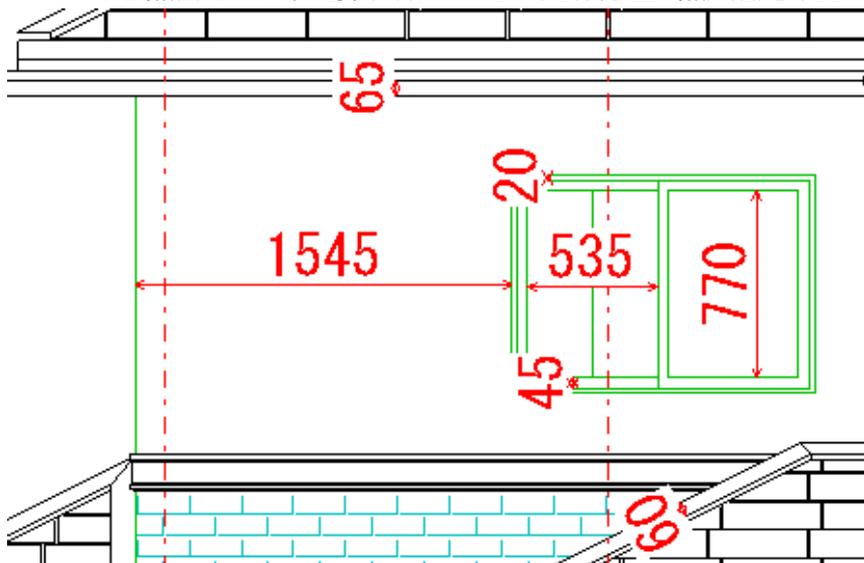


スナップバーに依存します。立面の場合は、端点・交点・点モード固定になります。



【垂線モード】主に平行線分を計測するモードです。たとえば、壁厚・窓枠等の平行した線分の距離を測る場合に使用します。

※入力の 1 点目に Ctrl キーを押しながら入力すると線分上の点が指定できます。



終了する場合は、別のコマンドを実行すると終了になります。

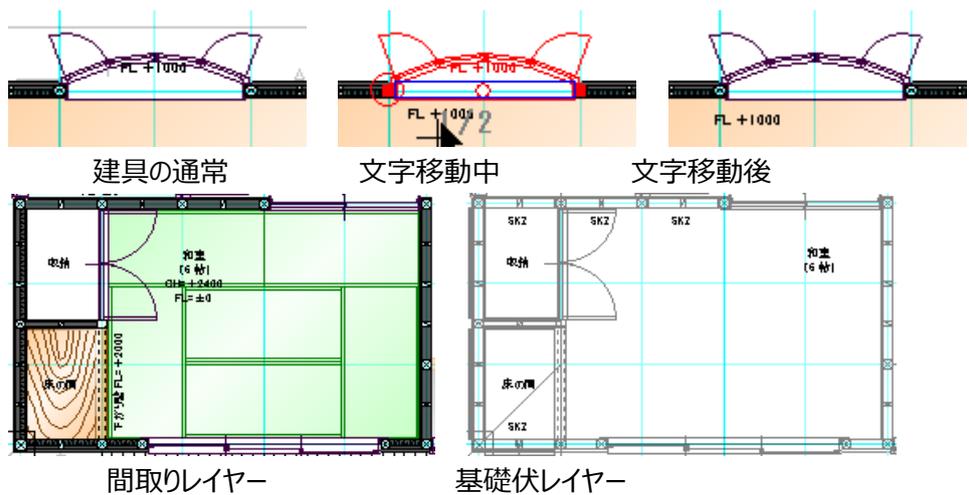
1-14. 文字移動

平面入力の場合に、各種要素に付随する文字を移動できます。(屋根、階段を除きます)

移動したい文字を左クリックすると文字を掴み、移動先を左クリックすると配置します。

また、移動したい文字をダブルクリックすると文字が90度回転した状態で移動状態になります。

尚、部屋や収納、廊下、ポーチなどの領域要素は各レイヤー（間取りや基礎など）別に文字を移動できます。



文字移動での回転は、上または左を向いている文字が対象となります。

回転は、上または左向きになるよう交互に回転します。

移動時は、クリックした点を掴み、回転は左ダブルクリックした点を中心に回転します。

尚、右ダブルクリックすると移動及び回転状態を解除し、元の状態に戻ります。

ただし、下書き文字については移動も回転も解除されません。

2. 設定メニュー

「設定」メニューは、以下のメニューで構成されています。



平面入力



パースなど

2-1. 建物共通情報

物件に関する情報を修正することができます。

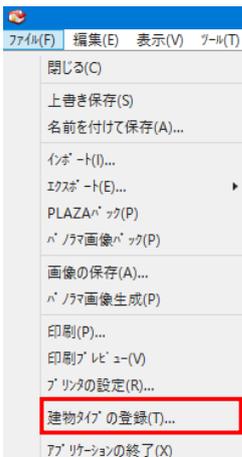
この建物共通情報は、物件の新規作成時に現れるほか、物件管理の「物件情報」と同じ働きをします。物件情報、矩計、敷地概要、詳細設定、その他の5つのタブから構成されます。設定終了後にOKボタンを押すと、建物共通情報の更新が行われます。

(ヒント)

設定変更した情報（物件情報を除いた部分）を名前を付けて登録するには、

ファイルメニューの「建物タイプの登録」機能を用いてください。

そこで建物タイプとして登録すると次回以降の物件新規作成時に建物タイプとして名前で参照することができるようになります。この建物タイプ登録は、矩計情報、AI建具情報、カラーコーディネート情報、自動生成情報も含めた形で保存されます。これについてはファイルメニューの項で説明を行います。



1) 物件情報

主に物件管理一覧表画面に現れる項目を設定変更できます。

 A screenshot of a dialog box titled '建物共通情報' (Building Common Information). It contains several input fields and dropdown menus:

- 物件No: マニュアル2F
- 物件Name: (empty)
- 地上(F): 2, 地下(L): 0, ロフト(L):
- 建物価格(P): 0 万円 (例: [3000(半角)] 万円)
- 住所11: (dropdown)
- 設計者: (dropdown)
- メモ1 through メモ7: (dropdowns)
- ステータス: (dropdown)
- マスター(M): C:\DTS-CAD-23149\MASTER_BPO_23149
- テクスチャー(T): C:\DTS-CAD-23149\MASTER_BPO_23149\texture
- 施主名: (input field)

 At the bottom are buttons for OK, キャンセル (Cancel), and ヘルプ (Help).

① 物件番号

物件管理番号であり、新規作成時にはシステム情報の端末識別番号 + 4桁の連番で自動採番されますが、ユーザー側で自由な管理番号に変更することができます。

数字だけでなく、任意の文字を使用することができます。

② 物件名称

物件管理一覧表に表示されるほか、メイン画面のタイトル欄にも表示されます。

③ 地上

この設定を変更することにより、地上階数の増減を行えます。

階数を増やす場合は、上階が追加されます。

逆に減少させる場合は、上階から減少されます。

④ 地下

地下の階数を設定します。

増やす場合は下階が追加され、減らす場合は下階が減少されます。

⑤ ロフト

このチェックボックスをオンにすると、地上で設定された最上階にロフト階が作成されます。

⑥ 住所---メモ 7

任意の文字列を設定できます。

⑦ ステータス

物件のステータスを設定できます。

ステータスの選択項目は以下のファイルで設定できます。

[¥MASTER¥建物情報¥共通.ini] の[ステータス]

⑧ マスター

物件で使用するマスターのフォルダを設定できます。物件管理画面時のみ設定可能です。

⑨ テクスチャー

物件で使用するテクスチャーのフォルダを設定できます。物件管理画面時のみ設定可能です。

⑩ 施主名

物件の施主名を設定できます。

2) 矩計

矩計情報を設定変更できます。

階	層名称	基準階高	軒高(GL)	床高(FL)	天井高	建具内法高	
<input checked="" type="checkbox"/>	2F	2階	2800	6225	40	2400	2000
<input checked="" type="checkbox"/>	1F	1階	2900	3425	40	2400	2000

① 1F 基準高さ

土台天端の高さ（基礎高 + 基礎パッキン厚 + 土台材成）を設定します。

② 1F 基礎高さ

1F 基礎高を設定します。

③ モジュール

入力グリッドの大きさを設定します。

④ 基礎高さ

地下がある場合の最下層の基礎高を設定します。

⑤ 面積変換係数

坪換算率の設定をします。

⑥ チェックボックス

オンにすると基準層、オフにすると北°-層となります。

⑦ 階

固定で層を表示しています。

⑧ 層名称

層の名称を設定します。平面入力時及びプレゼンボード出力時のタブに表示されます。



上記で設定された平面入力での層名称表示です。

⑨ 基準階高

1階では土台天端から1階軒桁天端までを、それ以外は軒桁天端から次層の軒桁天端までの数値を設定します。ロフト層の場合、基準階高の設定は不要です。

⑩ 軒高

軒高は参考値で、入力できません。

⑪ 床高

基準階高からの仕上げ厚を設定します。

⑫ 天井高さ

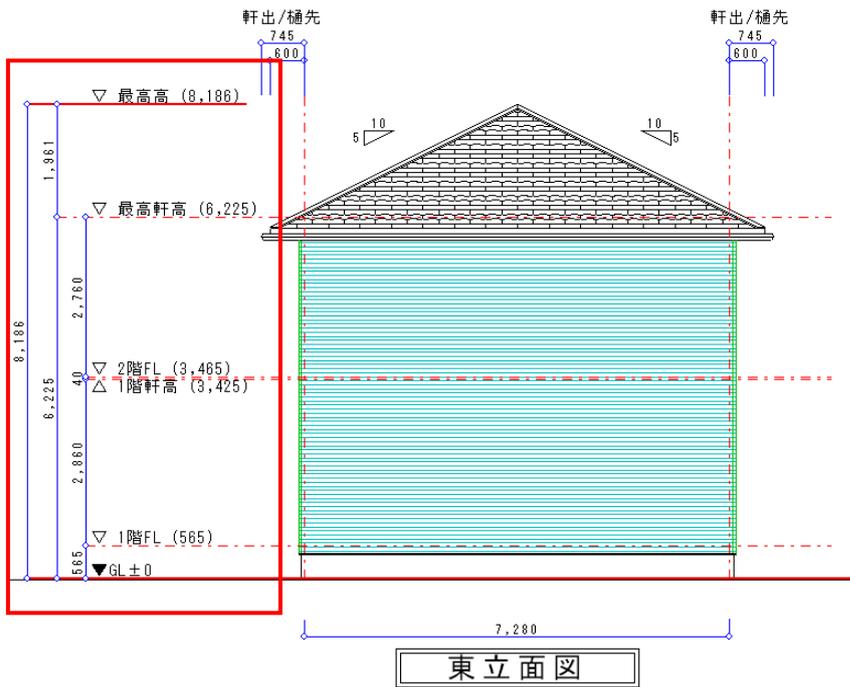
天井高さを基準 F L (基準階高 + 仕上厚)からの数値で設定します。

⑬ 建具内法高さ

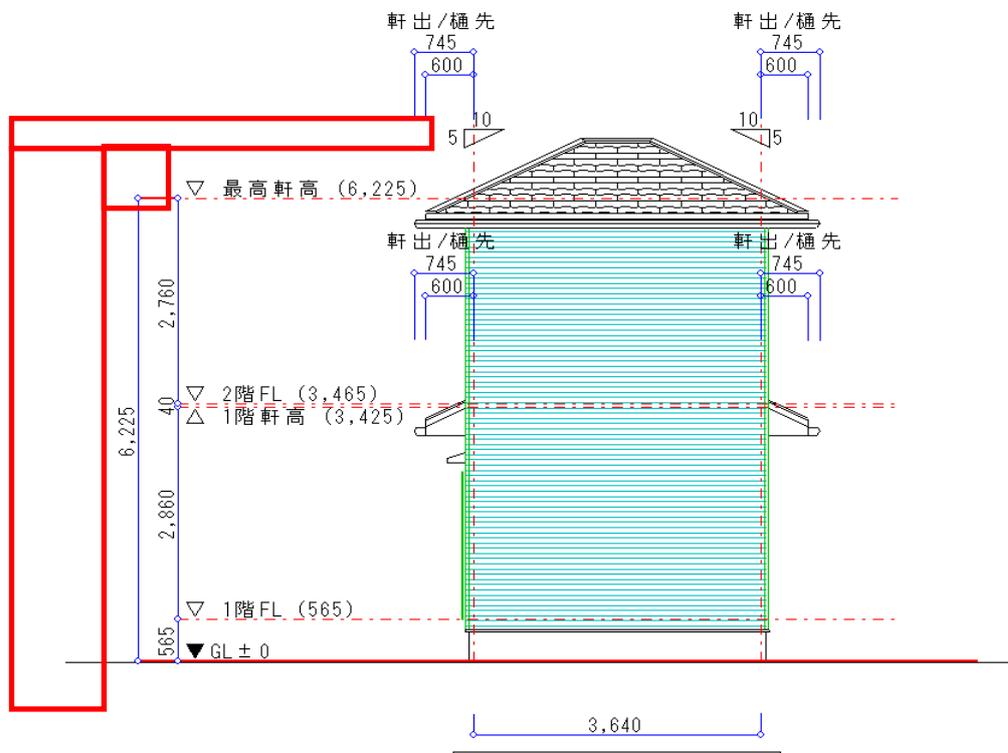
建具上端取付け高さを基準 F L (基準階高 + 仕上厚)からの数値で設定します。

⑭ レベル名称の設定

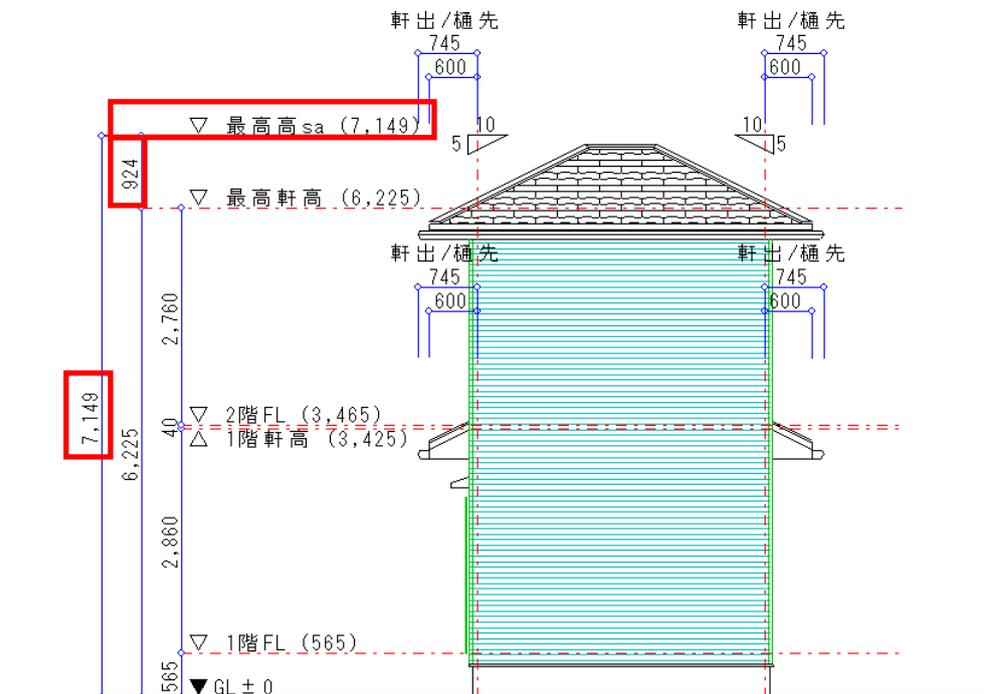
立面図等に表示するレベル名称を設定します。



最高高を「表示する」に設定した場合



最高高を「表示しない」に設定した場合



最高の「調整値」に値を設定した場合

2-1) 地下・ロフト表現

建物共通情報

物件情報 矩計 敷地概要 平面関係 立面/バース関係 求積関係 その他

物件No: マニュアル2F

物件Name:

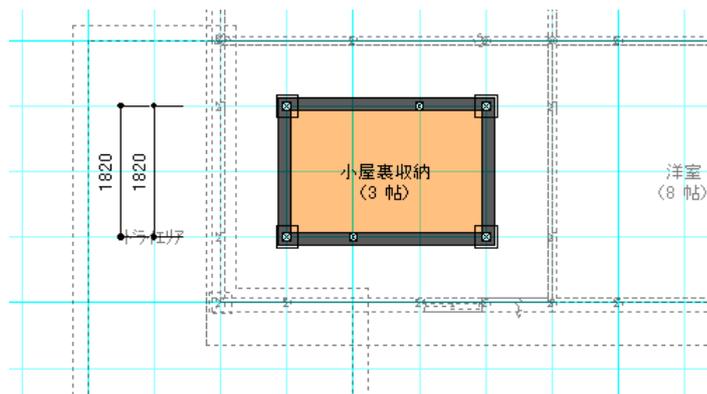
地上(F): 2 地下(L): 0 ロフト(L)

建物価格(P): 0 万円 (例: [3000(半角)] 万円)

住所11:

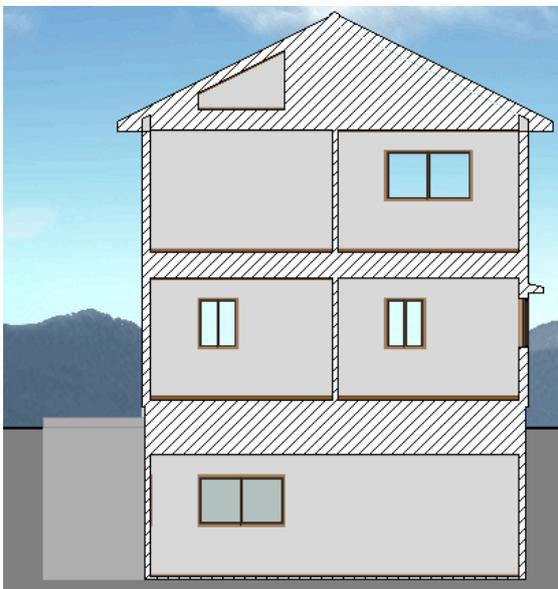
層数の制限はなく、地下表現や小屋裏表現、高層階表現が可能になります。

物件情報の入力では、地上階の数と地下階の数、最上層にロフトがある場合は、フラグをオンにします。



ロフト層の入力は、通常階と同様に間取り平面を入力するだけです。

ロフト層には、屋根レイヤーは存在せず、屋根入力は通常階の屋根レイヤーで入力します。上記の例では、2階で入力を行います。



地下1階、地上2階、ロフト付の断面図の例

2-2) 高層階表現

建物共通情報

物件情報 | 矩計 | 敷地概要 | 平面関係 | 立面/パース関係 | 求積関係 | その他

物件No:

物件Name:

地上(F): 地下(U): ロフト(L)

建物価格(P): 万円 (例: [3000(半角)] 万円)

階	層名称	基準階高	軒高(GL)	床高(FL)	天井高	建具内法高
<input type="checkbox"/>	6F 6階	2800	17425	40	2400	2000
<input type="checkbox"/>	5F 5階	2800	14625	40	2400	2000
<input type="checkbox"/>	4F 4階	2800	11825	40	2400	2000
<input type="checkbox"/>	3F 3階	2800	9025	40	2400	2000
<input checked="" type="checkbox"/>	2F 2階	2800	6225	40	2400	2000
<input checked="" type="checkbox"/>	1F 1階	2900	3425	40	2400	2000

(注)基準高さや階高を変更した場合に、軒高を更新するには上段の軒高(GL)ボタンを押して下さい

	階	層名称	基準階高	軒高(GL)	床高(FL)	天井高	建具内法高
<input checked="" type="checkbox"/>	16F	16階	2800	45425	40	2400	2000
<input checked="" type="checkbox"/>	15F	15階	2800	42625	40	2400	2000
<input type="checkbox"/>	14F	14階	2800	39825	40	2400	2000
<input type="checkbox"/>	13F	13階	2800	37025	40	2400	2000
<input type="checkbox"/>	12F	12階	2800	34225	40	2400	2000
<input type="checkbox"/>	11F	11階	2800	31425	40	2400	2000

全ON 全OFF (注)基準高さや階高を変更した場合に、軒高を更新するには上段の軒高(GL)ボタンを押して下さい

高層階の設定では、実体とコピー階の設定をダイアログの左端チェックボックスで行うことができます。

フラグがオフの場合はコピー階を示します。

上記の例では2階から14階はひとつの基準階データのみ入力すればよいことになります。

敷地 1階 2階~14階 15階 16階

基準階のデータ入力が完了後、編集メニューの「基準階のデータをコピー層にコピー」を実行するにより、実体データへの変換が行われます。



層コピーが行われた後は、実体データとなっているため、パース上などで基準階以外のコピー階の要素データを修正することもできますが、基準階以外の層では平面図に反映はされません。

また基準階のデータを修正しても、パースなどで即時に変更結果が反映されるわけではありません。

基準階データがコピー層に実体として反映させるのは、あくまで層コピーが行われたタイミングであり、任意の時点で何回でも層コピーを実行することができます。

なお最初は建物共通情報の矩計設定でコピー層として定義していた層についても、フラグをオンにすれば更に基準階として昇格させることも可能です。



高層階パースの例

3) 敷地概要

敷地の概要を設定変更できます。

建物共通情報

物件情報 矩計 敷地概要 平面関係 立面/パース関係 求積関係 その他

用途地域(A): 第1種低層住居専用地域

建築制限高さ(H): 10000

指定建ぺい率(K): 60

指定容積率(Y): 140

外壁の後退(道路)(D): 1000

外壁の後退(隣地)(R): 1000

敷地面積修正(S):

敷地面積(M): 198.85 m²

① 用途地域

用途地域の設定が行えます。

② 建築制限高さ

斜線チェックで用いられる建築制限高さをここで設定します。

③ 指定建ぺい率

指定建ぺい率の設定が行えます。

④ 指定容積率

指定容積率の設定が行えます。

⑤ 外壁の後退（道路）

外壁の後退（道路）の設定が行えます。

⑥ 外壁の後退（隣地）

外壁の後退（隣地）の設定が行えます。

⑦ 用途地域

法律で定められた用途地域を設定します。

採光チェックにおける住居系、工業系、商業系による採光斜線勾配と距離緩和条件の算定に用いられています。

旧物件では、第1種低層住居専用地域が割り当てられますので、必要に応じて修正をしてください。

用途地域(A):	第1種低層住居専用地域
建築制限高さ(H):	第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 準住居地域 準工業地域 工業地域 工業専用地域 近隣商業地域 商業地域 用途指定のない地域
指定建ぺい率(K):	
指定容積率(Y):	
外壁の後退(道路)(D):	

⑧ 敷地面積修正

敷地面積の設定が行えます。

4) 平面関係

平面図に関する詳細情報を設定変更できます。

① 各チェックボックス

平面図の各種機能について ON / OFF の指定が行えます。

※平面図に階段の段数表示をする

※平面詳細図に階段の段数表示をする

平面図及び平面詳細図で階段段数の表示・非表示を制御します。

※平面図に階段の破断線以降を表示する

平面図で階段上に破断線が配置された場合に破断線以降の点線、段数の表示・非表示を制御します。

※平面図で線画の場合、壁を塗り潰す

表示モードが線画の場合、壁内部にハッチングを行います。

壁の種類が「壁」「袖壁」の場合はハッチングで表示します。

また、この設定が ON の場合は、線画での柱・壁内部の断熱材表示を行いません。

ハッチングの間隔については、以下のファイルにより設定できます。

[¥Master¥建物情報¥共通.Ini] の[壁塗り潰し(ハッチング)] になります。壁塗りつぶしの状態を調整することが出来ます。

※平面図 (1/100) の建具のサイズを実寸で表示する

簡易図でも、建具に対し詳細図の表現を使用できます

※室内建具の番号を全て異なる番号で採番する

同じ種類の建具の場合も異なる番号で自動採番します。

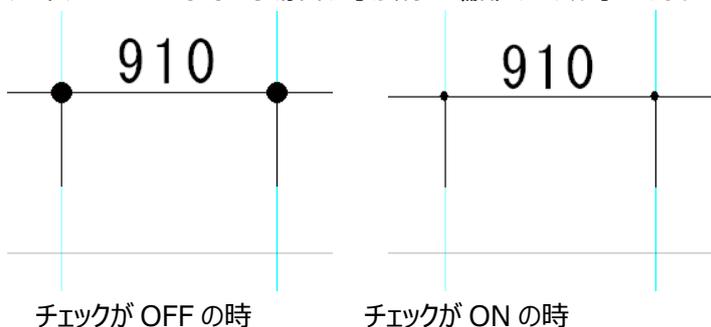
ただし、自動採番対象外となっている建具に設定されている番号は採番されません。

※上層要素の点線表示を行う

チェックを ON にしている場合、ロフト/吹抜の上層要素文字を表示します。チェックが OFF の場合は、上層要素文字を非表示にします。

※平面の寸法線端部マーク表示を小さくする

チェックを ON にしている場合、寸法線の端部マークが小さくなります。



(補足) 本機能はプレゼンボード出力に対応します。

※下屋をプレゼンボードに出力する

チェックを ON にしている場合、下屋をプレゼンボードに描画します。

また、右クリックメニューの画像の保存でも描画します。

② 通り芯

ア) 形状

通り芯記号の形状を設定できます。標準と円の 2 種類から選択します。

イ) 円の半径

形状を円に選択した場合に設定できます。円の半径を変更することができます。

ウ) 通り芯線

通り芯記号から線を表示するかどうかの設定ができます。

③ 壁厚

ア) 一般壁厚

壁入力で「標準」と設定した場合の、外壁(外周領域上)以外の壁の厚さを設定します。

イ) 一般壁仕上厚

以下の数値が表示されます。下地厚・一般壁厚の設定をする際の参考にしてください。

(「一般壁厚」-「下地厚」) / 2

ウ) 外壁厚

外周領域上の壁の厚さを設定します。

外壁厚と一般壁厚が異なる場合、外壁は偏心状態で平面・パースとも表現されます。

例) 外壁厚 165、一般壁厚 130 と設定した場合

外壁の部屋側は一般壁厚の半分の 62.5 で表現され、外側は 102.5 (165-62.5) で表現されます。

エ) 屋根仕上厚

各テキストボックスに、以下の数値が表示されます。壁厚を設定する際の参考にしてください。

左：(「一般壁厚」-「下地厚」) / 2

右：「外壁厚」-「下地厚」- ((「一般壁厚」-「下地厚」) / 2)

オ) 下地厚

下地厚の表現設定を行います。下地厚を 0 に設定した場合は、下地線は作画されません。

カ) 浴室壁厚ふかし量

浴室の壁ふかし量をここで設定します。

④ 断熱材

ア) 断熱材

断熱材の種類を「表記なし、内断熱、外断熱」の中から設定します。

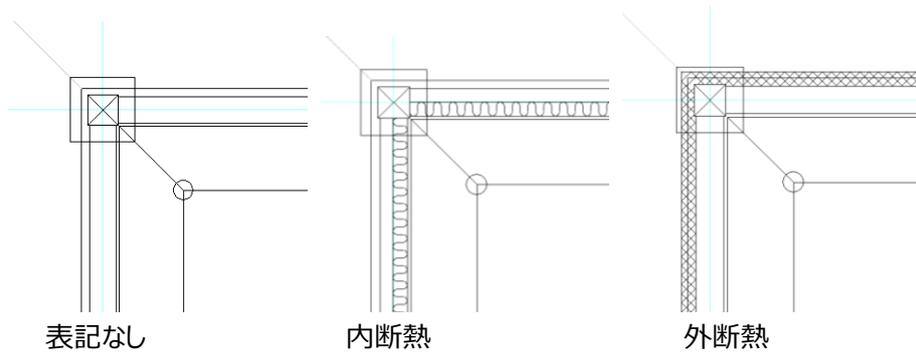
イ) 断熱材幅

断熱材の幅を設定します。

ウ) オフセット

断熱材の種類を「表記なし、内断熱、外断熱」の中から設定します。

例) 下地厚 105 一般壁厚 130 を設定し、仕上げ表現を行った場合



⑤ 面積補正用外壁ふかし量

工業化認定住宅用面積補正機能として、面積補正用外壁ふかし量が設定できます。

意匠的には壁厚設定で外壁と内壁の厚さ表現を行うことができますが、寸法線表示及び、床面積表示で壁芯からの表記が義務つけられている場合、この外壁ふかし量を設定します。

一般の木造住宅では 0 を設定します。

軽量鉄骨住宅から木造住宅への変更や逆の場合でも、このふかし量設定の変更と同時に寸法線と面積要素を再度自動生成することで、工法変更を行なうことができます。

また、積算数量確認の面積値もこのふかし量が考慮されて出力されます。

⑥ 建具端部逃げ量

建具入力は芯入力で行いますが、実際の建具（外枠境界）が芯からどれだけ逃げるかの量をここで設定します。

⑦ 建具寸法表示種類

表示種類を変更する事で建具プロパティの寸法表示を変更する事が出来ます。

プロパティ表示の詳細は「04_Walk in home17_操作マニュアル_要素入力編.doc」の「2 - 3. 建具 要素」を参照してください。

5) 立面/パース関係

立面図・パースに関する詳細情報を設定変更できます。

建物共通情報

物件情報 矩計 敷地概要 平面関係 立面/パース関係 求積関係 その他

ガラスを透明にする
 室内データを作成する
 建具の開閉状態を保持する
 光源のない部屋に仮想光源を配置する
 仮想光源を常時点灯する
 外壁輪郭線を出力する
 その他輪郭線を出力する
 棟(面格子、フェンスなど)を影計算対象とする

立面図で屋根勾配を表示する
 立面図で軒出寸法を表示する
 立面図で床高/軒高寸法線を表示する
 立面図で水平寸法線を表示する
 立面図で斜線を表示する
 立面図で上記以外の寸法線を表示する
 立面図での外部フィットに敷地要素を含む
 パースでの外部フィットに敷地要素を含む
 鳥瞰・俯瞰での外部フィットに敷地要素を含む
 立面図で高さ寸法を分割する(階高・軒高)
 断面図で隣地境界を表示しない
 立面図で平均GLからの最高軒高/最高高を表示する

影計算用
緯度(北緯)(N): 35.68
経度(東経)(E): 139.77
地名から参照(T): 東京

軒樋詳細設定
 軒樋を表現する
軒樋断面形状(O): 標準
 採光計算で軒樋を考慮する

採光建具控除量
幅(左右中合計)(A): 0
高(上下中合計)(B): 0

屋根厚
屋根厚(Y): 150
屋根仕上厚(Y): 75
破風見付(M): 210
化粧破風(F): 200

勾配時の天井懐寸法
 天井懐の寸法を指定する
天井懐寸法(F): 200

土台水切り
見付高(H): 30
出幅(D): 20

基礎/パッキン厚(P): 20
基礎厚(S): 120

OK キャンセル ヘルプ

① 各チェックボックス

立面図・パースの各種機能について ON/OFF の指定が行えます。

※ガラスを透明にする

オンの場合、すべてのガラスが半透明で表現されます。

オフに設定するとガラス部分が不透明状態で表現されます。

※室内データを作成する

オフに設定すると、室内関連のポリゴンデータが作成されない軽いモデルとして表現されます。

この場合、通常はガラス透明フラグをオフにして使用します。

※建具の開閉状態を保持する

オンに設定すると、パース表示中に設定した建具の開閉状態を保持し、プレゼンボード出力や Plaza パック出力、パース表示等で復元します。

物件の保存・読み込み時も状態を復元します。

※光源のない部屋に仮装光源を配置する

オンに設定すると、部屋に光源が入力されていない場合に、仮の光源を配置します。

※外壁輪郭線を出力する

オフに設定すると、外壁輪郭線が表示されません。

※その他輪郭線を出力する

オフに設定すると、外壁を除くすべての要素の輪郭線が表示されません。

※棧（面格子、フェンスなど）を影計算対象とする

オフに設定すると、細かい棧については影計算対象から外されます。

特に建具面格子（クロス）が入力されている場合は、フラグをオンにするとかなりCPUを消費するため、この場合はできるだけオフに設定するようにしてください。

※断面図で建具・設備・シンボルを表示しない

オンにすると、断面図を出力する際に建具・設備・シンボルが出力対象から外されます。

※立面図で屋根勾配を表示する

オフにすると立面図で屋根勾配が表示されません。

※立面図で軒出寸法を表示する

オフにすると立面図で軒出寸法が表示されません。

※立面図で床高/軒高寸法線を表示する

オフにすると立面図で床高/軒高寸法線が表示されません。

※立面図で水平寸法線を表示する

オフにすると立面図で水平寸法線が表示されません。

※立面図で斜線を表示する

オフにすると立面図で斜線情報が表示されません。

※立面図で上記以外の寸法線を表示する

オフにすると隣地境界線、斜線寸法が表示されません。

※立面図での外部フィットに敷地要素を含む

※パースでの外部フィットに敷地要素を含む

※鳥瞰・俯瞰での外部フィットに敷地要素を含む

敷地がありチェックが ON の場合、敷地要素を外部フィットに含ませて物件を表示します。OFF の場合は、敷地を含ませず建物を中心に表示します。

敷地要素が無い場合は、チェックの ON/OFF を問わず建物中心の表示になります。

※立面図で高さ寸法を分割する(階高・軒高)

オンにすると立面図で階高は左に、軒高は右に寸法線が分割されます。



表示あり・標準



表示なし

また、採光計算時に軒樋を考慮するかの設定もここでを行います。

④ 採光・換気・排煙建具控除量

採光チェックレイヤでの建具の控除量をここで設定します。

⑤ 屋根厚

ア) 屋根厚

屋根の厚さをここで設定します。

イ) 屋根仕上厚

屋根の仕上げ部分の厚さをここで設定します。

75 は和風瓦表現の推奨値となっています。

ウ) 破風見付

破風見付の量をここで設定します。

エ) 化粧破風

化粧破風の量をここで設定します。

※データ連動

屋根厚と破風見付の値を変更した場合、自動生成時の各項目にも反映されます。



⑥ 土台水切り

土台水切りの寸法が設定できます。

ア) 見付高

土台水切りの見付高さの寸法をここで設定します。

イ) 出幅

土台水切りの出方向の幅寸法をここで設定します。

⑦ 基礎パッキン厚

基礎パッキン部分の厚さをここで設定します。

⑧ 基礎厚

基礎立上りの厚さをここで設定します。

⑨ ガラスの屈折率

ア) 共通設定を使用する

チェックが ON の場合、各素材ごとに設定された屈折率は無視され、全てのガラスに対する屈折率がここで設定された値になります。

イ) ガラスの屈折率

屈折率の共通設定の値をここで設定します。

6) 求積関係

各求積図に関する詳細情報を設定変更できます。

建物共通情報

物件情報 矩計 敷地概要 平面関係 立面/パース関係 求積関係 その他

- 床面積表を座標求積する
- 建築面積表を座標求積する
- 1/4床面積表を座標求積する
- 見付面積表を座標求積する
- 敷地求積を三斜求積で表示する
- 床面積を分割して求積する
- 採光補正係数計算時に0.7補正を先掛けする
- 小屋裏物入れ等の面積が1/8以下の場合も軸組み計算の補正をする
- 容積率の計算に延床面積の1/5限度でピロティ・車庫面積を除く

7) その他

ここでは、その他の機能について ON/OFF の指定が行えます。

建物共通情報

物件情報 矩計 敷地概要 平面関係 立面/パース関係 求積関係 その他

- AI建具拡張方式を使用する
- 建具入力内容はアンドロイドで使用しない

OK キャンセル ヘルプ

※AI 建具拡張方式を使用する

オンに設定すると、AI 建具入力・設定メニューの AI 建具の際に拡張方式を採用します。オフであれば従来どおり使用できます。

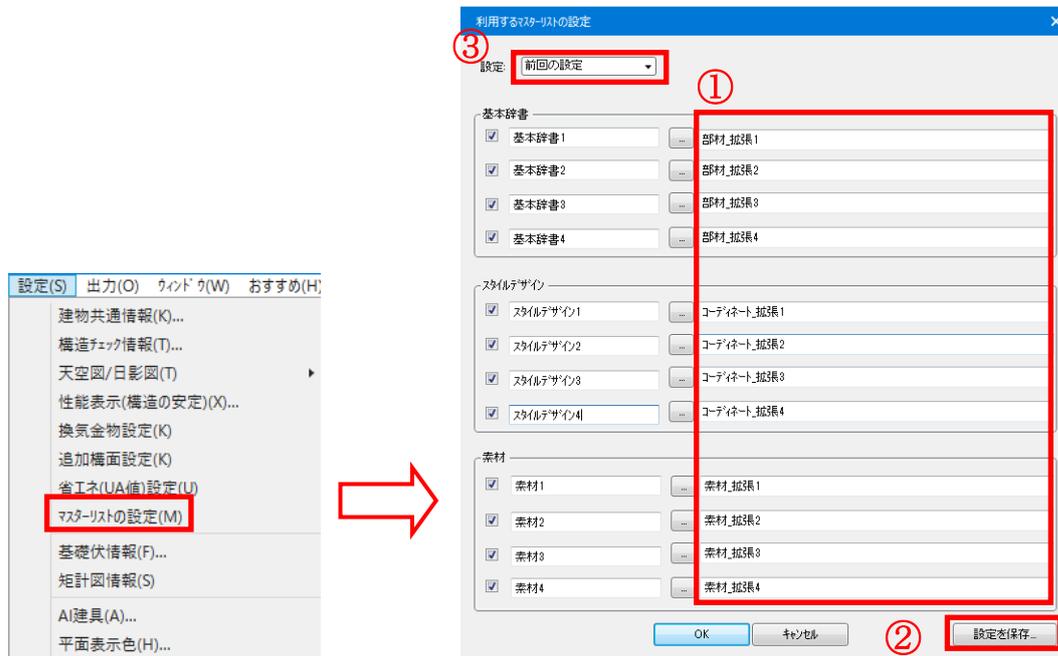
※領域入力中はアンドウ・リドウを使用しない

チェックを ON にしている場合、領域の入力中はアンドウ・リドウの機能を使用できないようにします。アンドウ・リドウを使用する場合は、領域入力中でない時に限られます。Ctrl + Z での操作も同様に制限されます。

チェックが OFF なら従来通り、入力中であってもアンドウ・リドウが可能です。

2-3. マスターリストの設定

「MASTER」フォルダ内の拡張部材フォルダ参照先を選択します。



- ①：格納フォルダを選択できます。
選択するフォルダはマスターファイル直下のフォルダを選択してください
- ②：設定した情報を保存できます。
- ③：保存した設定情報を選択できます。

2-4. 構造チェック情報

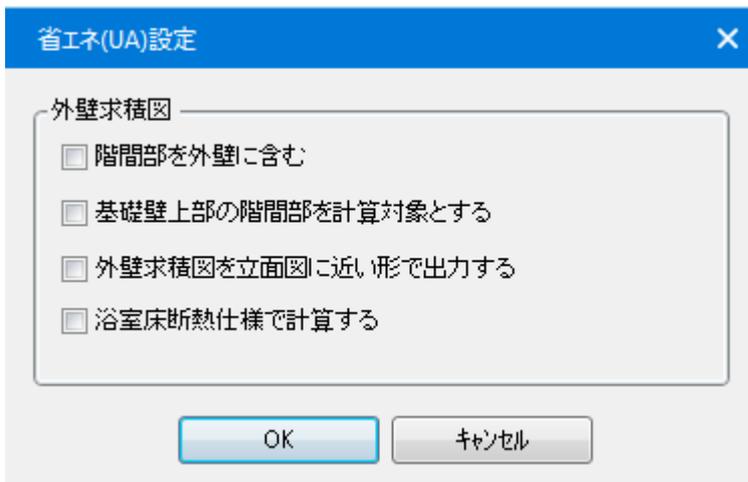
2-5. 性能表示（構造の安定）

2-6. 換気金物設定

詳細については、法規チェック・性能表示編マニュアルを参照してください。

2-7. 省エネ(UA値)設定

外壁求積図の出力について、以下の通り算出方法を設定することが可能です。



1) 階段部を外壁に含む

階段部を上層の外壁と合成して、面積を算出します。

2) 基礎壁上部の階段部を計算対象とする

400mm 超の基礎壁に付随して出力される、階段部の出力を切替えます。

3) 外壁求積図を立面図に近い形で出力する

奥行きの異なる面などについて、立面図と同様な位置関係で出力できます。

2 - 8. 基礎伏情報

2 - 9. AI 建具

建具入力の自動判定で用いられるマスターをここで設定変更することができます。

建物共通情報の詳細設定で「AI 建具拡張方式を使用する」のフラグ状態により、旧方式または拡張方式の設定ダイアログを表示します。

但し、手書き認識においては旧方式にのみ対応

1) 旧方式

1-1) A I 建具高さ

設定項目	高さ
みなし部屋(玄関)床高	-400.0
みなし部屋(和室)内法高	1800.0
一般腰窓開口高	1000.0
1P引違小窓開口高	600.0
玄関戸開口高	2200.0
外部1P開き戸開口高	2000.0
室内戸開口高	2000.0
洋室収納開口高	2000.0
階段収納開口高	900.0

高さの設定は、設定行の高さ数値欄を最初にクリックします。

数値の編集モードになるので数値の編集を行い、Enter キーでその行の編集を終了させます。以下に設定項目のうち特殊なものの説明を行います。

みなし部屋(玄関)床高は、みなし部屋に1.5P以上のポーチが接触している場合には玄関と判定されますが、そのみなし玄関の床高想定値(from FL)を設定します。

みなし部屋(和室)内法高は、みなし部屋に濡れ縁が接触している場合には、和室と判定されますが、そのみなし和室につく建具の想定内法高(from FL)を設定します。

1P引違小窓開口高は1Pの引違い窓の場合の開口高を設定します。

以下の項目は文字通りの意味です。

A I 建具メニューを開いた段階では、設定欄に「現在の設定」が表示されます。

物件新規作成時に選択した建物タイプが持つA I 建具情報が、最初の時点では表示されています。この設定リストを開くと建物タイプの一覧が表示されます。

建物タイプをこの中から選択し直すと、その建物タイプが保持しているA I 建具情報で置き換えられます。

なおA I 建具の設定内容を登録したい場合は、建物共通情報の「建物タイプ登録」で行います。

これはA I 建具が矩計などと密接に関連していることが、その理由となっています。

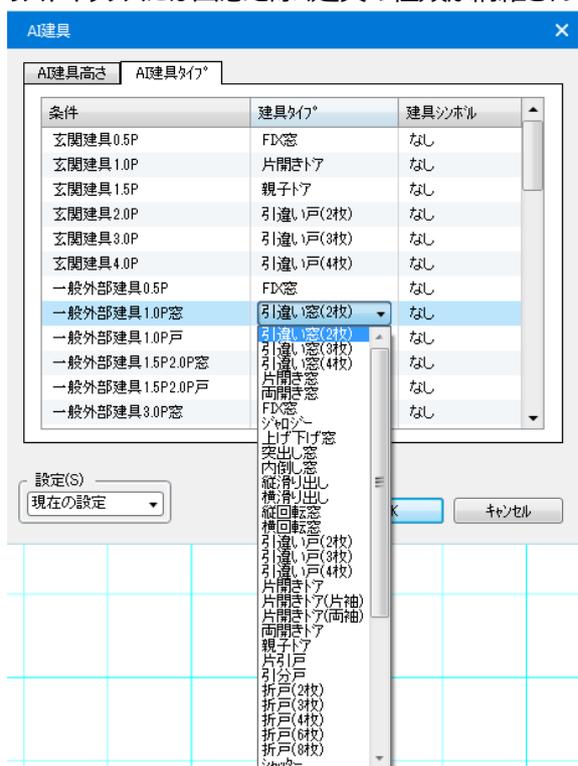
1-2) AI 建具タイプ



建具の自動判定は、原則として部屋空間の組み合わせから建具の種類を決定する仕組みになっていますが、ここではそのデシジョンテーブルを設定変更します。

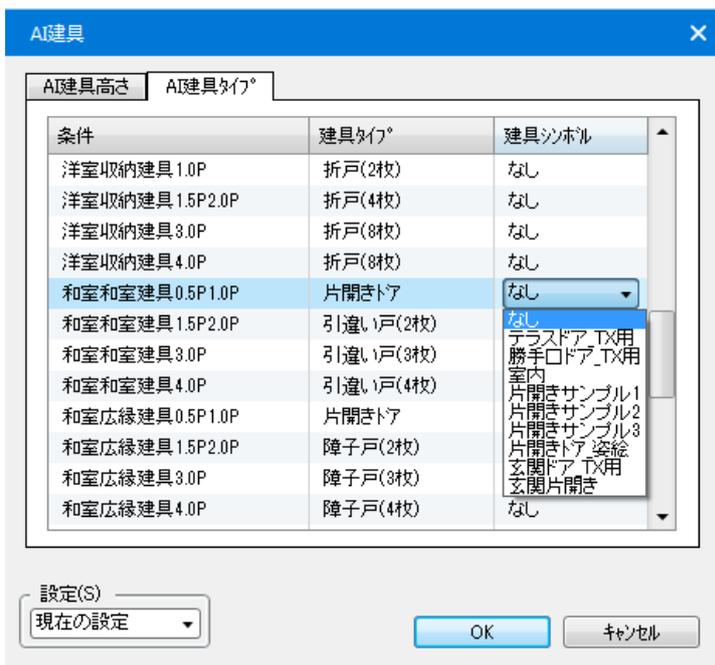
操作は編集したい行の建具タイプ欄を最初にクリックし、リストボックスから建具タイプを選択します。

リストボックスには出窓を除く建具の種類が網羅されています。



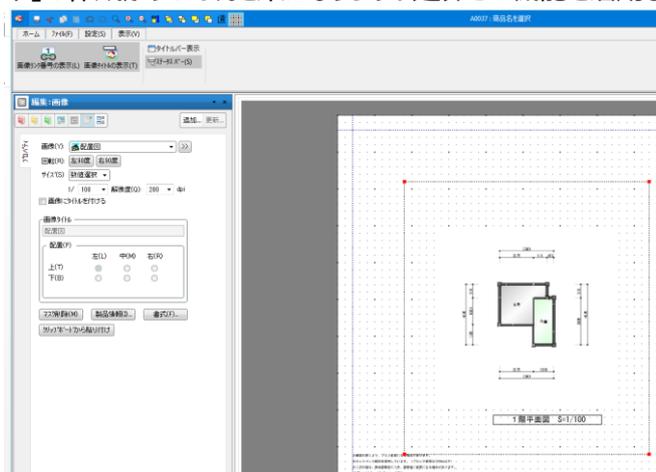
なお上図での洋室浴室 0.5P、1.0P の意味は、洋室と浴室境界の 0.5P と 1.0P の建具を折戸（2枚）にするという意味です。

1 - 3) A I 建具デフォルト建具シンボルの設定機能



建具シンボルを整備した場合に、A I 建具入力で最初から設定した建具シンボルが表現されると便利です。設定は建具タイプ毎に登録されている建具シンボルを選択することで行います。設定完了後、ファイルメニューの「建物タイプ登録」を行うことで、次回新規物件から、A I 建具のデフォルトが反映されるようになります。

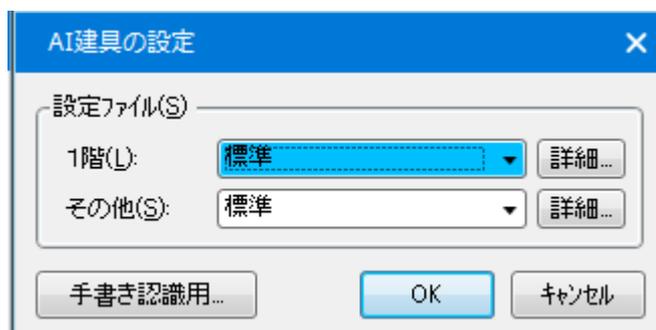
(補足) 建具エディターで、建具シンボルに対して、「製品情報」をリンクできる機構が追加されています。「製品情報」がリンクされた建具シンボルが入力された場合、自動的にこの「製品情報」が付加されるため、「プレゼンボード」の作成がずいぶんと楽になります。是非この機能を活用してください。



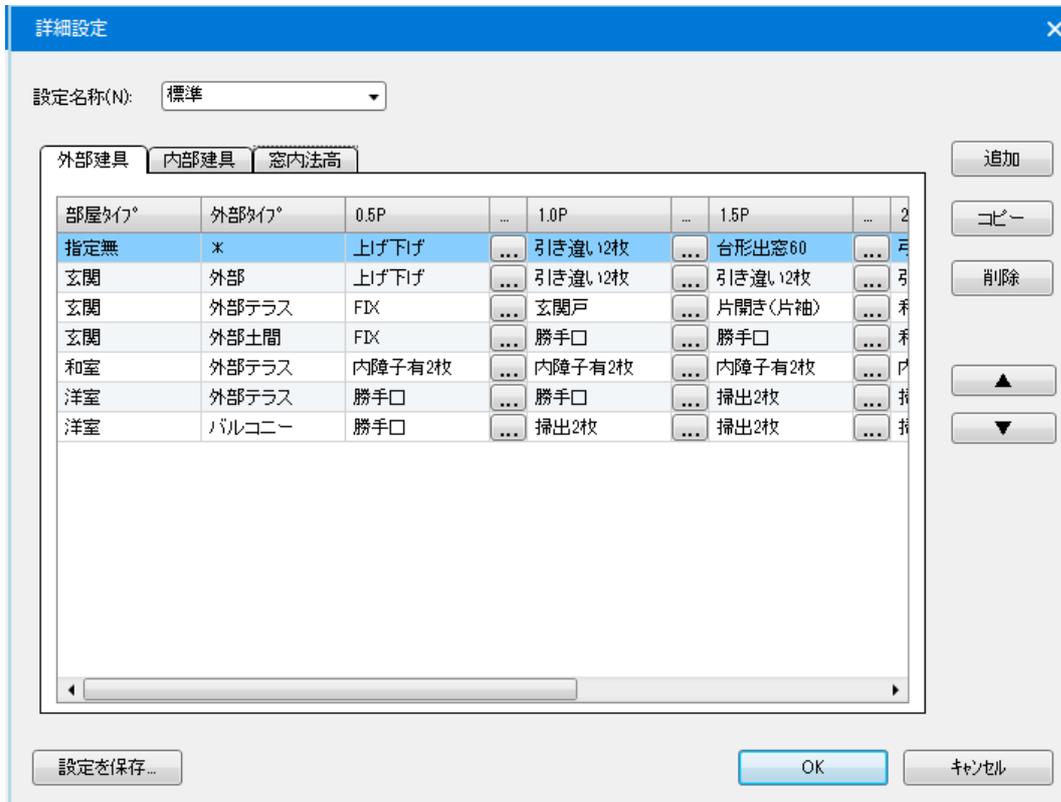
2) 拡張方式

2-1) 設定

拡張方式ではマスターの設定ファイルを参照する形に変更します。設定ダイアログでは、マスターの設定ファイルを選択します。設定ファイルは1階用と、その他階用を持つことができます。



2 - 2) 詳細設定



1. タブ (外部建具・内部建具・窓内法高)

共通事項：部屋タイプの収納と収納要素は同一条件として検索します。

階段収納とは、収納が階段下にある場合の条件です。

階段上層とは、吹き抜けで下層に階段がある場合の条件です。

優先順序：検索条件が条件リストになく、優先順序の低いものの場合、優先度の高い

検索条件で再検索を行う。詳細条件で指定しなくても、上位優先度の設定があればその項目で引き当てを行う。

外部 > 外部テラス・外部土間・バルコニー

玄関 > ピロティ・車庫

和室 > 広縁・床の間

洋室 > 浴室・収納・トイレ・洗面所・リビング

外部建具：外部建具の設定です。第一条件で「部屋」、第二条件で「外部タイプ」を指定します。

部屋タイプ：部屋要素種別 15 種類、収納要素、床の間、吹抜け、階段上層

外部タイプ：外部・外部テラス・外部土間・バルコニー

外部テラス (ウツ`テ`ツキ・濡れ縁・ポーチ (ポーチ) ・外階段)
外部土間 (ポーチ (土間コン))

0.5～4.0P : 各ポイント幅で自動入力される建具を指定します。「なし」を設定した場合、
「指定無」の項目で設定されている建具が入力されます。
「指定無」に「なし」を設定した場合は、引き違い 2 枚窓が適用されます。

内部建具 : 内部建具の設定です。第一条件・第二条件で「部屋タイプ」、第三条件で
建具脇に余りがある場合、ない場合の指定をします。

第一条件 : 部屋要素種別 15 種類、収納要素、床の間、吹抜け、階段上層
階段収納

第二条件 : 部屋要素種別 15 種類

第三条件 : 余り有無

窓内法高 : 窓の内法高は矩計の建具内法高を設定します。戸・ドアの内法高は部屋の床高
から引き当てた建具要素の開口高さを足し、決定します。

但し、次の 5 項目は、条件により窓の内法高を指定できます。

「和室・床の間・階段下収納・階段上層・浴室」に接する外部窓の場合のみ

2. 追加

条件リストを追加します。リスト上で選択していなければリストの最後に追加を行い、選択状態であれば、
選択位置に追加を行います。

3. コピー

条件リストのコピーを行います。コピーしたい条件リストを選択し、コピーボタンを押すと、条件リストの最後
にコピーされます。一部だけ変更して追加を行いたい時などに使用してください。

4. 削除

条件リストを削除します。

5. ▲▼

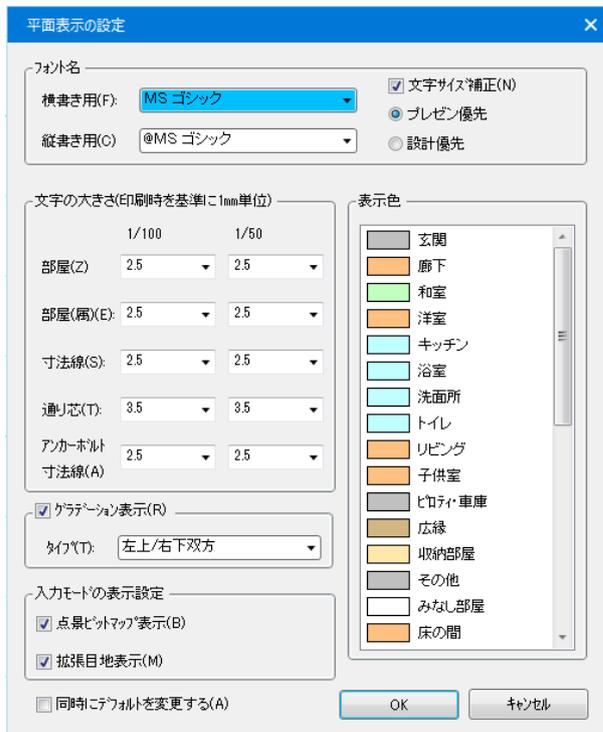
選択しているリストを上下に移動します。

6. 設定を保存

条件設定を名前をつけて保存します。物件ごとではなくマスターで管理をするので、
名前の変更や、上書きには注意して行ってください。

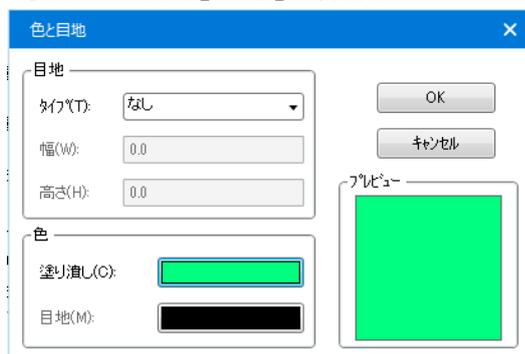
2-10. 平面表示色

平面入力画面で用いられている表示色を設定変更したり、部屋要素に目地を設定したりすることができます。デフォルトを変更すると次回新規作成物件から設定した平面表示色が適用されます。また、平面図での文字のフォントや大きさなどの設定や表示色のグラデーション効果の設定が行えます。



平面表示色の設定ダイアログ

色設定の方法は、「表示色」のリストの内の「玄関」から「みなし部屋」までをダブルクリックすると、「色と目地」ダイアログが表示され「目地」、「色」を設定できます。

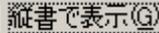


色と目地ダイアログ

「色と目地」ダイアログで「色」が表示されているカラーボタンを押すと「汎用」ダイアログが表示されて色を変更することができます。



汎用ダイアログ

色設定や目地設定後OKボタンを押すと、現在表示されている平面表示色が変更されます。ただし部屋の入力編集で個別に色設定したものに対しては、結果は反映されずそのままとなります。「同時にデフォルトを変更」フラグをオンにしてOKボタンを押すと、次回新規作成物件から新しい平面表示色が適用されます。「縦書き用」のフォントは、間取り関係の要素で 縦書で表示  を設定している場合の表示フォントになります。なお、各部屋に対しては、「素材」に設定してある各種の素材をドラッグ&ドロップで表示色を変更することも可能です。

[文字サイズ補正]

この設定は、文字の間隔を（文字幅×1.75倍）広げる設定になります。この設定が有効の場合かつ文字フォントが同じ場合は JW_CAD と近い文字の表示を行うことができます。ただし、フォントの種類がプロポーショナルフォントの場合（例：MS Pゴシック等のPの付くフォント）は、この設定は無視されます。また、この設定は「プレビュー」でも有効になります。

2-11. 画面表示範囲保存

CAD 入力画面で、画面の表示範囲設定ができます。画面の全体表示として設定したい表示範囲の状態を設定メニューの「画面表示範囲保存」をクリックします。（右クリック長押しポップアップメニューでも同様の設定メニューが表示されます。）その後、表示範囲を拡大・縮小・移動等をした任意の状態、右クリックでカーソルを右斜め上方にスライドすると保存した画面表示範囲の状態に戻ります。

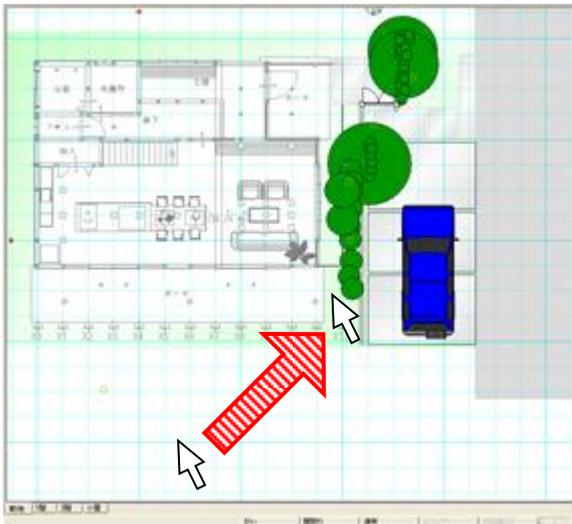


設定メニュー

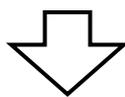
点	寸法線	寸法結合	寸法分断	線	伸縮
オフセット	文字	文字移動	引出線	ハッチ領域	厚み線分
厚み領域	壁	部分壁	カウンター	間仕切移動	選要素入力
外天井	階段切取	配置移動	DXF取込	2D数値移動	金物
画面解除	画面保存	下書線			

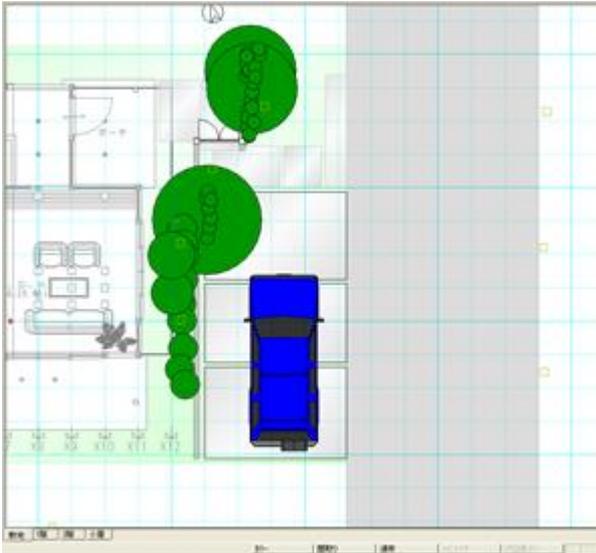
前へ 次へ

ポップアップメニュー



右クリックでカーソルを右斜め上方へスライド





保存した画面表示範囲に戻る

2-12. 画面表示範囲解除

上記項目の画面表示の全体表示の範囲設定を解除します。

(補足) 右クリック長押しポップアップメニューでも同様の設定メニューが表示されます。

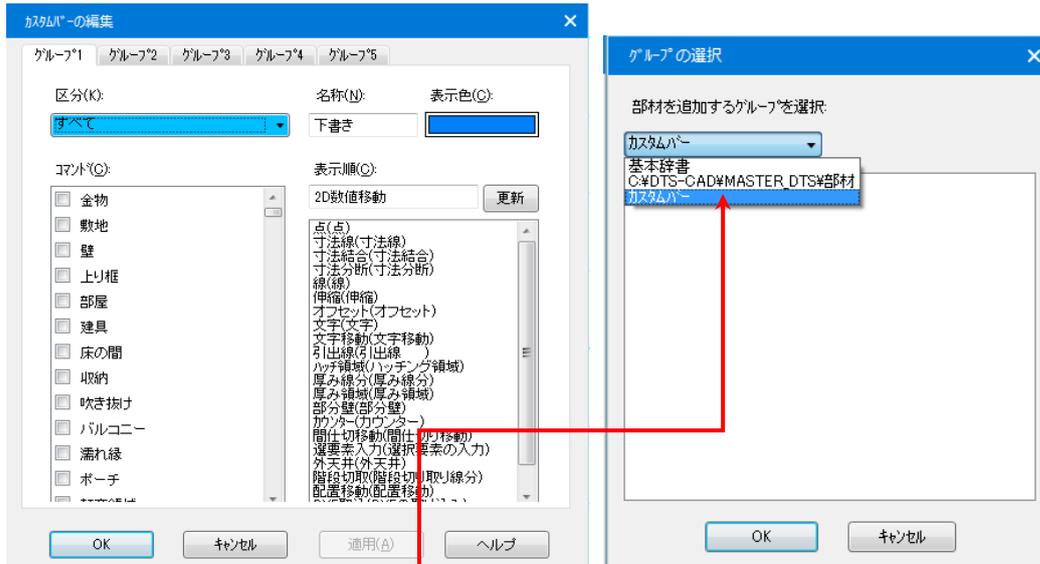
2-13. カスタムバーの編集

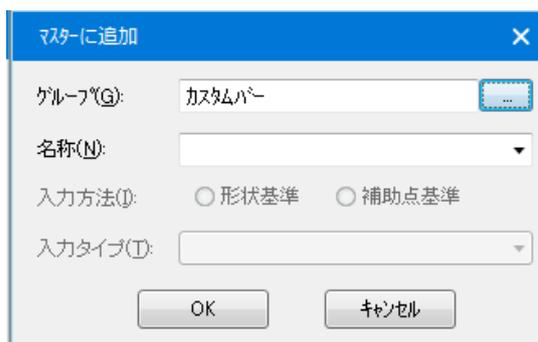
カスタムバーの各グループの名称、ボタンの色、表示するボタンの設定を行うことができます。

コマンド欄に表示されている項目にチェックを入れて頂くことでボタンを表示します。

表示順を変更する場合には表示順欄に表示されている名称を選択しドラッグ&ドロップで順番を入れ替えることができます。

※マスターをカスタムバーに登録する場合、グループから「カスタムバー」を選びます。(※単一部材のみ)





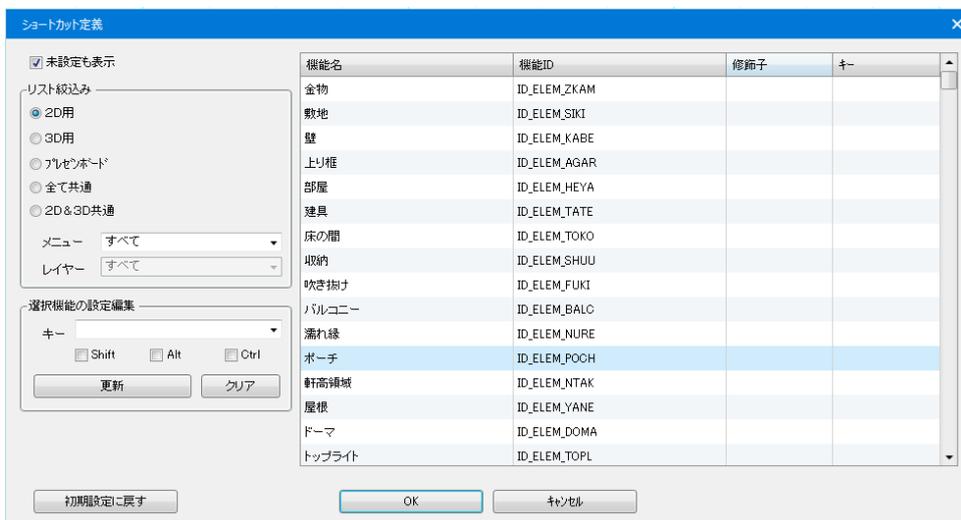
2-14. ショートカットの編集

本システムのメニューに表示されている各機能について、ユーザー毎にショートカットキーを設定できます。

【手順】

設定メニューの「ショートカットの編集」を選択します

「ショートカット定義」画面にて、機能別にキー割り当てをします



■ リスト絞込み

2D 専用、3D 専用、物件管理メニューから機能を絞込みます。

■ リスト絞込み メニュー

メニュー項目から機能を絞込みます。

■ 選択機能の設定編集

選択した機能について、キー割り当てをします。

更新ボタン押下により、キー割当て設定します。

クリアボタン押下により、キー割当て解除します。

※「初期設定に戻す」ボタンを押した場合、マスターに登録されたショートカットキーが割り当てられます

2-15. 前景

鳥瞰、俯瞰、立面、パースの場合、前景情報を設定することができます。



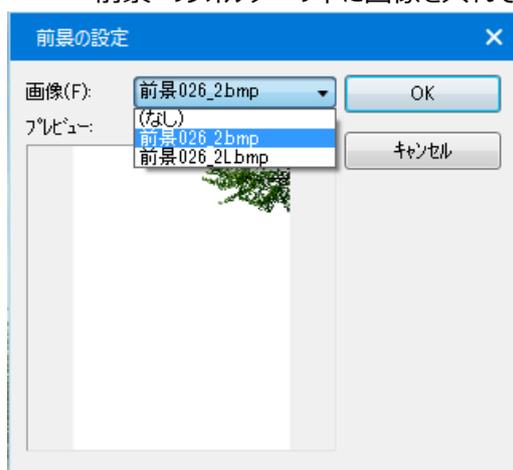
俯瞰を除く各表示では前景情報は現行のアクティブなパース視点タブに対して設定できます。

俯瞰は全体として1つの前景が設定できます。

前景メニューを押すと、設定ダイアログが出ます。

ここで予め登録されている画像を選択しOKボタンを押すだけで操作は完了します。

(補足) 画像の登録先 インストール先のフォルダー“DTS-CAD-NEW”内の“MASTER”の中の“前景”のフォルダーの中に画像を入れておくことで利用できます。



前景の設定ダイアログ



視点の記録

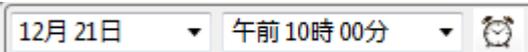
同一パース視点タブの場合、回転操作やビューパネル操作を行っても常に前景が表示されます。

この状態から立面や鳥瞰へ移っても前景は表示されますが、パースで違う視点タブに移った場合は、前景情報はクリアされます。

パース視点タブに対してこの前景情報を記憶させるには、「記録」大アイコンを用います。こうして記録を行えば、パース視点タブごとの前景情報を記憶することができます。

2-16. 背景

パース、立面図の背景情報を設定することができます。年間情報の設定を一度行っておけば、上段の日時アイコンの日時を変更するだけで、背景表現を変えることができます。



日時アイコン



10 時の例



16 時の例

1) 年間情報の設定

「設定」の背景メニューを押すと、ダイアログが出ます。

ここで「年間情報の設定」ボタンを押します。

年間情報とは 1 年間の背景情報を月と時間単位で設定するものですが、背景画像を何枚用意するかで設定方法が異なってきます。

背景画像として朝、昼、夕方の 3 種類が用意されている場合（出荷時）は、1 月から 12 月をすべてフラグ付けして 7 時台から 9 時台、10 時台から 15 時台、16 時台以降の 3 回にわけて登録を行います。

春夏秋冬 x 時間帯の背景画像を用意できる場合は月と時間を更に細分化して登録を行います。背景画像は朝、昼、夕方の 3 種類しかない場合でも、時間帯によって微妙に太陽光の色などを変化させることも可能です。



背景初期画面



年間情報の設定画面

年間情報の設定については、最初に 7 時台、10 時台、16 時台をクリックしてイメージをまずつかんで

ください。



7時台

10時台

16時台

次に月の設定を行うために、Shift キーを押しながら12月をクリックしてください。

これで1月から12月までが設定されます。3月から5月を設定する場合は、最初に3月をクリックし、Shift キーを押しながら5月をクリックしてください。

1月、2月、12月を設定する場合は、最初に1月をクリックし、Ctrl キーを押しながら2月と12月をクリックしてください。時間帯の設定も同様の方法で行います。



夕方の設定例

この状態で背景画像を選択し、光源情報を設定した後、OK ボタンを押すことで月と時間帯の年間情

報が更新されます。

光源情報は太陽光の色と日向、日陰の明暗を設定します。夕方などは若干赤みを帯びた白色にすると雰囲気がよく出ます。

明暗などは実際に設定した後、パースなどで確認し、感覚をつかんでください。

2) 現行日時の設定

現行日時を変更する場合は、画面上部の日時アイコンを用いて変更することもできますが、ここで月日と時間をクリックすることで設定を行うことができます。



ここで「年間情報の参照」ボタンを押すと、年間情報で設定した背景情報が現われますが、更に独自に設定し直すことも可能です。

OKボタンを押すと、これら背景情報と日時による太陽位置計算が行われて表示が行われます。

2-17. 建具詳細表共通設定（外部・内部）

建具詳細表の表示項目を設定することができます。

ここで設定した項目は全ての建具に反映されます。

建具符号の表示を行なう時に「建物共通情報」の「その他」タブにある

「建具符号を建具詳細表として表示する」にチェックを入れてあると建具の符号の代わりに建具詳細表を表示します。

建物共通情報

物件情報 短計 敷地概要 平面関係 立面/パース関係 求積関係 その他

- 平面図に階段の段数表示をする
- 平面詳細図に階段の段数表示をする
- 平面図に階段の破断線以降を表示する
- 平面図に方位マークをする(1Fのみ)
- 平面での外部フィットに見取図を含む
- 平面図の画像保存で幅を全層で合わせる
- 平面図の画像保存で高さを全層で合わせる
- 平面図で線画の場合、壁を塗り潰す
- 平面図(1/100)の柱のサイズを実寸で表示する
- 平面図(1/100)の建具のサイズを実寸で表示する
- 平面図にバラエティ建具種別を表示する
- 平面図に建具詳細を表示する
- 建具符号を建具詳細表として表示する
- 室内建具の番号を全て異なる番号で採番する
- 上層要素の点線表示を行う
- 壁塗りつぶしで耐力壁・スカルトン柱のみを塗りつぶす
- 壁塗りつぶしで通柱に丸を表示する
- 壁塗りつぶしで厚み領域の線を表示する
- 寸法値をカンマ(,)表示する
- 平面の寸法線端部マーク表示を小さくする
- 外周領域要素を表示する
- 下屋をプレゼンボードに出力する

通り芯

形状: 標準

円の半径: 350

通り芯線: 表示しない

壁厚

一般壁厚(K): 130

一般壁仕上厚: 12.5

外壁厚(G): 150

外壁仕上厚: 12.5 32.5

下地厚(U): 105

内壁下地厚: 105

浴室壁厚ふかし量(S): 27.5

断熱材

断熱材(Z): 内断熱

断熱材幅(W): 55

オフセット(O): 0

面積補正用外壁ふかし量(G): 0

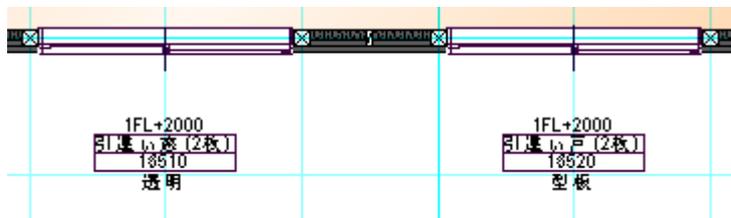
建具端部逃寸量(R): 65

建具寸法表示種類(V): 内外寸

文字方向自動調整角(B): 90 度

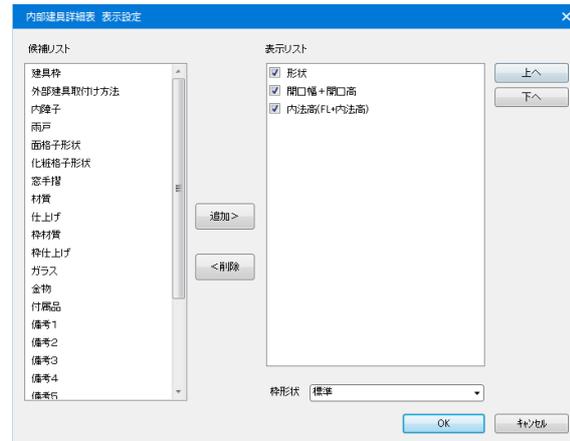
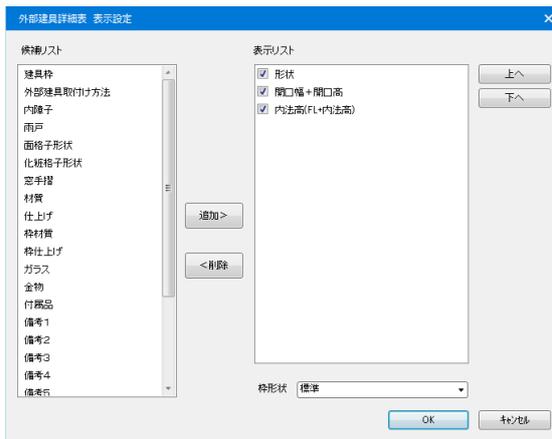
寸法方向自動調整角(S): 135 度

OK キャンセル ヘルプ



「設定」の「外部建具詳細表共通設定」、「内部建具詳細表共通設定」メニューを押すと、ダイアログが出ます。

また、建具プロパティ2の建具詳細表設定ボタンをクリックしても同じダイアログが出ます。

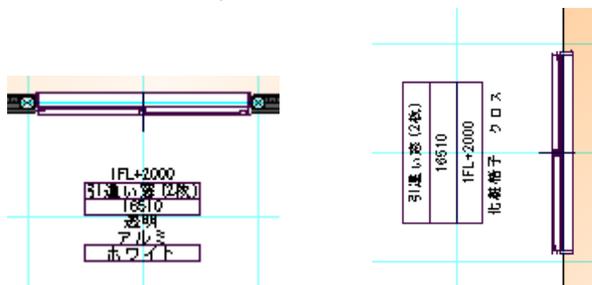


(外部・内部) 建具詳細表共通設定 建具プロパティ2の建具詳細表設定

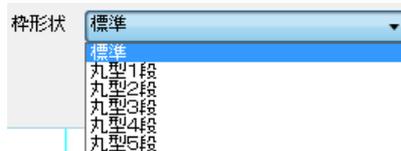
候補リストが建具詳細表に表示できる項目で、表示リストが現在表示設定されている項目です。候補リストの項目を選択し「追加>」ボタンをクリックすると表示リストに追加されます。表示リストの項目を選択し「<削除」ボタンをクリックすると表示リストから削除されます。また、表示リストの項目を選択し「上へ」「下へ」ボタンをクリックすると表示順序を変更できます。表示リストの左側にある項目毎のチェックボックスは枠を表示するかないかを設定します。

チェック有り = 枠付

チェック無し = 枠無し



尚、外部・内部用の建具詳細表共通設定では枠の形状を選択することができます。



この枠形状は、DXFファイルを作成しておき MASTER フォルダ下の建具詳細表フォルダに保存することで追加できます。枠形状 DXFファイルの作成に関しては、別紙の「補足資料_建具詳細表枠の DXF 作成条件.doc」を参照して下さい。

※ 建具別の詳細表設定では共通設定の項目を変更することはできません。

※ 建具のプロパティ 2 にある「建具詳細表設定」ボタンからも設定できます。

その場合、選択中の建具のみの設定となります。

※ 「開口幅+開口高」項目では、開口幅を 10cm 単位、開口高を 1m 単位にした値を表示します。
開口幅 3 桁+開口高 2 桁

3. 出力メニュー

3-1. プレゼンボード



プレゼンボードはシステムで作成した各種画像を配置して印刷する機能です。

会社のロゴなどを組み込んだテンプレート（図面枠）をあらかじめ作成しておけば、画像の自動配置を含めた一連の配置操作を合理化することができます。

機能としては画像配置がメインですが、文字や線などの追加や、建具・設備の製品情報について画像リンク番号を製品情報図と平面図に同時に表示することが出来ます。

<平面への遷移>

出力時にパース表示中の場合、メモリ使用量を抑えるために平面表示へ遷移します。

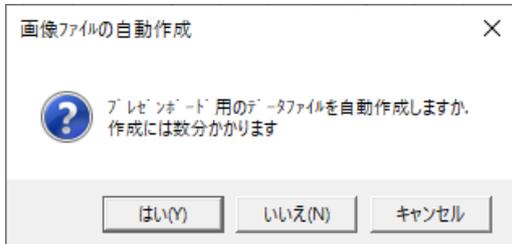
以下の条件（1）、（2）を満たす場合のみ、平面表示へ遷移します。

- 1) 描画モードが「OpenGL」または「ラジオシティ」
- 2-1) プレゼンボード出力形式が「レイトレーシング」
- 2-2) プレゼンボード出力形式が「ラジオシティ」

※確認画面でのキャンセルは除外

1) メニューへの入り方

メイン画面のプレゼンボードメニューをクリックすると、画像データファイルを自動で作成するかどうかの問い合わせがきます。



新規にプレゼンボードを作成する場合や、建物モデルが変更されている場合は「はい」を選択します。作成したプレゼンボードを一部修正したい場合などは「いいえ」を選択します。

「はい」を選択した場合は、画像ファイル作成指示画面が出てきます。

最後に、OK ボタンを押すと、自動的に指定した画像ファイルをシステム側で作成します。

大きなモデルの場合は、それ相応の処理時間が掛かります。

処理が済みますとテンプレート選択画面があらわれてきます。

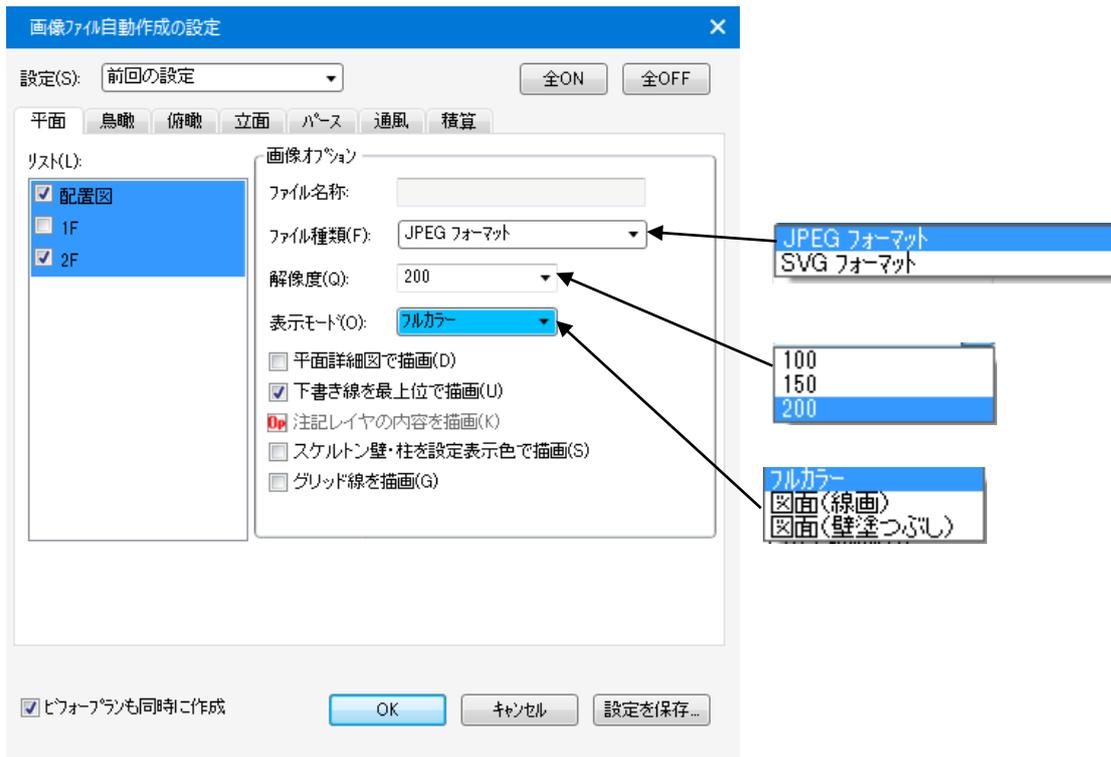
「白紙」はまっさらな画面となり、その他のテンプレートを選択すると画像などの自動配置を行ってくれます。

「開く」はすでに作成したプレゼンボードを選択します。

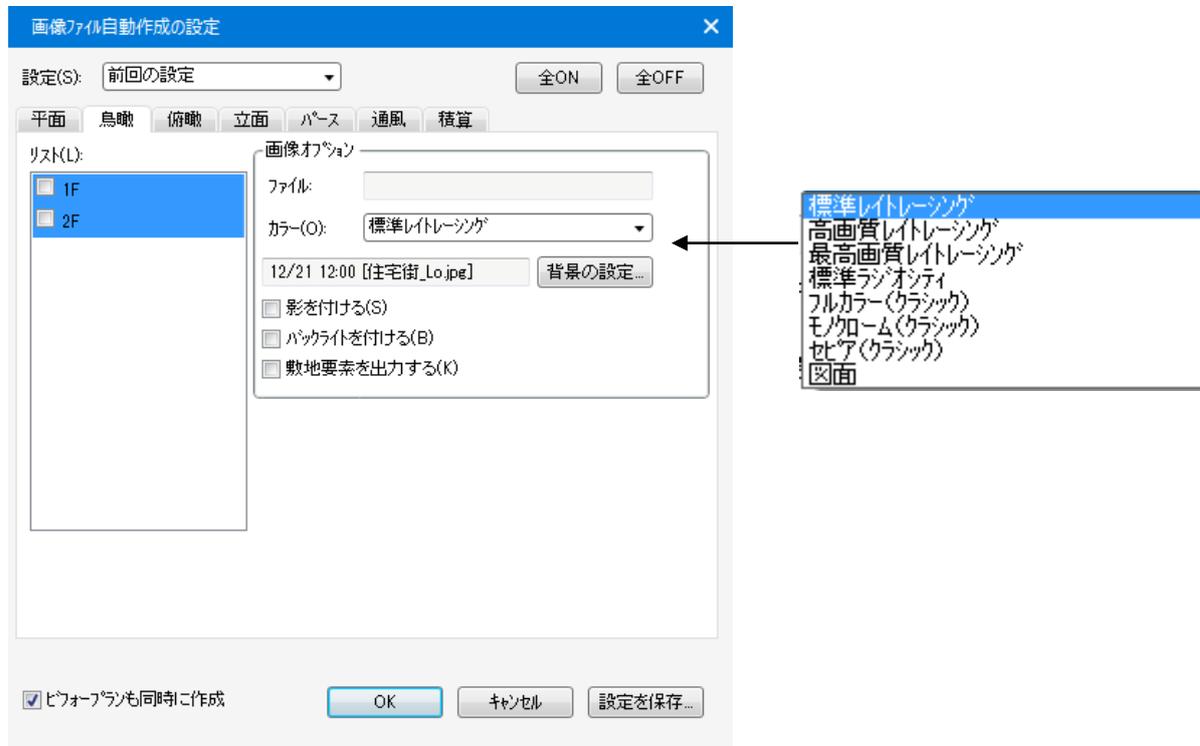


ここで白紙やテンプレートなどを選択し、画像配置や文字、線、ボックスなどの入力を行います。

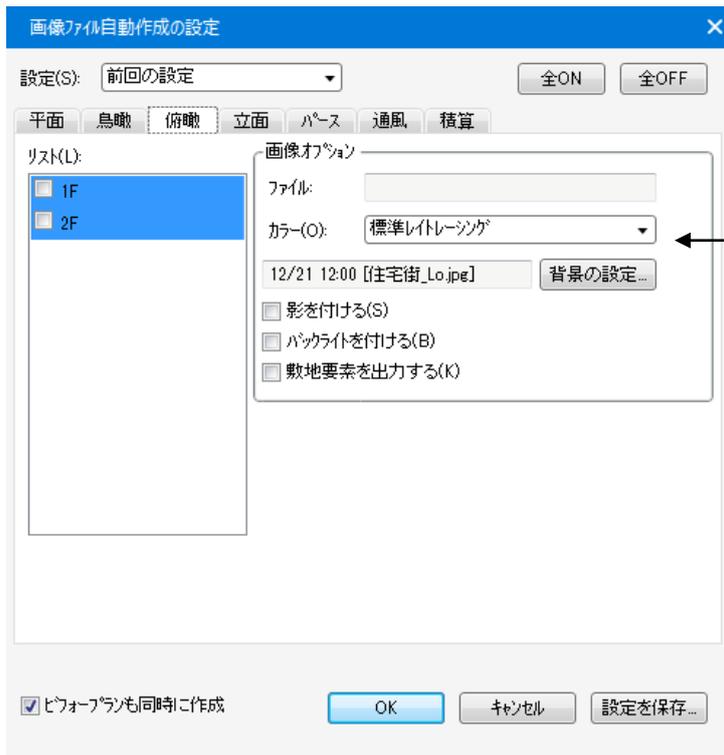
また、ここでテンプレート・保存データの削除、名称の変更も行えます。



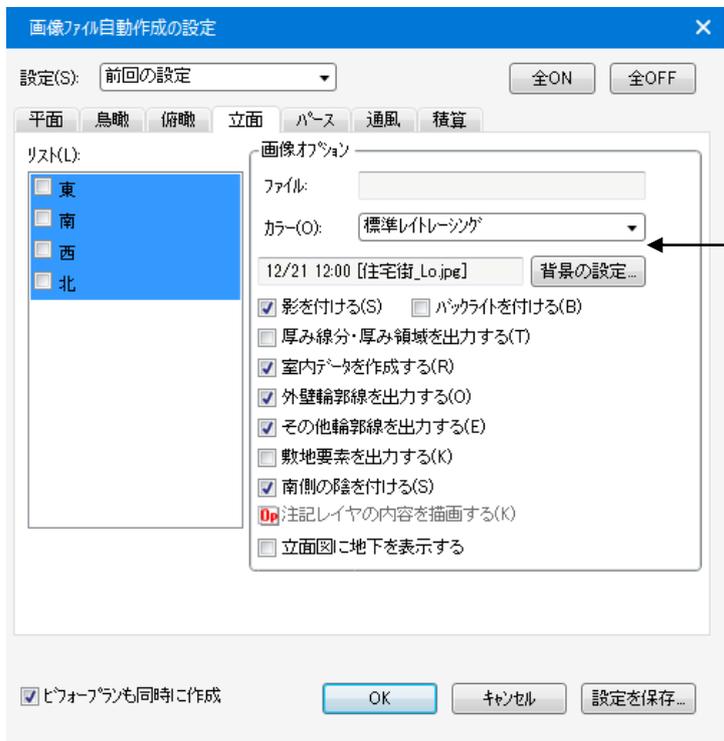
平面作成指示画面



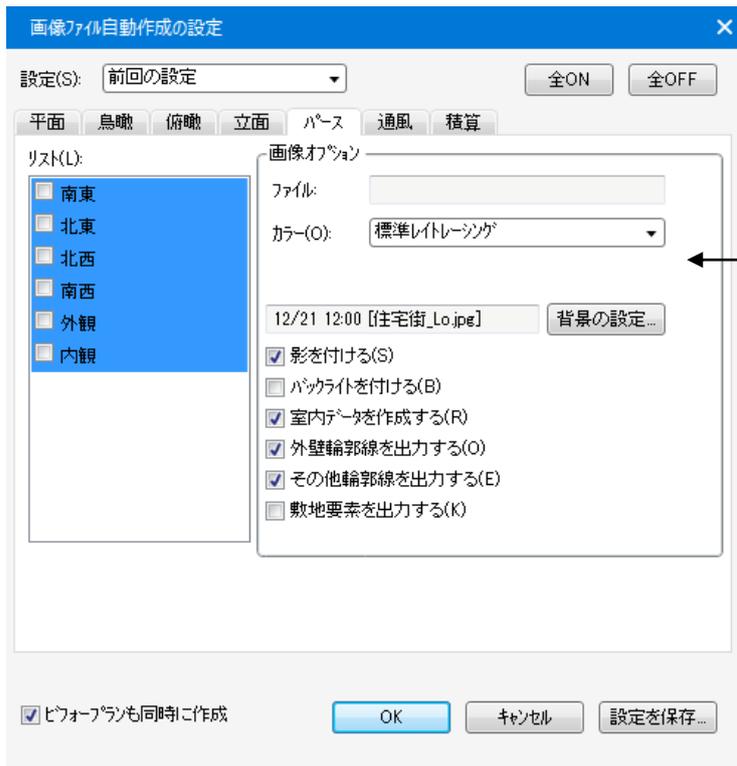
鳥瞰作成指示画面



俯瞰図作成指示画面

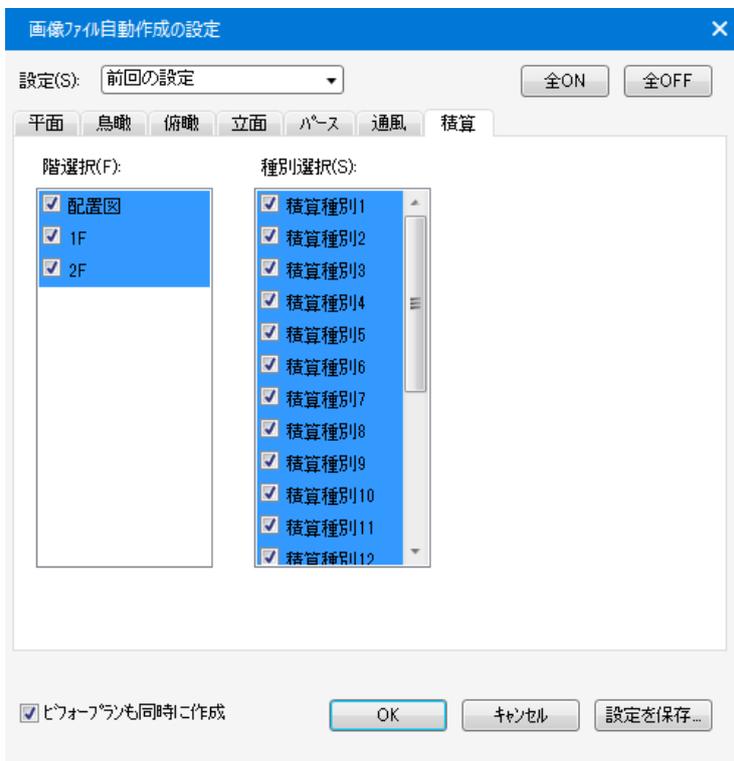


立面作成指示画面



標準レイトレーシング
 高画質レイトレーシング
 最高画質レイトレーシング
 標準ランゴシティ
 フルカラー
 モノクローム
 セピア
 図面

パース作成指示画面



積算作成指示画面

1-1) 共通の設定

平面、鳥瞰、俯瞰、立面、パースの区分毎に、画像作成の ON/OFF の設定を行います。初期値はすべて ON の状態です。

画像単位にオプション設定するのが基本ですが、すべて同一オプションに設定したい場合は、リスト欄を左マウスで範囲ドラッグしてから、オプション設定してください。

1-2) 下書線を最上位で描画 (平面)

入力されている下書線を最上位で描画します。

1-3) フォーマット・解像度・表示モード (平面図)

「JPEG フォーマット」と「SVG フォーマット」(Scalable Vector Graphics…ベクター画像) フォーマットの 2 種類と「解像度」、および「表示モード」として「フルカラー」、「図面 (線画)」、「図面 (壁塗つぶし)」の 3 種類から設定できます。平面を「JPEG フォーマット」で作成した場合、別紙の「補足資料レタッチ.doc」(画像データの簡易編集機能)での機能を利用した手書き風や水彩画風の画像データへの編集ができます。

1-4) カラー (鳥瞰、俯瞰、立面、パース)

「カラー」として 8 種類の設定が行えます。

1-5) 南側の影をつける (立面)

“南側の影をつける”を ON とすると、全ての立面図作成において視点側を南側 (明るい方向) として影付けをし、北側の立面図が全て影で出力されることがなくなります。OFF にすると、正確な影付けとなります。

1-6) 厚み領域を出力する (立面)

“厚み線分・厚み領域を出力する”を ON にすると、入力された厚み線分・厚み領域が表示されます。OFF にすると、表示されません。

1-7) 影をつける、敷地要素を出力する (鳥瞰、俯瞰、立面、パース)

“影付け”や“敷地要素出力”などの作成指示が行えます。また、ピフォープランの画像も同時に作ることも可能です。

1-8) 立面図に地下を表示する (立面)

“立面図に地下を表示する”を ON にすると、立面図に地下が表示されます。OFF にすると、表示されません。

2) メニュー

2-1) ファイル



ア) 新規作成

プレゼンボードを新規に作成します。

このメニューを押すと登録されたテンプレート名称の一覧が表示されます。

白紙以外のテンプレート名称を選択すると、画像を含めた自動レイアウトが行われます。

イ) 開く

作成したプレゼンボードを開きます。

ひとつの物件には複数のプレゼンボードが作成できます。

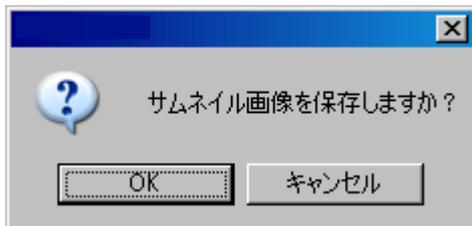
ウ) 上書き保存

作業中のプレゼンボードを保存します。

名前が付いていない状態の時は、名前を付けて保存のモードになります。

尚、保存するとサムネイル画像の保存確認ダイアログが表示されます。

このサムネイル画像は、本システムの物件管理画面で表示する画像となります。



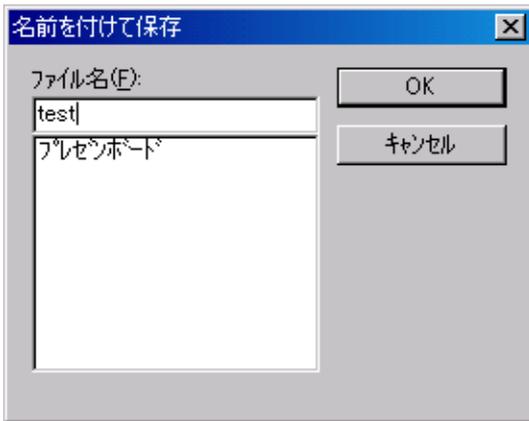
エ) 名前を付けて保存

名前を付けてプレゼンボードを保存します。

名前の入力時は拡張子(.prs)を付ける必要はありません。

下のリストから既存のファイルを選択すると上書き保存となります。

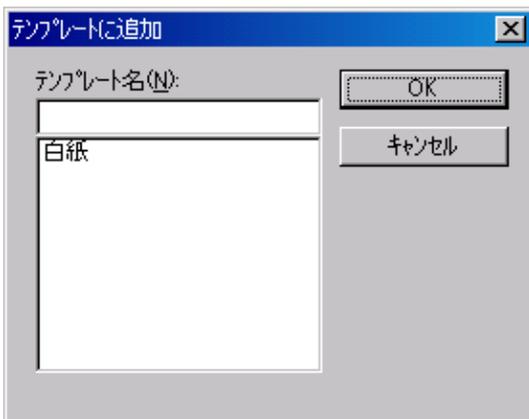
尚、上書き保存の場合と同様にサムネイル画像の保存確認ダイアログが表示されます。



オ) テンプレートに追加

ロゴなどを含む図面枠を作成し、画像配置がされた状態をテンプレートとしてマスター登録することができます。

下のリストから既存のテンプレートを選択すると上書きされます。



カ) 最新の図面データに更新

過去に作成したプレゼンボードの画像を最新の画像に更新します。

キ) 印刷

現在のプレゼンボードを印刷することができます。

注) 文字や四角、角丸四角など、各オブジェクトは、模様やグラデーション、透過といった表現が可能です。ただし、プリンターの性能上正しく印刷できない場合があります。

ク) 印刷プレビュー

印刷前にイメージを確認することができます。

この中で実際の印刷を行うことをお勧めします。

なお配置画面では、画像移動などを高速に行えるように、あえてビットマップ表現をしている関係であらく表示されていますが、この印刷プレビューでは実際の印刷イメージに近い形で表示が行われます。

ケ) 終了

プレゼンボードを終了し、メイン画面に戻ります。

2-2) 編集

編集(E)	ツール(T)	表示(V)
元に戻す(U)		Ctrl+Z
やり直し(R)		Ctrl+Y
切り取り(T)		Ctrl+X
コピー(C)		Ctrl+C
貼り付け(P)		Ctrl+V
削除(D)		Del
新しいページの作成		
作業ページの削除		
現在のページの情報を表示		

ア) 元に戻す

メイン画面操作と同じく、UNDO の意味であり、配置要素の入力、修正、削除などの状態遷移を元に戻せます。

イ) やり直し

メイン画面操作と同じく、REDO の意味であり、UNDO 結果を一つずつ取り消していきます。

ウ) 切り取り

要素を選択した後、このアイコンを押すと、切り取りできます。

エ) コピー

要素を選択した後、このアイコンを押すと、選択要素のコピーができます。

オ) 貼り付け

このアイコンを押すと、コピーした要素を貼り付けることができます。

カ) 削除

要素を選択した後、このアイコンを押すと、削除できます。

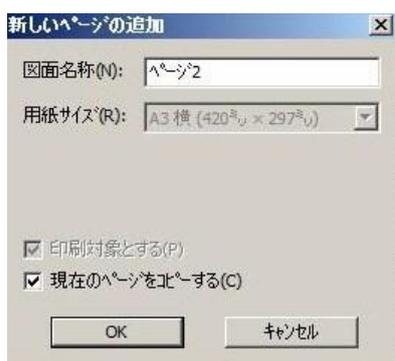
Delete キーと等価な働きをします。

キ) 新しいページの作成

ひとつのプレゼンボードを複数のページで構成することができます。

このアイコンを押すとダイアログが表示され、OK を押すとページが 1 ページずつ追加されていきます。

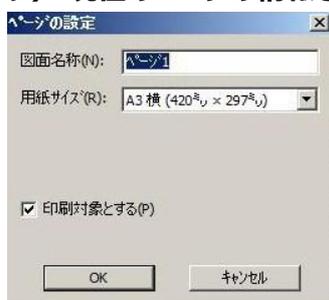
現行のページを元に作成することも可能です。



ク) 作業ページの削除

現行の作業ページを削除できます。

ケ) 現在のページの情報を設定



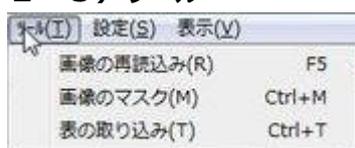
現在のページの情報を表示します

図面名称：タブ名称が表示されています。編集が可能です。

用紙サイズ：現在の用紙サイズが表示されています。変更も可能です。

印刷対象とする：現在のページを印刷する・しないを表示しています。

2-3) ツール



ア) 画像の再読み込み

メニュー選択時、設置されている画像を全て再読み込みします。

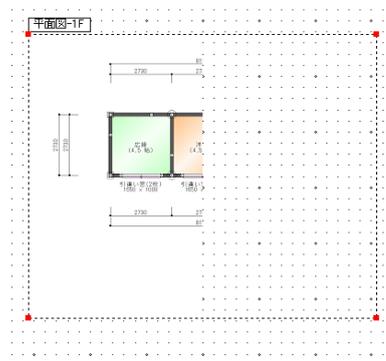
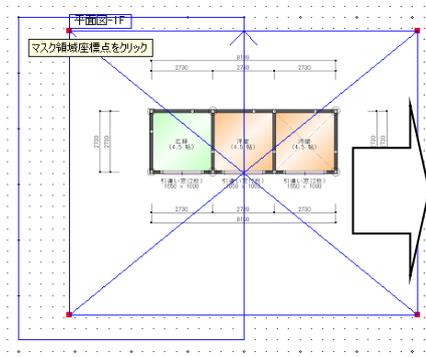
画像を外部アプリで編集した場合、本機能を利用して内容を更新します。

イ) 画像のマスキング

入力した画像について、一部のみ表示したい場合に利用します。対象となる画像を選択し、表示する部分を領域指定することで設定が完了します。マスク状態を解除する場合は、画像を選択した際に出るダイアログの「マスクの削除」機能を利用してください。

入力は矩形入力で行えます。

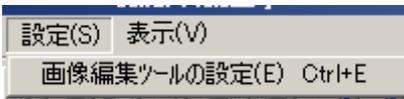
また、ボードの範囲外でもマスクが可能となります。



ウ) 表の取り込み

表要素で入力する為の表情報を、図面ファイルとして取り込みます。

2-4) 設定



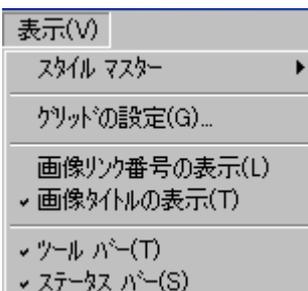
ア) 画像編集ツールの設定



ここでは、画像を修正する外部アプリケーションを指定し、画像をダブルクリックすることで、そのアプリケーションを起動し修正することができます。

外部アプリケーションが独自のファイル形式を持つ場合は、画像ファイル形式を指定することで設置した画像と同名のファイルを開くことができます。

2-5) 表示



ア) スタイルマスター

線や引出し線、文字などのスタイルを、名前を付けて登録しておくこと、後で便利に使用できます。



「箱」のスタイルマスター

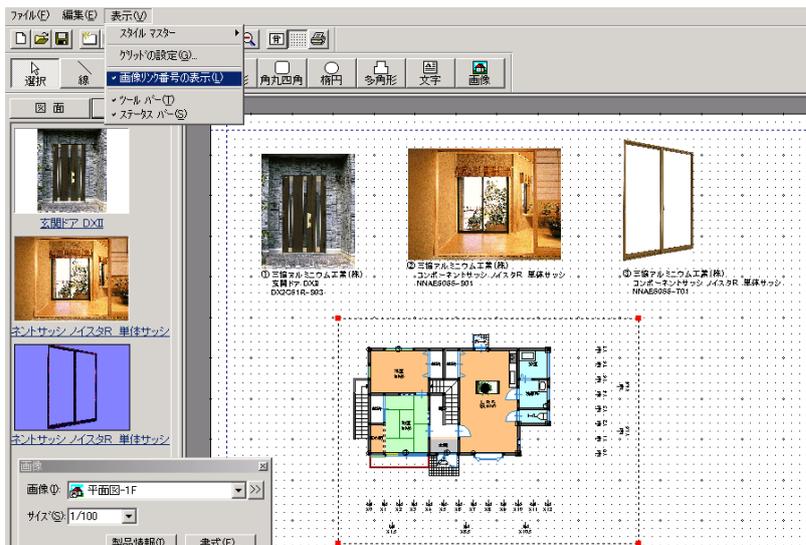
イ) グリッドの設定

グリッド間隔の設定が行えます。

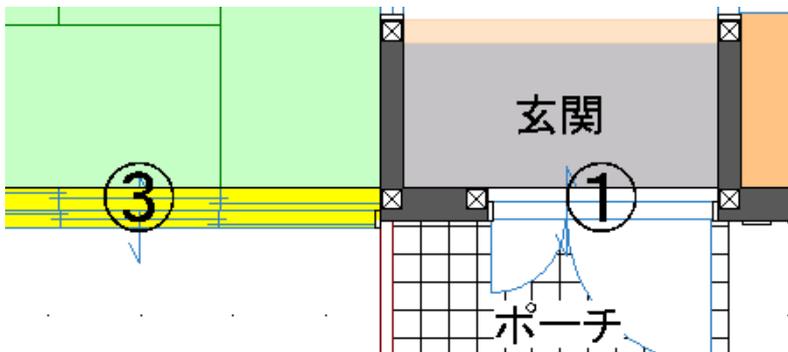


ウ) 画像リンク番号の表示

建具と設備に関する製品情報を平面図の周囲に配置した場合、関連するリンク番号を自動的に製品画像と平面図に同時に表示する機構が追加されています。



全体図





① 三協アルミニウム工業(株)
玄関ドア DXII
DX2C51R-S03



② 三協アルミニウム工業(株)
コンポーネントサッシ ノイスタR 単体サッシ
NNAE6066-S01

拡大図

3) オブジェクトの表示順



ボタンを使用することで、線、文字、画像、塗りつぶし図形の表示順を変更することができます。

ア) オブジェクトの自動ソート



ボタンが ON の場合、オブジェクトは以下の順でソートされます。

線 → 文字 → 画像 → 塗りつぶし図形

このボタンが OFF の場合は、



となり、選択されているオブジェクトの表示順を変更することができます。

イ) 最前面へ移動



ボタンを押下すると、選択されているオブジェクトが、最前面に表示されます。

ウ) 最背面へ移動



ボタンを押下すると、選択されているオブジェクトが、最背面に表示されます。

エ) 前面へ移動



ボタンを押下すると、選択されているオブジェクトが、1 つ前面に表示されます。

オ) 背面へ移動



ボタンを押下すると、選択されているオブジェクトが、1 つ背面に表示されます。

4) 背景レイヤー



背景レイヤーは通常テンプレートを作る時に使用します。

絶対変更されない文章や画像などを、このレイヤーに入力することで、間違って修正するミスを防げます。

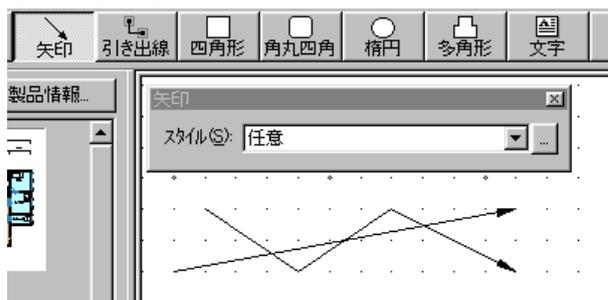
5) 要素の入力

5-1) 線



※Shift キーを押すと折れ線が入力できます。矢印、引出し線も同様です。

5-2) 矢印



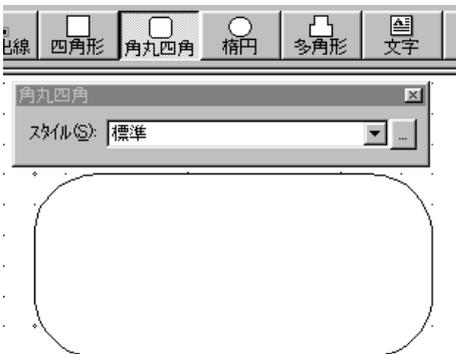
5-3) 引出し線



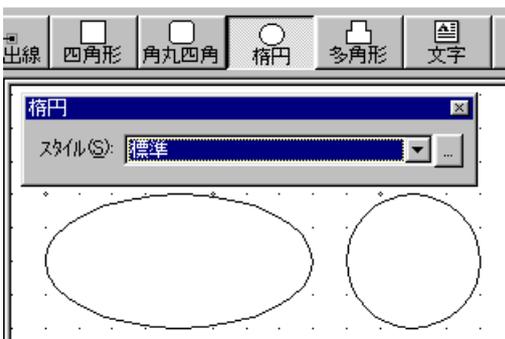
5 - 4) 四角形



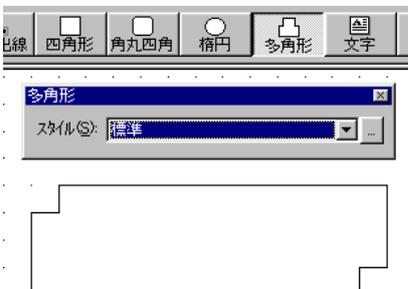
5 - 5) 角丸四角



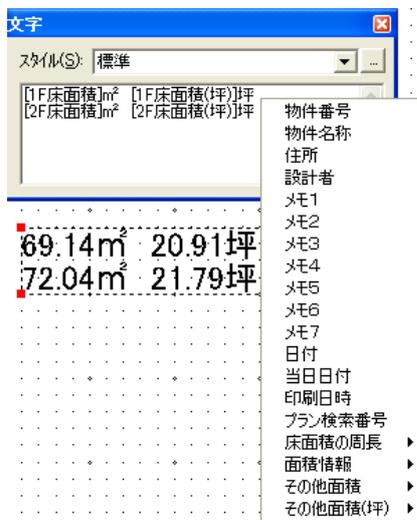
5 - 6) 楕円



5 - 7) 多角形



5-8) 文字



文字入力は複数行の入力が可能なほか、右マウスクリックで[物件名称]などのキーワードを挿入することにより、実物件の実際の文字列と置き換えることができます。

ただし文字表示枠が小さい場合は、文字列はすべて表示されません。

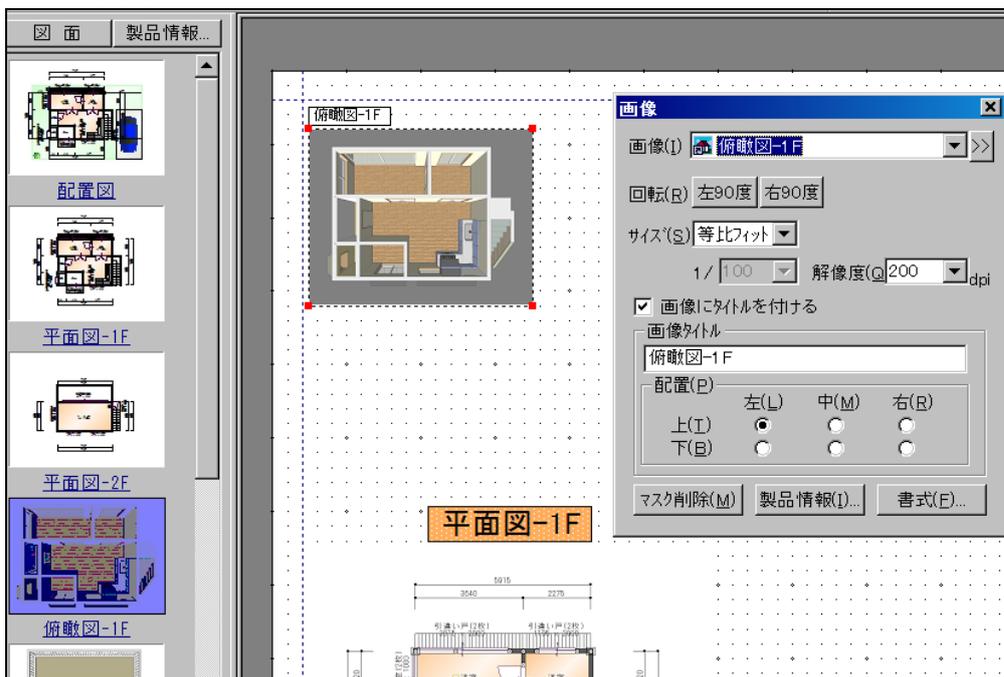
こうした場合は、文字を選択して表示枠範囲を広げてください。

テンプレートなどを作成する場合はあらかじめ文字表示枠を大き目に設定しておくことをお勧めします。

また「床面積」や「建築面積」などのキーワードを用いたテンプレートを作成しておくことで、物件に応じた面積値が表示されるようになります。

「印刷日時」を入力すると、現在の日付と時間が表示されます。画面の更新によって、印刷時間も更新されます。

5-9) 画像



通常は左欄に表示されている画像を配置します。

サイズを設定し、中心点入力を行います。

CD-ROM などの一般画像を配置する場合は、画像の横ボタンを押して画像を選択して配置します。

配置した後の移動やサイズ調整は、選択モードで行います。

また、配置した画像データが、「JPEG」や「ビットマップ (BMP)」のファイルですと、

画像をダブルクリックすることで、「レタッチ」(別紙の「補足資料レタッチ.doc」(画像データの簡易編集機能)を参照願います)で画像編集を行うことができます。



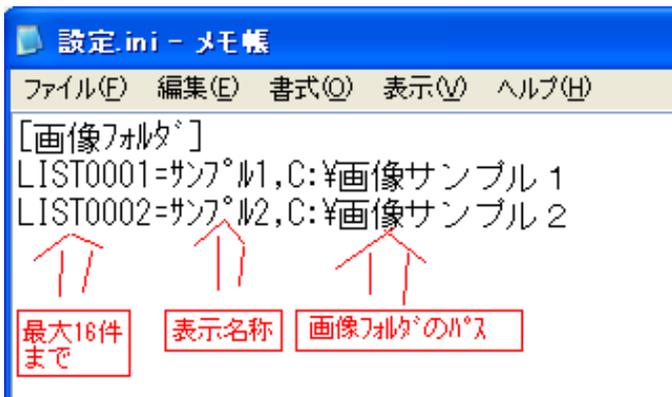
【画像フォルダの登録】

頻繁に使用する画像フォルダを  を押した時に表示するメニューに登録することが出来ます。

設定方法は、以下の通りです。

[ini ファイルの設定]

¥MASTER¥ﾌﾟﾚﾝﾄﾞﾎｰﾄﾞ¥設定.ini を開き、登録したい画像フォルダを下図のように設定します。



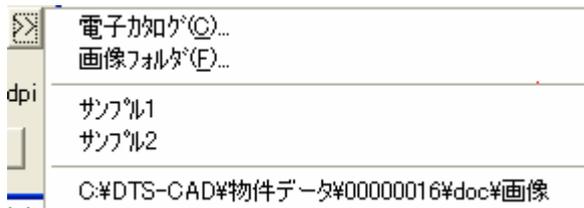
※区切り記号にカンマ(,)を使用しているため、表示名称・画像フォルダの名称にカンマ(,)を入れないで下さい。

※ファイルの初期状態について、サンプル表記をしています。使用する場合は、行頭のシングルクォーテーション(')を消して、必要な行を編集・追加して使用してください。

※登録できる数は最大 16 件です。

[表示例]

上記の設定を行うと >> を押した時に下図のように表示されます。

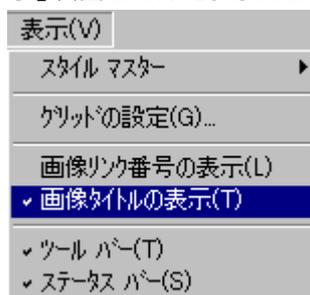


※最後の行のメニューについては、前回使用したフォルダが表示されるようになっています。プレゼンボードを起動中に最後にアクセスした画像フォルダがある場合、こちらに表示されます。

ア) 画像タイトルの表示

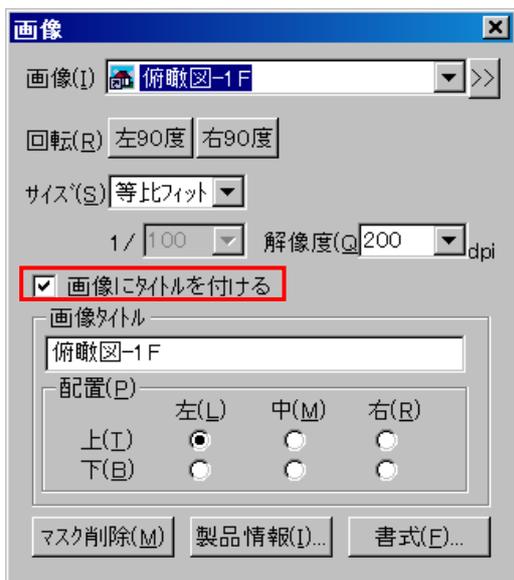
配置した画像にタイトルを表示することができます。

全ての画像について一括でタイトルの ON/OFF を切り替える場合には表示メニューの「画像タイトルの表示」項目を ON にしてください。

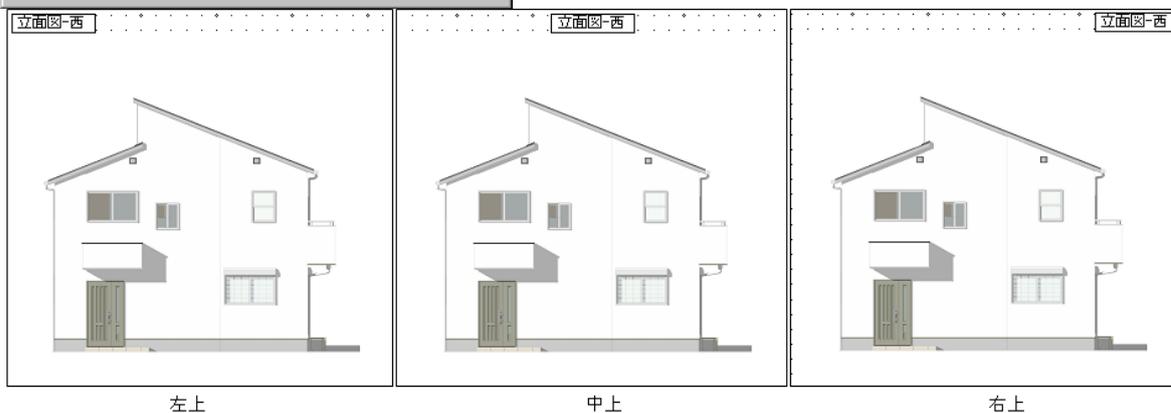
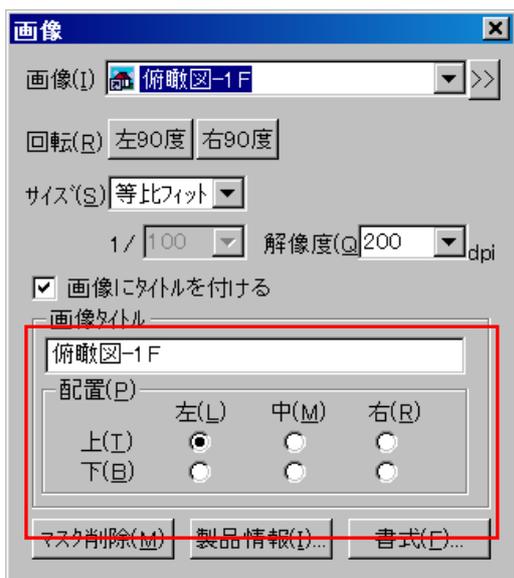


各画像ごとにタイトルの ON/OFF を切り替える場合には画像を選択した際に出るダイアログの「画像に

タイトルを付ける」項目を ON にしてください。



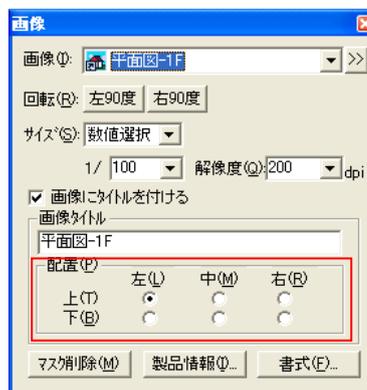
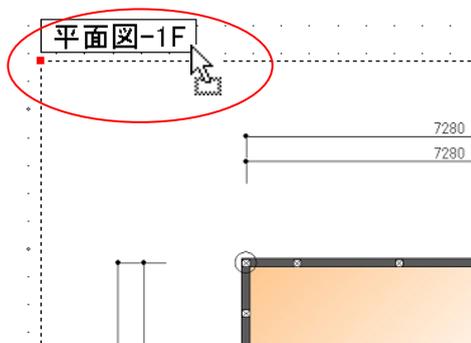
各画像のタイトル名称、書式、タイトルの配置位置は画像を選択した時に出力されるダイアログで編集できます。



イ) 画像タイトルの位置調整

CAD 画面での文字移動と同様に、画像の選択時に対応するタイトルをドラッグ & ドロップすることで位置を調節できます。

画像タイトルの配置を変更することで、位置の初期化を行います。



5-10) 表



名称	本数	
樁	北東	1本
金木犀	南東	2本
紫陽花	玄関	3本

表要素の元データとなる DXF/JWW ファイルを「表の取り込み」機能で作成し、表要素として配置します。DXF/JWW ファイルは Excel ファイルで作成した表をベースとして作成します。配置した後の移動やサイズ調整は、選択モードで行います。

表要素のデータ元となる Excel ファイルの編集は「元ファイル編集」機能を利用します。

編集した Excel ファイルの情報を表要素に反映する場合は「再取込」機能を利用します。
タイトルの編集・書式変更は、画像要素のタイトルと同様に設定・変更できます。

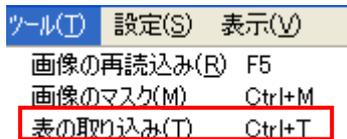
入力する DXF/JWW ファイルは、以下のフォルダ内から選択します。

(マスターフォルダ) ¥prs-image¥表取り込み¥

上記フォルダ内であれば、階層で管理することも可能です。

※作成した DXF/JWW ファイルを移動・コピーする場合は、
必ず Excel ファイルを同じフォルダに格納してください。

【表の取り込み】



表要素の元データとなる DXF/JWW ファイルは、「表の取り込み」機能で作成します。



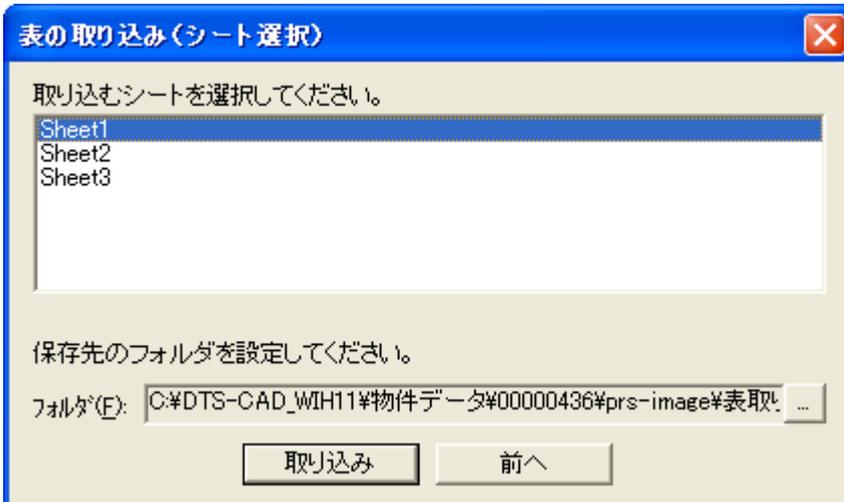
取り込み対象となる Excel ファイルを選択し、ファイル形式を【DXF/JWW】から指定します。

※エクセル、ワードファイルに読み込みパスワードを設定しないで下さい。

※稀にワード・エクセル側でランタイムエラーとなる場合があります。

この場合再出力してください。

※本機能では、印刷範囲を指定したシート内の情報を図面ファイルに変換します。その為、取り込む Excel ファイルに印刷範囲を指定する必要があります。設定方法は、【4.設計図書出力 - 2)出力詳細 - 2-3)Excel⇒図面ファイル変換】を参照してください。



表を作成したシートを選択し、保存先フォルダを指定します。

取り込み完了後は、作成した DXF/JWW ファイルを元情報とした表要素の入力に遷移します。

【テンプレートとして利用】

表要素の入力時のみ、DXF/JWW ファイルの参照先として以下のフォルダも選択できます。

(マスターフォルダ) ¥ﾌﾟﾚﾝﾁﾞｰﾙ ¥表取り込み¥

上記フォルダ内の DXF・JWW ファイルを指定して入力した場合、

「テンプレートの作成」及び「プレゼンボードの保存」で入力したファイルを引き継ぎます。

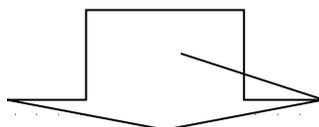
※作成した DXF/JWW ファイルを移動・コピーする場合は、必ず Excel ファイルを同じフォルダに格納してください。

名称	本数	
樺	北東	1本
金木屋	南東	2本
紫陽花	玄関	3本
	test	

物件フォルダのファイルを入力

名称	本数	
樺	北東	1本
金木屋	南東	2本
紫陽花	玄関	3本

マスターフォルダのファイルを入力



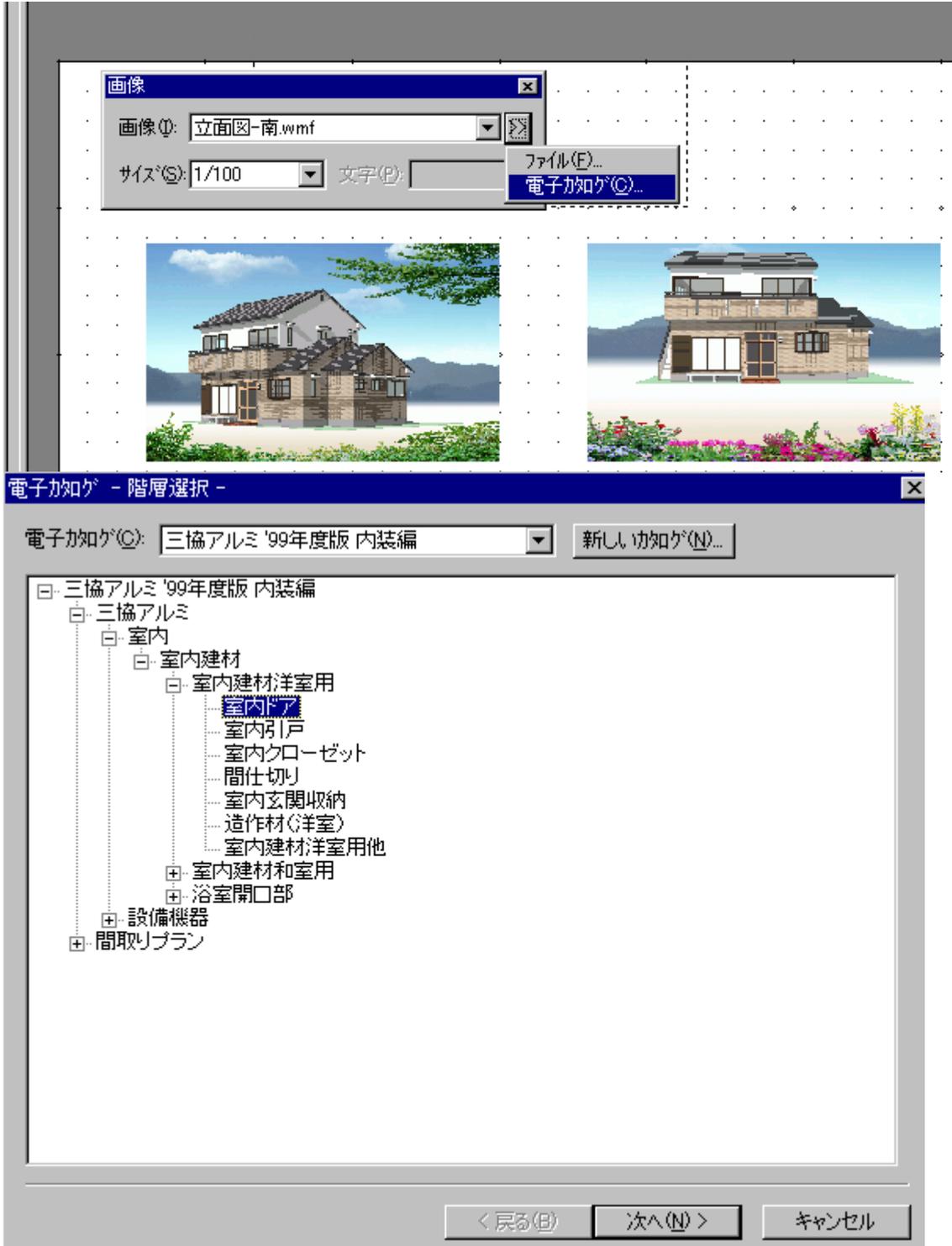
表サンプル_Sheet1.dxf		
------------------	--	--

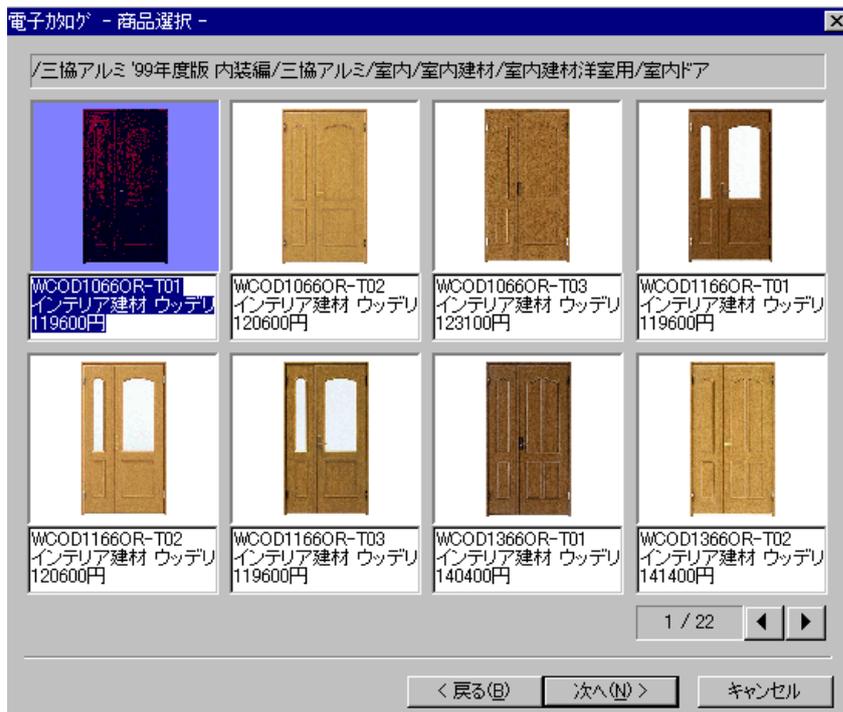
テンプレートの作成後、別物件で利用

名称	本数	
樺	北東	1本
金木屋	南東	2本
紫陽花	玄関	3本

6) 電子カタログ

凸版メディアプレス形式のCDがある場合、画像の横ボタンを押して電子カタログを選択します。
以後の操作は製品情報とのリンクと同じやり方で画像を引き当てます。





商品一覧から希望の製品を選択します。



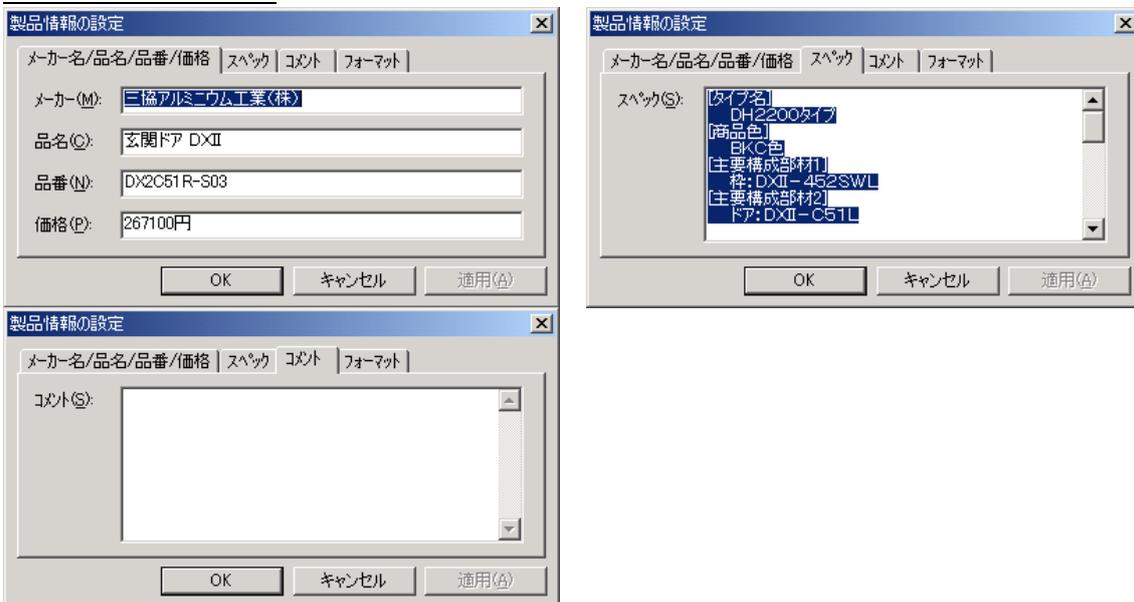
完了ボタンでプレゼンボードの画像配置モードになります。

7) 画像情報の設定



画像ダイアログの「製品情報」ボタンを押して下さい。
製品情報の設定ダイアログが表示されます。

製品情報設定ダイアログ



メーカー名や、品名、価格など、製品情報に関する文字列を設定することができます。メディアプレスから画像を選択した場合、自動的にそれぞれの文字列が設定されます。

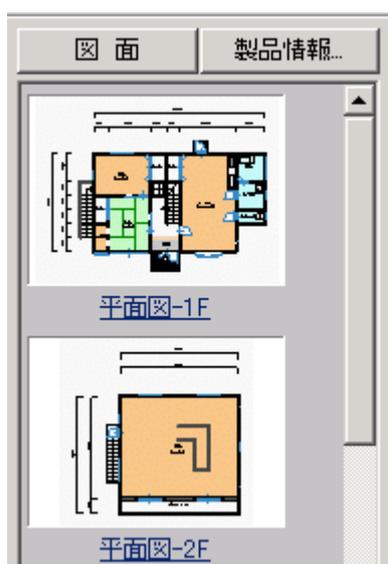


実際に画面に表示する文字はフォーマットのページで設定します。

エディットボックス内で右クリックをするとキーワードがポップアップメニューで表示されますので、必要なキーワード選択して追加してください。

また、キーワード以外でも直接文字を打ち込むこともできます。

左欄の画像切り替え

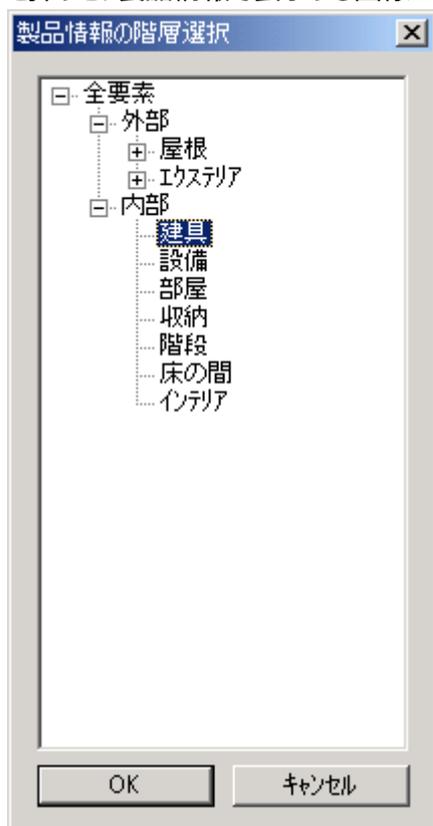


図面モード



製品情報モード

左欄の上にある、図面ボタンと製品情報ボタンで表示モードを切り替えることができます。製品情報ボタンを押すと、製品情報で表示する画像の絞込みが行えます。



画像サイズの変更



文字コンボボックスのリストを編集するか、数値コンボボックスのリストを編集 or テキストの値を直接入力することにより、画像サイズが更新されます。

文字コンボボックスリスト：等比フィット、縦横フィット、数値選択

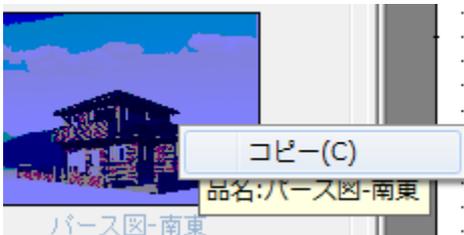
数値コンボボックスリスト：30、50、100、200、300

※数値コンボボックスの編集は文字コンボボックスで「数値選択」が選択されている時に限り編集が可能です。

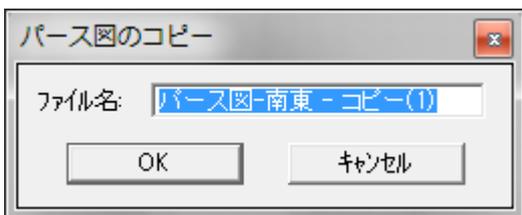
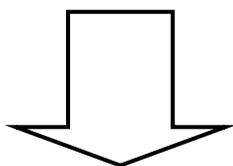
8) 画像のコピー

プレゼンボードで出力したファイルをコピーできます。

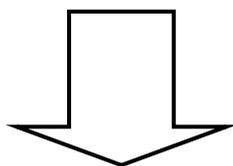
画像編集をする際に、編集前の画像は残しておきたい場合に利用する事が出来ます。



コピーしたい画像を右クリックすると
コピーメニューが出てきます。



コピー先のファイル名を指定します。



3-2. 設計図書

設計図書出力は、Professional で使用できる機能です。

Professional を購入した場合、出力メニューに設計図書出力のメニューが現れます。

1) 概要

設計図書出力は確認申請レベルの図面一式が DXF 形式で一括出力され、レイアウト機能を使って、図面レイアウトを行える機能です。

以下に、出力する図面の種類と各図面の出力に必要な要素を一覧表示します。

必要要素が複数ある場合は、最低ひとつが入力されていれば出力されます。

出力図面一覧

図面名	必要要素	備考
敷地図	敷地	
配置図	敷地、壁、部屋	
平面図	部屋	階ごとに出力 該当階の他に下屋、下階の外周線、屋根勾配も出力
屋根伏図	屋根	
立面図	部屋、壁、屋根	東西南北の4面出力 「オプション」で寸法オンオフあり
断面図	断面指示点	X方向、Y方向の2面出力
平面詳細図	部屋	階ごとに出力 該当階の他に下屋、下階の外周線、屋根勾配も出力
展開図	部屋	展開指示
建具表	建具	
天井伏図	部屋	
基礎伏図	基礎、スラブ、土間コンクリート、コンクリートブロック	
構造伏図	構造材	階。小屋ごとに出力
構造平面図	耐力壁	階ごとに出力
設備図	設備	
敷地求積	敷地	
金物凡例	耐力壁	
1/4床面積図	部屋	階ごとに出力、求積根拠表も同時に出力
見付面積図	部屋、壁、屋根	求積根拠表も同時に出力
軸組計算根拠表	耐力壁	

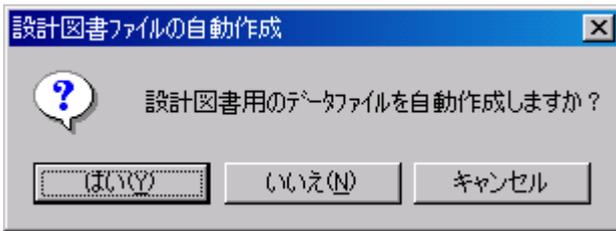
偏心率計算根拠表	耐力壁	
金物計算根拠表	耐力壁	
採光断面図	建具要素の設計図書出力チェックボックスが ON	
排煙断面図	建具要素の設計図書出力チェックボックスが ON	
ALVS 表	部屋	
敷地求積図	敷地	求積根拠表も同時に出力
建築面積図	部屋	求積根拠表も同時に出力
床面積図	部屋	階ごとに出力、求積根拠表も同時に出 力
軸組断面図	軸組切断線	軸組切断線ごとに出力
矩計図	部屋	
仕上げ表	部屋	外部仕上表、内部仕上表
水平構面伏図	構面、火打(室内階段、吹き 抜け、バルコニー)	階ごとに出力
柱壁伏図	柱、耐力壁、準耐力壁	階ごとに出力
有効開口部	敷地、部屋、建具、壁	採光チェックで有効な開口の図と表を出 力
壁量床面積	部屋	壁量計算から算出する床面積図と表を 出力
性能チェックシート	部屋、壁、耐力壁、準耐力 壁、柱、金物、通り芯、構面	構造の安定の計算結果を住木センター の「性能表示チェックシート」形式で出力
フリーレイヤ	フリーレイヤ	
部屋床面積表	部屋	階ごとに出力
シックハウス計算書	シックハウス換気計算設定	
斜線計算根拠式	斜線情報	斜線 No 毎に出力

2) 出力詳細

2-1) 出力方法

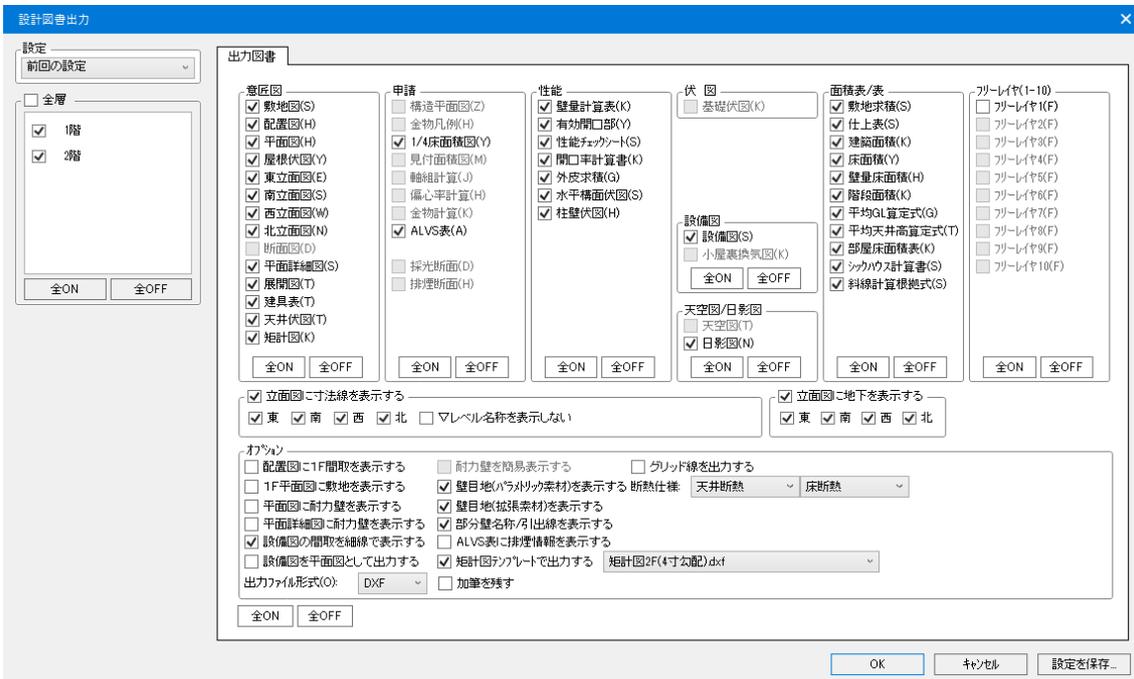
出力メニューから「設計図書出力」を選択すると、設計図書用の図面データを作成するかの間合せ画面が表示されます。

「はい」を選択すると、設計図書出力ダイアログへと移行します。「いいえ」を選択した場合は図面を作成せずに、レイアウトボードの初期画面が起動します。



設計図書出力ダイアログでは、出力する図面を選択します。ここで、必要な要素が入力されていない場合には、下図のようにグレーで表示されて出力不可となります。

通常は、図面同士の整合性を取るため、各図面の必要要素を入力して図面を全て出力してください。また、平面図や床面積のように層ごとに出力される図面に関しては、矩計情報でコピー層に設定されている層は出力されません。



必要な図面にチェックを入れて OK ボタンを押すと、出力が開始されます。

画面下に現在中のファイル名と進捗状況プログレスバーが表示されます。

ファイルの出力先は、F9 キーを押下して開かれる当該物件の doc フォルダの下の「設計図書」フォルダに出力されます。

※ 出力時間はパソコンの性能にも依存します。

特に展開図などの部屋数や、建具の数量が多ければ作成に時間がかかります。

※ 立面図にてシンボルを出力する場合、以下のような準備が必要となります。

1. 「インテリア\$\$」フォルダ内にシンボルと同名のフォルダを作成、フォルダ内に dxf ファイルを 4 つ（4 方向分）格納して下さい
2. dxf ファイル名は「(シンボル名)_(A~D).dxf」として下さい。
A~D には立面図の方向が対応しており、それぞれ「東側：A」、「南側：B」、「西側：C」、「北側：D」となっております

- 例)…¥DTS-CAD¥MASTER-NEW¥インテリア\$\$\$¥TV セット¥TV セット_A.dxf
 …¥DTS-CAD¥MASTER-NEW¥インテリア\$\$\$¥TV セット¥TV セット_B.dxf
 …¥DTS-CAD¥MASTER-NEW¥インテリア\$\$\$¥TV セット¥TV セット_C.dxf
 …¥DTS-CAD¥MASTER-NEW¥インテリア\$\$\$¥TV セット¥TV セット_D.dxf

2-1-1) オプション

・配置図に1F間取りを表示する

オンにすることで配置図に1Fの間取りを追加表示します。

・1F平面図に敷地を表示する

オンにすることで平面図に敷地を追加表示します。

・平面図に耐力壁を表示する

オンにすることで平面図に耐力壁を追加表示します。

・平面詳細図に耐力壁を表示する

オンにすることで平面詳細図に耐力壁を追加表示します。

・耐力壁を簡易表示する

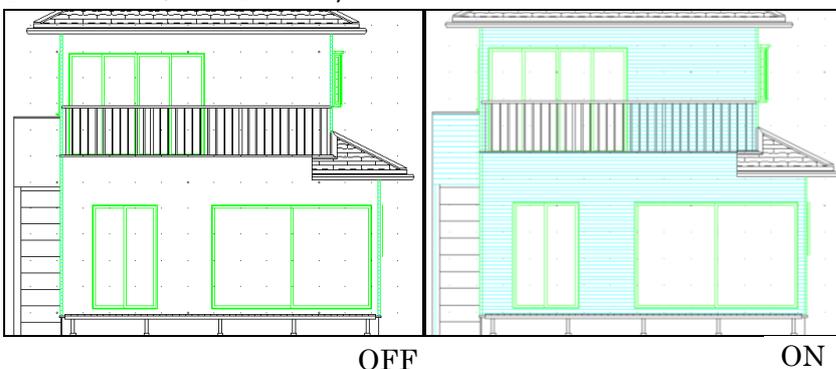
オンにすることで耐力壁の表示を簡易表示にします。

・壁目地（パラメトリック素材）を表示する

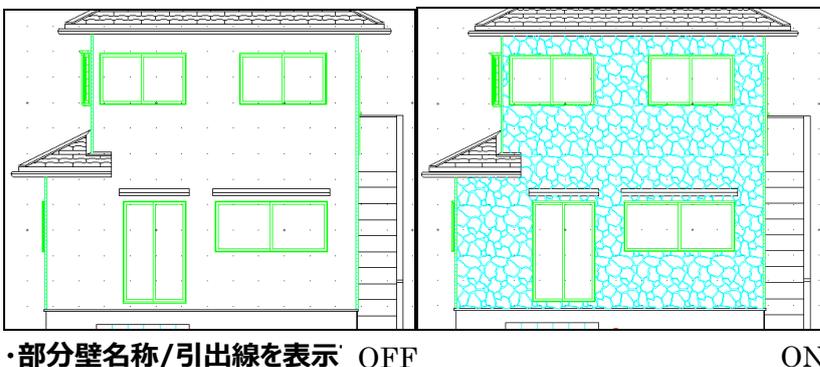
・壁目地（拡張素材）を表示する

オンオフを切り替えることで壁目地のハッチング表示を制御します。

【パラメトリック素材の表示 ON/OFF】



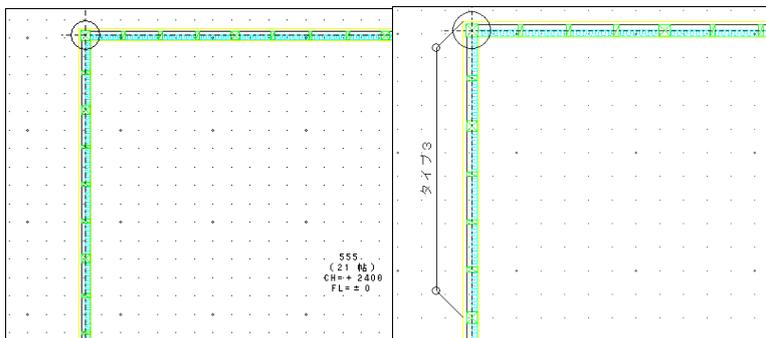
【拡張素材の表示 ON/OFF】



・部分壁名称/引出線を表示 OFF

ON

オンオフを切り替えることで部分壁の名称、引出線の表示を制御します。



・注記レイヤの内容を表示する OFF

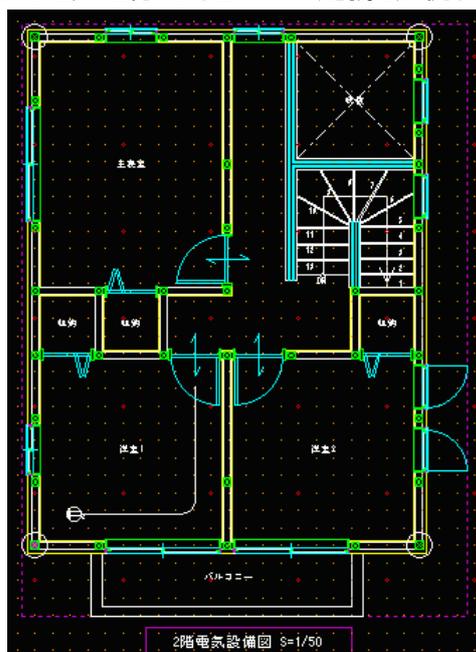
オンオフを切り替えることで注記レイヤの内容の表示を制御します。

(※
※

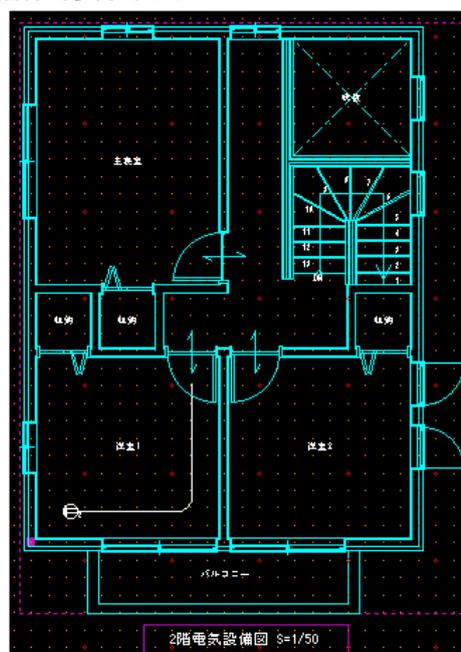
・設備図の間取を細線で表示する

オンオフを切り替えることで設備図の間取要素の表示を制御します。

このチェックを付くけるとマスター定義を無視して細線で表示します。



間取細線 OFF



間取細線 ON

・立面図に地下を表示する

オンにすることで立面図に地下を追加表示します。

・矩計図テンプレートで出力する

既存の DXF テンプレート出力と自動出力を切替え、どちらでも出力可能とします。

自動出力時は「矩計図テンプレートで出力する」チェックボックスを OFF にし、出力します。テンプレート出力時はチェックボックスを ON にしてテンプレートを選択します。

・設備図を平面図として出力する

ON にすると設備図の間取り部分を平面図として出力します。

OFF にすると平面詳細図として出力します。

2-2) JWW出力

設計図書で、JWW 形式を選択して図面出力できます。

また、従来までは出力を行うと図面は上書きされておりましたが、JW-CAD の F グループを加筆レイヤとしてとらえ、F グループに入力したデータを残すことができるようになりました。

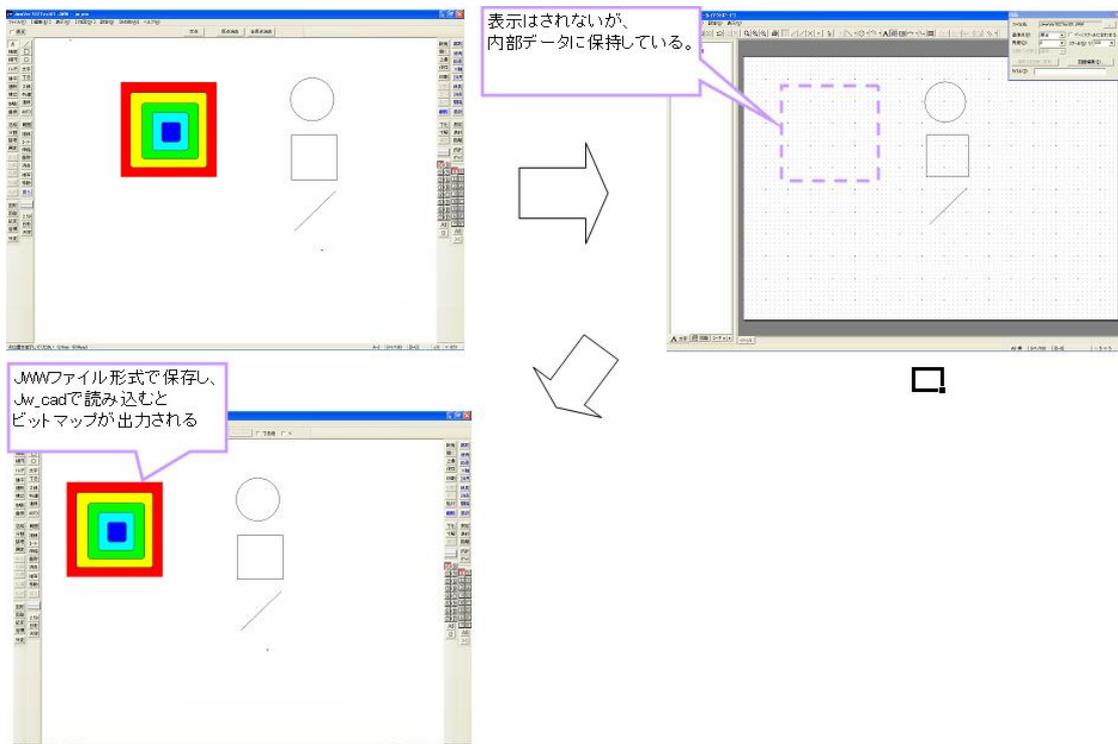
CAD 入力画面でも、「画像の保存」から、JWW 形式に出力することができます。

出力フォーマットバージョン：7.02

動作確認：7.02

※補足

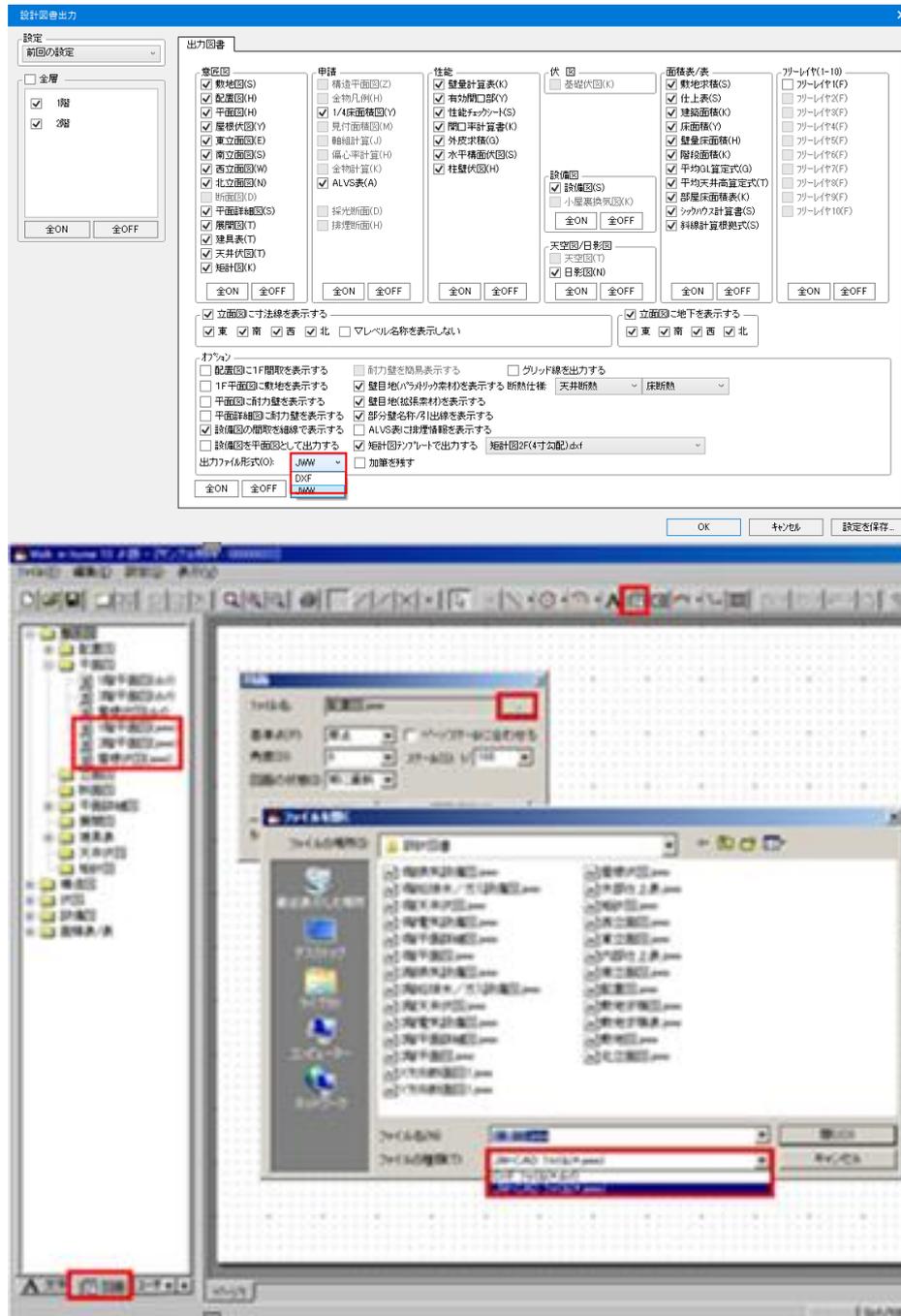
JW-CAD では 7.02 バージョンアップによりビットマップの画像ファイルを同梱画像にすることができます。本システムでは同梱画像の表示はしませんが、内部でデータを保持し JWW ファイルに保存します。そのため JW-CAD で画像ファイルが同梱された図面を作成、その図面を本システムで読み込み JWW 形式で保存した後、再度 JW-CAD で開いた場合内部で保持されていた画像も表示されます。



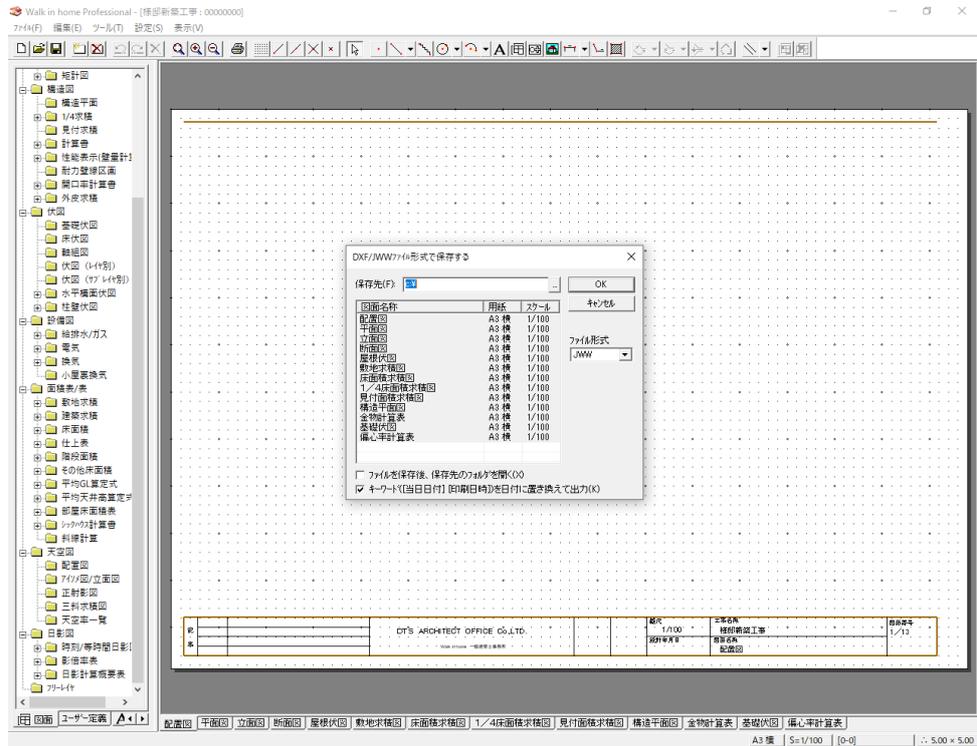
ア) 設計図書出力 (JWW 形式)

設計図書出力設定で、JWW 形式と DXF 形式を選択して図面出力できます。

設計図書出力の図面選択タブ・図面要素で選択することができます。



また、設計図書出力で保存についても、JWW 形式と DXF 形式の選択ができます。

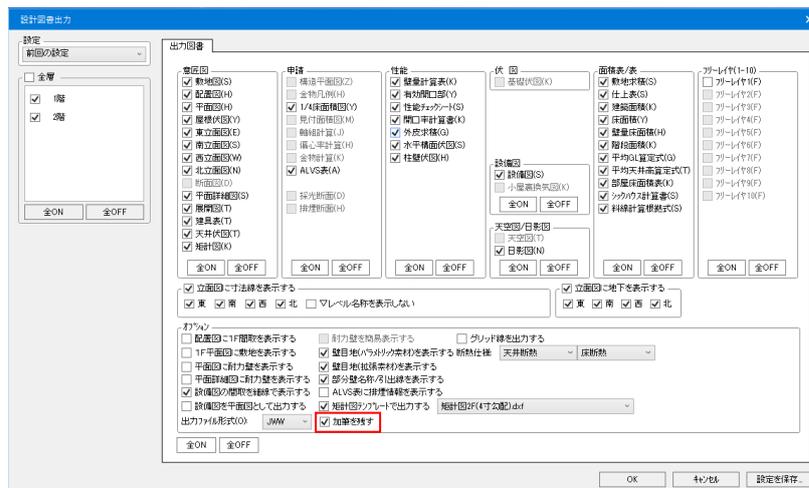


イ) 加筆を残す (JWW 形式/DXF 形式)

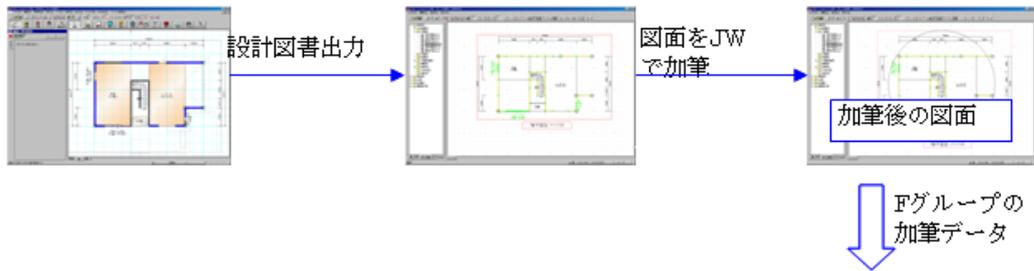
JW-CAD の F グループレイヤで加筆した文字・線分などのデータを、次回の設計図書出力時に反映させることができます。

設計図書出力設定で「加筆を残す」にチェックを付けて出力した場合は、CAD から出力した図面に前回図面の F グループのデータを合成して出力されます。

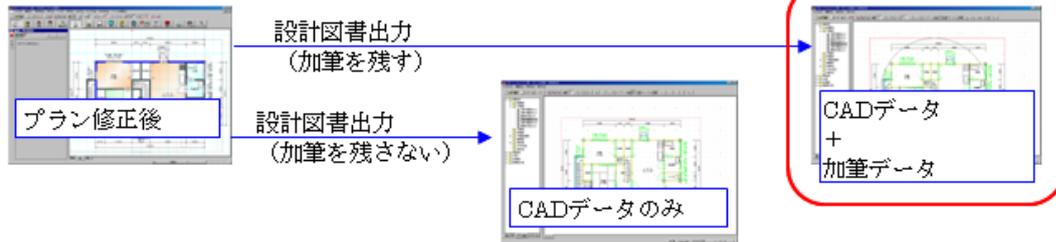
既存レイアウトボードから出力する場合は、「最新の図面に更新」を実行することにより、最新図面 + 前回図面の F グループのデータが反映されます。



【設計図書出力（前回）】



【設計図書出力（今回）】



2-3) Excel⇒図面ファイル変換

Excel ファイルから図面ファイルに変換します。

性能表示のエクセル出力（性能表示チェックシート）を編集後、図面ファイルに再変換することも可能です。

また、ご使用の凡例等の表を図面ファイルに変換が可能です。

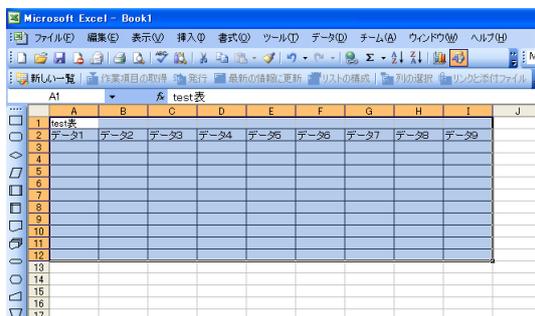
・変換元 Excel ファイルの印刷設定方法

本機能では、印刷範囲を指定したシート内の情報を図面ファイルに変換します。

その為、Excel 変換を行う Excel ファイルに印刷範囲を指定する必要があります。

1) 印刷範囲の選択

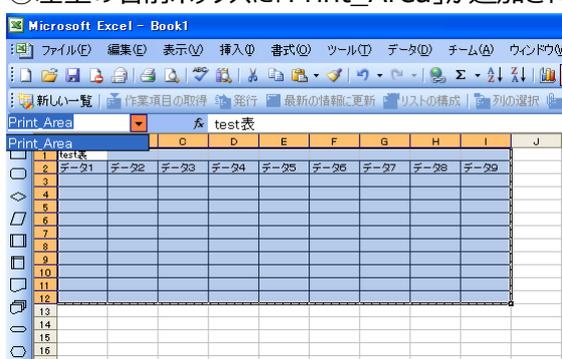
①Excel 変換を行う Excel ファイル内の、変換したいセルを範囲選択します。



②ファイル⇒印刷範囲⇒印刷範囲の設定 を選択します。



③左上の名前ボックスに「Print_Area」が追加されていれば設定完了です。

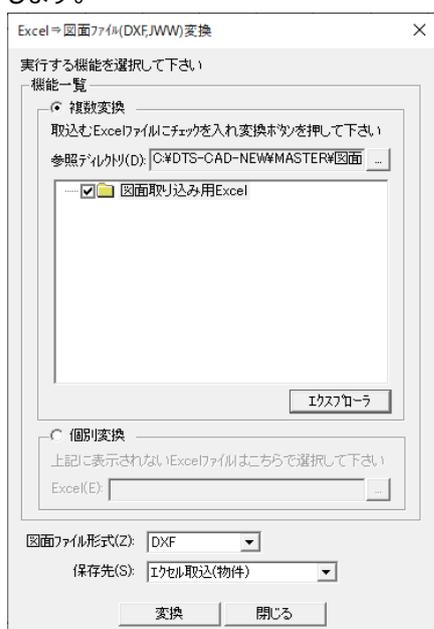


・変換ダイアログ

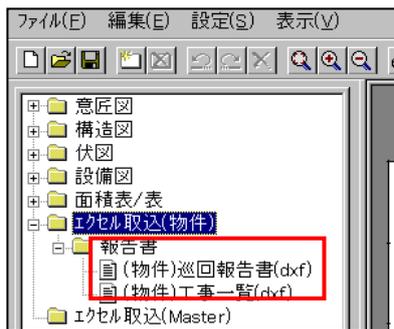
Excel 変換を行う Excel ファイルを指定します。

図面ファイル形式を「DXF」か「JWW」から指定します。

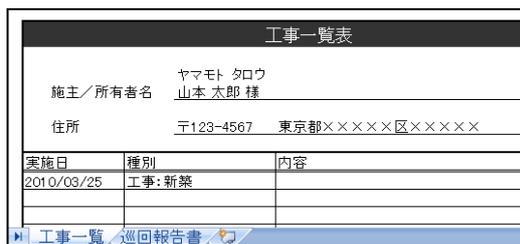
保存先図面ファイルの保存先を「物件データ」か「マスターデータ」か「Excel ファイルと同じ場所」から指定します。



・変換後の画面

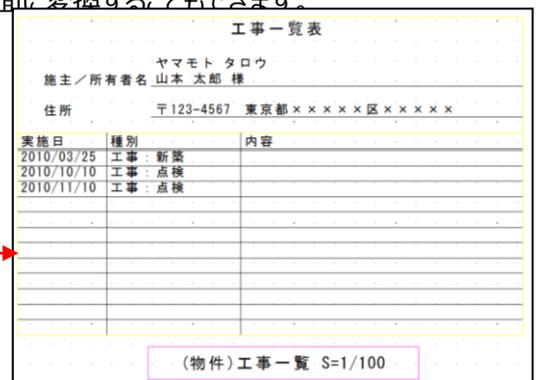
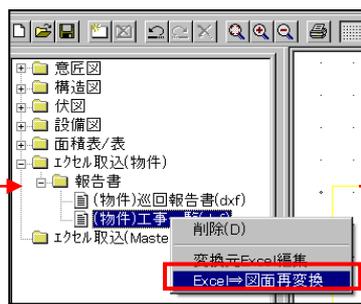
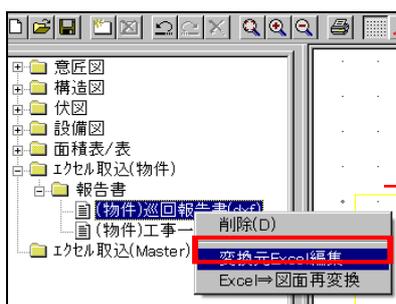


(※変換後の Excel ファイル)



•Excel ファイルの編集と図面の再変換

変更後の Excel ファイルを編集し、編集した Excel ファイルを再度図面に変換することもできます。



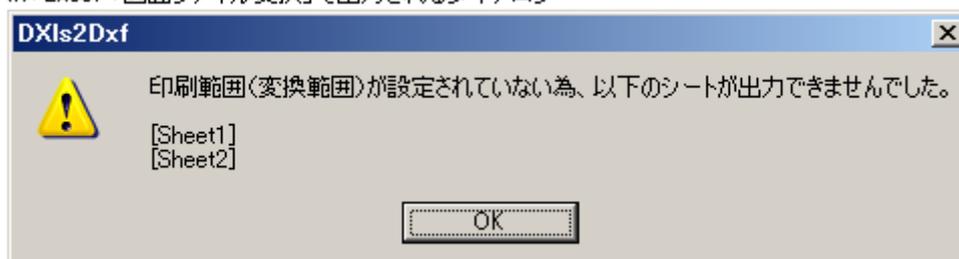
•印刷範囲

変換時、Excel 内の全シートの中で印刷範囲が設定されているシートのみを変換します。

Excel ファイルの各シートに印刷範囲が設定されていない場合には変換されないシート名が表示されます (1)。

Excel⇒図面再変換で印刷範囲が設定されていない場合も同様に表示します(2)。

(1)「Excel⇒図面ファイル変換」で出力されるダイアログ



②「Excel⇒図面再変換」で出力されるダイアログ



※Excel の変換できない制約事項

- ・印刷範囲が設定されていないシートは変換できません。
- ・変換できない情報
- ・フォント関連：フォント名、斜体、太字、下線、取り消し線、上付き・下付き、文字色
- ・配置関連：横配置（両端揃え、均等割り付け、選択範囲内で中央、繰り返し）、縦配置（両端揃え、均等割り付け）、折り返して全体表示、縮小して全体表示、文字の方向（角度指定）
- ・罫線関連：二重線、一番細かい点線（実線扱いされるのは仕様）、線色
- ・その他：図形類（画像データ、オートシェイプ、クリップアート等）、セルの塗りつぶし
- ・文字の縦書きについて、エクセルのセルの書式設定で角度指定している場合、DXF ファイルに変換した際に正しく反映されません。

⇒横書きで一文字毎に改行して運用する方法で回避できます。

- ・ファイル名及びシート名に"_"（アンダーバー 2つ）が含まれている場合、正しく機能しない場合があります。

2 - 4) 図面出力用マスター構成

構造の安定で行っている「性能表示（壁量計算表）」も出力が可能です。

総合判定

建築基準法	X軸方向	Y軸方向
1F壁量	○	○
2F壁量	○	○
1Fフロア	○	○
2Fフロア	○	○

耐震等級2	X軸方向	Y軸方向
1F壁量	○	×
2F壁量	○	○
1F床倍率	×	○
2F床倍率	○	○

耐震等級3	X軸方向	Y軸方向
1F壁量	×	×
2F壁量	○	○
1F床倍率	×	○
2F床倍率	○	○

耐風等級2	X軸方向	Y軸方向
1F壁量	○	×
2F壁量	○	○
1F床倍率	×	○
2F床倍率	○	○

総合判定 S=1/100

準備計算1

領域点	座標
1階外周[0]	(-5000.0, 4000.0)
1階外周[1]	(-5000.0, -2000.0)
1階外周[2]	(-3000.0, -2000.0)
1階外周[3]	(-3000.0, -3500.0)
1階外周[4]	(1000.0, -3500.0)
1階外周[5]	(1000.0, -2000.0)
1階外周[6]	(4500.0, -2000.0)
1階外周[7]	(4500.0, 4000.0)
1階外周領域面積	63.00 (㎡)
1階玄関ポーチ等の加算領域	0
オーバーハング領域	0

領域点	座標
1階ベース領域[0]	(-5000.0, 4000.0)
1階ベース領域[1]	(-5000.0, -2000.0)
1階ベース領域[2]	(-3000.0, -2000.0)
1階ベース領域[3]	(-3000.0, -3500.0)
1階ベース領域[4]	(1000.0, -3500.0)
1階ベース領域[5]	(1000.0, -2000.0)
1階ベース領域[6]	(4500.0, -2000.0)
1階ベース領域[7]	(4500.0, 4000.0)
1階ベース領域面積	63.00 (㎡)
バルコニー領域	0
バルコニー領域面積(×0.4)	0.00 (㎡)
床面積算入領域	0

準備計算1 S=1/100

出力される各図面の線は、線種やペンの属性を持っており、DXFのレイヤ分けが行われています。この線の属性やレイヤの定義は「DefLayer.csv」と「DxfElem.csv」の2つのマスターファイルから構成されており、ユーザがカスタマイズすることが可能です。マスターの保存先はいずれも、[インストール先ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER] になっています。

1) DefLayer.csv

レイヤグループ名とスケール、そのレイヤグループのレイヤ名と各レイヤで使用されるペン番号を定義しています。

レイヤグループとスケールについては現在未対応となっていますので、現在使用していません。

見方は2列で1組となっており、左側の列の先頭にレイヤグループ、右側の列の先頭にスケールが定義されています。以降は左側にレイヤ名、右側にペン番号が定義されています。カスタマイズした際に、存在しないペン番号を指定したときは正しく出力されません。

【DefLayer.csv】

	0	1	2	3			
1	敷地	配置	平面	構造平面			
2	敷地区	通芯	通芯	通芯	下地線	壁記号	筋かい
3	道路	外周1階	壁芯	柱	耐力壁	筋記号	筋記号
4	三斜	外周他	仕上	雑仕上	壁記号	筋記号	筋記号
5	外構	屋根	雑仕上	雑仕上	筋かい	筋記号	筋記号
6	外部部品	外周仕上	建具	建具	筋記号	筋記号	筋記号
7	隣接建物	外部要素	設備	設備	金物記号	金物記号	金物記号
8	点景	屋根要素	家具	家具	平面外部	平面外部	平面外部
9	敷地雑線	配置雑線	雑線	雑線	屋根伏	屋根伏	屋根伏
10					重心記号	重心記号	重心記号
11					加算領域	加算領域	加算領域
12	記号	記号	記号	記号	記号	記号	記号
13	ハッチ	ハッチ	ハッチ	ハッチ	ハッチ	ハッチ	ハッチ
14	寸法	寸法	寸法	寸法			
15	文字	文字	文字	文字	文字	文字	文字
16	補助線	補助線	補助線	補助線	補助線	補助線	補助線
17							

2) DxfElem.csv

要素または部位毎の線を定義しています。

1 列目：出力する線や文字の要素名。説明用なのでシステムで使用していません。

2 列目：システムで使用する ID。この列は変更しないでください。変更すると正しく出力されなくなります。

3 列目：ペン番号。「JPL」は DefLayer.csv で定義されているレイヤのペンを使用するという意味です。個別に定義することも可能です。※1

4 列目：線種。※2

5 列目以降：各列が出力図面に対応しています。列の先頭に図面名が記載されています。出力先のレイヤは、「レイヤグループ番号+アンダーバー+レイヤ番号」で指定します（例：DefLayer 図の青枠）。出力しない要素に関しては「OFF」を指定してください。

補足：このマスターでの線の分類の仕方は、システムに依存したものになっていますので理解しにくいかと思えます。

初期状態で実際に出力した図面データとマスターを見比べてレイヤと各要素の対応を確認してからカスタマイズしてください。

カスタマイズして正常に出力されなくなった場合など、初期の情報に戻す場合は、CD-ROM から初期のマスターを入れ直してください。

※1 ペン番号

JP1 = 青

JP2 = 白

JP3 = 緑

JP4 = 黄

JP5 = 紫

JP6 = 紺

DXF = DXF ファイル内のペン

※2 線種

JL1 = 実線

JL2 = 点線

JL3 = 点線

JL4 = 点線

JL5 = 一点鎖線

JL6 = 一点鎖線

JL7 = 二点鎖線

JL8 = 二点鎖線

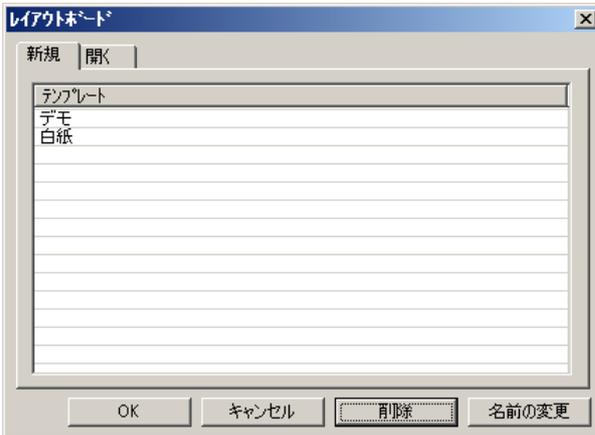
DXF = DXF ファイル内の線種

3) レイアウト

図面を全て作成し終わると、自動的にレイアウトボードの初期画面が表示されます。

以前にテンプレートを作成していれば、テンプレートを選択して自動的に配置することもできます。

また、ここでレイアウトボードの削除、名称の変更もできます。



レイアウトボード初期画面

3-1) 構成

画面左欄の「文字」タブを選択すると色々な文字をレイアウトすることができます。



ア) 物件情報

物件番号、物件名称、住所、設計者などの本システムで入力した物件情報を自動的に表示出力します。

イ) 面積/他

敷地面積、建築面積、延床面積、床面積、建ぺい率、容積率の情報を上記「物件情報」と同様に表示出力します。

ウ) ページ情報

図面名称、ページ数、スケールの情報を上記「物件情報」と同様に表示出力します。

エ) 汎用

汎用的な文字を登録することができます。

これらのフォルダ名や文字名はマスターで管理しているので、ユーザサイドで自由にカスタマイズすることができます。

マスターについては、後述の「レイアウトボード用マスター構成」を参照してください。

画面左欄の「図面」タブでは、設計図書出力で作成した図面を選択してレイアウトします。

また、図面毎にレイヤ表示ON、OFFの設定情報を保持することもできます。

レイヤONの線情報のみ出力するため、ONとOFFの確認及び変更ができます。

図面

ファイル名: 1階平面図.dxf

基準点(D): 原点 ページスケールに合わせる

角度(D): 0 スケール(S): 1/100

図面の状態: 常に最新 文字サイズ変更

最新の図面に更新 図面編集ツール(E)...

タイトル(T): 1階平面図

タイトルにスケールを表示する **レイヤ表示設定**

タイトル配置(Z)

左(L) 中(M) 右(R)

上(T) 下(B)

レイヤ表示/非表示設定

8	9	A	B	C	D	E	F
0	1	2	3	4	5	6	7

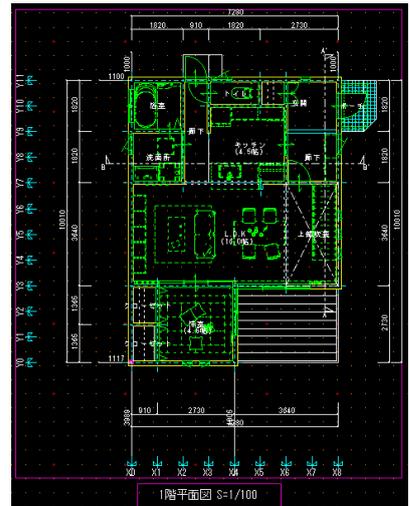
(2)カテゴリー

[0] 通芯	[1] 壁芯	[2] 柱	[3] 仕上
[4] 雑仕上	[5] 建具	[6] 設備	[7] 家具
[8] 雑線	[9] 2-9	[A] 金物記号	[B] 記号
[C] ハッチ	[D] 寸法	[E] 文字	[F] 補助線

全ON 全OFF

OK キャンセル

A 文字 図面 ユーザ



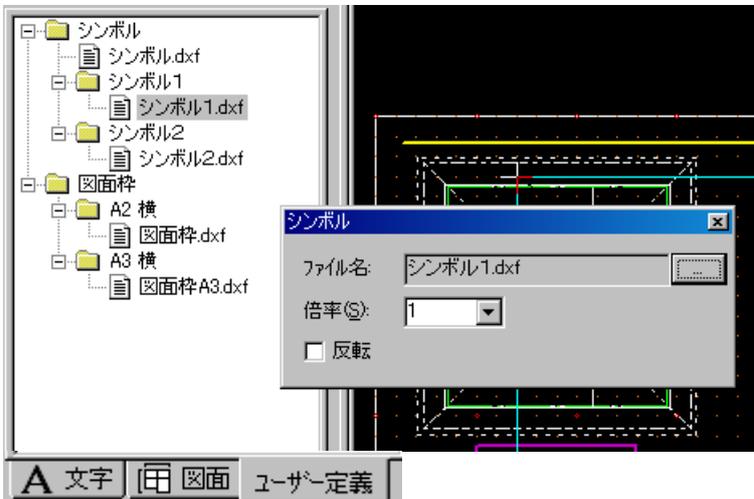
それぞれのフォルダに出力図面一覧で示した図面が入っています。

ここで定義されているフォルダ名や図面名もマスターでカスタマイズ可能です。

フォルダ名は[ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥図面階層.csv]で、

図面名は[ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥図面情報.csv]でそれぞれ定義されています。

「[ユーザー定義]」タブでは、シンボルや図面を選択してレイアウトします。



定義されているフォルダ以下のサブフォルダと、シンボル・図面ファイルをツリー表示します。

ここで定義されているフォルダ名もマスターで管理しているのでカスタマイズ可能です。

ただし、ここでは設計図書呼び出した時の状況によりマスターの参照先が異なるため

特にマスター定義用の画面を用意しております。

マスター定義方法はどちらも同じ方法ですが、「設計図書出力から呼び出された場合」と

「ボード割付けの図面から呼び出された場合」で参照するマスターが異なります。

・設計図書出力から呼び出された場合

マスター名は[ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥ユーザー定義階層.csv]

・ボード割付けの図面から呼び出された場合

マスター名は[ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥割付レイアウト¥ユーザー定義階層.csv]

マスターの定義方法は次のようになります。

1) ユーザー定義マスターの編集

ユーザー定義マスターの編集を行うには、左欄のユーザー定義ツリーにマウスを移動し、右クリックを行って下さい。

右クリックするとユーザー定義を行うためのポップアップメニューが表示されます。



ア) 最新表示メニュー

最新表示メニューは、ユーザー定義マスターで定義したフォルダにエクスプローラーから手作業でファイルやサブフォルダを作成したり、削除した場合に状態を ユーザー定義ツリーに反映します。

イ) Excel⇒図面変換メニュー

Excel⇒図面ファイル変換ダイアログを起動します。

新たに Excel ファイルの変換を行い,dxf または,jww ファイルを追加したい場合に使用します。

※機能の詳細は、

「4. 設計図書出力 2 - 3 Excel⇒図面ファイル変換」をご参照ください。

ウ) 変換元 Excel 編集メニュー

変換元となる Excel ファイルを開きます。

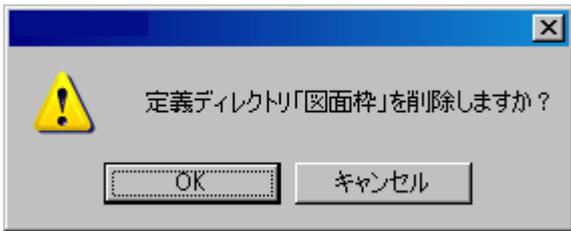
エ) Excel⇒図面再変換メニュー

Excel ファイルを図面ファイルへ再変換します。

変換元となる Excel ファイルの編集後等に利用します。

オ) 削除メニュー

削除確認画面が表示され、OK をクリックすると定義が削除されます。



※ 1 サブフォルダやシンボル・図面ファイルを選択していてもツリーの第一階層を削除します。
選択しているサブフォルダやシンボル・図面ファイルも同時に削除します。

カ) エクスプローラメニュー

選択中の項目をエクスプローラで開きます。

3-2) レイアウトボード用マスター構成

レイアウトボードでは左欄の「文字」タブと「図面」タブで表示される階層構造をマスターで定義しています。「文字」、「図面」のどちらも、フォルダを定義する「階層.csv」とデータ（文字データや図面）を定義する「情報.csv」の2つから構成されています。

マスターの保存先はいずれも、[インストール先ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER] になっています。

ア) 階層.csv

フォルダ構成を定義しています。この構成は、文字階層.csv と図面階層.csv と同様です。

1 列目：フォルダ名。

先頭の「全要素」はルートを意味しているため、画面には表示されません。

2 列目：フォルダに入るデータが定義されているインデックス。

ここでの数字から3列目の数字までのデータを文字情報.csv から取得します。

3 列目：2列目とここで指定している数字は、文字情報.csv の先頭からの順番です。

4 列目：このフォルダの下にさらにフォルダがある場合のフォルダの数。

5 列目：フォルダ名が定義されているインデックス。

※ マスターの出荷時は5列ですが、フォルダ構成が増えると列も増える可能性があります。

イ) 文字情報.csv

文字タブ選択時に表示されている各フォルダに入る文字のデータの定義をしています。

1 列目：フォルダを展開したときに表示される名称。自由にカスタマイズできます。

2 列目：データ。[]で囲まれている文字列はシステムに依存しています。変更しないでください。汎用フォルダに入れられる文字は自由に定義してください。

ウ) 図面情報.csv

図面タブ選択時に表示されている各フォルダに入る図面データの定義をしています。

1 列目：フォルダを展開したときに表示される名称。自由にカスタマイズできます。

2 列目：データを読み込むファイル名を指定しています。この列はシステムに依存しています。変更しないでください。

3 列目：レイアウト時に図面に付加する図面タイトルのレイヤを定義しています。

3-3) ファイルメニュー



ア) 新規作成

レイアウトボードの初期ダイアログが表示されます。

イ) 開く

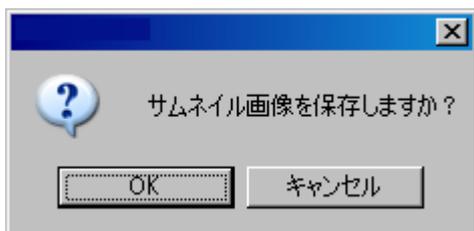
レイアウトボードの初期ダイアログが表示されます。

ウ) 上書き保存

レイアウトしたデータを上書き保存します。ファイル形式は lob です。

尚、保存するとサムネイル画像の保存確認ダイアログが表示されます。

このサムネイル画像は、本システムの物件管理画面で表示する画像となります。



エ) 名前を付けて保存

レイアウトしたデータを名前を付けて保存します。既存のファイルを指定した場合は、上書きとなります。ファイル形式は lob です。

尚、上書き保存の場合と同様にサムネイル画像の保存確認ダイアログが表示されます。



オ) DXF ファイル形式で保存

レイアウトしたデータを DXF ファイル形式で保存します。このとき、ページ単位でファイルが作成されます。それぞれの要素のレイヤは本システムで出力したレイヤを継承します。

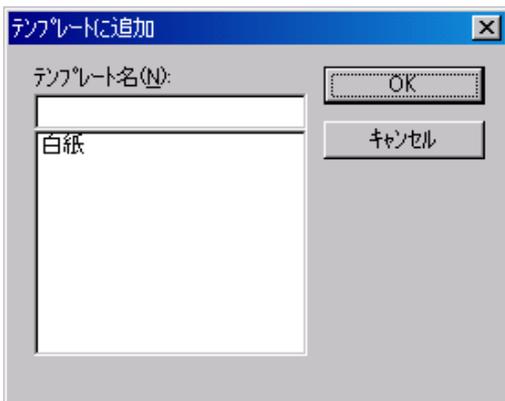


リストボックスの中に、出力されるファイルのリストが表示されます。

保存先を指定して OK を押すことで DXF ファイルが出力されます。

カ) テンプレートに追加

レイアウトした配置をテンプレートとして保存できます。既存のファイルを指定した場合は、上書きとなります。



ここで保存したテンプレートは、初期ダイアログで選択して使用することができます。

キ) 最新の図面データに更新

本システムから出力した元データとなる各図面ファイルが更新されていた場合に、以前の lob ファイルから最新のデータに更新することができます。

更新ファイル選択ダイアログが表示されますので元データに更新したいファイルにチェックを付けて下さい。

OK ボタンをクリックした時にチェックが付いているファイルだけを更新致します。

📄がファイルで📁がグループを表しています。(左欄の図面ツリーと同じ)

グループにチェックを付けると、そのグループの下位項目全てが同じチェック状態となります。

また、全 ON/全 OFF ボタンの押下で全てのフォルダ・ファイルについて変更できます。



ク) Excel⇒図面ファイル変換

Excel ファイルから図面ファイルに変換します。

性能表示のエクセル出力（性能表示チェックシート）を編集後、図面ファイルに再変換することも可能で

す。

また、ご使用の凡例等の表を図面ファイルに変換が可能です。

※機能の詳細は「3. 設計図書 2 - 3 Excel⇒図面ファイル変換」をご参照ください。

ケ) 印刷

図面を印刷します。

コ) 印刷プレビュー

印刷前にプレビューすることができます。

サ) 終了

レイアウトボードを終了します。

3 - 4) 編集メニュー

編集(E)	ツール(T)	設定(S)	表示(V)
元に戻す(U)			Ctrl+Z
やり直し(R)			Ctrl+Y
切り取り(T)			
コピー(C)			
貼り付け(P)			
削除(D)			Del
図面編集モード(E)			
オブジェクトの分解(A)			
シンボル登録(S)			
新しいページの作成(N)			
作業ページの削除(L)			
現在のページの情報を設定			

ア) 元に戻す

直前の操作を元に戻します。

イ) やり直し

「元に戻す」の操作で行った結果を戻します。

ウ) 切り取り

選択しているオブジェクトを切り取ります。

エ) コピー

選択しているオブジェクトをコピーします。

オ) 貼り付け

コピーしているオブジェクトを貼り付けます。

カ) 削除 

選択しているオブジェクトを削除します。

キ) オブジェクトの分解

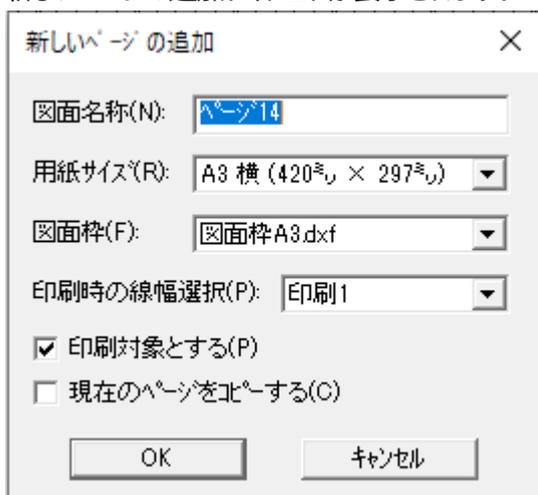
選択している図面・シンボル・寸法線・引出線のオブジェクトを点・線・円・円弧・文字の要素に分解します。

ク) シンボル登録

選択している要素（線・点・円等）又はオブジェクト（図面・シンボル）をシンボルとして登録します。
シンボル登録は、[基準点の入力]－[基準方向の入力]－[保存するファイルの指定]で行います。

ケ) 新しいページの作成

新しいページの追加ダイアログが表示されます。



新しいページの「図面名称」「用紙サイズ」「図面枠」「印刷時の線幅選択」を指定します。

「現在のページをコピーする」は、現在のページの情報新しいページに全てコピーします。

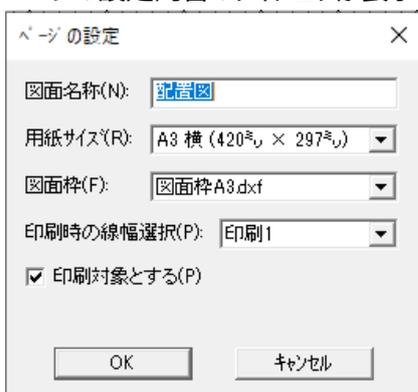
また、ページが2ページ以上ある場合  、コピー元のページタブをクリックしながら Ctrl キーを押すと マークが表示され、挿入したいページタブの位置でマウスを離すとページの追加を行うことができます。

コ) 作業ページの削除

現在表示しているページを削除します。

サ) 現在のページの設定

ページの設定内容のダイアログが表示されます。



「図面名称」は表示されているページの名称（画面下のタブ部分）の入力行にあります。

「用紙サイズ」は同じく表示されているページの出力用紙のサイズを指定します。

これは各ページ独立して設定することができます。

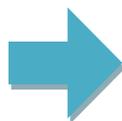
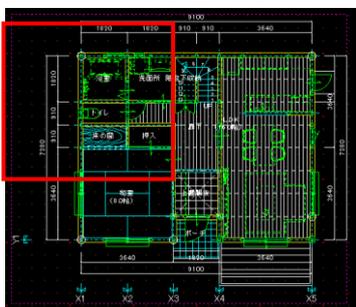
「図面枠」では、予め作成されている、D X F 形式の図面の枠となるデータを指定します。

「印刷時の線幅選択」では、後述の「表示」-「ペンの設定」で設定された「印刷 1」「印刷 2」で設定した線幅のいずれかで出力するかを指定します。

3-5) ツールメニュー

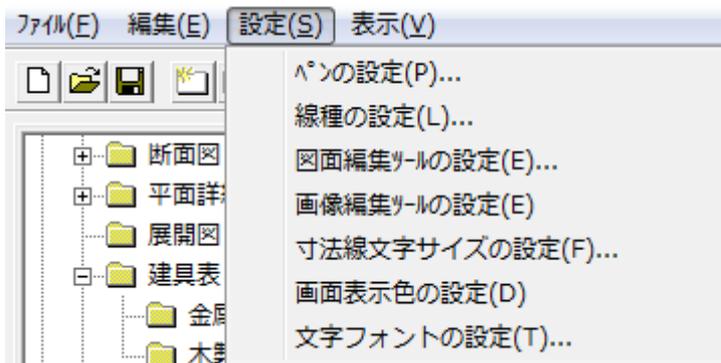
・図面のマスク：図面ファイル(dxf/jww)の表示領域を指定する機能です

残したい領域を選択します。



マスク後の表示位置は図面設定に依存します。

3-6) 設定メニュー



ア) ペンの設定

画面	色	線幅	点半径	印刷1	色	線幅	点半径	印刷2	色	線幅	点半径
ペン1:	[Cyan]	1	1	[Cyan]	0.15	0.15	[Cyan]	0.15	0.15	0.15	0.15
ペン2:	[Black]	1	2	[Black]	0.2	0.2	[Black]	0.2	0.2	0.2	0.2
ペン3:	[Green]	1	2	[Green]	0.25	0.25	[Green]	0.25	0.25	0.25	0.25
ペン4:	[Brown]	2	2	[Brown]	0.3	0.3	[Brown]	0.25	0.25	0.25	0.25
ペン5:	[Purple]	2	2	[Purple]	0.35	0.35	[Purple]	0.25	0.25	0.25	0.25
ペン6:	[Blue]	2	2	[Blue]	0.5	0.5	[Blue]	0.5	0.5	0.5	0.5
ペン7:	[Teal]	2	2	[Teal]	0.7	0.7	[Teal]	0.7	0.7	0.7	0.7
ペン8:	[Pink]	1	1	[Pink]	0	0	[Pink]	0	0	0	0

※画面はピクセル単位、印刷はドット単位で設定して下さい

同時にデフォルトを変更する(A)

OK キャンセル

「画面」は、画面表示での各ペンの表示“色”と線の表示太さの“線幅”、および点の時の大きさとなる“点半径”の設定を行います。

「印刷 1」および「印刷 2」は、前述の「編集」－「現在のページの情報を設定」での「印刷時の線幅選択」で選択できる、印刷時の各ペンの線幅などを設定します。

また、後述の「入力要素」の「線」での「ペン変更」で選択する線種と対応しています。

「同時にデフォルトを変更する」は、「白紙」のテンプレートを開いた時の設定を変更します。

イ) 線種の設定

線種1:	[実線]	[Preview]
線種2:	0.8/1.2	[Preview]
線種3:	0.8/0.8	[Preview]
線種4:	2/0.8	[Preview]
線種5:	1.5/0.8/0.8/0.8	[Preview]
線種6:	2.5/0.8/0.8/0.8	[Preview]
線種7:	1.5/0.8/0.8/0.8/0.8/0.8	[Preview]
線種8:	2.5/0.8/1/0.8/1/0.8	[Preview]

※線と隙間の長さを交互に(スラッシュ)で区切りながら設定してください

同時にデフォルトを変更する(A)

OK キャンセル

ここでは、点線など線種の線の作画長さや空白長さを指定します。

また、後述の「入力要素」の「線」での「ペン変更」で選択する線種と対応しています。

「線種 1」-「実線」で数値指定はありません

点線は以下の 3 種類のバリエーションが設定できます。

「線種 2」-「点線 1」で作画線の長さや空白の長さの指定をします。

「線種 3」-「点線 2」で作画線の長さや空白の長さの指定をします。

「線種 4」-「点線 3」で作画線の長さや空白の長さの指定をします。

一点鎖線は以下の 2 種類のバリエーションが設定できます。

「線種 5」-「一点鎖線 1」で長い線 - 空白 - 短い線 - 空白で設定して、以降繰り返して一点鎖線を作成します。

「線種 6」-「一点鎖線 2」で長い線 - 空白 - 短い線 - 空白で設定して、以降繰り返して一点鎖線を作成します。

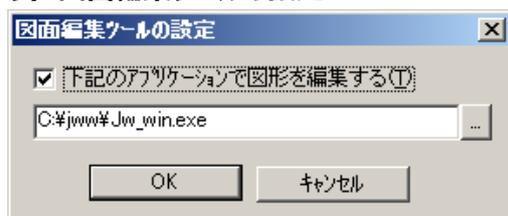
二点鎖線は以下の 2 種類のバリエーションが設定できます。

「線種 7」-「二点鎖線 1」で長い線 - 空白 - 短い線 - 空白 - 短い線 - 空白で設定して、以降繰り返して二点鎖線を作成します。

「線種 8」-「二点鎖線 2」で長い線 - 空白 - 短い線 - 空白 - 短い線 - 空白で設定して、以降繰り返して二点鎖線を作成します。

「同時にデフォルトを変更する」は、「白紙」のテンプレートを開いた時の設定を変更します。

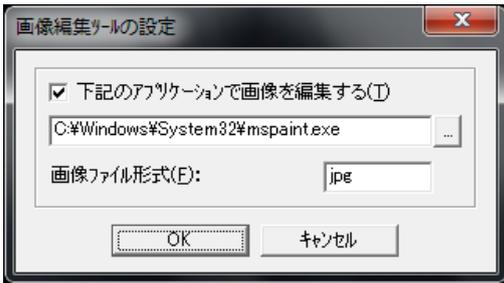
ウ) 図面編集ツールの設定



ここでは、作成レイアウトされた図面を加筆修正する汎用 C A D を指定し、図面をダブルクリックすることで、その汎用 C A D を起動し加筆修正することができます。

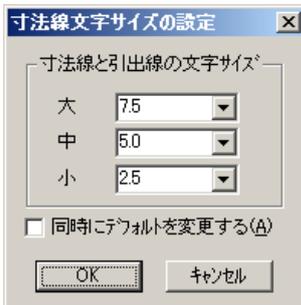
なお、ここで利用できる C A D は D X F 形式の図面データを扱える C A D となります。

エ) 画像編集ツールの設定



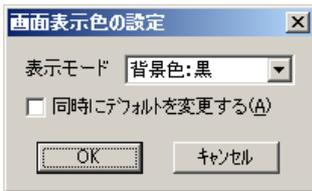
ここでは、画像を修正する外部アプリケーションを指定します。
外部アプリケーションが独自のファイル形式を持つ場合は、画像ファイル形式を指定することで設置した画像と同名のファイルを開くことができます。

オ) 寸法線文字サイズの設定



ここでは、寸法線と引き出し線で利用できる文字サイズを予め設定しておきます。
※大・中・小のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥文字サイズ.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。
「同時にデフォルトを変更する」は、「白紙」のテンプレートを開いた時の設定を変更します。

カ) 画面表示色の設定



ここでは、画面の背景表示色を設定します。

「同時にデフォルトを変更する」は、「白紙」のテンプレートを開いた時の設定を変更します。

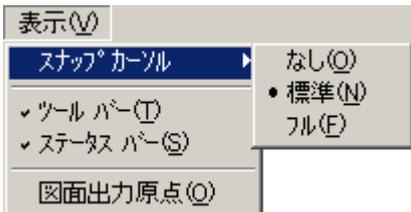
キ) 文字フォントの設定



ここでは、設計図書の全体の文字フォントを設定します。

※文字の間隔については、[2 - 1 0 . 平面表示色]の[文字サイズ補正]の設定も関係するので参照してください。

3 - 7) 表示メニュー



ア) スナップカーソル

入力時マウスカーソルの動きに伴って入力丸めモードに従ってスナップされる入力点をクロス線でしめします。

「なし」、「標準」、「フル」のいずれかから選択できます。

起動時は「標準」に設定されています。

イ) ツールバー

ツールバーの表示制御を行います

ウ) ステータスバー

ステータスバーの表示制御を行います。

エ) 図面出力原点

図面出力原点の表示制御を行います。

3-8) 入力モード



ここでは、レイアウトボードでの入力する場合のモードを指定します。

設計図書のページで設定している図面枠に対してもスナップ多意匠となります。

ア) グリッド

グリッド上の点から入力を行うことができます。

イ) 短点モード

入力済みの線・円弧・（シンボル内の線・円弧）要素の短点から入力を行うことができます。

ウ) 中点モード

入力済みの線・円弧・（シンボル内の線・円弧）要素の中点から入力を行うことができます。

エ) 交点モード

入力済みの線・円・円弧の要素または（シンボル内の線・円・円弧）の要素の交点から入力を行うことができます。

オ) 点モード

入力済みの点・（シンボル内の点）の要素から入力を行うことができます。

3-9) 入力要素



ここでは、レイアウトボードでの入力する場合のモードを指定します。

各要素のリスト定義は、設計図書の呼び出し方によって保存場所が異なります。

・設計図書出力から呼び出された場合

リスト名は[ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト]

・ボード割付けの図面から呼び出された場合

リスト名は[ドライブ名¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥割付レイアウト]

各要素別に記述しているリストの場所について「レイアウト」となっている部分は、ボード割付から呼び出した場合、「割付レイアウト」と読み替えて下さい。

ア) 点

オフセットを指定して点を入力を行うことができます。



X 方向：X 方向のオフセット値を設定します。

Y 方向：Y 方向のオフセット値を設定します。

※ オフセット値は、グリッドの幅×スケールの値で指定します。

※X 方向・Y 方向のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥点.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

ペン変更ボタン：「ペンの設定」ダイアログが表示され、ペンや線種を変更することができます。



イ) 線

イ-1) 線 (通常)

始点、終点を指定して線を入力することができます。

また、水平・垂直、傾きの値指定の線も入力することができます。



水平・垂直：水平・垂直にチェックを設定し、水平・垂直線を入力することができます。

傾き：傾き角を設定し、指定した傾きの線を入力することができます。

※傾きのリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NeW¥MASTER¥レイアウト¥線.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

イ-2) 矩形入力

指示した 2 点を対角とする矩形で入力されます。

矩形を構成する線はそれぞれ独立した線要素として扱われます。



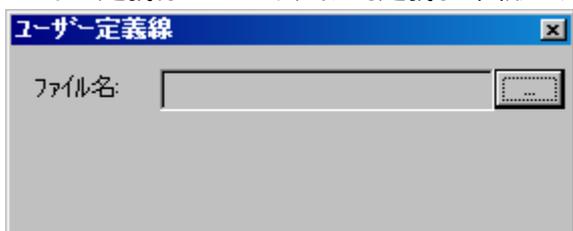
イ-3) 多角形入力 (連続の入力)

連続で線入力を行うことができます。ダブルクリックで入力終了となります。

ウ) ユーザー定義線

ユーザーが定義した線を入力することができます。

ユーザー定義線は DXF ファイルで定義した図形パターンを連続描画することで表現する線種となります。



エ) 円

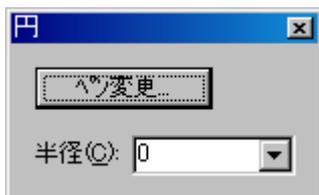
エ-1) 円 (通常)

中心、半径を指定して円を入力することが出来ます。



エ-2) 数値入力

半径の数値を設定し、中心を指定して円を入力することが出来ます。



半径：半径の値を設定します。

※半径の値は、グリッドの幅×スケールの値で指定します。

※半径のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥円.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

エ-3) 3点円

円周上の3点を指定して円を入力することが出来ます。

オ) 円弧

オ-1) 円弧

中心、半径、開始角、終了角を指定して円弧を入力することができます。



オ-2) 数値指定

半径、開始角度、終了角度の数値を設定し、中心を指定して円弧を入力することができます。

※円弧は、開始角度から終了角度の方向に反時計回りの方向に表示します。



開始角度：円弧の開始角度の値を設定します。

終了角度：円弧の終了角度の値を設定します。

※半径の値は、グリッドの幅×スケールの値で指定します。

※半径と開始角度と終了角度のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥円弧.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

オ-3) 3点円弧

円弧上の3点を指定して円弧を入力することができます。

カ) 文字

任意の文字を入力することができます。



「文字」入力したい文字を入力します。

「キーワードを数式として計算する」入力文字をキーワードに置き換えて計算するか設定します。(※詳細は「操作マニュアル_要素入力編 2-10 8)文字」参照)

「サイズ」入力文字のサイズを設定します。

「基準点」文字のレイアウト時の基準点を設定します。

指定できる位置は、文字列の左側の上中下、中央の上中下、右側の上中下の9箇所を指定できます。

「角度」文字の角度を設定します。予め、0度（水平）、90度（垂直左向き）、180度（逆さ）、270度（垂直右向き）が選択肢で設定されていますが、キーボードより任意の角度を指定することも可能です。

※文字とサイズと角度のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥文字.iniにあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

キ) 図面

図面を選択してレイアウトします。

左欄のフォルダから図面を選択した場合と同じダイアログが表示されます。



「ファイル名」現在設定されているファイル名が表示されます。

変更したい場合は、右のボタンからファイル選択ダイアログを表示して選択しなおすことができます。

「基準点」レイアウト時の基準点を設定します。

原点とは、本システムでデータを出力する際に定義されている点です。

「ページスケールに合わせる」ページのスケールに設定されているスケールに同期します。

「角度」図面の角度を指定できます。

「スケール」図面データ自身のスケールを設定します。

「図面の状態」表示する図面の状態を設定します。

常に最新：常に最新の図面を表示します。

保存：保存した図面を表示します。

「最新の図面に更新」保存状態の図面を常に最新状態に変更します。

「図面編集」設定された編集ソフト（JW-CAD など）が自動的に起動します。

編集ソフト側で加筆修正したものを上書き保存して終了すると、レイアウトボード上で修正された内容が即座に表示されます。

なお JW-CAD や AutoCAD など好みの編集ソフトの設定は、前述の「表示メニュー」の「図面編集ツールの設定」で行うことができます。配置した図面をダブルクリックしても同様です。

「タイトル」図面タイトルを設定します。デフォルトは左欄の図面名を使用しています。

ク) シンボル

シンボル_{※1}を選択してレイアウトします。シンボルの入力は2点入力で行います。

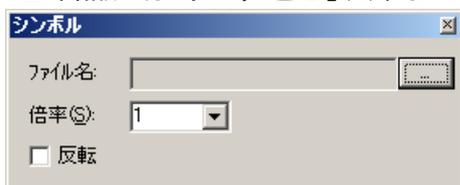
1点目は、基準点_{※2}の配置位置を指定します。2点目は、シンボルの角度を指定します。

※1.シンボルの定義は、指定した DXF ファイルのレイヤ名「SYMBOL_LAYER」上のシンボル図形データになります。

※2.基準点の定義は、指定した DXF ファイルのレイヤ名「ATTR_LAYER」上の「線（ペン）色1」で入力した一点になります。基準点が存在しない場合は左上位置が基準点になります。

例：基準点が存在しない場合

- ・レイヤ名「ATTR_LAYER」が存在しない場合
- ・レイヤ名「ATTR_LAYER」上に基準点が存在しない場合
- ・基準点が「線（ペン）色 1」以外で入力されている場合



ファイル名：現在設定されているファイル名が表示されます。変更したい場合は、右のボタンからファイル選択ダイアログを表示して選択しなおすことができます。

倍率：表示倍率を設定します。シンボルのサイズは実寸×倍率÷図面データのスケールで表示します。

反転：反転で表示します。

※倍率のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥シンボル.ini にあります。

マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

補足 シンボルは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥図形 以下のフォルダからでないと読み込めません。

ただし、ボード割付の図面メニューから呼び出された場合は、

[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥割付レイアウト¥図形 以下のフォルダとなります。

ケ) 画像

画像を入力することができます。

画像ダイアログにて、画像ファイルの選択及び属性値を指定します。

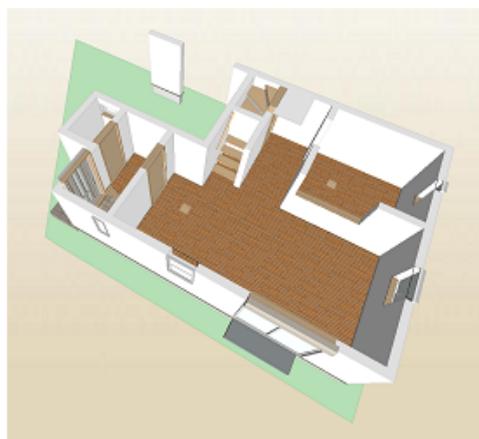
 ボタンを押すと、画像フォルダのメニューが表示されます。



※最後の行のメニューについては、前回使用したフォルダが表示されるようになっています。画像を入力する際は最後にアクセスした画像フォルダがある場合、こちらに表示されます。

※通常 Windows 系画像形式 (bmp、jpg、tif、wmf) のみ入力できます。

画像ファイルを選択した後、マウス移動で画像の入力位置を指示し、マウスクリックで画像の入力を完了します。



鳥瞰図

※画像を配置した後の移動やサイズ調整は、選択モードで行えます。

・画像タイトルの表示

配置した画像にタイトルを表示することができます。

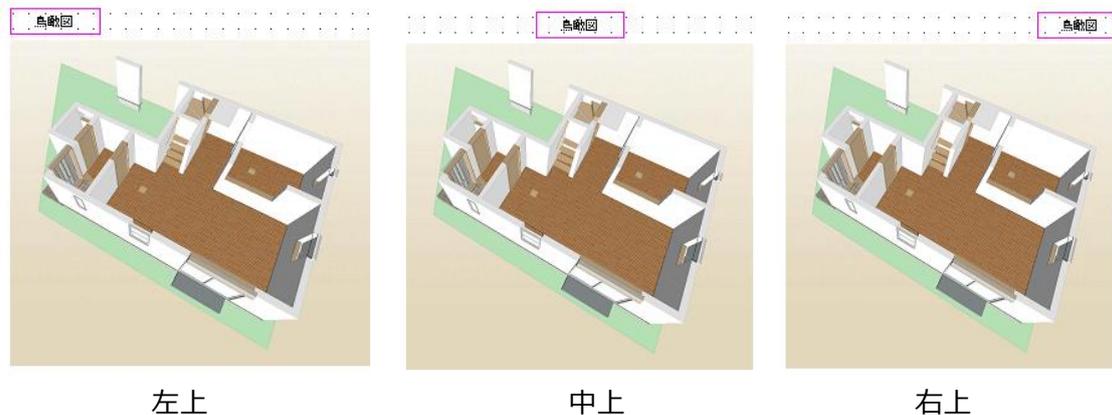
各画像ごとにタイトルの ON/OFF を切り替える場合には画像を選択した際に出るダイアログの「画像にタイトルを付ける」項目を ON にしてください。



各画像のタイトル名称、タイトルの配置位置は画像を選択した時に出力されるダイアログで編集できます。



※画像ダイアログの起動時、「下中」を初期値として設定します。



・画像データの変更

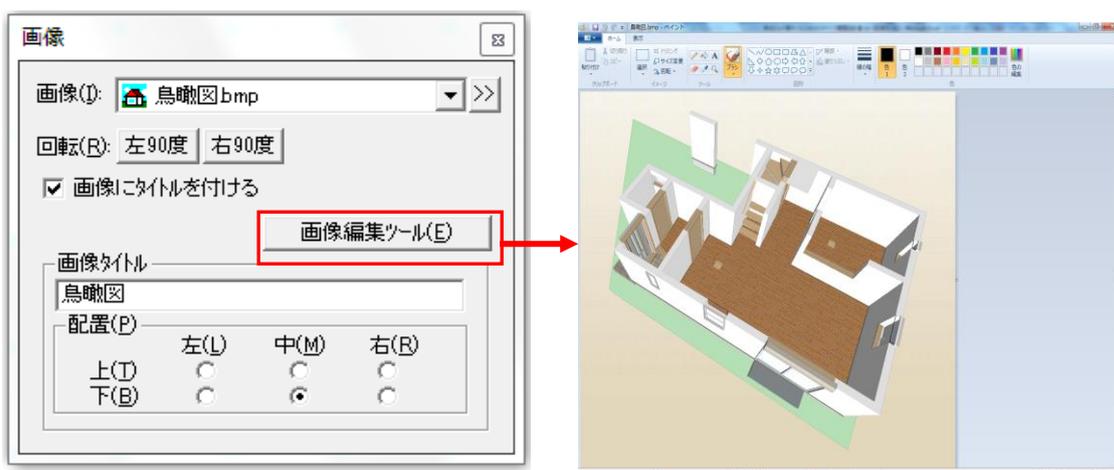
配置した画像データを変更することができます。

画像ダイアログにて、「画像編集ツール」で画像を編集する機能が有効になります。

画像をダブルクリックするか、「画像編集ツール」ボタンをクリックすることで、外部の画像編集ツールを起動する事ができます。

外部の画像編集ツールで画像を編集し、保存した後に設計図書の画面に戻ると、画像の編集内容が反映されます。

<「mspaint.exe」アプリで編集する場合>



※入力時に「画像編集ツール」での編集機能が利用不可（グレーアウト）

※画像編集ツールの設定は[3 - 5) 設定メニュー]-[E) 画像編集ツールの設定]を参照ください。

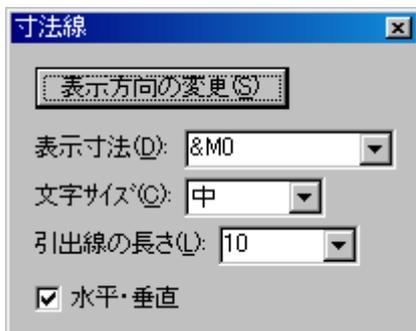
コ) 寸法線

コ-1) 寸法線

始点、終点、表示位置を指定して寸法線を入力することができます。

水平・垂直の寸法線も入力することができます。

また、「SHIFT」キーを押しながら入力すると連続入力を行うことができます。



表示方向の変更：寸法線の文字の位置を反転させます。

表示寸法：寸法線に表示する文字を設定します。寸法値を自動的に表示する場合は、以下の3つから選択します。

「&M0」：寸法値を自動的に計算し、整数で表示します。

「&M1」：寸法値を自動的に計算し、小数1桁で表示します。

「&M2」：寸法値を自動的に計算し、小数2桁で表示します。

文字サイズ：寸法線の文字のサイズを設定します。「大」・「中」・「小」の文字サイズの設定は、[3 - 5) 表示メニュー]-[4) フォントの設定]を参照してください。

引出線の長さ：引出線の長さを設定します。「水平・垂直」の寸法線の場合は、短い方の引出線の長さを設定します。

水平・垂直：水平・垂直の寸法線を入力する場合に設定します。

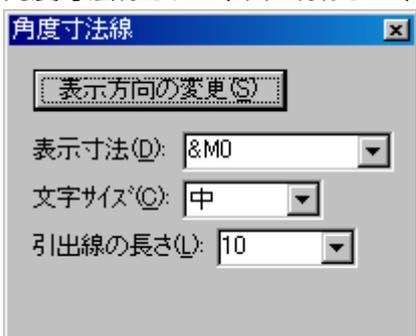
※引出線の長さは、グリッドの幅×スケールの値で指定します。

※表示寸法と引出線の長さのリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥寸法線.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

コ- 2) 角度

2本の線の角度寸法線を入力することが出来ます。角度寸法線の入力には3点入力で行います。1点目は、1本目の線を指定します。2点目は、2本目の線を指定します。3点目は、表示位置を指定します。

角度寸法線は、1本目の線から2本目の線へ反時計回りの方向に表示します。

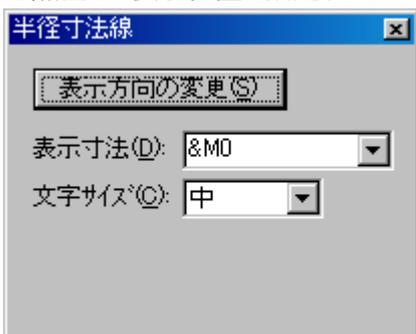


※表示寸法と引出線の長さのリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥角度寸法線.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

コ- 3) 半径

円又は円弧の半径寸法線を入力することが出来ます。

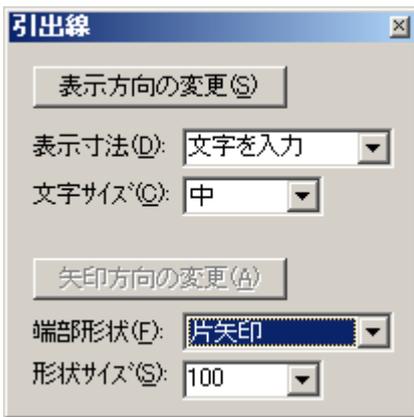
半径寸法線の入力には2点入力で行います。1点目は、寸法線を表示する円又は円弧を指定します。2点目は、表示位置を指定します。



※表示寸法のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥半径寸法線.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

サ) 引出線

引出線を入力することが出来ます。引出線の入力には3点入力で行います。



表示寸法：表示したい文字を入力します。

※表示寸法のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥引出線.ini にあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

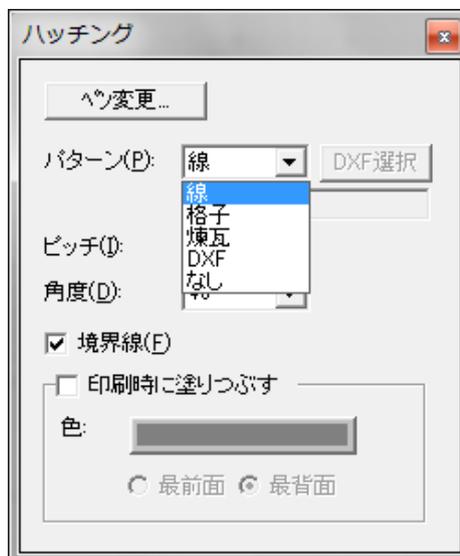
矢印方向の変更：端部形状が「片矢印」の場合、矢印の方向を変更します。

端部形状：「なし」、「矢印」、「丸」、「三角」、「四角」、「片矢印」の6種類から選択します。

形状サイズ：端部形状のサイズを指定します。

シ) ハッチング領域

ハッチング領域を入力することが出来ます。ハッチング領域の入力は矩形入力、または多角形入力で行います。



パターン：ハッチングパターンを選択します。

パターンは次の 5 種類です。

- 1) 線
- 2) 格子
- 3) 煉瓦
- 4) D X F
- 5) なし

ピッチ：ピッチ (mm) を選択／入力します。

角度：角度 (度) を選択／入力します。

境界線：ハッチング領域の境界線を描画する場合は、チェックを付けます。

境界線を描画しない場合は、チェックを外します。

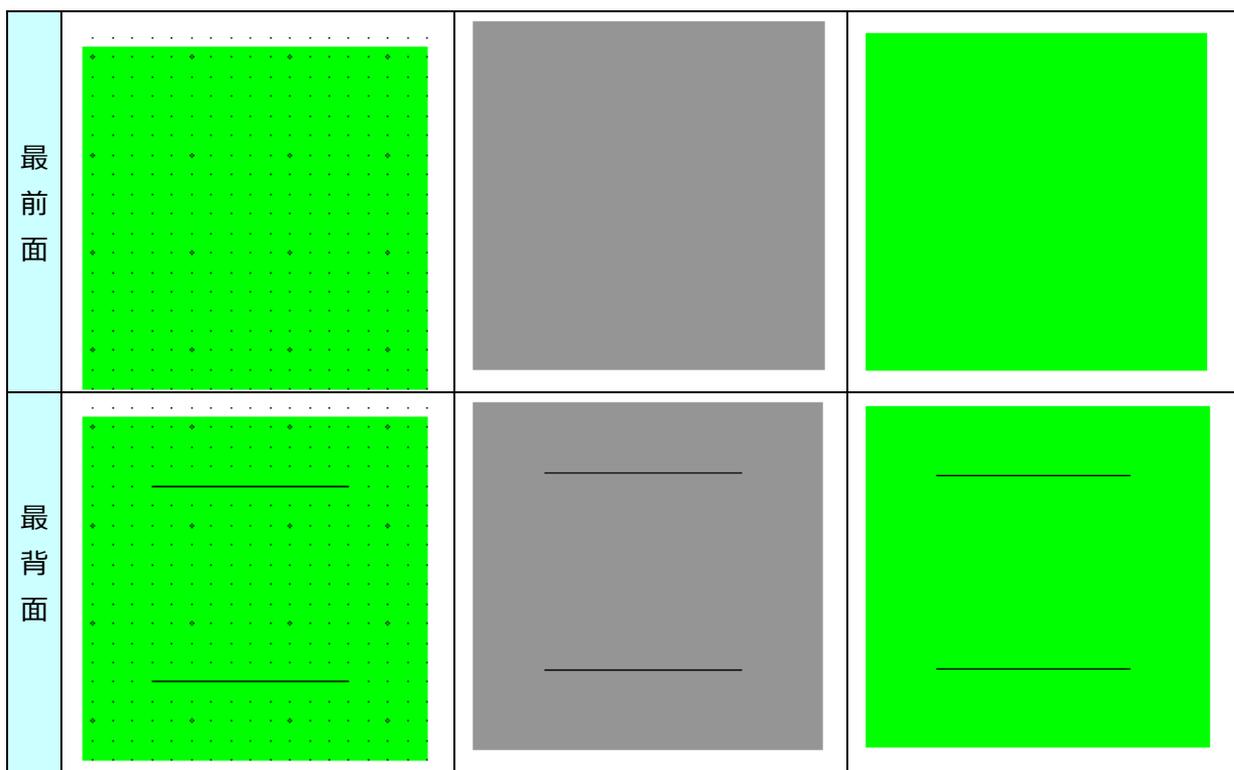
※ピッチと角度のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥ハッチング.ini にあります。

マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

印刷時に塗りつぶす：ハッチング入力時に「印刷時に塗りつぶす」チェックボックスを ON にすることでハッチング領域を塗りつぶすことができます。

また、塗りつぶす際にハッチング要素の最前面、最背面表示を切り替えることができます。

入力画面	印刷プロビュー	カラー印刷プロビュー
------	---------	------------



各画面の最前面、最背面表示比較

※「印刷時に塗りつぶす」チェックボックスが ON の時、境界線は塗りつぶしと同色の境界線を描画するため、表示切り替えを行えません。

ス) 移動

ス-1) 数値指定

選択した要素又はオブジェクトを数値指定で移動を行います。

※このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります。



X 方向：X 方向の移動量を設定します。

Y 方向：Y 方向の移動量を設定します。

※移動量の値は、グリッドの幅×スケールの値で指定します。

※X 方向・Y 方向のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥移動.ini にあります。

マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

コピー：チェックを ON にすると、元の要素を残してオフセット位置にコピーを作成しま

す。

移動 : 移動を行います。また、X方向・Y方向の移動量を指定して、画面をクリックしても移動を行います。

ス-2) 2点移動

選択した要素又はオブジェクトを2点入力で移動を行います。1点目は、移動元の基準点を指定します。2点目は、移動先を指定します。

※このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります。



セ) 回転

セ-1) 数値指定

選択した要素又はオブジェクトを数値指定で回転を行います。回転は、[回転角度の設定] - [基準点の入力] - [回転ボタン又は画面をクリック]で回転を行います。

※このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります。



回転角度 : 回転角度を設定します。

回転 : 回転を行います。また、回転角度を設定して基準点を入力後、画面をクリックしても回転を行います。

※回転角度のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥回転.ini にあります。

マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

セ-2) 3点回転

選択した要素又はオブジェクトを3点入力で回転を行います。1点目は、基準点を指定します。2点目は、回転元の基準点を指定します。3点目は、回転先を指定します。

このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります



ソ) 反転

ソ-1) X軸反転

選択した要素又はオブジェクトをX軸指定で反転を行います。X軸反転は2点入力で行います。1点目は、X軸位置を指定します。2点目は、反転を行います。

※このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります



ソ-2) Y軸反転

選択した要素又はオブジェクトをY軸指定で反転を行います。Y軸反転は2点入力で行います。1点目は、Y軸位置を指定します。2点目は、反転を行います。

※このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります



ソ-3) 任意軸反転

選択した要素又はオブジェクトを任意軸指定で反転を行います。任意軸反転は3点入力で行います。

1点目は、任意軸の始点を指定します。2点目は、任意軸の終点を指定します。

3点目は、反転を行います。

※このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります



タ) 回転移動

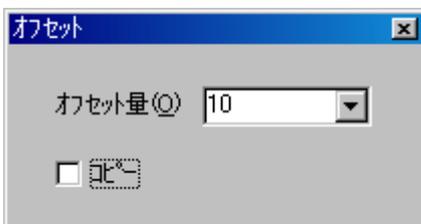
選択した要素又はオブジェクトを4点入力で回転移動を行います。1点目は、基準点を指定します。2点目は、基準方向を指定します。3点目は、移動先の基準点を指定します。4点目は、移動先の基準方向を指定します。

※このコマンドは要素又はオブジェクトを選択した状態でのみ使用可能になります



チ) オフセット

入力済みの線・円・円弧の要素をオフセットします。このボタンを押すと線のオフセットダイアログが表示されます。



オフセット量：オフセット量を指定します。

※オフセット量は、グリッドの幅×スケールの値で指定します。

※オフセット量のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥オフセット.ini にあります。

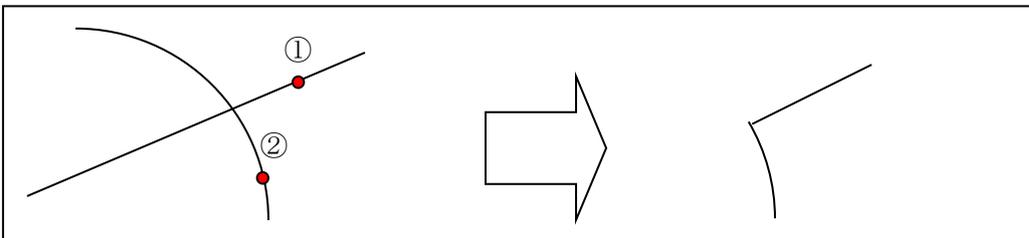
マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

コピー：チェックを ON にすると、元の要素を残してオフセット位置にコピーを作成します。

ツ) コーナー

線・円弧要素のコーナー処理を行います。コーナー処理の入力は、2点入力で行います。1点目は、一つ目のコーナー対象の要素で残したい部分を指定します。2点目は、二つ目のコーナー対象の要素で残したい部分を指定します。

例：



テ) 伸縮

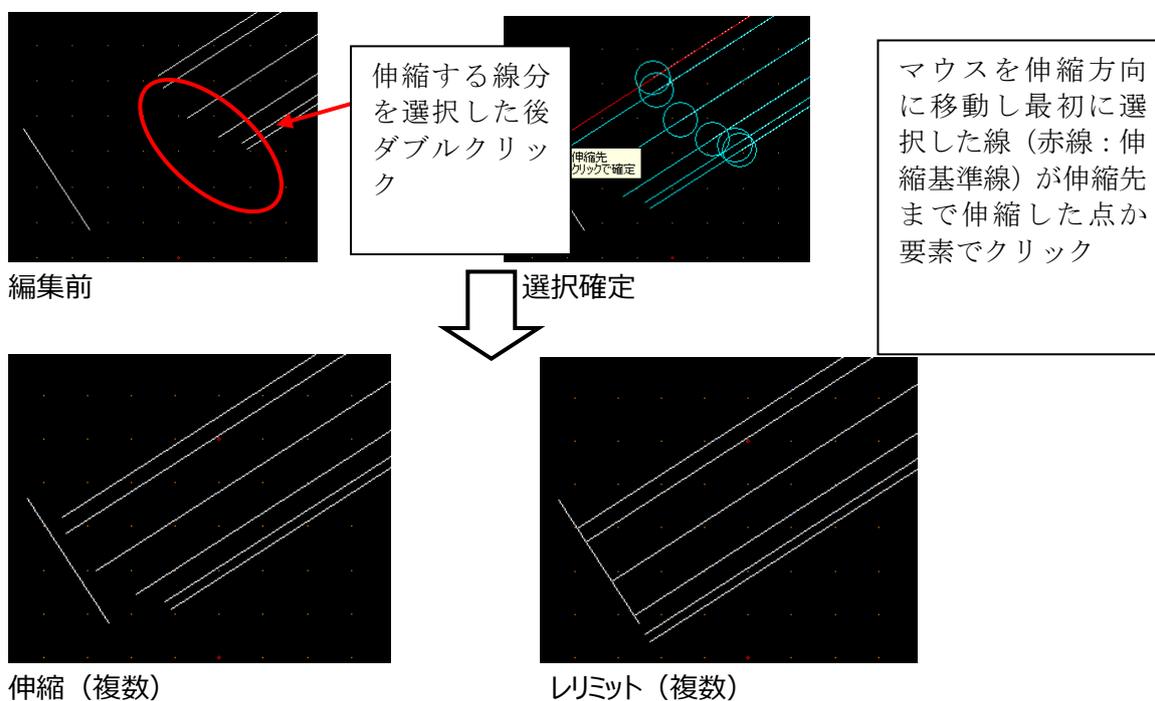
線・円弧要素の伸縮・レリミット・伸縮（複数）・レリミット（複数）を行います。伸縮処理の入力は、2点入力で行います。1点目は、伸縮を行いたい要素の一端を指定します。2点目は、伸縮先の点を指

定します。

伸縮（複数）、レリット（複数）では、同時に複数の要素を伸縮・レリット処理を行います。

「伸縮（複数）」では、まず伸縮したい複数の要素を選択し、全て選択したら一度ダブルクリックして選択確定します。次に伸縮先をクリックすると選択した線分すべてがそれぞれ同じ長さだけ伸縮します。

「レリット（複数）」では、まず伸縮したい複数の要素を選択し、全て選択したら一度ダブルクリックして選択確定します。次に伸縮先の要素をクリックすると選択した線分すべてが伸縮先の要素のラインまで伸縮します。



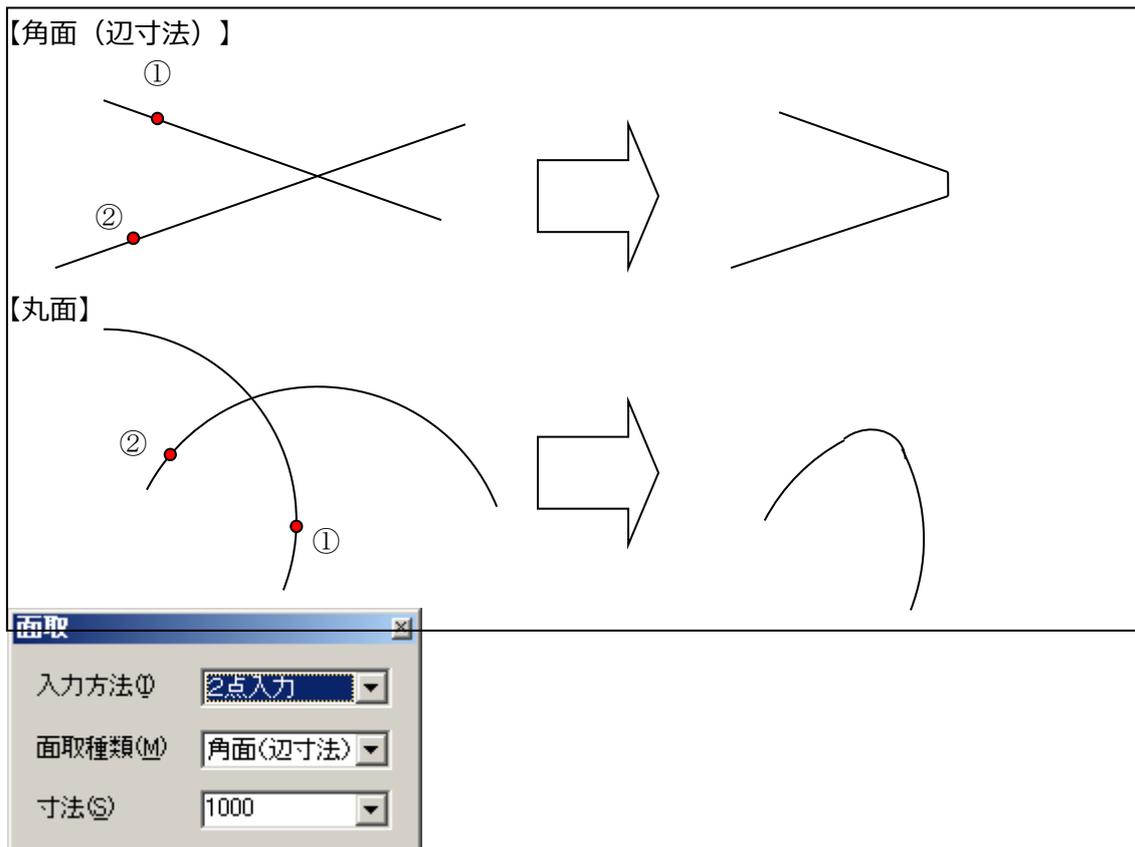
ト) 面取

線・円弧要素の面取処理を行います。面取処理の入力は、1点入力・2点入力から選択します。2点入力を選択した場合、1点目は、一つ目の面取対象の要素で残したい部分を指定します。2点目は、二つ目の面取対象の要素で残したい部分を指定します。

1点入力を選択した場合、1点のみ指定します。

面取種類が「角面（辺寸法）」、「角面（面寸法）」の場合は、円弧要素は指定できません。

例：



入力方法：1点入力・2点入力から選択します。

面取種類：角面（辺寸法）、角面（面寸法）、丸面から選択します。

【角面（辺寸法）】選択した2つの線を、交点から寸法で定められた長さの位置でつなぎます。

【角面(面寸法)】選択した2つの線を、寸法で定められた長さの線をつなぎます。

【丸面】選択した2つの線又は円弧を、寸法で定められた長さを半径とする円弧でつなぎます。

※寸法の値は、グリッドの幅×スケールの値で指定します。

※寸法値のリストは、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥面取り.iniにあります。マスターを修正する際は、後述のマスターファイルの編集を参照してください。

ハ) 分断

線・円・円弧要素の分断を行います。分断したい点を1点で指示します。

○ マスターファイルの編集

要素の入力又は編集の時に、表示される画面のリストの内容を追加・編集する方法について説明します。

マスターファイルには、リストに表示する内容が記述してあります。

項目行：“[]”で囲まれた行はシステムで使用する項目識別の名称になります。この行は変更しないでください。（例：[半径]）

データ行：“LIST 番号=データ”はデータ行になります。データを追加・編集する時は、この行を修正又は追加します。修正・追加方法については、以下のルールに従ってください。

【修正・追加方法】

“LIST 番号=データ”の**番号**の部分は、0001 番からの連番で登録する必要があります。**データ**の部分は設定するデータになります。

例：円のリストに半径 600.0 のデータを追加する場合

[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥円.ini をメモ帳で開きます。



一番下の行に、LIST0006=600.0 を追加します。



上の図のように、LIST の番号を**連番**で設定し、データを設定すれば OK です。

また、データを編集したい場合は、編集したい行の“LIST 番号=データ”の**データ**の部分を設定しなおせば OK です。



※数値の設定の場合は、必ず“半角数字”で登録するようにしてください。

3-9) 図面編集モード

JW-CAD などの汎用 CAD を使用せずに、設計図書上で DXF・JWW データを編集することができます。

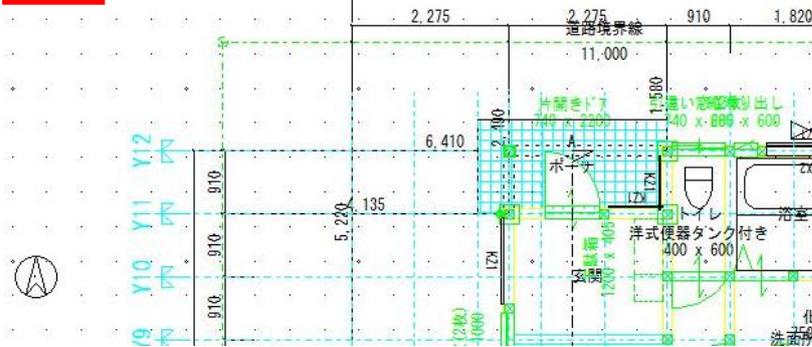
【手順】

- ・設計図書に配置した図面を選択し、「図面編集」ボタンを押します。
- ・編集モードに移行し、(編集) と表記され、下書き (線、円、弧、文字) の追加/移動/削除ができます
- ・編集すると、「(編集) (*)」と表記されます。編集中は、編集以外の操作はできません。
- ・「図面編集終了」ボタンを押下し、編集完了します。「(更新)」と表記されます。



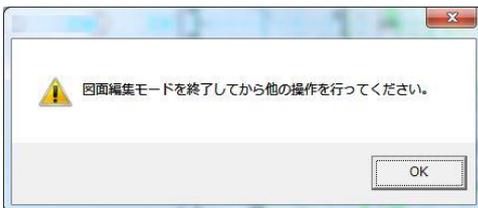
(編集 中)

図面編集モード / 図面編集モード終了



図面編集 中は、編集以外の操作はできません。

図面編集モードで、編集以外の操作をするとメッセージを表示します。



3-10) その他の機能

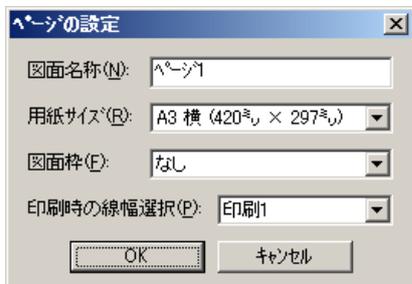
ア) レイアウトボード画面の右下に表示されている各機能についての解説を行います。



ア- 1) ページの設定

A3 横

画面右下の「A3 横」ボタンを押すとページの設定ダイアログが表示されます。



ここでは、前述の「編集メニュー」と同じで、図面名称や用紙サイズ、図面枠を設定することができます。

「図面名称」画面下の各ページのタブとリンクしています。

「用紙サイズ」印刷時の用紙サイズを設定します。

「図面枠」DXF 形式の図面枠データがある場合に選択可能となります。

格納場所は、[ドライブ名]¥DTS-CAD-NEW¥MASTER¥レイアウト¥図面枠 です。

「印刷時の線幅設定」印刷時に使うペンの太さを選択できます。

ア- 2) スケールの設定

S=1/100

画面右下のスケール表示のボタンを押すと「スケールの設定」ダイアログが表示され、スケールを設定することができます。



ア- 3) レイヤ選択

[0-0]

画面右下のレイヤ表示のボタンを押すと「レイヤ選択」ダイアログが表示されます。

ボタンに表示されているのは現在のレイヤです。

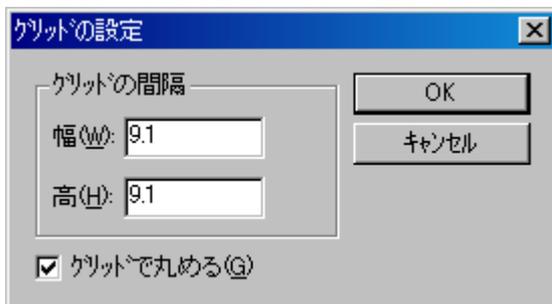


DefLayer.csv と DefElem.csv で定義したレイヤが表示されます。
レイアウトボード上で文字や線を配置する場合などどのレイヤに入れるかを定義します。

ア-4) グリッドの設定

∴ 9.10 × 9.10

画面右下のグリッド表示のボタンを押すと「グリッドの設定」ダイアログが表示されます。



レイアウトボードのグリッドのピッチを自由に変更することができます。

単位は「cm」です。

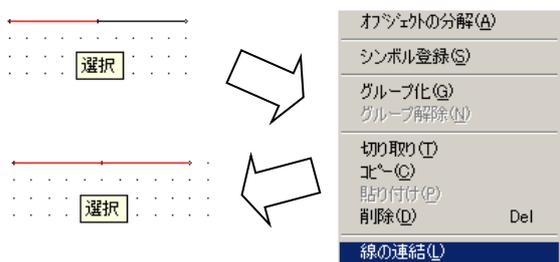
設定値は、少数第2位まで設定可能です。

「グリッドで丸める」にチェックを入れると、レイアウト時にマウス指示できる位置がグリッド位置（グリッドカーソルモード）になり、チェックを外すとグリッドに関係なくマウスの位置を指示（フリーカーソルモード）するようになります。

尚、設定したグリッド設定は保存され、次回設計図書起動時にも有効となります。

イ) 下書線の連結機能

線要素について、同じ属性（線種、色、太さ、属性）で同一線上にある場合に連結を行います。



4) 図面編集

詳細については、図面編集編マニュアルを参照してください。

3-3. クイック図書

クイック図書は、設計図書出力の簡易出力版機能となります。

設計図書出力が利用できる場合にクイック図書が利用できます。

1) 概要

クイック図書は、画面で指定された図を作成し、図面枠や余白などの設定に従って自動的に設計図書のページに配置する機能です。

以下に、出力する図面の種類と各図面の出力に必要な要素を一覧表示します。

出力図面一覧

図面名	必要要素	備考
敷地図	敷地	敷地系
配置図	敷地、壁、部屋	敷地系
平面図	部屋	平面系：階ごとに出力
屋根伏図	屋根	平面系
立面図	部屋、壁、屋根	立面系：東西南北の4面出力 「オプション」で寸法オンオフあり
断面図	断面指示点	立面系：X方向、Y方向の2面出力
平面詳細図	部屋	平面系：階ごとに出力
天井伏図	部屋	平面系
基礎伏図	基礎、スラブ、土間コンクリート、コンクリートブロック	平面系
構造伏図	構造材	平面系：階、小屋ごとに出力
構造平面図	耐力壁	平面系：階ごとに出力
設備図	設備	平面系
軸組断面図	軸組切断線	立面系：軸組切断線ごとに出力

2) 出力詳細

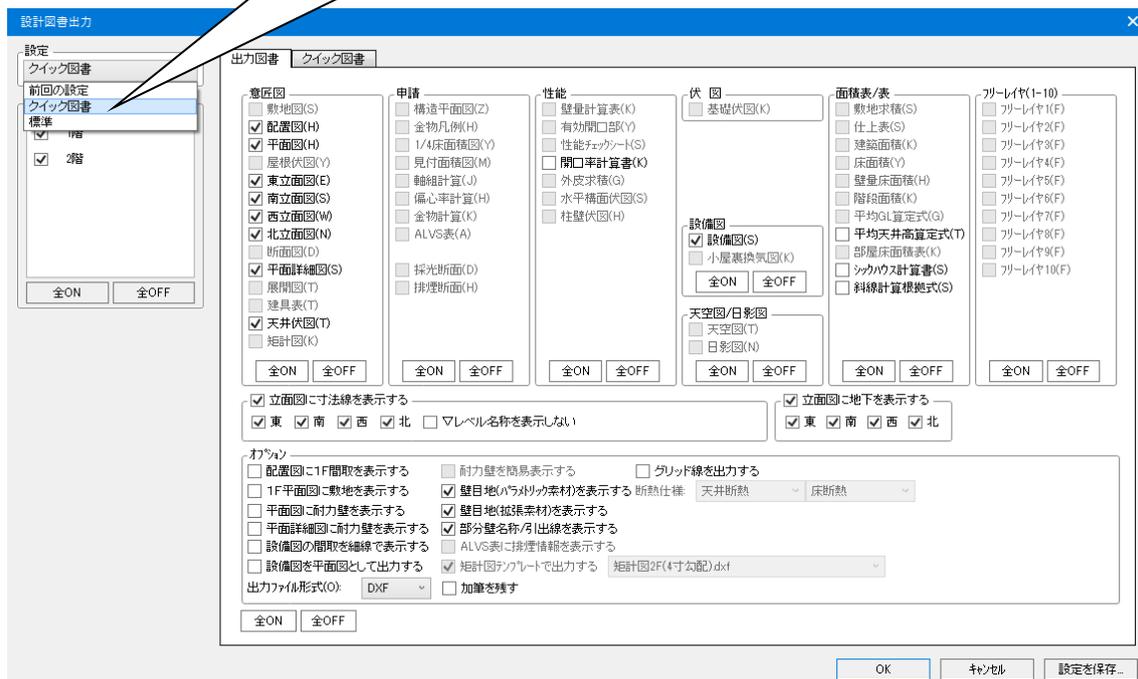
出力メニューから「クイック図書」を選択すると、設計図書出力ダイアログを表示します。



図の作成画面は、従来の設計図書と同様ですが、クイック図書の場合、以下の2点が異なります。

- ・ 設定項目に「クイック図書」設定が存在すれば初期選択する
- ・ クイック図書タブが表示される

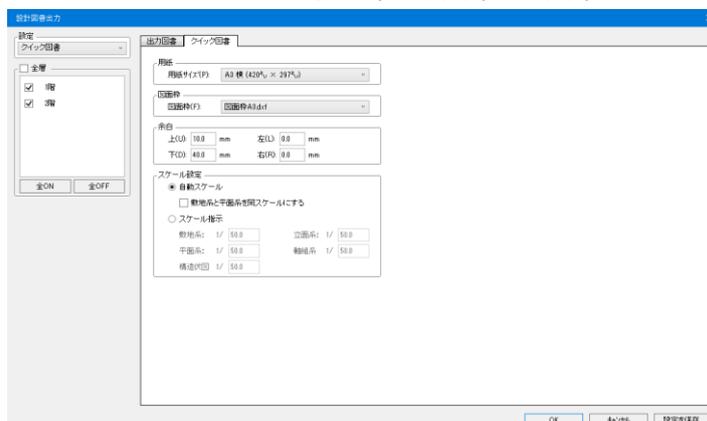
クイック図書設定が存在すれば初期選択とする



クイック図書タブでは以下の設定が可能です。

- ・ 用紙のサイズと方向
- ・ 図面枠
- ・ 図配置時の上下左右の余白
- ・ スケール計算方法（自動計算か手動入力）と手動入力時のスケール

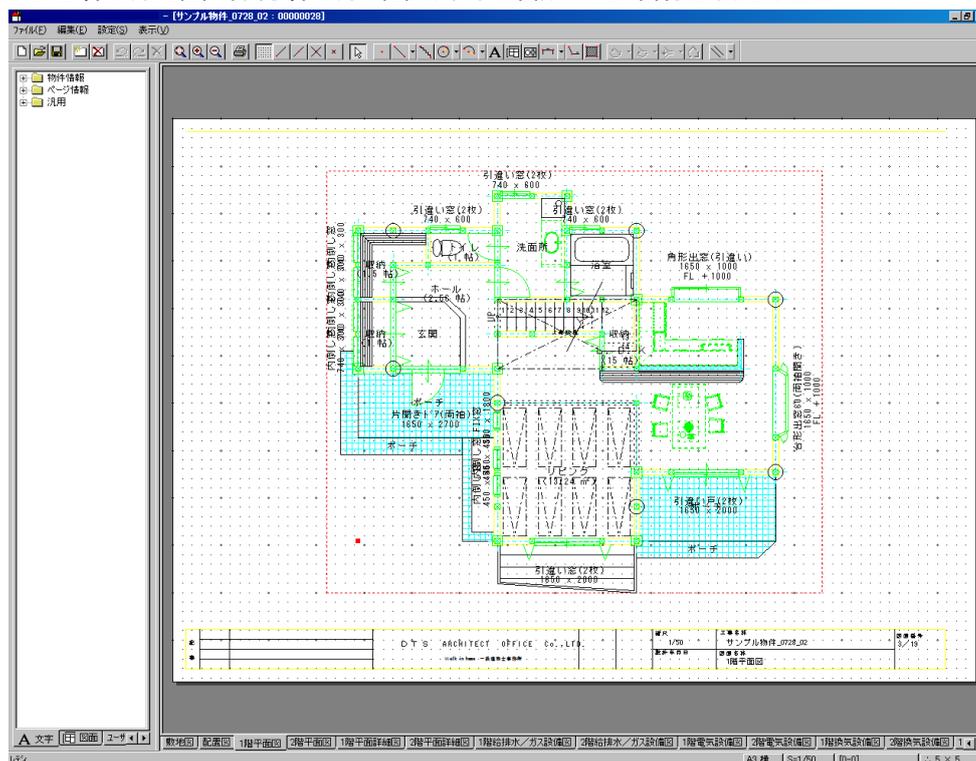
自動スケール時は、平面系のスケールを敷地系のスケールと同一にすることも可能です。また、手動入力時は、敷地系、平面系、立面系それぞれのスケールを入力して下さい。



クイック図書で配置された図は左下基準となります。

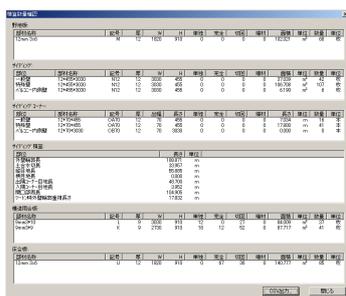
また、自動スケール計算では、結果のスケールが5の倍数となるよう計算します。

尚、ページは作成した図の数分作成し、図のファイル名がページ名称となります。

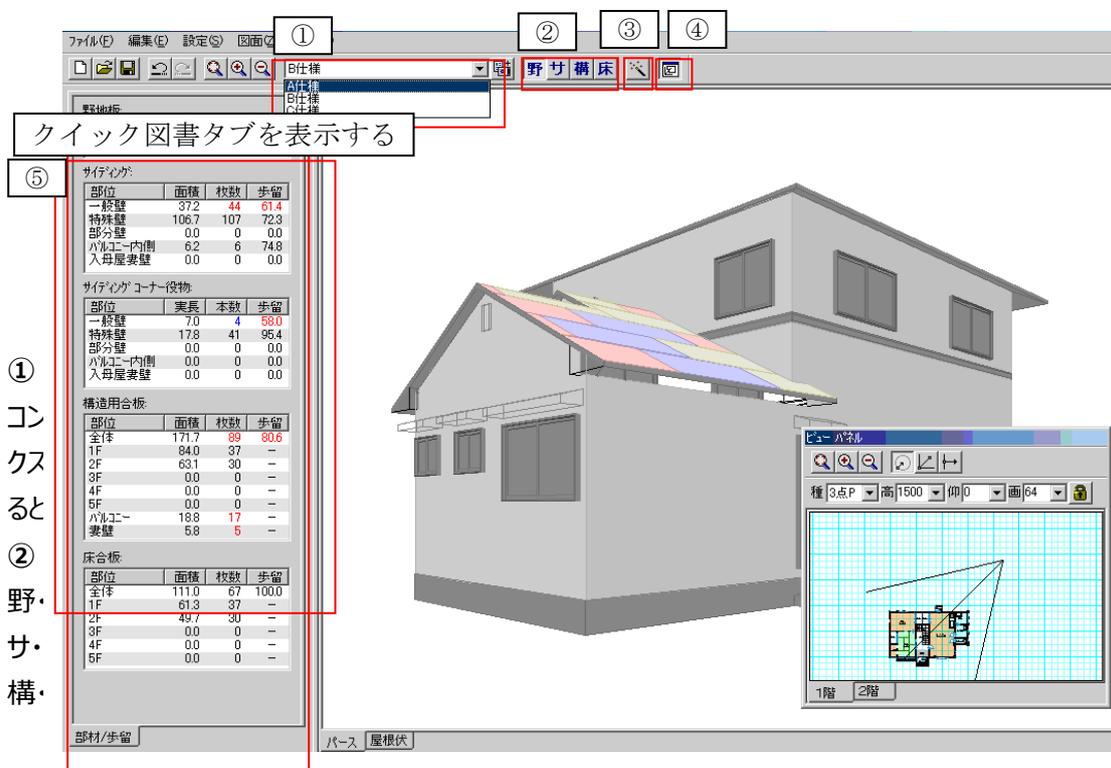


3-4. ボードレイアウト

野地板・サイディング・構造用壁合板・構造用床合板の最適割付けを行うことができ、積算数量（拾い出し詳細.CSV）が簡単に得られます。(注意)ボードレイアウトは、5層までの対応となっています。また、サイディング・構造用壁合板の地下部分の割付けは行えません。



2) 画面説明



③

現在の割付けモード毎にダイアログが表示され部材の割付け自動生成が行えます。

④ ビューパネルアイコン

ビューパネル⑦が表示されます。

※床合板モードのときは、表示されません

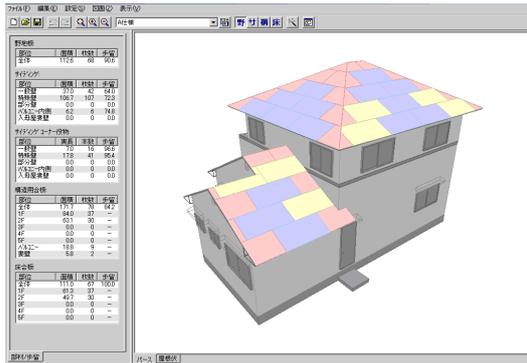
⑤ ビューパネル

アングルの変更を簡単に行うことができます。ビューパネルの機能については、本システムの機能説明書をご覧ください。

⑥ 部材数確認ウィンドウ

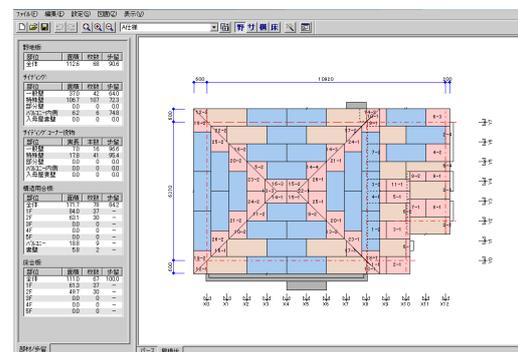
各ボードの割付け枚数や歩留まりの確認がリアルタイムで行えます。枚数が増えたり、歩留まり率が低下するなど、変更前よりも効率が悪くなった場合は赤文字、逆に、変更前よりも効率が良くなった場合は青文字で表示されますので、変更処理の効果が人目で確認することができます。尚、数値が変化しない場合は、従来どおり黒文字で表示されます。

3) 野地板



パース表示モード

屋根伏表示モード



モード切り替え

野アイコンをクリックすると野地板割付けモードに切り替わります。パース表示モードで、3次元的な視点での割付け状況確認に加え、屋根伏表示モードでは、寸法の確認や、切り回し番号の確認を行う事が可能です。また、左側の部材数確認ウィンドウで必要枚数や歩留まりの確認が常時可能です。

表示色

材の形状により次の用に色分け表示します。

薄水色 …完全定尺材

薄黄色 …単独材（端材有）

薄桃色 …切り回し材（屋根伏モードの場合、材番号—枝番が表示）

自動生成

自動生成アイコンをクリックすると現在の設定がダイアログで表示されます。各層ごとに、現在使用されている材種や張り方などの確認が行えます。全体的な設定を変更する必要がある場合は、これらの設定を変更後、OK ボタンをクリックしてください。



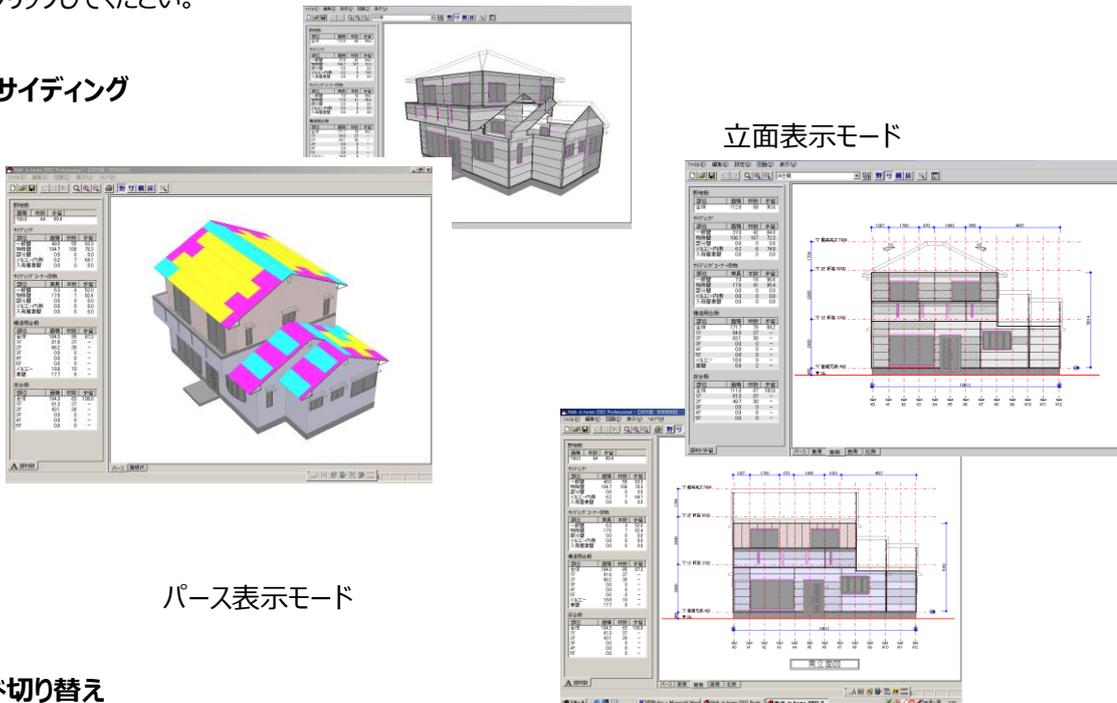
個別変更

一部の屋根で、野地板の張り方や張り付け基準位置などを変更する場合は、該当の屋根をクリックします。野地板ダイアログが表示されますので、各設定を行い変更ボタンをクリックしてください。すでに個別変更している野地板をデフォルトに戻したい場合は、デフォルトボタンをクリックすると自動生成された状態に戻ります。

基点変更

野地板ダイアログの基点変更ボタンをクリックすると、基点変更モードに切り替わります。新しい割付け基点をクリックしてください。

4) サイディング



パース表示モード

立面表示モード

モード切り替え

割付け切り替えアイコンのサをクリックするとサイディング割付けモードに切り替わります。一般壁・特殊壁・

部分壁・バルコニー内壁・入母屋妻壁の計 5 種類の割付が可能です。また、左側の部材数確認ウィンドウで必要枚数や歩留まりの確認に加え、コーナー役物の部材数や歩留まりの確認が可能です。

表示色

一般壁や特殊壁など各壁の種類ごとに色分けして表示します。また、切り回し対象の材は斜め線で表示、最小以下材は、赤い網目で表示します。

自動生成

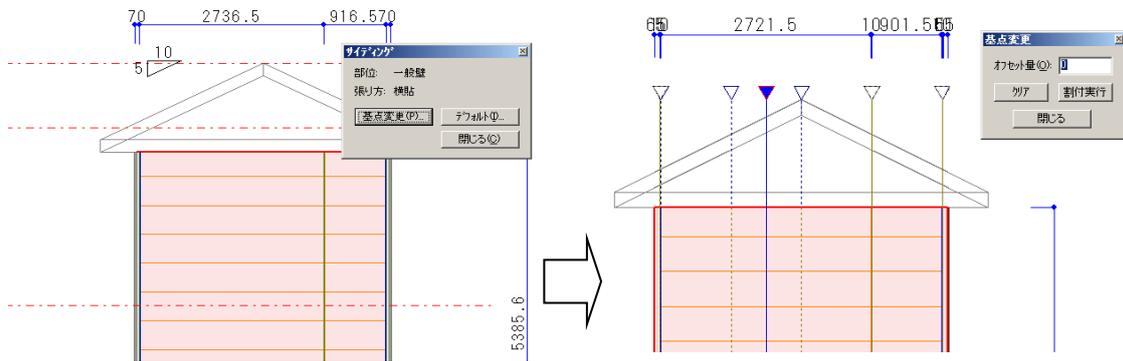
自動生成アイコンをクリックすると現在の設定がダイアログで表示されます。各層ごとに、現在使用されている材種や張り方などの確認が行えます。各壁種類単位で設定を変更する必要がある場合は、これらの設定を変更後、OK ボタンをクリックしてください。

入母屋妻壁		開口部(共通)		その他(共通)	
一般壁	特殊壁	部分壁	外部内壁		
部材					
名称(N):	12*455*3030				
記号:	N12	厚さ:	12	W:	3030
		H:	455		
切り代:	5	最小幅:	100		
コーナー役物					
名称(N):	12*70*455				
記号:	OA70	厚さ:	12	出幅:	70
		長さ:	455		
切り代:	5				
張り方					
張り方(M):	横貼	目地幅(W):	10		
切り回し(C):	全面				
OK		キャンセル			

基点変更

壁をクリックすると、サイディングダイアログが表示されます。

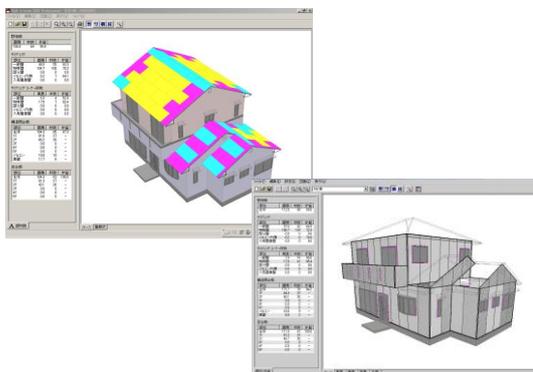
張り付け基点を変更したい場合は、基点変更ボタンをクリックすると基点変更モードに切り替わりますので、新しい割付け基点をクリックしてください。



通常は、グリット単位で丸まって入力できますが、CTRL を押しながら入力することで、建具の端部や柱の中心など、グリット以外の点に入力することも可能です。（建具の端部か柱の中心かは、自動生成の設定に依存しています。）

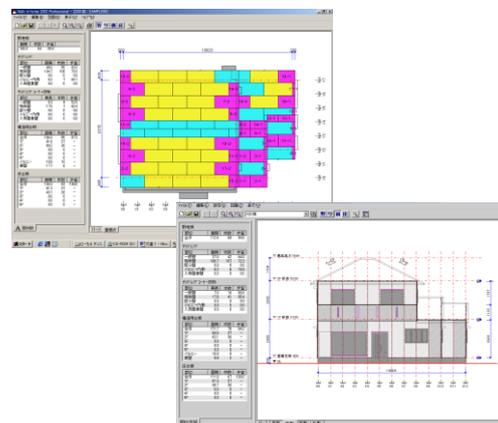
また、張り方が横方向の場合は、割付け基点を複数入力することができますので、必要な個所に基点を入力した後、割付けボタンをクリックしてください。（縦張りは、割付け基点は1個しか入力できません。）

5) 構造用合板



パース表示モード

立面表示モード



モード切り替え

割付け切り替えアイコンの構をクリックすると構造用合板割付けモードに切り替わります。左側の部材数確認ウィンドウで必要枚数や歩留まりの確認が可能です。

表示色

切り直し対象の材は斜め線で表示、最小以下材は、赤い網目で表示します。

自動生成

自動生成アイコンをクリックすると現在の設定がダイアログで表示されます。各層ごとに、現在使用されてい

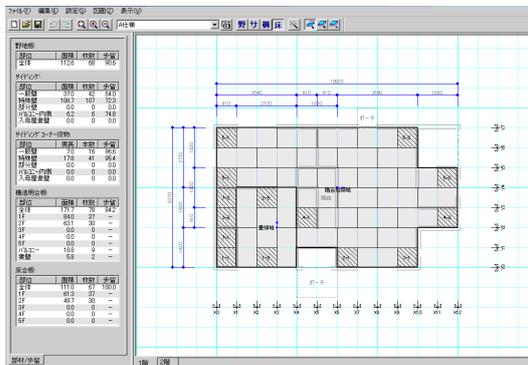
る材種や張り方などの確認が行えます。層単位で設定を変更する必要がある場合は、これらの設定を変更後、OK ボタンをクリックしてください。



基点変更

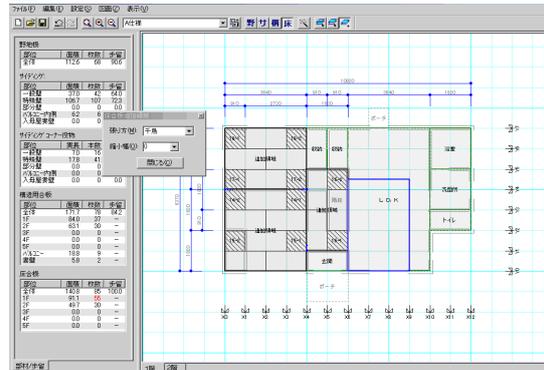
壁をクリックすると、構造用合板ダイアログが表示されます。張り付け基点を変更したい場合は、基点変更ボタンをクリックすると基点変更モードに切り替わりますので、新しい割付け基点をクリックしてください。通常は、グリッド単位で丸まって入力できます。

6) 床合板



床合板モード

重ね領域追加モード



モード切り替え

割付け切り替えアイコンの床をクリックすると床合板割付けモードに切り替わります。左側の部材数確認ウィンドウで必要枚数や歩留まりの確認が可能です。

表示色

切り回し出来る材は斜め線で表示、端材については、網掛け表示します。

自動生成

自動生成アイコンをクリックすると現在の設定がダイアログで表示されます。各層ごとに、現在使用されてい

る材種や張り方などの確認が行えます。層単位で設定を変更する必要がある場合は、これらの設定を変更後、OK ボタンをクリックしてください。



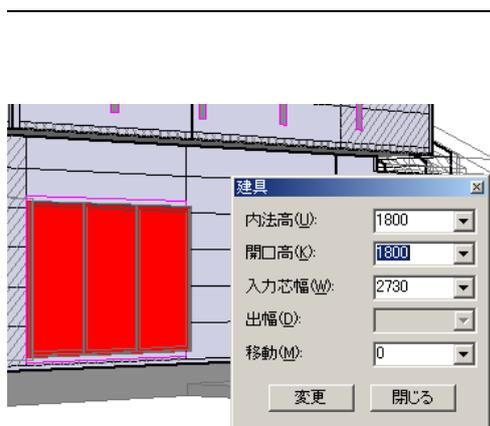
基点変更

領域をクリックすると、床合板ダイアログが表示されます。割付け基点を変更したい場合は、基点変更ボタンをクリックすると基点変更モードに切り替わりますので、新しい割付け基点をクリックしてください。通常は、グリッド単位で丸まって入力できます。

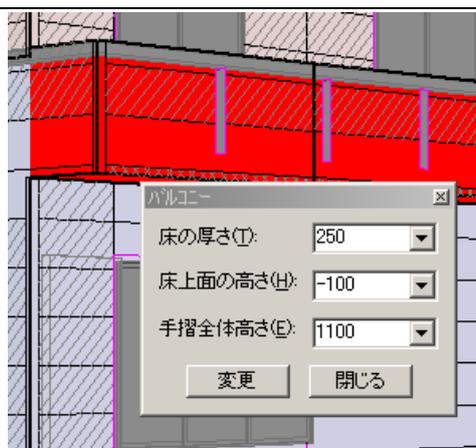
重ね領域の追加・編集

床合板の重ね領域の追加・編集が行えます。追加の際は、通常グリッドに丸まって入力できますが、CTRL ボタンを押しながら入力することで一番近い部屋の短点をサーチすることが可能です。

7) 物件変更



建具変更



バルコニー変更

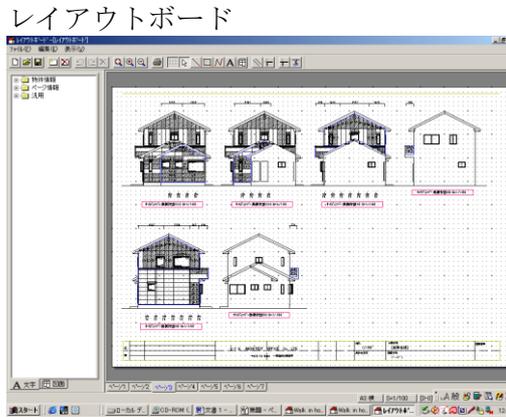
桁計変更をはじめ、外天井やバルコニーなどの高さ変更、建具に至っては左右移動までサポートしていま

す。また、変更結果は、任意で本システム側のデータを更新することも可能です。

8) 割付け図作成



図面作成ダイアログ



下記の図面を自動的に作成することが出来ます。

- ・野地板—割付図
- ・サイディング—立面図
- ・サイディング—割付図 (全ての面に対して確認できる数)
- ・構造用合板—立面図
- ・構造用合板—割付図 (全ての面に対して確認できる数)
 - ・床合板—割付図
 - ・拾い詳細リスト

※図面作成後、レイアウトボードが起動します。レイアウトボードの機能については、本システムの機能説明書をご覧ください。

9) 積算数量確認

積算数量確認													
野地板													
部材名称	記号	厚	W	H	単価	完全	切回	端材	面積	単位	数量	単位	
12mm 3x6	M	12	1820	910	0	0	0	0	102.021	m ²	68	枚	
サイディング													
部位	部材名称	記号	厚	W	H	単価	完全	切回	端材	面積	単位	数量	単位
一般壁	12*455*3030	N12	12	3030	455	0	0	0	37.029	m ²	42	枚	
特異壁	12*455*3030	N12	12	3030	455	0	0	0	106.708	m ²	107	枚	
パルエー内側壁	12*455*3030	N12	12	3030	455	0	0	0	6.190	m ²	6	枚	
サイディングコーナー													
部位	部材名称	記号	厚	出幅	長さ	単価	完全	切回	端材	長さ	単位	数量	単位
一般壁	12*70*455	OA70	12	70	455	0	0	0	0	17.800	m	41	本
特異壁	12*70*455	OA70	12	70	455	0	0	0	0	17.800	m	41	本
パルエー内側壁	12*70*3030	OB70	12	70	3030	0	0	0	0	0.000	m	0	本
サイディング 積算													
部位	長さ	単位											
外壁総長さ	1109.711	m											
土台水切長さ	33.967	m											
縦目地長さ	65.886	m											
横目地長さ	0.000	m											
出隅コーナー目地長さ	48.700	m											
入隅コーナー目地長さ	3.952	m											
開口部長さ	104.916	m											
ケート特異積算重複長さ	17.832	m											
構造用合板													
部材名称	記号	厚	W	H	単価	完全	切回	端材	面積	単位	数量	単位	
9mm3*10	L	9	3030	910	12	0	27	0	84.009	m ²	37	枚	
9mm3*9	K	9	2730	910	18	12	52	0	87.717	m ²	41	枚	
床合板													
部材名称	記号	厚	W	H	単価	完全	切回	端材	面積	単位	数量	単位	
12mm 3x6	U	12	1820	910	0	67	36	0	140.777	m ²	85	枚	

機能概要

部材名称や部材の枚数や面積などの積算数量の確認が行えます。CSV 出力ボタンをクリックするとフォルダ選択ダイアログが表示されます。出力先を選択後、OK ボタンをクリックすると、拾い詳細.CSV に加え、積算数量.CSV、建具詳細.CSV、設備詳細.CSV も同時に作成されます。

※詳細説明は、次頁以降参照。

拾い詳細.CSV

	項目	補足説明
1 カラム	割付区分	1 : 野地板 2 : サイディング 3 : 構造用合板 4 : 床合板
2 カラム	部位区分	サイディング時のみ仕様 (1 ~ 5 板材 1 1 ~ 1 5 コーナー役物) 1 : 一般壁 2 : 特殊壁 3 : 部分壁 4 : バルコニー内側 5 : 入母屋妻壁 11 : 一般壁 12 : 特殊壁 13 : 部分壁 14 : バルコニー内側 15 : 入母屋妻壁 サイディング 51:部分壁 2 52:部分壁 3 53:部分壁 4 54:部分壁 5 コーナー役物 61:部分壁 2 62:部分壁 3 63:部分壁 4 64:部分壁 5 111 : 外壁輪郭長 112 : 土台水切長 113 : 縦目地長 114 : 横目地長 115 : 出隅コーナー目地長 116 : 入隅コーナー目地長 117 : 開口部周長 (玄関ドアの下部を除く) 118 : ツートン時外壁輪郭重複長さ
3 カラム	部材名称	
4 カラム	記号	

5カラム	厚	
6カラム	W	サイディングコーナーの場合は「出隅コーナー出幅」
7カラム	H	サイディングコーナーの場合は「出隅コーナー長さ」
8カラム	定尺材（端材あり）	
9カラム	定尺材（端材なし）	
10カラム	切り回し材	
11カラム	最小長以下材	
12カラム	面積	
13カラム	単位	
14カラム	数量	
15カラム	単位	
16カラム	メーカー	今回は使用しません
17カラム	品名	今回は使用しません
18カラム	品番	今回は使用しません
19カラム	価格	今回は使用しません

※割付け区分内で、同じ材を設定している場合まとめて出力（サイディングは除く）

サイディングその他積算項目説明

0) 共通規則

張り方が「なし（対象外）」と指定された部位については、算出対象から外れます。

たとえばツートンの場合、通常は境界部は外壁輪郭線の対象とはなりません、上部一般壁をなしと設定した場合は、境界部が外壁輪郭線に加算されます。

1) 外壁輪郭長

領域辺が他の面の領域辺とラップしない場合に長さを加算。但し土台水切部は除きます。イメージ的には軒天や下屋接触部長さにバルコニー内外の上下端を合計した数値になります。

2) 土台水切長

厚み付き外壁周長から玄関ドアなど基礎をまたぐ部分を控除した長さです。

3) 縦目地長

横張りの場合の内部目地中心位置の縦長さ合計。

4) 横目地長

縦張りの場合の内部目地中心位置の横長さ合計。

5) 出隅コーナー目地長

出隅コーナー役物の両端部の目地長さ合計。出隅コーナー役物長さの約2倍の数値になります。なお独立柱については出隅コーナー役物、出隅コーナー目地長とも独立

柱長さの約 4 倍の数値が加算されます。

6) 入隅コーナー目地長

外壁入隅部の垂直長さ合計。

7) 開口部周長

サイディングに関連する外部開口の周長合計。但し玄関ドアなど基礎をまたぐ場合は下部長さは除外されます。

8) ツートン時外壁輪郭重複長さ

目地分離ボーダーが回った場合、特殊外壁と一般外壁の接触部境界線長さの合計と部分壁とその他壁との接触部長さを合計したのになります。

なお部分壁がコーナー役物長さだけ部分的に回り込む場合は、このツートン重複長さには算出されず、出隅コーナー目地長として拾われます。

10) 部材登録

名称	記号	厚み	幅	高さ	最小幅	切り代
9mm 3x6	L	9	1820	910	100	10
12mm 3x6	M	12	1820	910	100	10

各部材の登録作業が行えます。今回の設定している部材名称は、かなり抽象的な名称を設定していますが、商品名を設定することも可能です。データは、CSV ファイル（フォーマット下記参照）で保存していますので、市販の表計算ソフト等でも編集いただけます。

※編集や削除などを行った場合、UNDO できません。

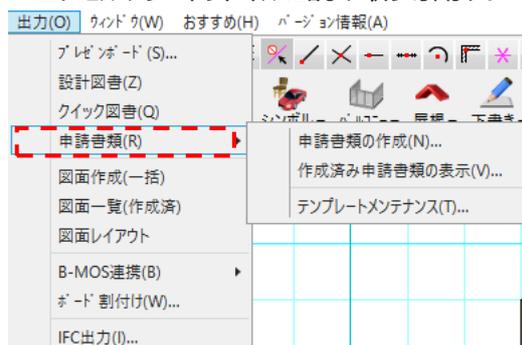
フォーマット

	野地板	サイディング	サイディングコーナー	構造用合板	床合板
1 枠	部材名称	部材名称	部材名称	部材名称	部材名称
2 枠	記号	記号	記号	記号	記号
3 枠	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ	厚さ
4 枠	W	W	出隅コーナー出幅	W	W
5 枠	H	H	出隅コーナー長さ	H	H
6 枠	最小幅	最小幅	切り代	最小幅	最小幅
7 枠	切り代	切り代		切り代	切り代

3-5. 申請書類

作成する申請書類の書式を限定せず、各社の書式に沿った申請書類を Excel・Word 形式で作成します。

※エクセル、ワードファイルに読み取り専用やシートの保護を設定しないで下さい。

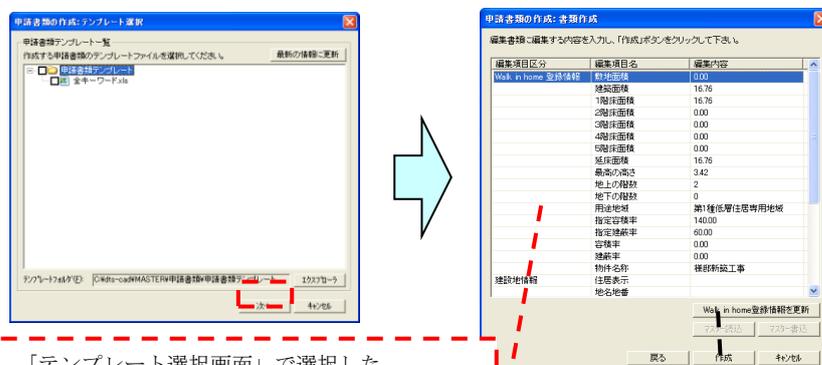


1) 申請書類の作成

作成する申請書類のテンプレートを選択します。

同時に複数の申請書類を一括で作成する事が可能です。

※申請書類テンプレート、作成済み申請書類ファイルを開きながら作業をしないでください。



「テンプレート選択画面」で選択したテンプレートファイルに含まれるキーワードの所属区分、項目名、編集内容欄をリストビューで表示します

「Walk in home 登録情報を更新」ボタン：
既に登録されている情報を、初期値として編集内容欄に自動表示します
「作成」ボタン：
編集内容欄に表示されている値で書類の自動生成を行います
「戻る」ボタン：
前画面（テンプレート選択画面）に戻ります
「閉じる」ボタン：本画面を閉じます

※注意：稀にワード・エクセル側でランタイムエラーとなる場合があります。この場合再出力してください。



2) 設定ファイル

区分名称および、区分内の編集項目は設定ファイルにて管理します

設定ファイルを変更する事により、ユーザー様ご自身にて区分名称の変更・区分の追加・編集項目の追加／変更を可能とします MASTER¥申請書類にある、以下のファイルにて管理します。

- ・ 建物共通情報設定ファイル(編集不可).csv
- ・ その他情報設定ファイル.csv

	A	B	C	D	E
1	区分(タブ名)	編集項目名	編集キーワード	初期値	マスター保存項目 (0:対象外、1:対象)
2	Walk in home 登録情報	敷地面積	建物情報敷地面積		0
3	Walk in home 登録情報	建築面積	建物情報建築面積		0
4	Walk in home 登録情報	1階床面積	建物情報1階床面積		0
5	Walk in home 登録情報	2階床面積	建物情報2階床面積		0
6	Walk in home 登録情報	3階床面積	建物情報3階床面積		0
7	Walk in home 登録情報	4階床面積	建物情報4階床面積		0
8	Walk in home 登録情報	5階床面積	建物情報5階床面積		0
9	Walk in home 登録情報	延床面積	建物情報延床面積		0
10	Walk in home 登録情報	最高の高さ	建物情報最高の高さ		0
11	Walk in home 登録情報	地上の階数	建物情報地上の階数		0
12	Walk in home 登録情報	地下の階数	建物情報地下の階数		0
13	Walk in home 登録情報	用途地域	建物情報用途地域		0
14	Walk in home 登録情報	指定容積率	建物情報指定容積率		0
15	Walk in home 登録情報	指定建蔽率	建物情報指定建蔽率		0
16	Walk in home 登録情報	容積率	建物情報容積率		0
17	Walk in home 登録情報	建蔽率	建物情報建蔽率		0
18	Walk in home 登録情報	物件名称	建物情報物件名称		0

	A	B	C	D	E
1	区分(タブ名)	編集項目名	編集キーワード	初期値	マスター保存項目 (0:対象外、1:対象)
2	建設地情報	地名地番	建設地地名地番		1
3	建設地情報	住居表示	建設地住居表示		1
4	建設地情報	郵便番号	建設地郵便番号		1
5	建設地情報	都道府県	建設地都道府県		1
6	建築主情報	氏名	建築主氏名		1
7	建築主情報	カナ氏名	建築主カナ氏名		1
8	建築主情報	住居	建築主住居		1
9	建築主情報	年齢	建築主年齢		1
10	設計者情報	設計者氏名	設計者氏名		1
11	設計者情報	設計者郵便番号	設計者郵便番号		1
12	設計者情報	設計者住所	設計者住所		1
13	設計者情報	電話番号	電話番号		1

【区分】

編集項目の区分名称。

【編集項目名】

編集項目の名称。

【編集キーワード】

申請書類テンプレートに定義するキーワード。

申請書作成時に本キーワードが定義されている位置に、編集内容を埋め込む。

【初期値】

編集内容欄に初期値を表示したい場合、内容を定義。

【マスター保存項目】

画面に入力した内容をマスターに保存するか否かの定義。

3) 「マスター書込」「マスター読込」

申請書類の作成: 書類作成

編集書類に編集する内容を入力し、「作成」ボタンをクリックして下さい。

編集項目区分	編集項目名	編集内容
	地上の階数	2
	地下の階数	0
	用途地域	第1種低層住居専用地域
	指定容積率	140.00
	指定建蔽率	60.00
	容積率	0.00
	建蔽率	0.00
	物件名称	徳都新築工事
建設地情報	住居表示	
	地名地番	
	都道府県	
	郵便番号	
建築主情報	カナ氏名	
	氏名	
	住居	
	年齢	
設計者情報	設計者氏名	
	設計者住所	
	設計者郵便番号	

Work in Home登録情報を更新

マスター読込 マスター書込

戻る 作成 キャンセル

【マスター書込】

ファイル保存ダイアログを開き、ファイル名を入力、または保存ファイルを選択し、「OK」ボタンを押すと、選択されている区分の入力内容をマスターとして保存する。

【マスター読込】

ファイル選択ダイアログを開き、読み込もうとするファイルを選択し、「OK」ボタンを押すと選択されている区分の入力内容をマスターから読み込む。

作成中(4/13): 建築計画概要書.doc

置換キーワード抽出中(1/1)

中断

※処理中にワード、エクセルファイルを開いたりしないで下さい。

作成済み申請書類の表示

申請書類一覧

操作するファイルを選択してください。

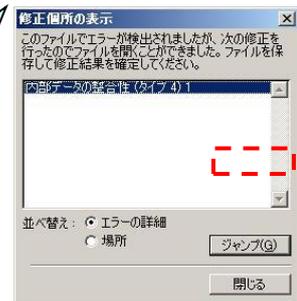
申請書類

全キーワード.xls

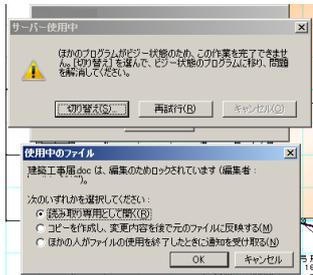
申請書類フォルダ(E): C:\dts-cad_HRD_110\物件データ\000000300\doc\申請書類 イカスコーラ

開く 印刷 テンプレート追加 キャンセル

全ての処理が完了後に、「作成済み申請書類の表示」の「申請書類一覧」画面を表示する



※エクセルファイルでエラーが表示された場合
ドキュメントを開くウィンドウで「はい」
修正箇所の表示で「閉じる」
を選択していただければ、処理が再開されます。

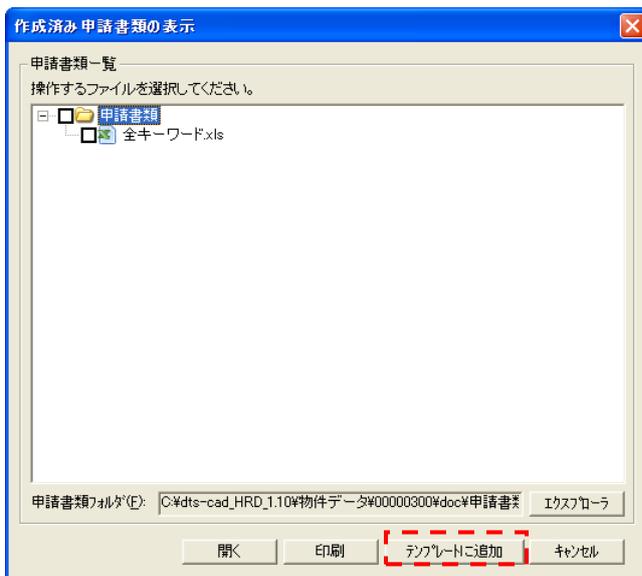


※既に作成済みのエクセル・ワードファイルを開きながらの作業をしないでください。

4) 作成済み申請書類の表示

ファイルをダブルクリック、または右クリック ⇒ 「開く」により、各ファイルに応じたエディターでファイルを開く。
作成された書類に対し修正を行ないます。

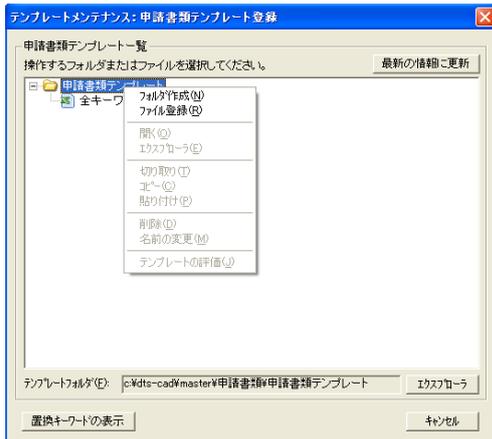
加筆・修正が行われたファイルを再度テンプレートとして使用する場合、
該当のファイルまたはフォルダをチェックし、「テンプレートに追加」ボタンをクリックします。



5) 申請書類テンプレートの登録

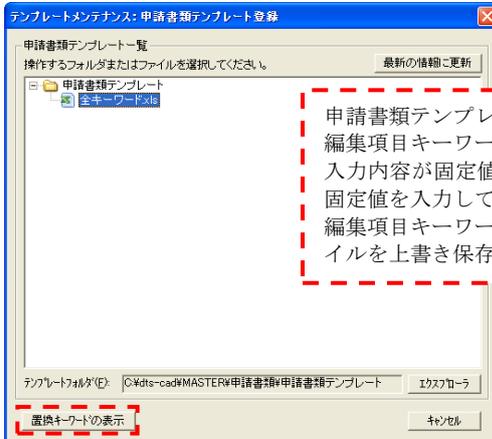
申請書類メニューの「テンプレートメンテナンス」メニューを選択時に、「申請書類テンプレート登録」画面を表示します。テンプレートを格納するフォルダを選択し、右クリック → 「ファイル登録」により、格納するファイルを選択します。

テンプレートを格納するフォルダを新たに作成する場合、右クリック → 「フォルダ作成」にて行ないます。

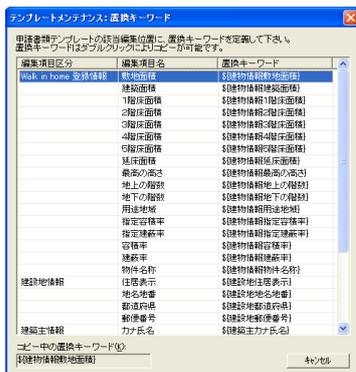


6) 置換キーワードの表示

追加されたテンプレートをダブルクリックし、Excel または Word で開き、「置換キーワードの表示」ボタンをクリックします。



申請書類テンプレートの該当位置に編集項目キーワードを定義します。入力内容が固定値となる項目やチェック等は予めテンプレートに固定値を入力しておきます。編集項目キーワードの定義、および固定値の入力が完了したらファイルを上書き保存します。



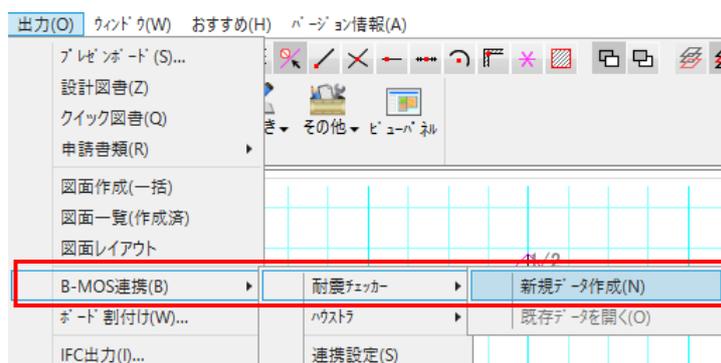
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V
8		1. 建築をしようとする住宅の位置、構造及び設備並びに規模に関する事項																				
7		【建築物に関する事項】																				
9		【1. 地名地番】																				
10		【2. 敷地面積】																				
11		【3. 建築面積】																				
12		【4. 床面積の合計】																				
13		【5. 建て方】																				
14		【一戸建ての住宅の場合：各階の床面積】																				
15		【共同住宅の場合：住戸の数】																				
16		【6. 建築物の高さ等】																				
17		【最高の高さ等】																				
18		【最高の軒の高さ】																				
19		【階数】																				

物件管理画面及び出力メニューから起動します。

物件管理画面



出力メニュー



1) 連携設定

B-MOS アプリケーションをインストールしたフォルダを設定します。

未設定状態では連携起動ができないため、必ず設定を行ってください。



2) 新規データ作成

各種 B-MOS アプリケーション専用の DTX ファイルを出力し、外部アプリケーションとして連携起動します。
DTX ファイルは以下のフォルダに出力されます。

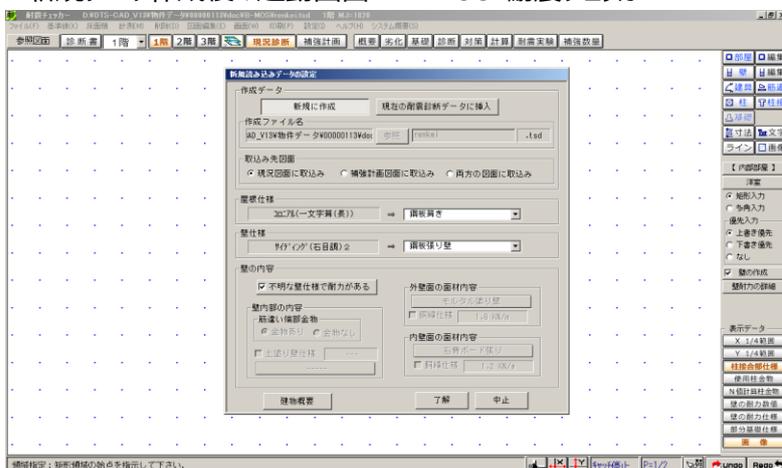
(物件フォルダ) ¥doc¥B-MOS¥renkei.dtx

ファイル出力が完了すると、B-MOS アプリケーションが起動します。

その間本システムはアプリケーション終了待ち状態となります。

B-MOS アプリケーションでの作業を行い、保存処理などの後で終了してください。

<新規データ作成後の起動画面：B-MOS・耐震チェック>



<新規データ作成後の起動画面：B-MOS・ハウストラ>



3) 既存データを開く

保存済みファイルを読み込んで、各種 B-MOS アプリケーションを連携起動します。

B-MOS アプリケーションで読み込む保存済みファイルは、以下の通りです。

B-MOS・耐震チェッカー : (物件フォルダ) ¥doc¥B-MOS¥renkei.tsd

B-MOS・ハウストラ : (物件フォルダ) ¥doc¥B-MOS¥renkei.hez

上記ファイルが存在する場合、メニュー項目「既存データを開く」が利用可能です。

